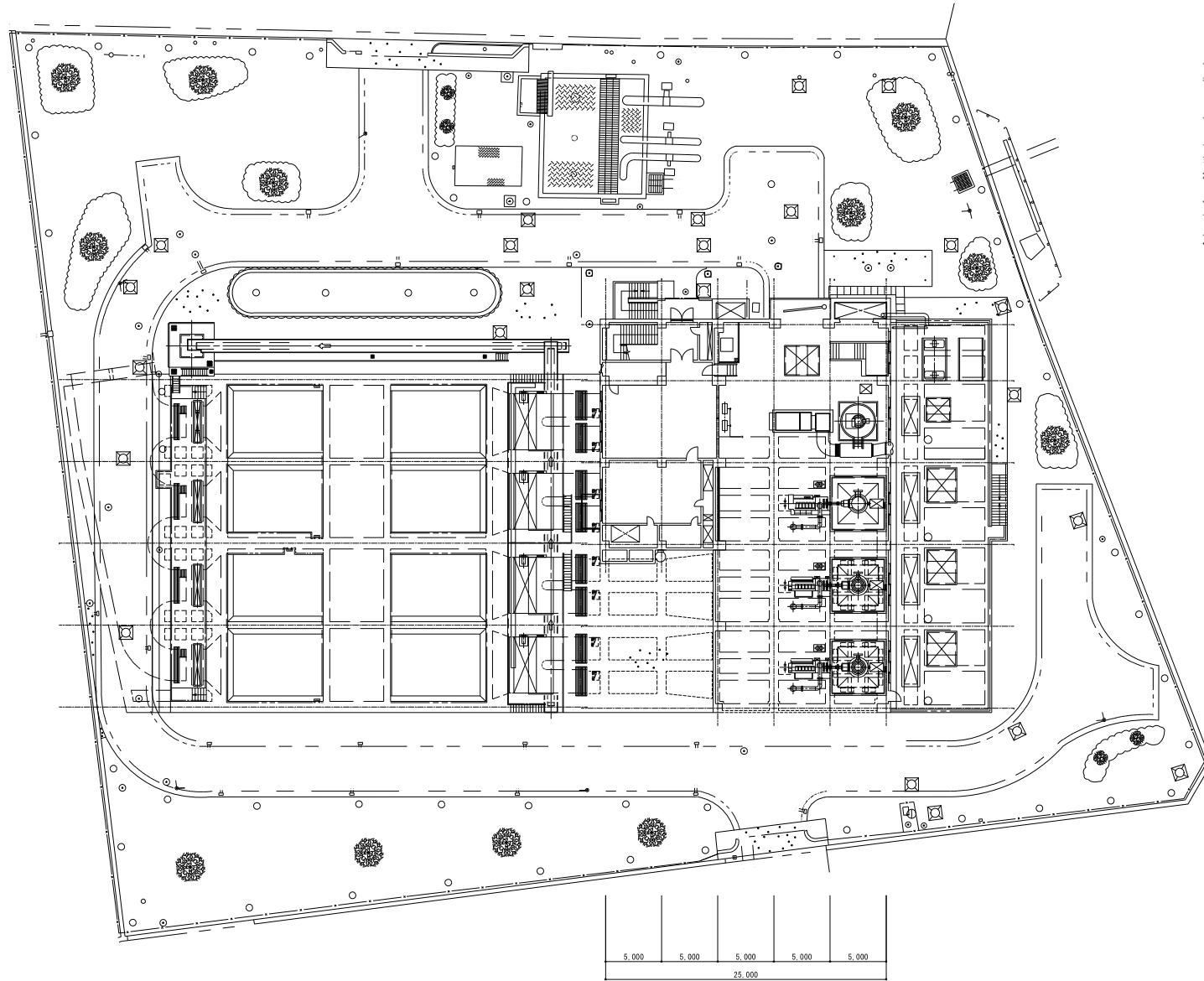
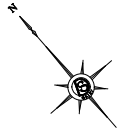


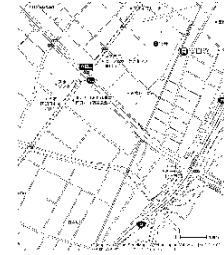
図 面 目 録

番 号	図 面 名 称	縮 尺	番 号	図 面 名 称	縮 尺
A- 1	配置図・付近見取図	1/200	A- 31	改修部詳細図（１０）	1/50
A- 2	特記仕様書（改築１）	NONE	A- 32	改修部詳細図（１１）	1/50
A- 3	特記仕様書（改築２）	NONE	A- 33	改修部詳細図（１２）	1/50
A- 4	特記仕様書（改築３）	NONE	A- 34	改修部詳細図（１３）	1/50
A- 5	特記仕様書（改築４）	NONE	A- 35	改修部詳細図（１４）	1/50
A- 6	特記仕様書（改築５）	NONE	A- 36	改修部詳細図（１５）	1/50
A- 7	特記仕様書（改築６）	NONE	A- 37	改修部詳細図（１６）	1/50
A- 8	法規チェックリスト	NONE	A- 38	改修部詳細図（１７）	1/50
A- 9	仕上表（１）	NONE	A- 39	改修部詳細図（１８）	1/50
A- 10	仕上表（２）	NONE	A- 40	改修部詳細図（１９）	1/50
A- 11	平面図（水路部）（改修無）	1/100	A- 41	改修部詳細図（２０）	1/50
A- 12	１階平面図（改修前・後）	1/100	A- 42	建具表（改修前・後）	1/50
A- 13	２階平面図（改修前・後）	1/100	A- 43	仮設計画図（０－１）	1/100
A- 14	３階平面図（改修前・後）	1/100	A- 44	仮設計画図（０－２）	1/100
A- 15	立面図（１）（改修前・後）	1/100	A- 45	仮設計画図（０－３）	1/100
A- 16	立面図（２）（改修前・後）	1/100	A- 46	仮設計画図（０－４）	1/100
A- 17	断面図（１）（改修前）	1/100	A- 47	仮設計画図（０－５）	1/100
A- 18	断面図（１）（改修後）	1/100	A- 48	仮設計画図（０－６）	1/100
A- 19	断面図（２）（改修前）	1/100	A- 49	仮設計画図（１－１）	1/100
A- 20	断面図（２）（改修後）	1/100	A- 50	仮設計画図（１－２）	1/100
A- 21	断面図（３）（改修無）	1/100	A- 51	仮設計画図（２－１）	1/100
A- 22	改修部詳細図（１）	1/50	A- 52	仮設計画図（２－２）	1/100
A- 23	改修部詳細図（２）	1/50	A- 53	仮設計画図（３－１）	100
A- 24	改修部詳細図（３）	1/50	A- 54	仮設計画図（３－２）	100
A- 25	改修部詳細図（４）	1/50	A- 55	仮設計画図（４－１）	100
A- 26	改修部詳細図（５）	1/50	A- 56	仮設計画図（４－２）	100
A- 27	改修部詳細図（６）	1/50	A- 57	仮設計画図（４－３）	100
A- 28	改修部詳細図（７）	1/50			
A- 29	改修部詳細図（８）	1/50			
A- 30	改修部詳細図（９）	1/50			



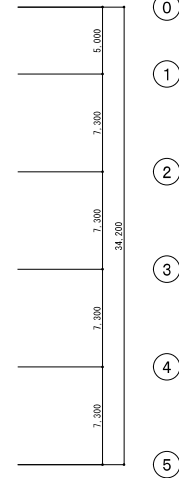
(A) (B) (C) (D) (E) (F)

配置平面図 S=1/200



付近見取図

付近見取図



①
②
③
④
⑤

事業名	令和 6 年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名称	配置図・付近見取図		
縮尺	1/200	設計年月日	令和 6 年 3 月
工種	四日市市 上下水道局	設計者	株式会社 日野技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-1

2章 仮設工事	①足場その他	内部足場 種別 ※きやつ、足場板等 〔2.2.1〕 外部足場 種別 ※くさび緊結式（手すり先行工法） 〔2.2.1〕 防護シートによる養生 ・行わない ・行う ・行う ※1類 （・帆布製 ※網地製） 騒音・粉じん等の対策 ・行わない ・行う（・防音パネル ・防音シート） 〔2.1.3〕 材料、搬去材等の運搬 ・A種 ※B種 ・C種 ・D種 ・E種 〔2.2.1〕〔表2.2.1〕	5 塗膜防水	〔表3.1.1〕〔3.6.2～3〕〔表3.6.1〕			5 浮き部改修工法	〔4.1.4〕〔4.3.10～16〕〔表4.4.3～4〕					
	②養生その他	既存部分の養生 ※ビニルシート、合板等 〔2.3.1〕 固定家具等の移動 ※行わない ・行う（図示）	6 保証期間	防水の保証期間は原則、表面仕上材替なしで10年とする。ただし、既存の劣化等の状況により保証ができない場合は、保証できない理由を明確にし、監督職員と協議を行うこと。			④ 既存塗膜等の除去及び下地処理	改修工法の種類 （モルタルを撤去しない場合）	アンカーピンの本数(本/㎡)	注入口の箇所数(箇所/㎡)	充てん量		
	③仮設間仕切り	（a）設置箇所 ※図示 〔2.3.2〕〔表2.3.1〕	⑦シーリング	・シーリング充填工法 ・シーリング再充填工法 〔3.1.4〕〔表3.1.2〕 ・拡幅シーリング再充填工法 ・ブリッジ工法 シーリング材の種類、施工箇所 〔3.7.2〕〔表3.7.1〕 ※下表以外は、改修構仕表 3.7.1を標準とする				一般部	指定部	一般部	指定部	注入量	
	④監督職員事務所	・設ける 規模等は以下による ・既存施設の一部を使用する ※設けない 〔2.4.1〕 （・規模 m程度 ・仕上げ：床 ・壁 ・天井 程度）	⑧と い	シーリングの試験 ※行わない ・行う（※簡易接着性試験 ・引張接着性試験） 材質 ・配管用鋼管 ・硬質ポリ塩化ビニル管（VP） ・硬質ポリ塩化ビニル管（VP） 〔3.8.2(1)〕 と受け金物 ※SUS製 ・亜鉛メッキ製 ルーフドレン ※JCW301（日本鋳鉄ふた・排水器具工業規格） ・図示による 〔3.8.2(1)〕 表面処理 ・AB-1種 ※BB-1種 〔3.9.2〕				一般部	指定部	一般部	指定部	注入量	
	⑤工事用水 ⑥工事用電力	構内既存の施設 ※利用できる（・有償 ※無償） ・利用できない 構内既存の施設 ※利用できる（・有償 ※無償） ・利用できない	9 アルミニウム製壁木	調査範囲 ①既存モルタル面 ・躯体コンクリート面 ・図示の範囲 〔1.5.2〕 調査内容 ひび割れ（0.2mm以上）の長さを表示する。また、ひび割れ部の挙動の有無、 漏水の有無及び錆汁の流出の有無を調査する。 モルタルの浮き部分を表示する。また、モルタルの欠損部の形状寸法等を調査する。 コンクリート表面のはがれ及びはく落部を調査する。 調査報告書の部数 ※1部				一般部	指定部	一般部	指定部	注入量	
3章 防水改修工事	1 既存下地の補修及び処置	※図示による 〔3.2.6〕 既存露出防水層表面の仕上塗装の除去 ・する ・しない	①施工数量調査	〔4.1.4～5〕			⑥ 設計数量	工 法	処 理 範 囲		下地面の補修		
	2 アスファルト防水	〔3.3.2～3〕〔表3.1.1〕〔表3.3.3～10〕	2 改修工法の種類	〔4.1.4～5〕				・サンダー工法	※既存仕上面全体 ・		・ひび割れ部改修工法		
	3 改質アスファルトシート防水	〔表3.1.1〕〔3.4.2～3〕〔表3.4.1～3〕	③ひび割れ部改修工法	〔4.1.4〕〔4.2.5〕				①高圧水洗工法	※既存仕上面全体 ・		・浮き部改修工法		
	4 合成高分子系ルーフィングシート防水	〔表3.1.1〕〔3.5.2～3〕〔表3.5.1～2〕	④欠損部改修工法	〔4.1.4〕〔4.2.4〕〔4.2.6〕				・塗膜はく離剥工法	※既存仕上面全体 ・		・欠損部改修工法		
		〔表3.1.1〕〔3.4.2～3〕〔表3.4.1～3〕		〔4.1.4〕〔4.2.5〕				・水洗い工法	※上記処理範囲以外の既存仕上面全体		〔4.2.4〕〔4.6.3〕 ※下地調整塗材 ・ポリマーセメントモルタル ・防水形仕上塗材主材を使用		
5章 建具改修工事	①改修工法	2 見本の製作等	・建具見本の製作 ・特殊な建具の仮組 〔5.1.5〕	株式会社日新技術コンサルタント			工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事					
	②改修工法	2 見本の製作等	・建具見本の製作 ・特殊な建具の仮組 〔5.1.5〕	一級建築士 登録 第166668号 宮本 哲也 東京都中央区日本橋堀留町1-5-7			日付	図面名		縮尺	図面番号		
				令和6年12月			特記仕様書（改修2）		—	A-3			
				令和6年版			/						

6章
内装改修工事

㊦ せっこうボードの
目地処理

21 壁紙張り

22 珪藻土張り

23 セルフレベリング

24 断熱材

25 フリーアクセス
フロア

26 可動間仕切

27 移動間仕切り

28 トイレブース

29 階段滑り止め

30 黒板及び
ホワイトボード

目地処理の種類等
・縫目処理工法 施工場所 ()
・突付け工法 施工場所 ()
○目透し工法 施工場所 ()

[6.13.3][表6.13.5]

[6.14.3]

施 工 箇 所	壁紙の種類	防火性能	備 考
	※量産型	・不燃 ・準不燃 ・難燃	
		・不燃 ・準不燃 ・難燃	

モルタル及びプラスター面の下地調整 ・ R A 種 ※ R B 種 ・ R C 種 [表7.3.4]
石こうボード及びその他ボード面の下地調整 ・ R A 種 ※ R B 種 ・ R C 種 [表7.3.7]
ホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・ 第三種

タイルの種類
[6.16.3]

施工箇所	形状寸法 (mm)	用途による区分	耐摩耗性	色 調	うわぐすり	役 物
			無 有	標準 特注	無糖 施釉	無 有
		・屋内 ・床	※	・	・	・
		・屋外 ・壁	※	・	・	・
		・屋内 ・床	※	・	・	・
		・屋外 ・壁	※	・	・	・
		・屋内 ・床	※	・	・	・
		・屋外 ・壁	※	・	・	・

タイルの見本焼き ※行わない ・ 行う (※外装タイル ・)
内装タイル ・ 改良積上げ張り [6.16.3][表6.16.4]
※壁タイル接着剤張り [6.16.4][表6.16.6]

セルフレベリング材の種類 ・せっこう系 ※セメント系 [6.17.2][表6.17.1]
※厚み (mm 程度)

(標19.9.2～3)

種 類	施工箇所	厚さ (mm)	品質等
・押出法 ポリスチレン フォーム 保温板	※2種b ※3種b	※一般部 ・接地部分	※ノンフロンなもの ・特定フロンを使用しないもの
・現場発泡断熱材	※断熱材補修部分 ・一般部	※15	ノンフロンタイプ ・HF Cタイプ 難燃性・3級 ・難燃材料相当品

ロックウール、グラスウール、ユリア樹脂又はメラミン樹脂を使用した断熱材の
ホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・ 第三種

(標20.2.2)

施 工 箇 所	仕上り高	耐震性能	耐荷重性能	表面仕上材
			・3000N ・5000N	・帯電防止床タイル ・タイルカーペット

スロープ及びびボーダー ※製造所の標準仕様 ・ 図示

(標20.2.3)

構造形式	パネルの総厚さ (mm)	表面材種 厚さ (mm)	表面仕上げ
※パネル式 ・スタッド式 ・スタッドパネル式		※銅板 (※0.6 ・ 0.8) ・	※メラミン樹脂又は アクリル樹脂焼付け ・

遮音性 ・ あり () ・ なし

(標20.2.4)

操作方法 ・ 手動式 ・ 電動式 ・ 部分電動式
パネル表面材 (・) 遮音性 (・)
パネル及び圧着装置の操作方法 (・)

(標20.2.5)

パネル表面材 ※高圧メラミン樹脂系化粧板 (アルミ製コーナーエッジ付き)
・ポリエステル樹脂系化粧板 (アルミ製コーナーエッジ付き)
脚 部 (スリム製) ※幅木タイプ ・ 脚金物タイプ

(標20.2.6)

材種 ※ステンレス製ビニルタイヤ入り ・
寸法 ※幅 35mm ・ 取付け工法 ※接着工法 ・ 埋込み工法

(標20.2.8)

種 類	寸 法 (mm)	色 彩	備 考
・黒板	※ホーロー ※焼付け	※緑 ・ 黒	※平面 ・ 曲面 ・
・ホワイト ボード	※ホーロー	※白	

31 ブラインド

32 ロールスクリーン

33 カーテン

34 点検口

35 流し台ユニット

① 材料一般

② 下地調整

③ 素地ごしらえ

7章
塗装改修工事

4 錆止め塗料塗り

・既存再使用する (養生方法) [2.3.1][5.1.6]
・新設する (標20.2.12)

形 式	種 類	スラットの材質・幅 (mm)	施工箇所
※横型	※ギヤ式 ・ コード式 ・ 操作棒式	※アルミニウム合金 ※25 ・	
・縦型	・ 1本操作コード ※2本操作コード	・アルミスラット ・ 80 ・ クロススラット ・ 100	

材質・品質 () (標20.2.13)
操作方法 ()

・既存再使用する (養生方法) [2.3.1][5.1.6]
・新設する (標20.2.14)

施 工 箇 所	名 称 ・ 品 質	ひだの種類	形 式
		・箱ひだ等 ・ 片ひだ	・片引 ・ 引分
		・箱ひだ等 ・ 片ひだ	・片引 ・ 引分

防災加工 消防庁認定の ㊦ とする
カーテンレール ・アルミニウム製 ※ステンレス製 ※C型又はD型
カーテンきれ地のはぎれ ※半幅未満は使用しない ・ 一幅未満は使用しない
暗幕用カーテンの重なりは300mm以上とする。なお、重ねか所は下記による。
・両端 ・ 上部 ※召合わせ
天井点検口 ※アルミニウム製 (※縦線タイプ ・ 目地タイプ)
床点検口 ※アルミニウム製 ・ ステンレス製 受け棒 (・)

種 類	寸 法	適用内容	規格・品質等
流し台	※1200 ・ 1500 ・	トラップ付	※優良住宅部品
コンロ台	※600 ・ 700 ・	バックガード付	

①屋内の壁及び天井の塗装仕上げは、防火材料とする。 [7.1.3]
・次の箇所を除き防火材料とする。 ()
建物内部に使用する塗料のホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・ 第三種

RB種の場合の既存塗膜の除去範囲 [7.2.1]
下地調整 [表7.2.1～7]

下地面の種類	下地調整の種類
木部	・ RA種 ※RB種 ・ RC種
鉄鋼面	・ RA種 ※RB種 ・ RC種
亜鉛めっき面	・ RA種 ※RB種 ・ RC種
モルタル、せっこうプラスター面	・ RA種 ※RB種 ・ RC種
コンクリート及びALCパネル面	・ RA種 ※RB種 ・ RC種
せっこうボード、その他ボード面	・ RA種 ※RB種 ・ RC種

既存モルタル下地面等のひび割れ部の補修 [表7.2.4～6]
・行わない ・ 行う (補修範囲及び補修方法は図示)

[7.3.1～7] [表7.3.1～7]

素地面の種類	種別	備考
木部	・ A種 ・ B種	不透明塗料塗りの場合はA種 透明塗料塗りの場合はB種
鉄鋼面	・ A種 ・ B種 ※C種	8節 [耐候性塗料塗り (DP)] の場合は、 B種とする
亜鉛めっき面	・ A種 ・ B種	
珪藻土、せっこうプラスター面	・ A種 ※B種	
コンクリート及びALCパネル面	・ A種 ・ B種	8節 [耐候性塗料塗り (DP)] の場合は、 コンクリート及び押出形成セメント版面による
せっこうボード、その他ボード面	・ A種 ・ B種	せっこうボードの目地工法が縫目処理工法 の場合はA種、その他の場合はB種とする

塗料種別 [7.4.2]
鉄鋼面 ※A種 () ・ B種 ・ C種 ・ D種 ・ E種 [表7.4.1]
仕上げE P-G の場合 ・ A種 () ※B種
亜鉛めっき鋼面 ※A種 ・ B種 [表7.4.2]
仕上げE P-G の場合 ・ A種 () ※C種

⑧ 合成樹脂調合
ペイント塗り (SOP)

6 アクリル樹脂系非水
分散形塗料 (IAD)

⑦ 耐候性塗料塗り (DP)

8 つや有合成樹脂
エマルジョン
ペイント塗り (EP-G)

⑩ 合成樹脂エマルジョン
ペイント塗り (EP)

10 ウレタン樹脂
ワニス塗り (UC)

11 オイルステイン塗り
(OS)

12 木材保護塗料塗り
(WP)

8章
耐震改修工事

① 鉄筋の種類

2 溶接金網

③ 鉄筋の材料試験

④ 継手及び定着

5 帯筋組立の形

錆止め塗料塗り [表7.4.3～4]
鉄鋼面塗り替えの場合の種類 ・ A種 ・ B種 ※C種
亜鉛めっき面の塗りの種類 ・ A種 ・ B種 ※C種
亜鉛めっき面E P-G塗り替えの場合の種類 ・ A種 ・ B種 ※C種
新規鉄鋼面、亜鉛めっき面の塗りの種類 ※標準仕18.3.3による

塗り工法 [7.5.1～4][表7.5.1～3]

下地の種類	塗料種類	塗り工法
木部	※1種 ・ 2種	新規 (屋外 ※A種 ・ B種 屋内 A種※B種) 塗替え (※B種 ・)
鉄鋼面	※1種 ・ 2種	・ A種 ・ ※B種 ・ C種
亜鉛めっき面	※1種 ・ 2種	※改修標準仕7.4.5による ・

塗替えの場合の下地調整 ・ RA種 ※RB種 ・ RC種 [7.2.5～6]
塗り工法の種類 ・ A種 ※B種 [7.7.2][表7.7.1]

塗替えの場合の下地調整 ・ RA種 ※RB種 ・ RC種 [7.2.2][表7.2.1] ～ [7.2.7][表7.2.7]
・鉄鋼面 工法は、表7.8.1 [7.8.2][表7.8.1]
・亜鉛めっき面 工法は、表7.8.2 [7.8.3][表7.8.2]
上塗種別
・ JISK5659 (1級) ふっ素系樹脂塗料
・ JISK5659 (2級) シリコン系樹脂塗料
・ JISK5659 (3級) ポリウレタン系樹脂塗料
・コンクリート面、押出成型セメント版面 [7.8.4][表7.8.3]
工法は、表7.8.3 種別は (・ A-1種 ・ A-2種 ・ B-1種 ・ B-2 ・ C-1種 ・ C-2種)
上塗種別
・ JISK5658 主要原料 ふっ素樹脂 (1級)
・ JISK5658 主要原料 シリコン樹脂 (2級)
・ JISK5658 主要原料 ポリウレタン樹脂 (3級)

[7.9.2～5][表7.9.1～4]

下地の種類	塗り工法
コンクリート、珪藻土、せっこうプラスター、 その他ボード面	新規 (・ A種 ・ B種) 塗替え (※B種 ・)
木部	新規 (※A種 ・) 塗替え (※B種 ・)
鉄鋼面	新規 (・ A種 ・ B種) 塗替え (※B種 ・)
亜鉛めっき鋼面	新規 (※A種 ・) 塗替え (※B種 ・)

塗替えの場合のシーラー ※改修標準仕 7.9.2による ・ 行わない

塗り工法の種類 ・ A種 ※B種 ・ C種 [7.10.2][表7.10.1]

塗り工法の種類 ・ A種 ※B種 [7.11.2][表7.11.1]
塗料の種類 ※1液形 ・ 2液形
着色剤の種類 ・ 油性顔料着色剤 ・ 溶剤系顔料着色剤

[7.12.2][表7.12.1]

[7.13.2][表7.13.1]

[8.2.1][表8.2.1]

種 類 の 記 号	径
○ S D 295A	※ D16以下
○ S D 345	※ D19以上

網目の形状 (※ 150x150 ・ 100x100 ・ 50×50) [8.2.2]
鉄線の径 (mm) (※ 6.0 ・ 3.2)

※JIS規格品については径の異なるごとに1 t未満の場合は規格証明書
の提出を省略することができる。 [8.2.3]

鉄筋の継手方法 [8.3.4][表8.3.3]
・径D19mm以上の柱、梁の主筋はガス圧接、その他は重ね継手
○重ね継手
継手位置 ※標準各部配筋参考図による ・ 図示 [8.3.4]
定着長さ ※改修仕 [表8.3.4]による ・ 図示 [8.3.4][表8.3.4]

※各部配筋参考図1.1による ・ 図示 [8.3.4]

株式会社日新技術コンサルタント

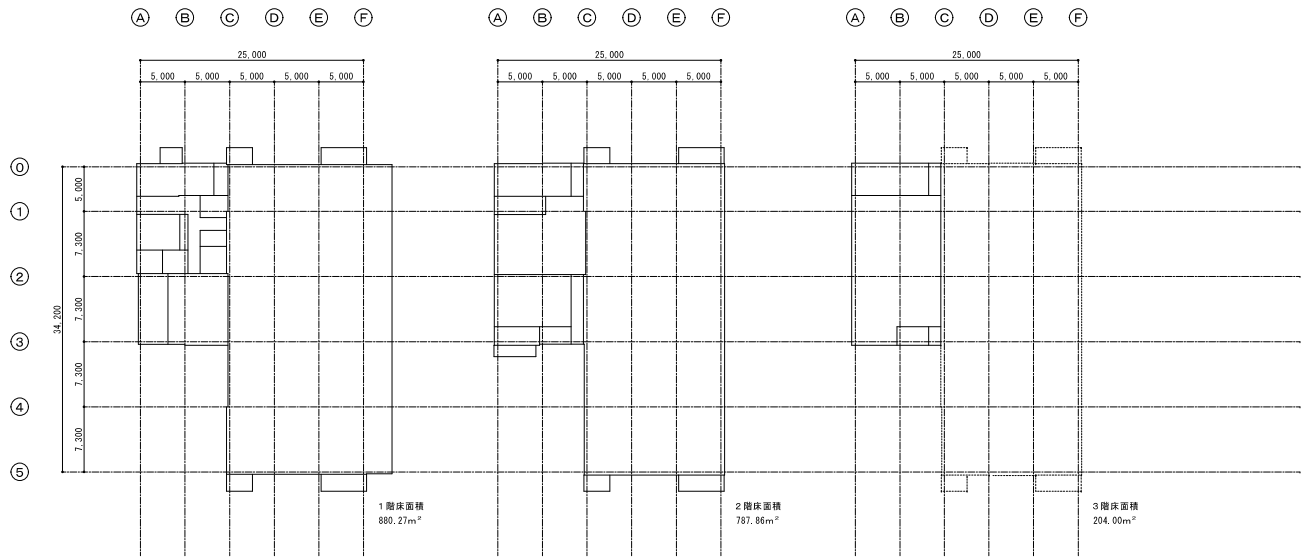
一級建築士 登録 第166668号
宮本 哲也
東京都中央区日本橋堀留町1-5-7

工事名

白須賀ポンプ場耐震補強工事

日付	図面名	縮尺	図面番号
令和6年12月	特記仕様書 (改修 4)	—	A-5

令和 6 年版 /



面積表

建築面積	m2
延べ面積	1,872.13 m2
1階	880.27 m2
1階	787.86 m2
3階	204.00 m2

有窓・無窓・判定表 (消防法施行規則 5の2の1、5の2の2)

階	有効開口部計算式	有効開口部面積合計㎡	必要開口(N/30)	階床面積(Nm)²	判定 無 有
1 F	AW-2 1.62	1.62	29.34	880.27	㊟ 有
2 F	AW-8 AW-12 6.75 + 2.67	9.42	26.26	787.86	㊟ 有
3 F	AW-9 3.51	3.51	6.8	204.00	㊟ 有
					無 有
					無 有

有効開口部建具表

階	建具記号	開口部の位置	床からの高さm	幅 × 高さm	開口部面積㎡	開口部種別引き違い等	ガラス等の厚みmm及び種別
1 F	AW-2	西面	1.165	2.70 × 1.20 × 1	1.62	引き違い	P-5
2 F	AW-8	西面	1.165	5.54 × 1.80 × 1	6.75	内折し引き違い	P-5
	AW-12	西面	0.0 1.165	3.67 × 2.965 × 1	2.67	引き違い	P-5
3 F	AW-9	西面	1.165	5.54 × 2.20 × 1	3.51	引き違い	P-5

換気面積・排煙面積・採光面積 (法令116条の2-1-1) 計算表 (㎡)

階	室 名	天井高	床面積	換気面積計算				排煙面積計算				採光面積計算 (非常用照明装置の有・無)			
				必要換気面積(A/20)	換気用有効開口面積	判定	備考 建具番号等	必要排煙面積(A/50)	排煙用有効開口面積	判定	備考 建具番号等	必要採光面積(A/20)	採光用有効開口面積 法令116条の2-1-1による採光	判定	備考 建具番号等
1 F	仮眠室	2,400	19.22					0.38	国土交通省告示1436-4-ハ- (3)	○					
	換気機械室	直天	53.58					1.08	国土交通省告示1436-4-ハ- (2)	○					
	配管室	直天	640.52					12.81	国土交通省告示1436-4-ハ- (1)	○					
2 F	倉庫	直天	11.79					0.24	国土交通省告示1436-4-ハ- (2)	○					
	操作室	3,000	77.73					1.56	国土交通省告示1436-4-ハ- (4)	○					
	空調換気機械室	直天	50.46					1.01	国土交通省告示1436-4-ハ- (2)	○					
	ポンプ室	直天	548.18					10.97	国土交通省告示1436-4-ハ- (1)	○					
3 F	電気室	直天	157.53					3.15	国土交通省告示1436-4-ハ- (1)	○					

事業名	令和 6年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名称	法規チェックリスト		
縮尺	—	設計年月日	令和 5年 3月
工種	設計者	株式会社 日新技術コンサルタント	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-8

仕 上 表		略 号		外部付属物及び詳細番号		内部付属物及び詳細番号					
共 通 事 項											
1. 外壁仕上及び内、外部付属物の適用方法、詳細番号は、○印のついたものを適用する。	C	コンクリート下地	複層塗材 (C E)	ポリマーセメント系複層仕上塗材	・屋上樋口	・5-21-1	・流し台	・6-11-1・1・図示	・カーテンボックス	・鋼製	・3-31-1・1・2
2. 仕上に記載の詳細番号のうち、1-0-2-3は建築工事項詳細図(国土交通省大臣官庁審判部建築修)を示す。	CB	コンクリートブロック下地	複層塗材 (E)	合成樹脂エマルジョン系複層仕上塗材	・屋上管類貫通部	・5-22-1	・フード	・6-11-2・図示	・ブラインドボックス	・鋼製	・3-32-5・6・7
3. 特記以外の水、鉄部の塗装はS O Pとする。但し、和室廻りは除く。	W	木造下地	複層塗材 (R E)	反応硬化型合成樹脂エマルジョン系複層仕上塗材	・コーキングタウー基礎	・5-22-2	・コンロ台	・6-11-1・1・2・図示		・アルミ製	・3-31-3
4. 付属品のうち、窓枠、床板樋口、換気板、案内板、ビクトラグ、階段表示板等は、平面図による。	S	軽装畳下地	CL	クリヤカラー塗り	・テレビアンテナ基礎	・5-22-3	・流し上排水切り	・6-11-3・4・図示			・図示
5. 付属品のうち、窓枠、床板樋口、換気板、案内板、ビクトラグ、階段表示板等は、平面図による。	GS-R	セッコウボード	FE	フル樹脂エマル塗り	・暖上排水切り	・5-21-2・図示	・つり戸建	・6-11-1・5・図示			
6. 付属品のうち、カーテンボックス、ブラインドボックス、ブラインド、天井樋口等は、天井図による。	GB-N (N C)	不燃焼質せっこうボード (化粧無し：下地専用)	AE	アクリル樹脂エマル塗り	・煙突	・図示	・電気用ハンドホール蓋	・図示	・図示		
7. P F板、木毛板等打込み箇所は、別図による。	GB-N (N T)	不燃焼質せっこうボード (化粧有り：トラーチン模様)	DP (U E)	2液ポリウレタンエマル塗り	・タラップ	・8-31-3・図示	・脱衣室	・6-32-1		・屋内換気板	・既製品
8. 内装の重要部となるP F板打込み部分は、G B 1 2・5直挿し(難目処理工法)とし、塗装は、その部地の色調と相称とする。	GB-D (W)	木目化粧せっこうボード	DP (A S E)	アクリルシリコン樹脂エマル塗り	・天井直樋口	・8-31-2	・天井直樋口	・3-42-2		・手すり	・アルミ製 (図示)
9. 壁のP F板打込みは水平方向に継ぎは設計とする。	GB-S	シーリングせっこうボード	DP (F U E)	常温乾燥型ふっ素樹脂エマル塗り	・既製品	・5-31・32・33	・文字板	・図示		・ステンレス製 (図示)	
10. 内装の重要部となるP F板打込み部分は、G B 1 2・5直挿し(難目処理工法)とし、塗装は、その部地の色調と相称とする。	GB-F	強化せっこうボード	EP-R G	付着合成樹脂エマルジョンペイント塗り	・ルーフドレン	・5-32-1	・戸板	・図示		・ステンレス製 (図示)	
11. 壁のP F板打込みは水平方向に継ぎは設計とする。	DR	けい酸カルシウム板 (タイプ2)	EP-R M	合成樹脂エマルジョンペイント塗り	・多層構造塗料塗り	・5-33-1	・手すり	・6-23-1・2		・階段手すり	・アルミ製 (図示)
12. 天井仕上ボード打込みは、G B-N (N T) 及びDR (下地G B F) は突付付値とし、天井廻り縁は、アルミ製、天井付き壁地とする。	DR (四凹)	ロックウール化粧吸音板 断熱仕様	EP-U T	合成樹脂エマルジョン系模様塗料塗り	・トットライト	・既製品・図示	・たてい	・6-24-1・2		・多機能便所	・アルミ製 (図示)
13. 直挿し地蔵工事に接する内部地のコンクリート下地は、防湿層としてポリエチレンフィルム等0.15の敷込みを行う。ただし、床仕上げがけ床材の、ビニル床シート及び合成樹脂系塗料、床用防湿のシートは除く。	DR (軒天凹)	ロックウール化粧吸音板 軒天仕様	UC	ウレタン樹脂ニス塗り	・X E P・J 金具	・既製品・図示	・(タテ0105)	・6-24-1・2		・(G L土0まで)	
14. 打放し仕上の内装部分は、面取りを行う。	P F F	ロックウール化粧吸音板 軒天仕様・凹凹模様	OS	オイルステイン塗り	・窓用遮光シート	・既製品・図示	・(G L土0まで)	・6-24-1・2		・6-24-1・2・3・4	
15. 打放し仕上の内装部分は、面取りを行う。	P F B	押出ポリスチレンフォーム保温材	S O S	合成樹脂清漆ペイント塗り	・X E P・J 金具	・既製品・図示	・(G L土0まで)	・6-24-1・2		・6-24-1・2・3・4	
16. 打放し仕上の内装部分は、面取りを行う。	SP	木毛板セメント塗り	OSP	合成樹脂清漆ペイント塗り	・窓用遮光シート	・既製品・図示	・(G L土0まで)	・6-24-1・2		・6-24-1・2・3・4	
17. 打放し仕上の内装部分は、面取りを行う。	T B	セラミックタイル	AC	アクリル樹脂ニス塗り (アクリル樹脂クリヤ塗り)	・窓用遮光シート	・既製品・図示	・(G L土0まで)	・6-24-1・2		・6-24-1・2・3・4	
18. 打放し仕上の内装部分は、面取りを行う。	N A D	アクリル樹脂系防水分散形塗料塗り	LE	ラッカーエマル塗り	・窓用遮光シート	・既製品・図示	・(G L土0まで)	・6-24-1・2		・6-24-1・2・3・4	
19. 打放し仕上の内装部分は、面取りを行う。	WP	木材保護塗料塗り	GW	グラスウール吸音板 (ガラスクロス張り)	・窓用遮光シート	・既製品・図示	・(G L土0まで)	・6-24-1・2		・6-24-1・2・3・4	
20. 打放し仕上の内装部分は、面取りを行う。	コンクリート下地	透水性吸水防止剤	コンクリート下地	透水性吸水防止剤	・窓用遮光シート	・既製品・図示	・(G L土0まで)	・6-24-1・2		・6-24-1・2・3・4	
21. 打放し仕上の内装部分は、面取りを行う。	コンクリート下地 (打放しS)	塩化塩素アクリルシリコン樹脂カラークリアー塗り	コンクリート下地 (打放しS)	塩化塩素アクリルシリコン樹脂カラークリアー塗り	・窓用遮光シート	・既製品・図示	・(G L土0まで)	・6-24-1・2		・6-24-1・2・3・4	
22. 打放し仕上の内装部分は、面取りを行う。	コンクリート下地 (打放しC)	グラスウール吸音板 (ガラスクロス張り)	コンクリート下地 (打放しC)	グラスウール吸音板 (ガラスクロス張り)	・窓用遮光シート	・既製品・図示	・(G L土0まで)	・6-24-1・2		・6-24-1・2・3・4	
23. 打放し仕上の内装部分は、面取りを行う。	M	モルタル	モルタル	モルタル	・窓用遮光シート	・既製品・図示	・(G L土0まで)	・6-24-1・2		・6-24-1・2・3・4	
24. 打放し仕上の内装部分は、面取りを行う。	軽量収付	軽量骨材下塗材	軽量収付	軽量骨材下塗材	・窓用遮光シート	・既製品・図示	・(G L土0まで)	・6-24-1・2		・6-24-1・2・3・4	
25. 打放し仕上の内装部分は、面取りを行う。											

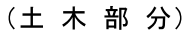
外部仕上表

[illegible]

内部仕上表（１）

階	室 名	床					幅 木					腰 壁					壁					天 井					備 考					
		下地	仕 上	詳細番号	改修 内容	下地	仕 上	高さ	詳細番号	改修 内容	下地	仕 上	高さ	詳細番号	改修 内容	下地	仕 上	詳細番号	改修 内容	柱型仕上	詳細番号	改修 内容	下地	仕 上	詳細番号	改修 内容	梁型仕上	天井高	改修 内容	備 考	改修 内容	
1 階	配管室	改修前	C	コンクリート直均し		F										C	コンクリート打放 (B)		D				C	コンクリート打放 (B)		F		直天	F			
		改修後		既設のまま		f										C	コンクリート打放 (B)		d					既設のまま		f		直天	f			
	換気機械室	改修前	C	モルタル金ごて 表面強化剤塗り		F										C	コンクリート打放 (C)		D				C	コンクリート打放 (C)		F		直天	F			
		改修後		既設のまま		f										C	コンクリート打放 (C)		d					既設のまま		f		直天	f			
	消音室	改修前	C	モルタル金ごて		F	C	コンクリート打放 (B)	500		D					C	GW㊟100		B	GW㊟100		B	C	GW㊟50		F		直天	F			
		改修後		既設のまま		f	C	コンクリート打放 (B)	500		d					C	GW㊟100		b	GW㊟100		b		既設のまま		f		直天	f			
	浴室	改修前	M	磁器質モザイクタイル 25角		F										M	陶器質タイル 100角		D				S	磁質塩ビ板 リブ付		A		2,300		ライニング：一部撤去		D
		改修後		既設のまま		f										C	コンクリート打放 (B) 補修部 モルタル金ごて		d				S	バスリブ		a		2,300		ライニング：一部新設		d
廊下	改修前	M	モルタル金ごて Pタイル		F	M	モルタル金ごて ビニル巾木	75		B					C	モルタル金ごて EP塗り		D				S	GB-R㊟9 (目通し) EP塗り		D		2,650					
	改修後		既設のまま		f	M	モルタル金ごて ビニル巾木	75		b					C	モルタル金ごて EP塗り		d				S	GB-R㊟9・5 (目通し) EP塗り		d		2,650					

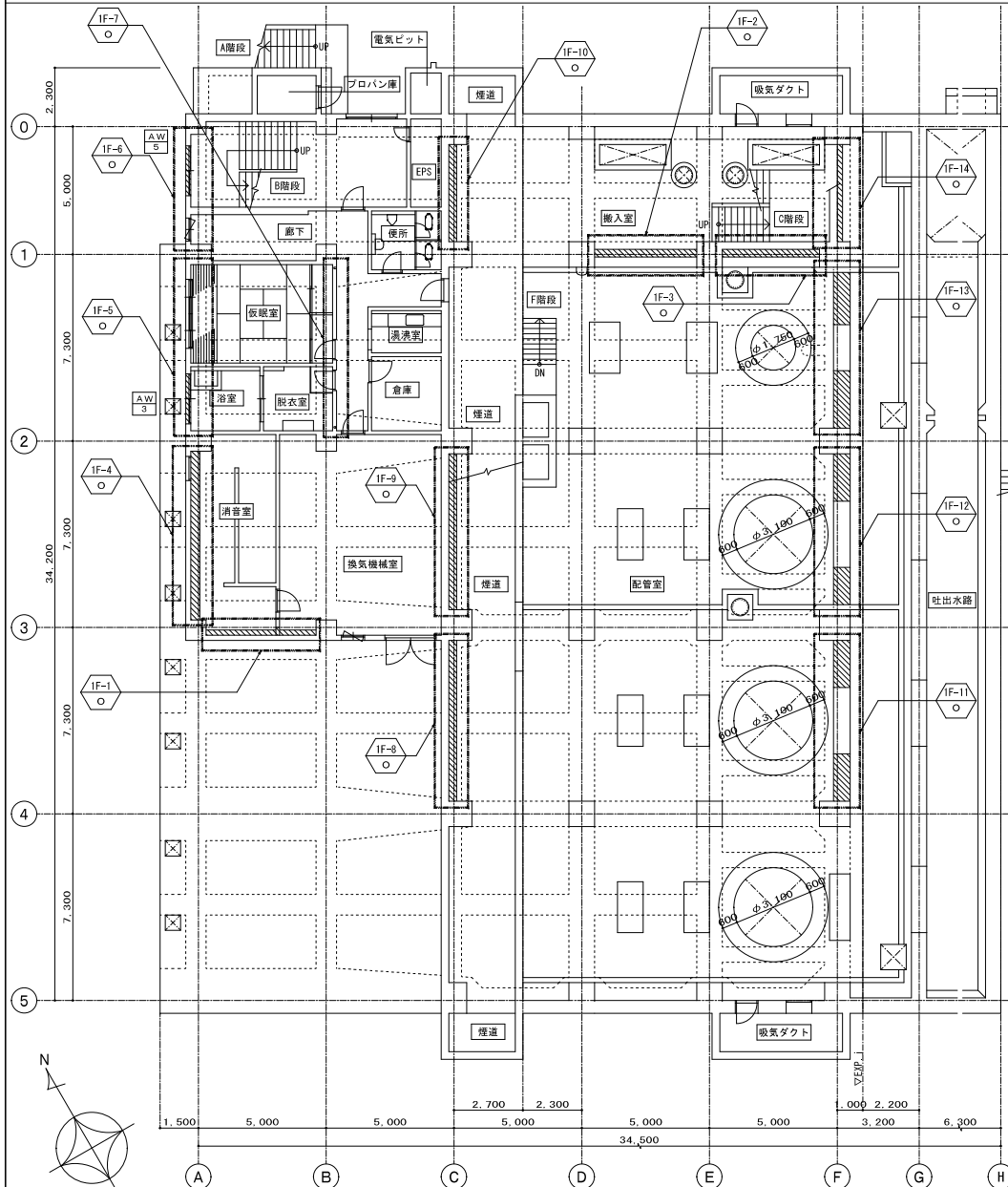
特記なき限り											事業名		令和 6年度 公共下水道事業					
											工事名		白須賀ポン場耐震補強工事					
											工事場所		四日市市 白須賀三丁目 地内					
											名称		仕上表 (1)					
改 仕 修 後 材 の 庫 さ	材料名	種別	壁 (㎡)	天井 (㎡)	備考	材料名	種別	壁 (㎡)	天井 (㎡)	備考	工事 区分 略号	< > C	: 土木工事	改 修 内 容 凡 例	改修前		改修後	
	GB-R	仕上	12.5	12.5	NM-8619	けい酸カルシウム板 (タイプ2)		12	10	NM-8578		< > AM	: 建築機械設備工事		A: 仕上撤去	a: 仕上新設		
		下地	12.5			押出法ポリスチレンフォーム保温材		25	25			< > AE	: 建築電気設備工事		B: 図示の仕上撤去	b: 図示の仕上新設		
	GB (N)	下地		9.5	NM-8613 又は同等							< > PM	: プラント機械設備工事		C: 下地共撤去	c: 下地共新設		
	GB (NT)			9.5								< > PE	: プラント電気設備工事		D: 図示の下地共撤去	d: 図示の下地共新設		
	GB (W)			12.5	不燃 (個別認定)										E: 図示の床装建り替え	e: 図示の床装建り替え		
DR				12	NM-8599								F: 既存のまま	f: 既存のまま				
											事業主体		四日市市 上下水道局		図面番号		A-9	



事業名	令和 6年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名称	平面図（水路部）（改修無）		
縮尺	1/100	設計年月日	令和 5年 3月
工種		設計者	株式会社 日新技研コンサルタンツ
事業主体	四日市市 上下水道課	図面番号	A-11

地下 1 階平面図 S=1/100

改修前

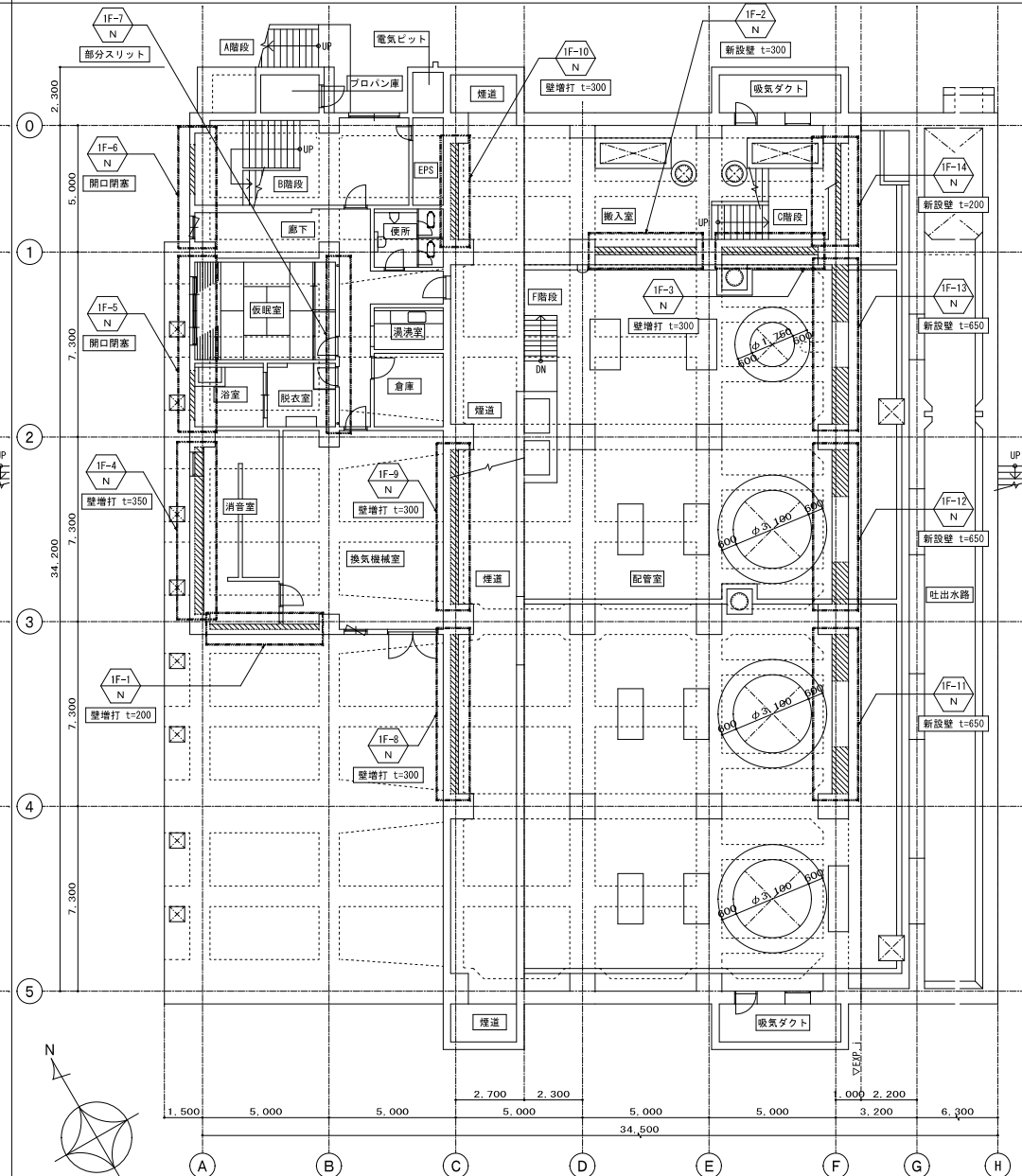


改修前1階平面図 S=1/100

【凡例】

- 耐震補強工事範囲
- 撤去位置を示す
- 階数・部位符号
0: 改修前

改修後



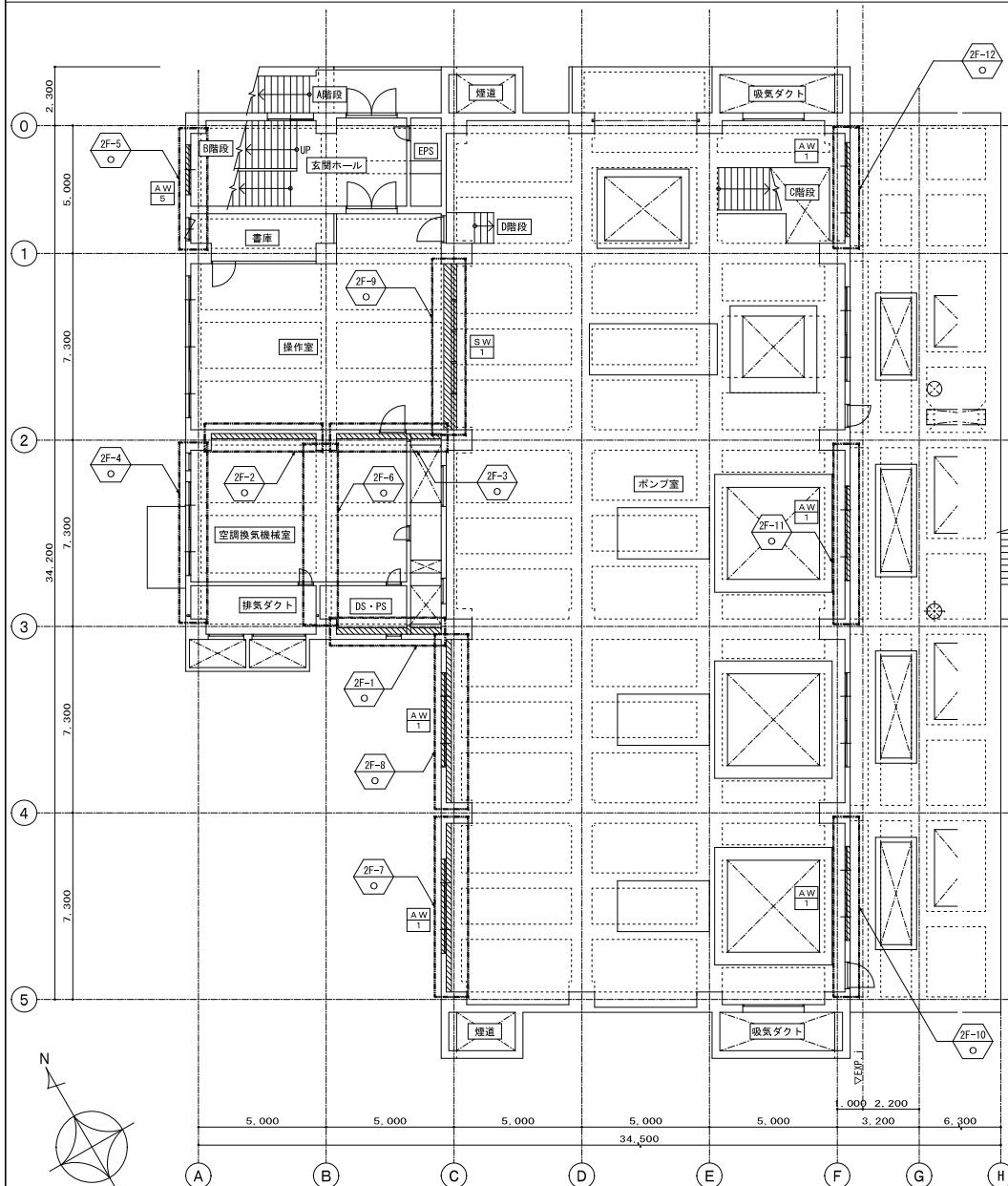
改修後1階平面図 S=1/100

【凡例】

- 耐震補強工事範囲
- 耐震補強位置を示す
- 階数・部位符号
N: 改修後

事業名	令和6年度 公共下水道事業
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内
名称	1階平面図 (改修前・後)
縮尺	1/100
設計年月日	令和5年3月
工種	設計者 株式会社 日新技研コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局
図面番号	A-12

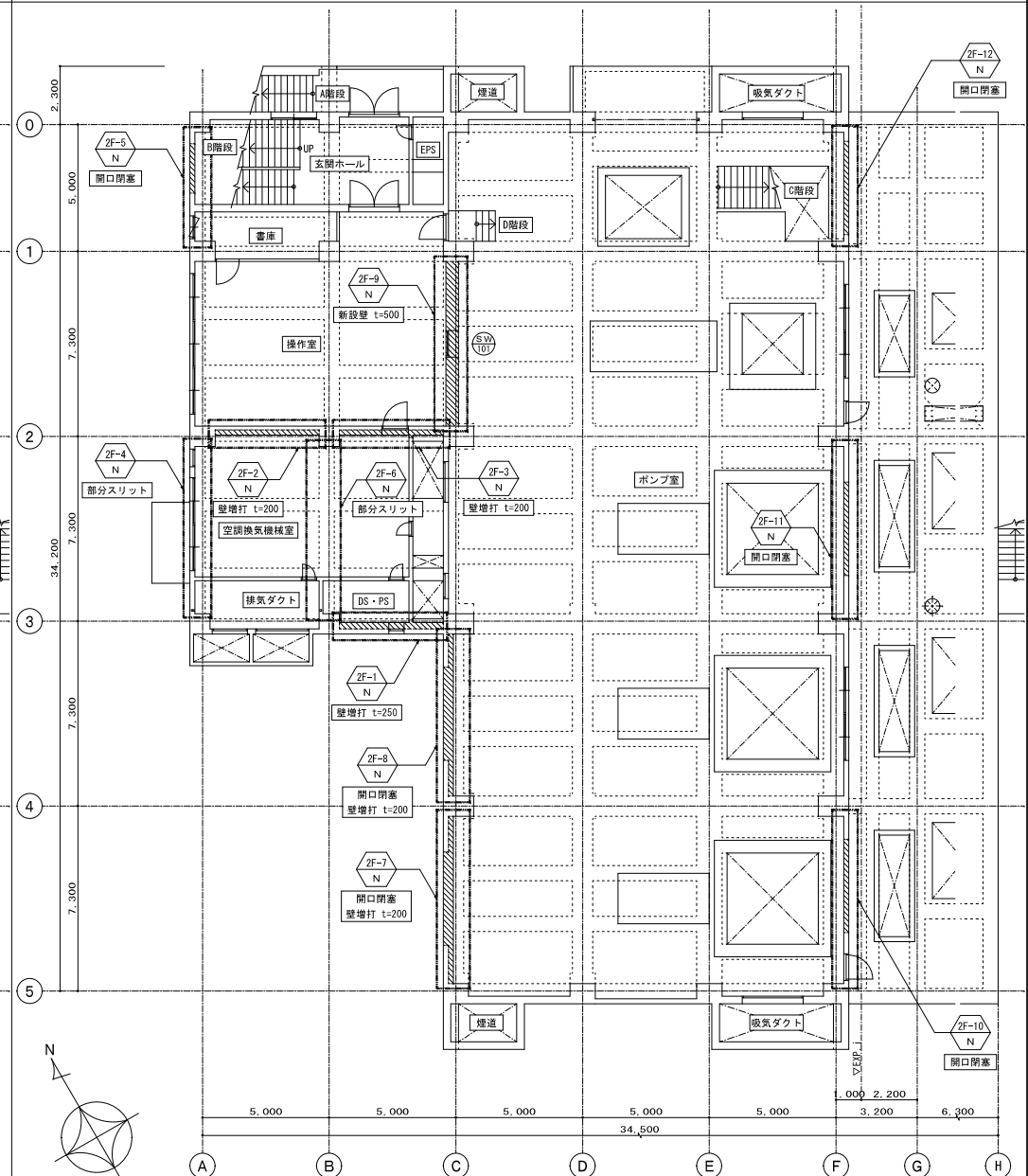
改修前



【凡例】
耐震補強工事範囲
撤去位置を示す
階数-部位符号
0: 改修前

改修前 2 階平面図 S=1/100

改修後

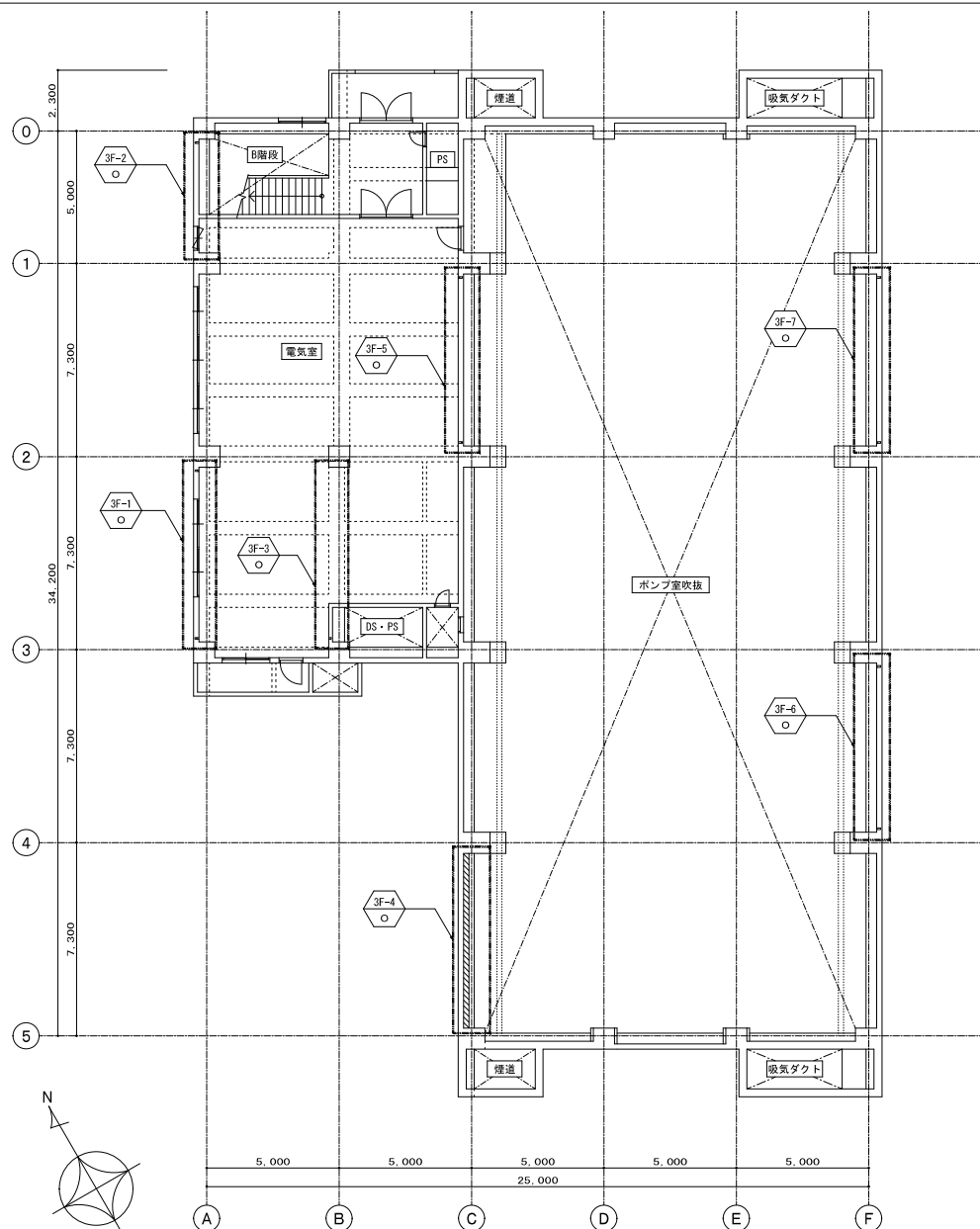


【凡例】
耐震補強工事範囲
耐震補強位置を示す
階数-部位符号
N: 改修後

改修後 2 階平面図 S=1/100

事業名	令和 6 年度 公共下水道事業
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内
名称	2 階平面図 (改修前・後)
縮尺	1/100
設計年月日	令和 5 年 3 月
工種	設計者 株式会社 日新技研コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局
図面番号	A-13

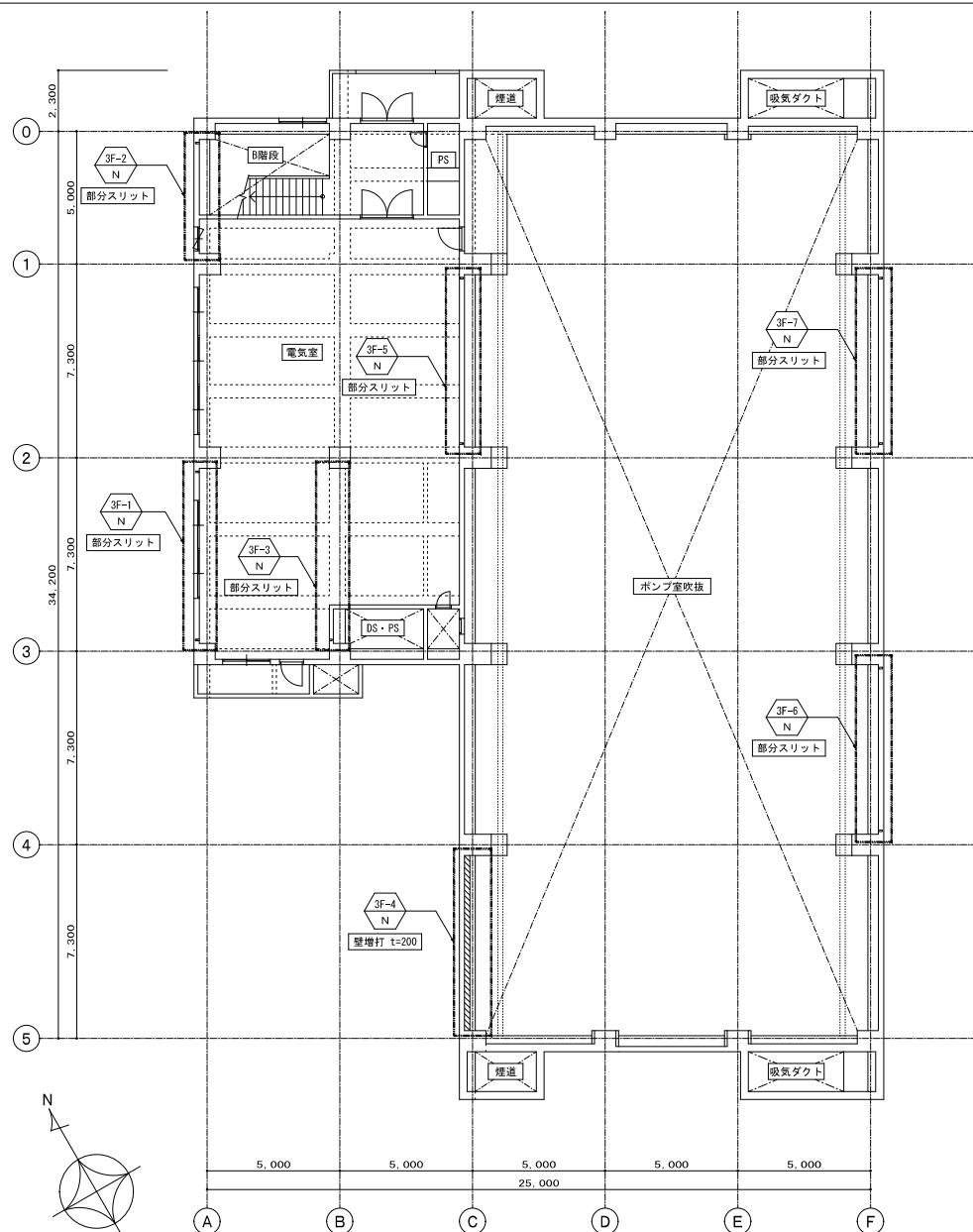
改 修 前



【凡例】
耐震補強工事範囲
撤去位置を示す
階数-部位符号
0: 改修前

改修前 3階平面図 S=1/100

改 修 後

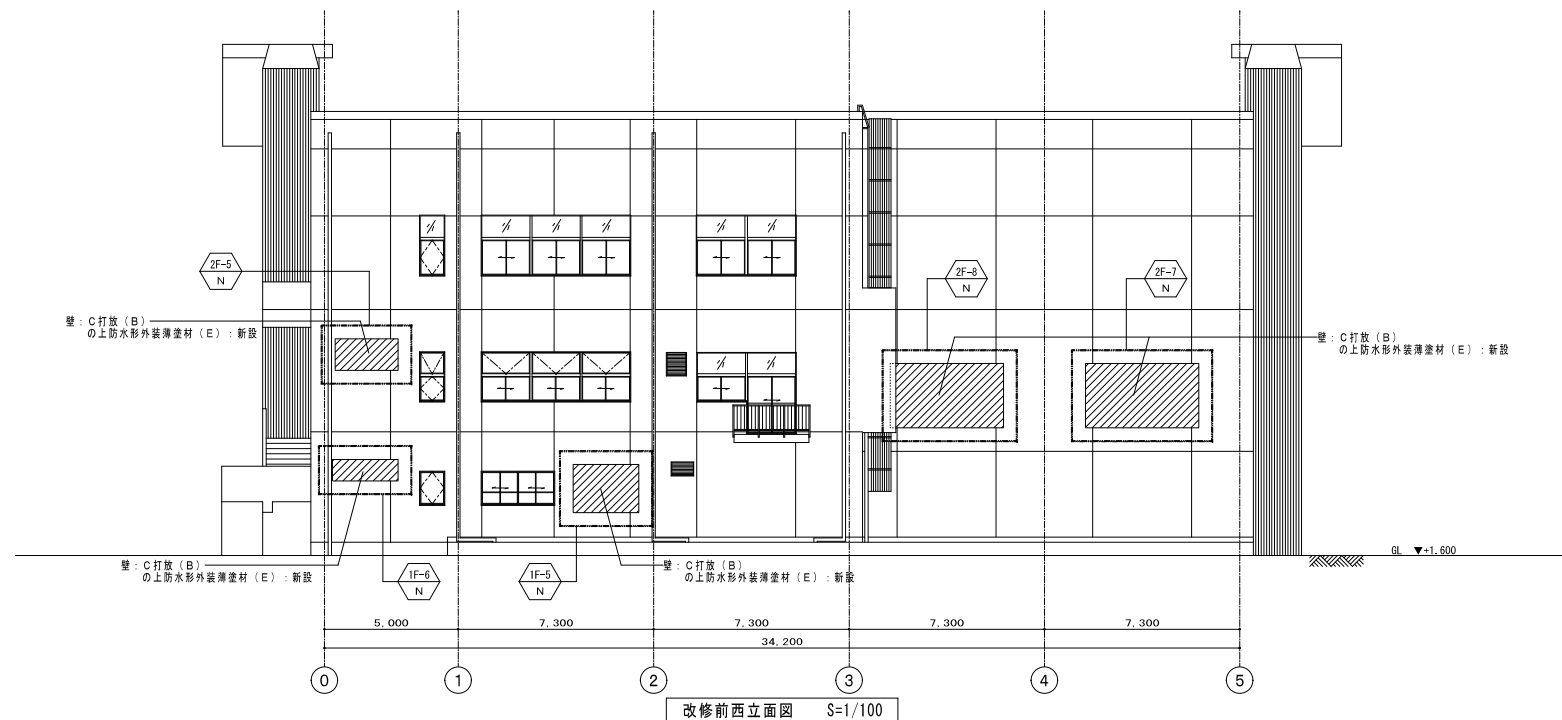
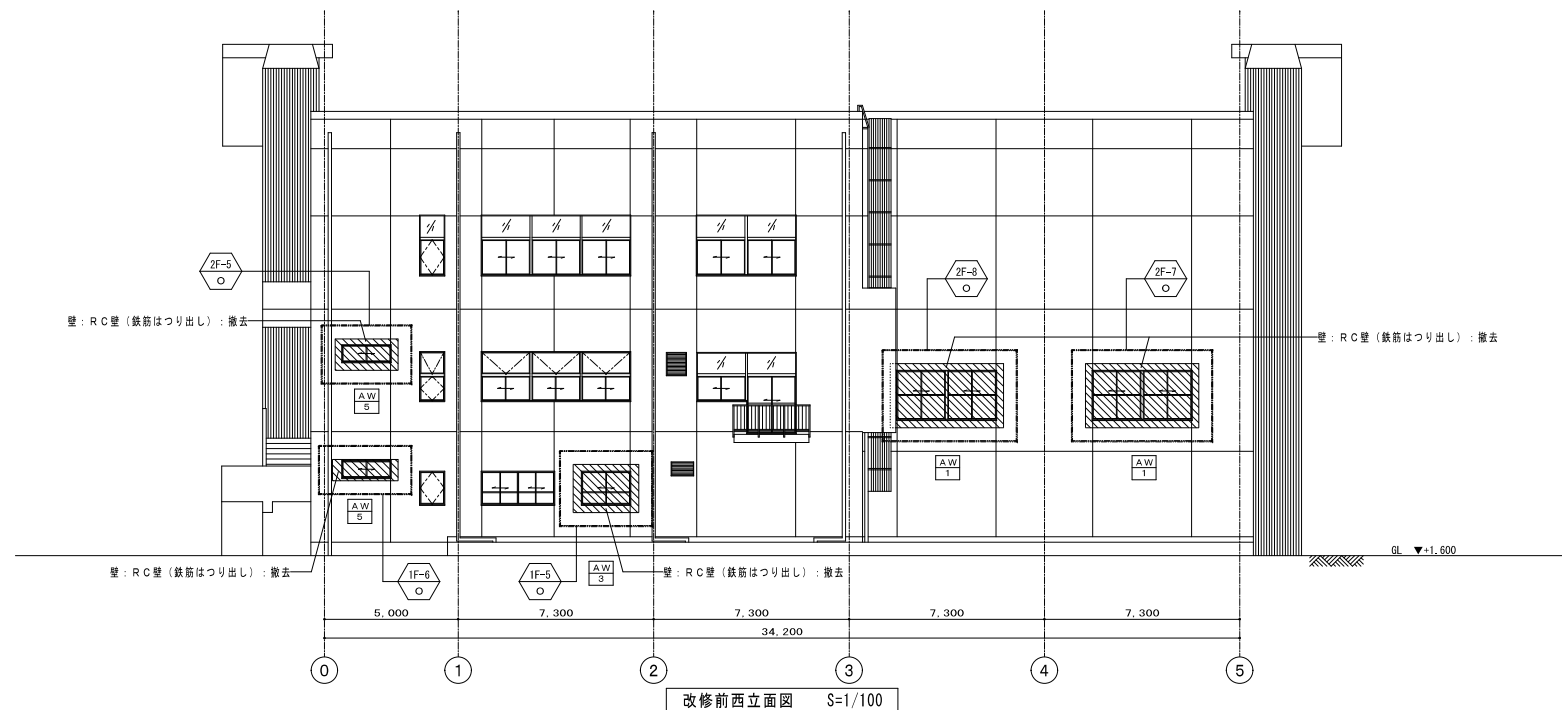


【凡例】
耐震補強工事範囲
耐震補強位置を示す
階数-部位符号
N: 改修後

改修後 3階平面図 S=1/100

事業名	令和 6 年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名称	3階平面図 (改修前・後)		
縮尺	1/100	設計年月日	令和 5 年 3 月
工種	設計者	株式会社 日新技術コンサルタント	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-14

改修後



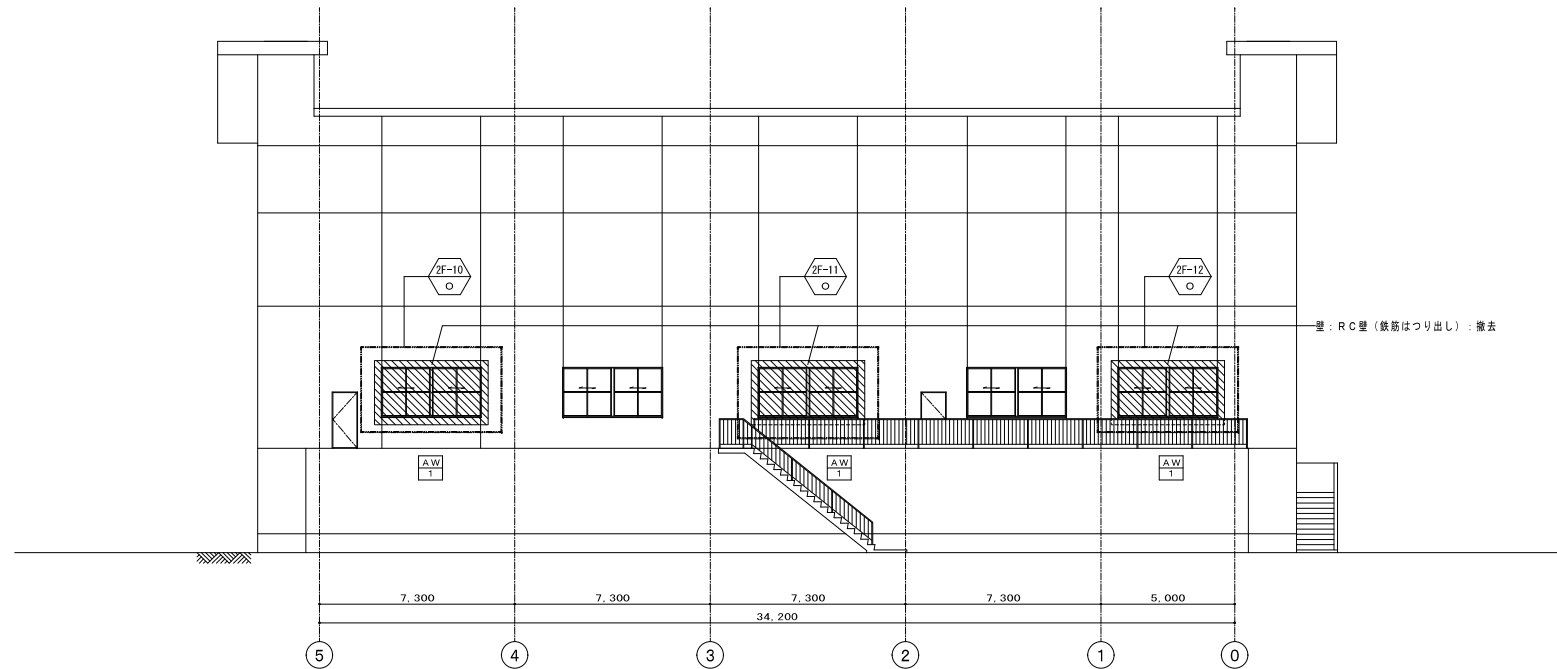
【凡例】

- : 耐震補強工事範囲
- : 撤去位置を示す
- : 新設位置を示す
- : 塗装改修位置を示す

階数・部位符号
 0: 改修前
 N: 改修後

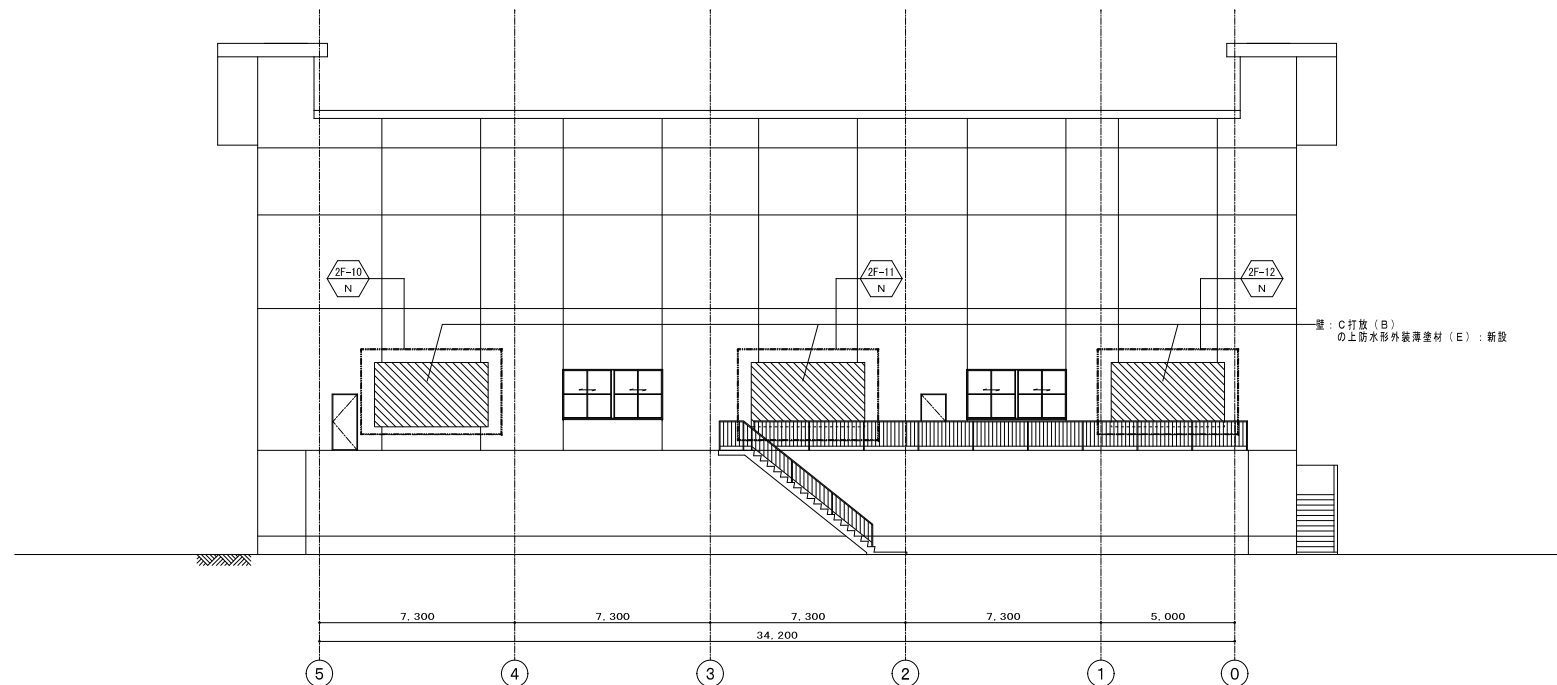
事業名	令和 6 年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ増設耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名称	立面図（１）（改修前・後）		
縮尺	1/100	設計年月日	令和 5 年 3 月
工種		設計者	株式会社 目黒技研コンサルタン
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-15

改
修
前



改修前東立面図 S=1/100

改
修
後



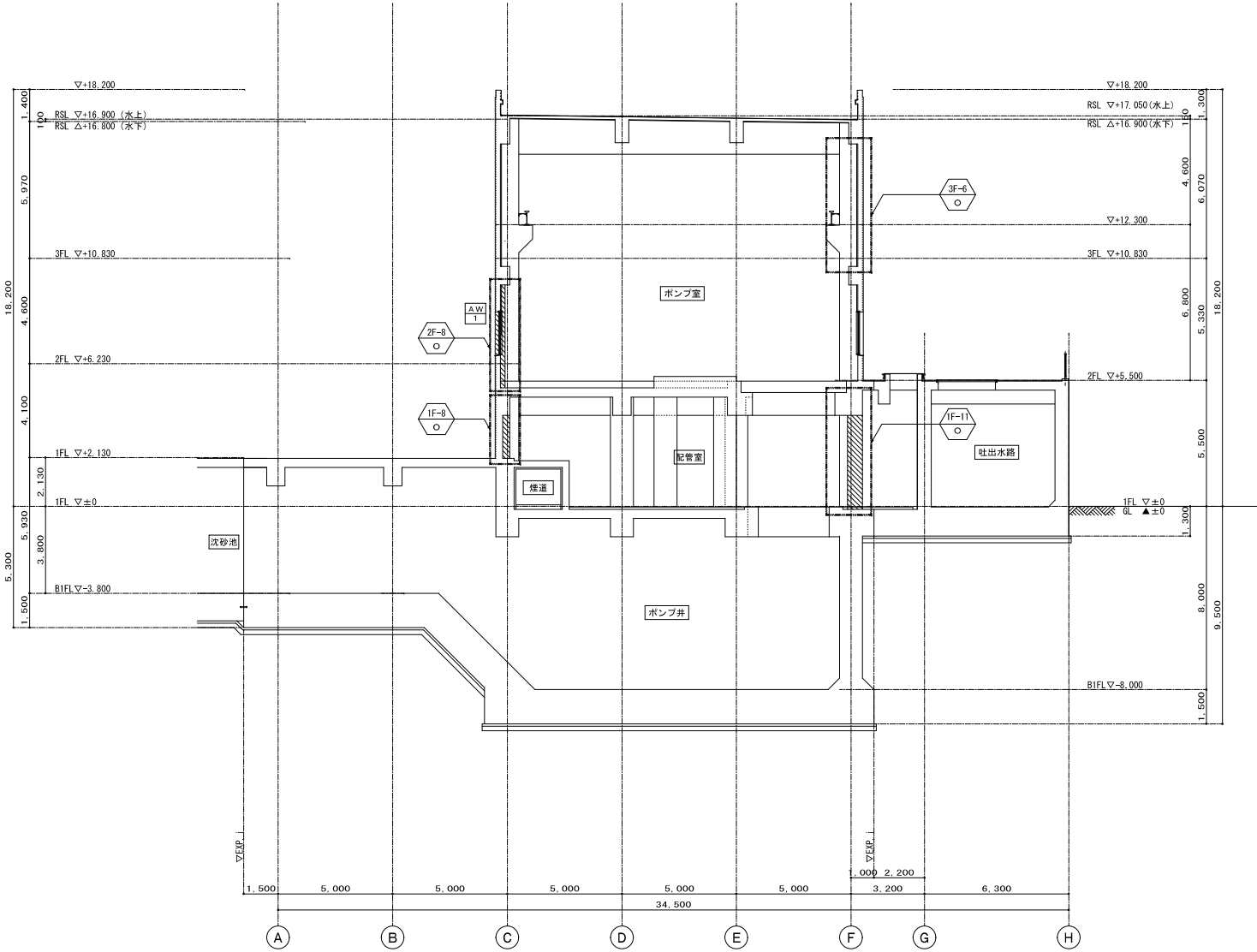
改修前東立面図 S=1/100

【凡例】

- 耐震補強工事範囲
- 撤去位置を示す
- 新設位置を示す
- 塗装改修位置を示す

階数-部位符号
O: 改修前
N: 改修後

事業名	令和 6 年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名称	立面図 (2) (改修前・後)		
縮尺	1/100	設計年月日	令和 5 年 3 月
工種	設計者	株式会社 日新技研コンサルタント	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-16



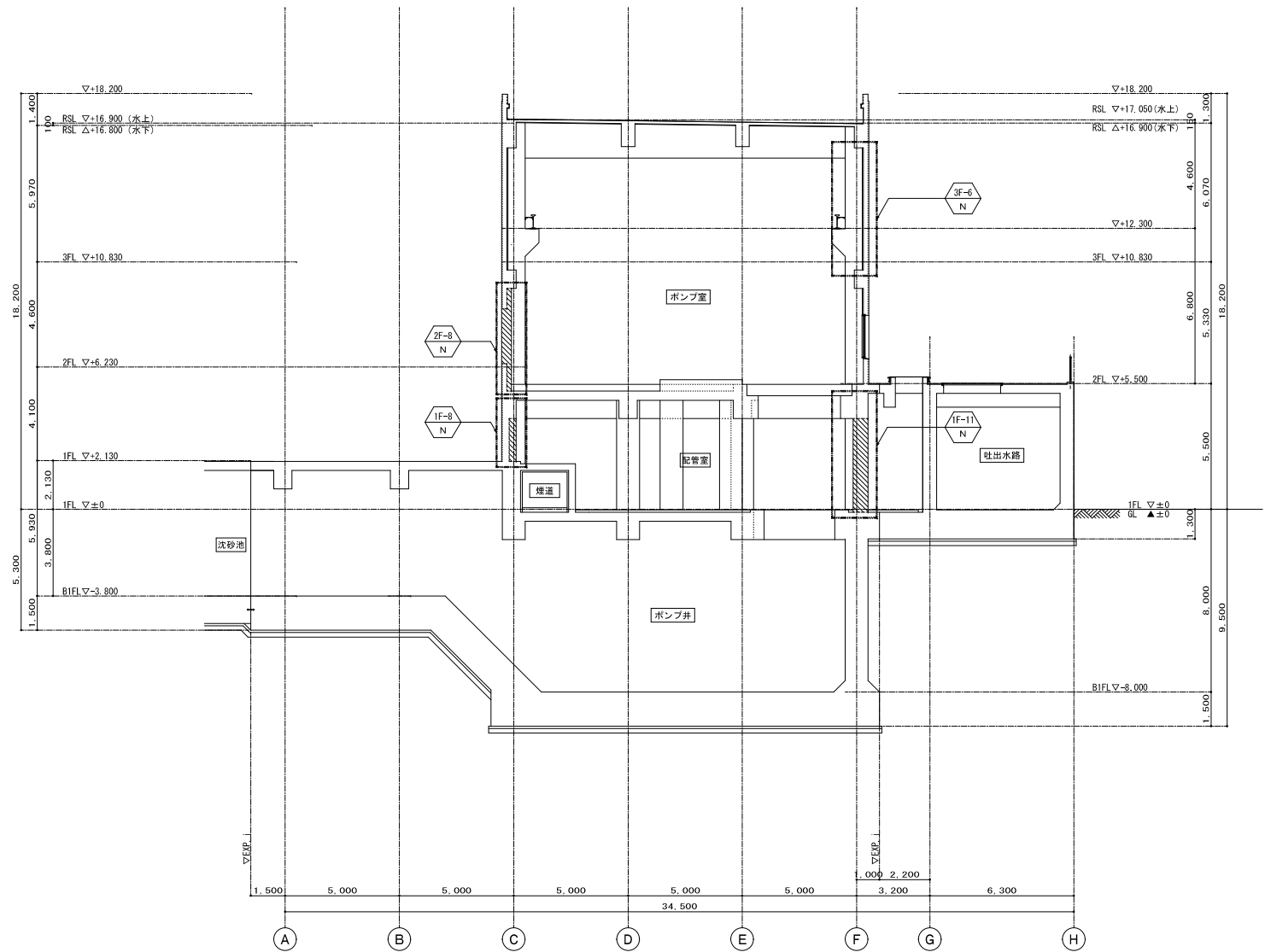
断面図 (1) S=1/100

【凡例】

- : 耐震補強工事範囲
- : 撤去位置を示す
- : 階数-部位符号
○ : 改修前

事業名	令和 6 年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名称	断面図 (1) (改修前)		
縮尺	1/100	設計年月日	令和 5 年 3 月
工種	設計者	株式会社 日新技術コンサルタント	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-17

改 修 後

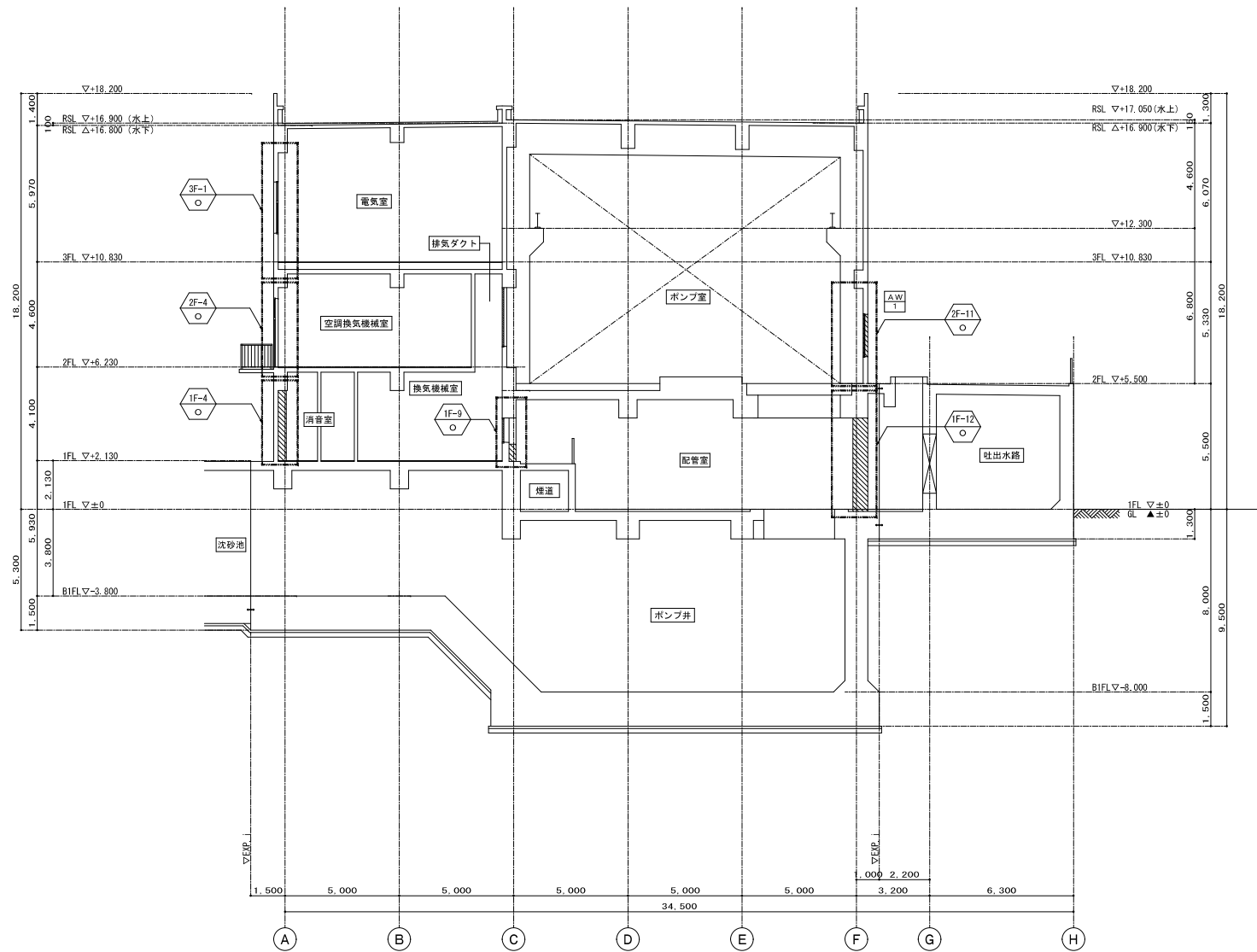


断面図 (1) S=1/100

【凡例】	
	: 耐震補強工事範囲
	: 撤去位置を示す
	階数-部位符号 N : 改修後

事業名	令和 6 年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名称	断面図 (1) (改修後)		
縮尺	1/100	設計年月日	令和 5 年 3 月
工種	設計者	株式会社 日新技術コンサルタント	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-18

改 修 前

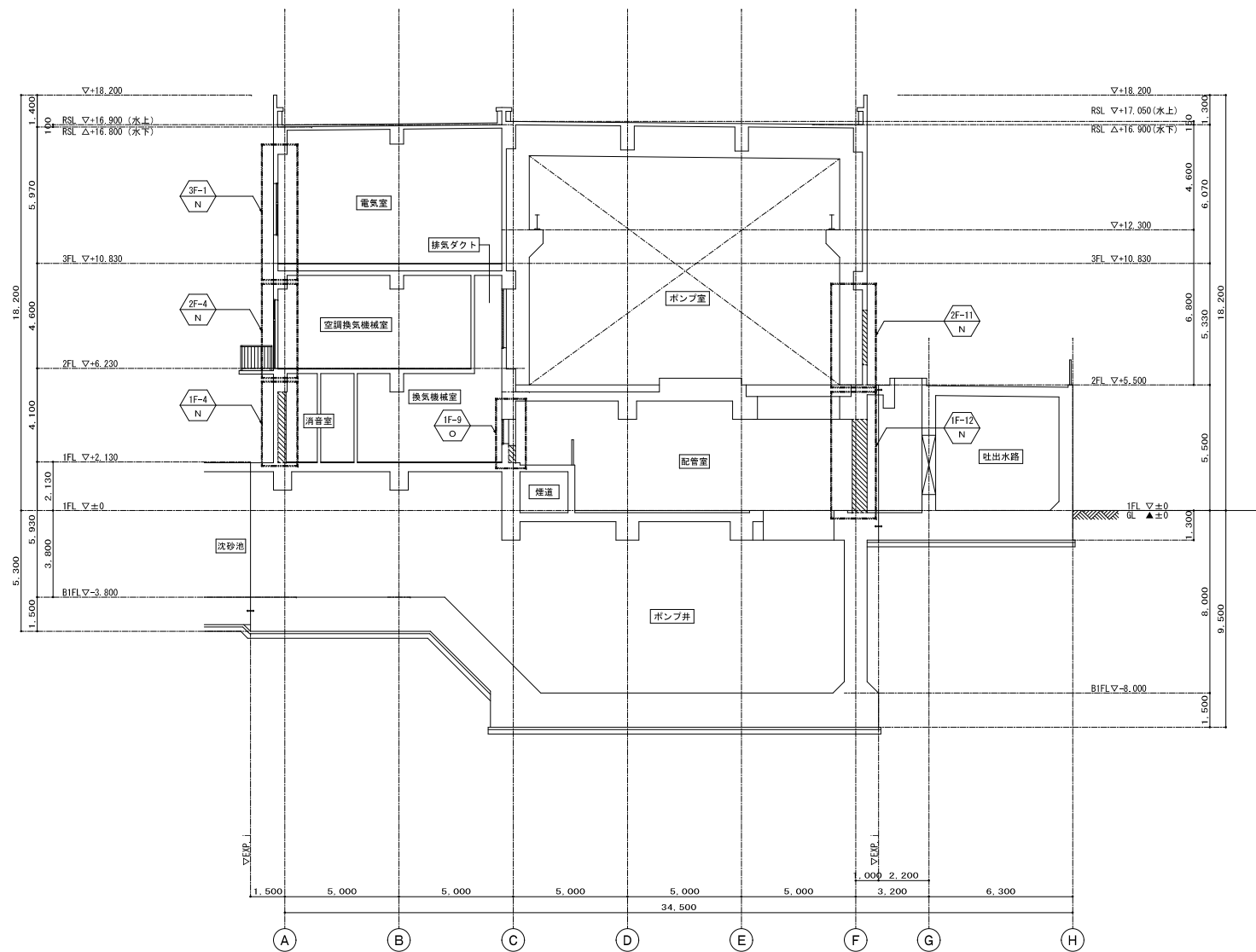


断面図(2) S=1/100

【凡例】	
	: 耐震補強工事範囲
	: 撤去位置を示す
	: 階数-部位符号
	: 改修前

事業名	令和 6 年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名称	断面図(2) (改修前)		
縮尺	1/100	設計年月日	令和 5 年 3 月
工種	設計者	株式会社 日新技術コンサルタント	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-19

改修後



断面图(2) S=1/100

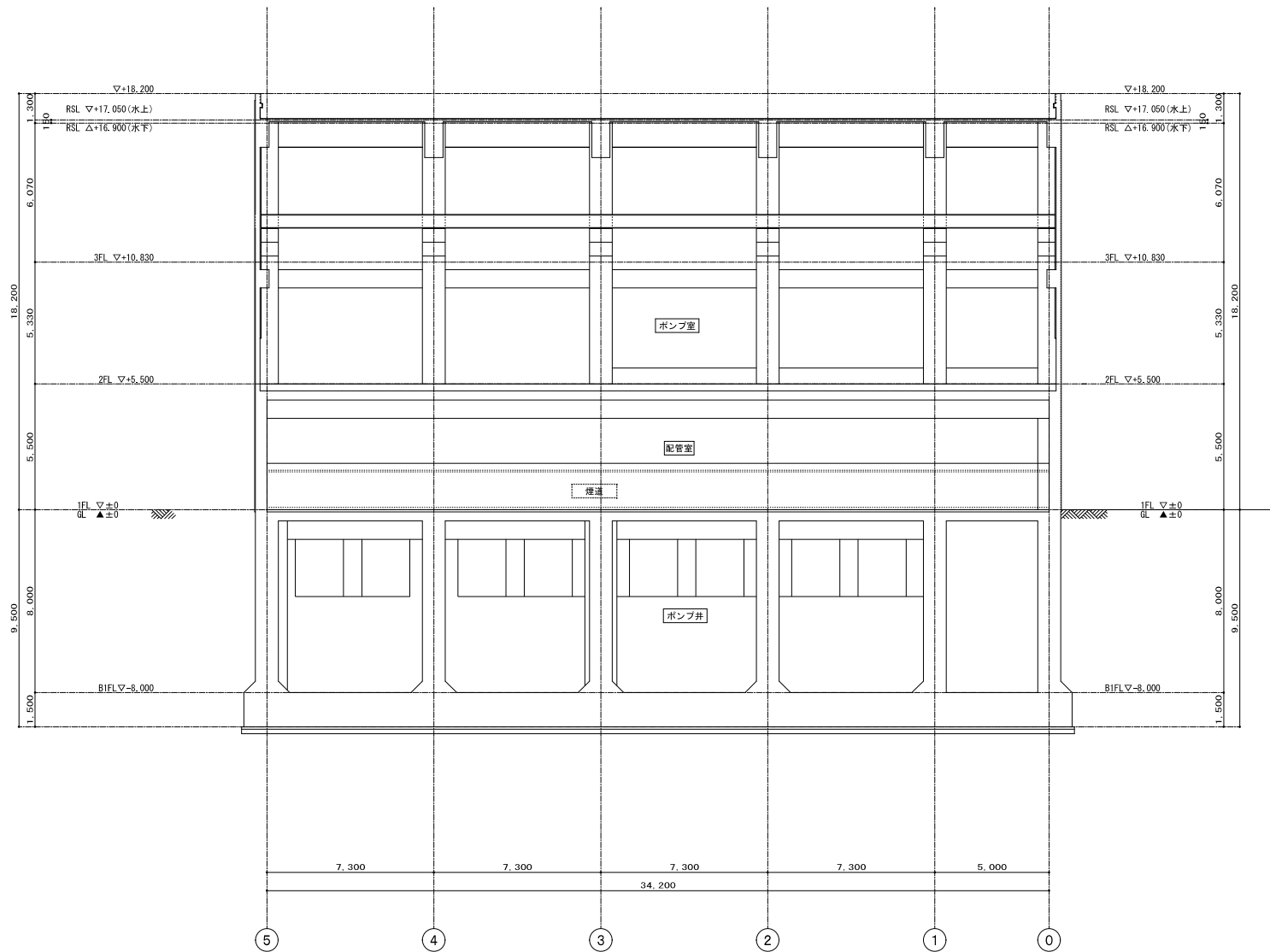
【凡例】

 : 耐震補強工事範囲

 : 撤去位置を示す

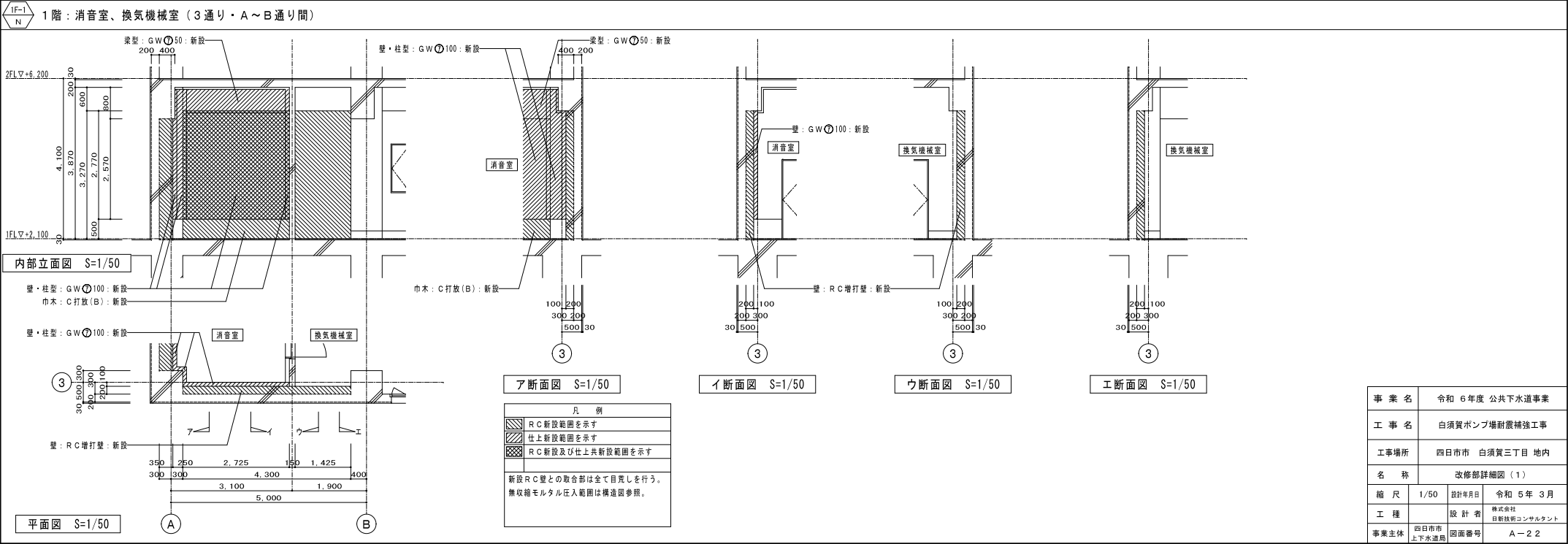
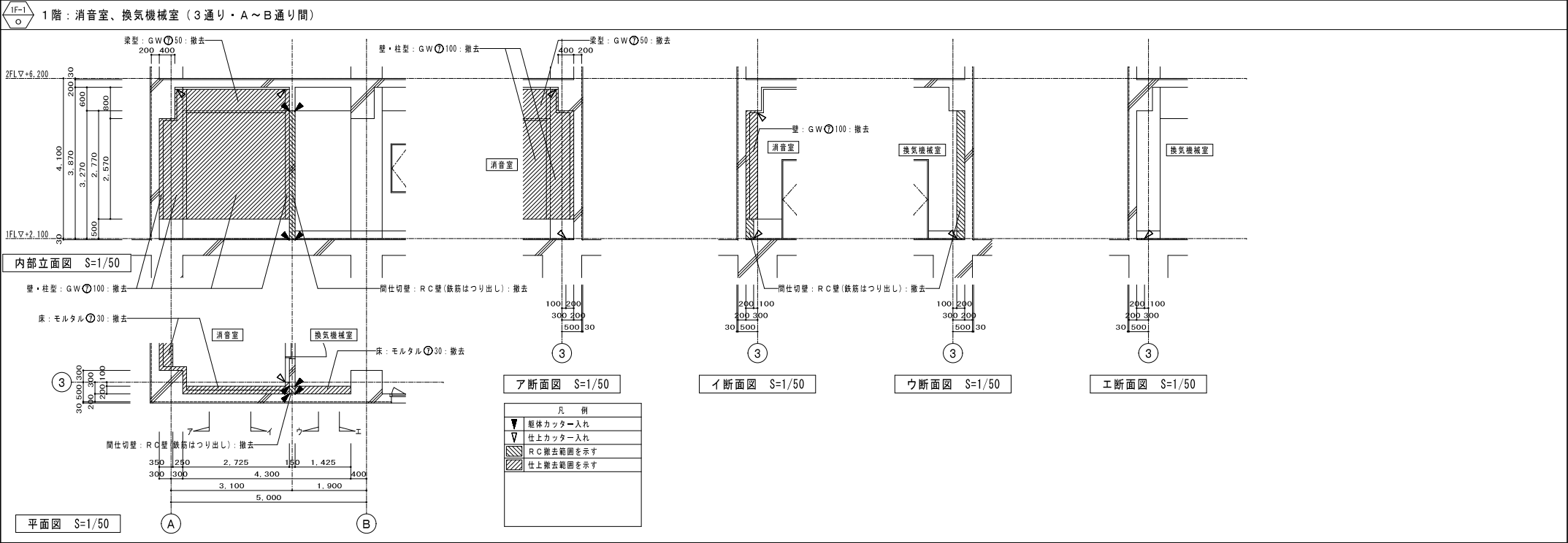
 階数・部位符号
N : 改修前

事業名	令和 6年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名称	断面図（2）（改修後）		
縮尺	1/100	設計年月日	令和 5年 3月
工種	設計者 株式会社 日新技術コンサルタント		
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A－20

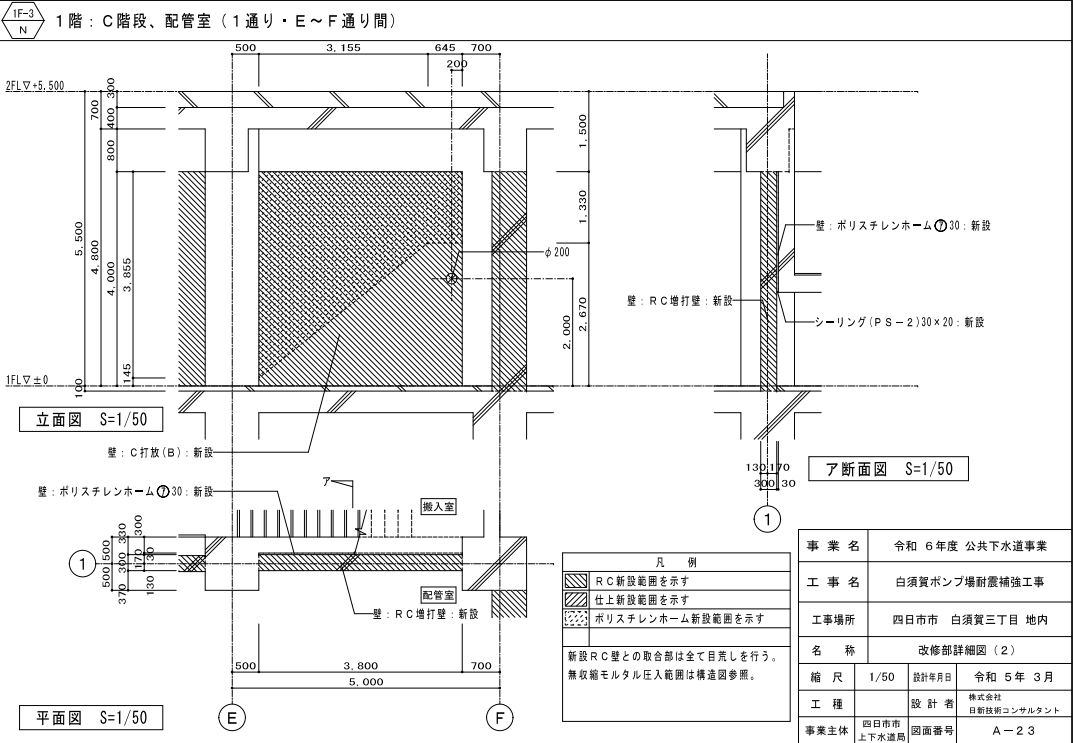
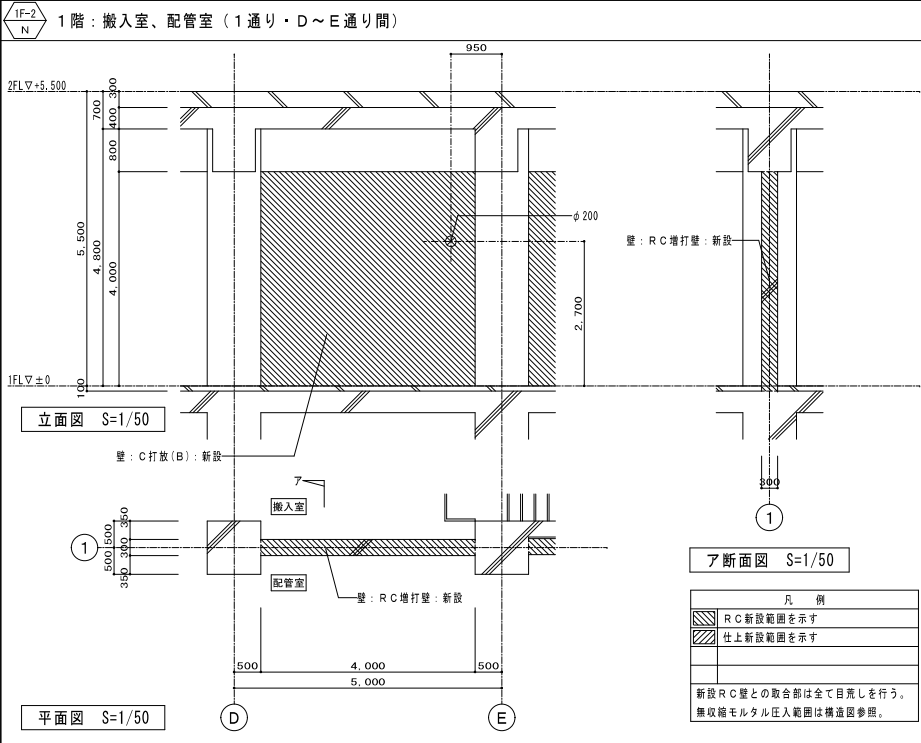
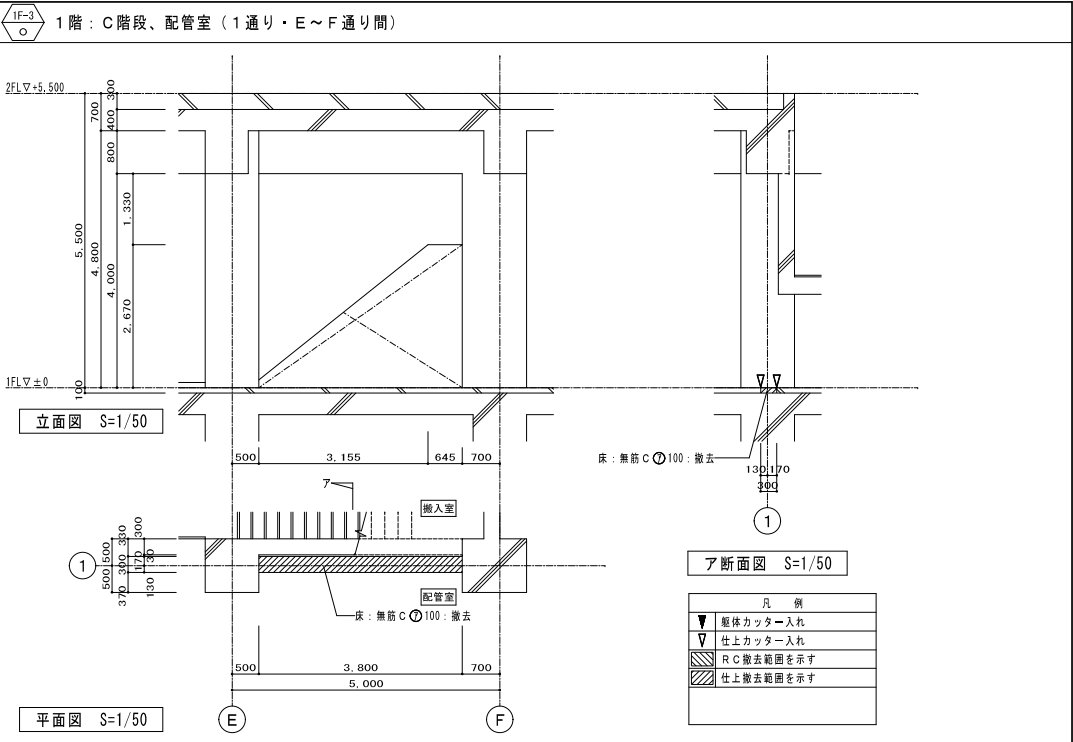
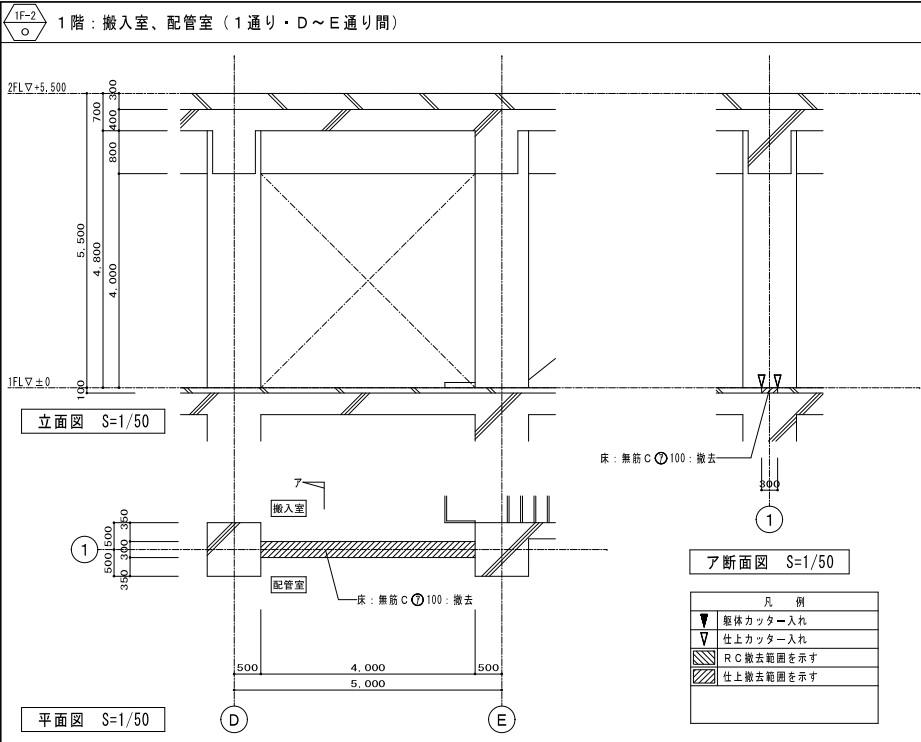


断面図 (3) S=1/100

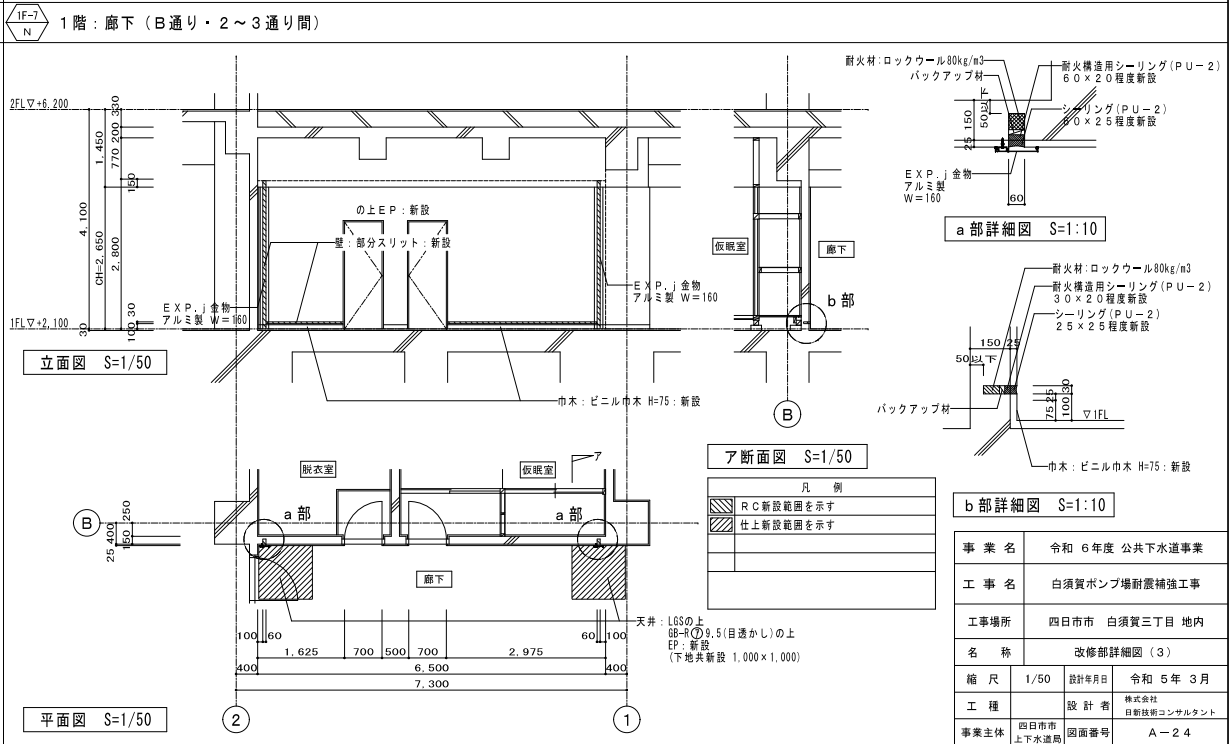
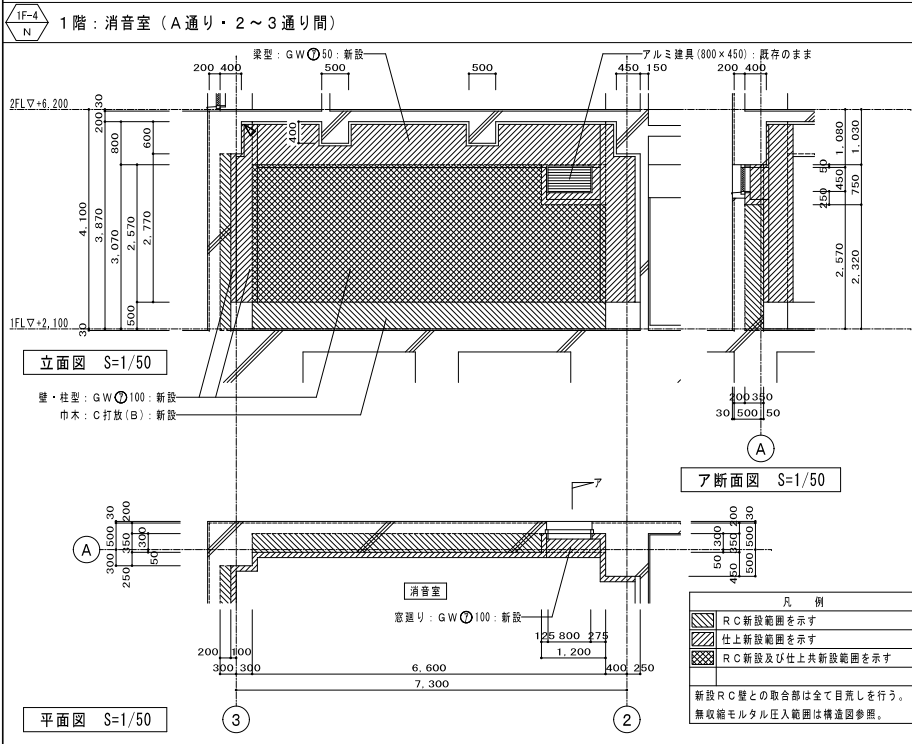
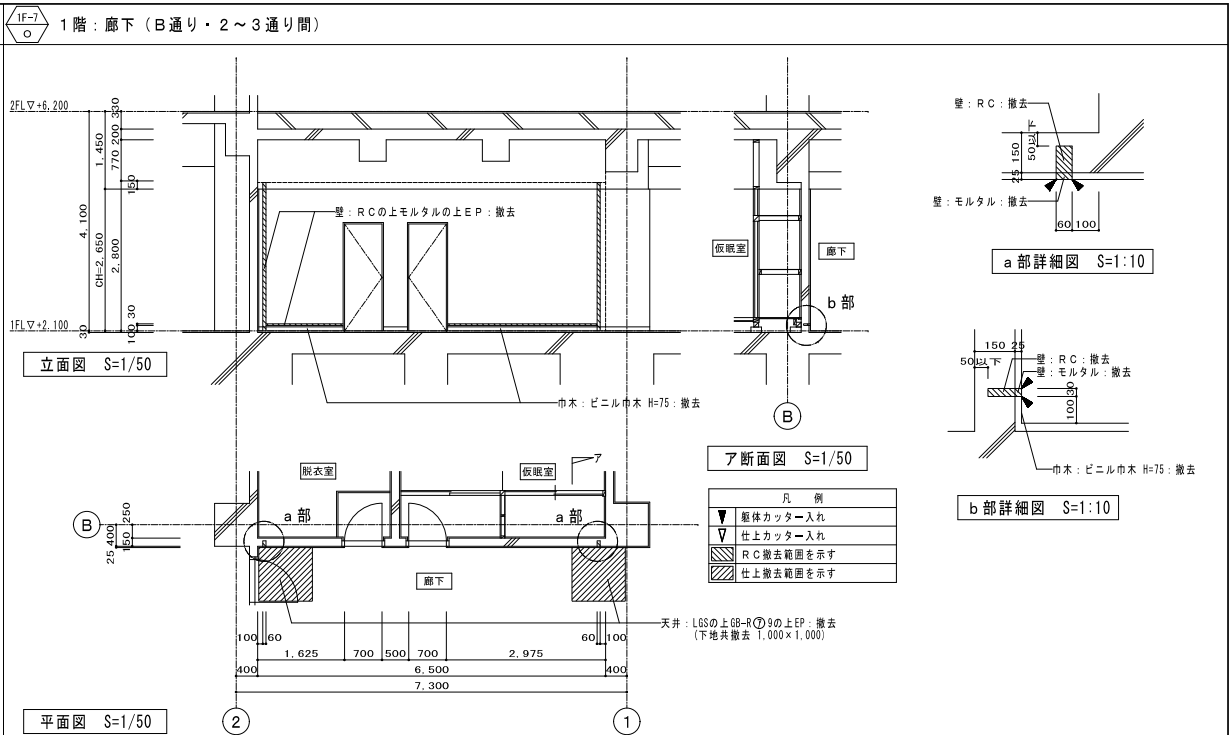
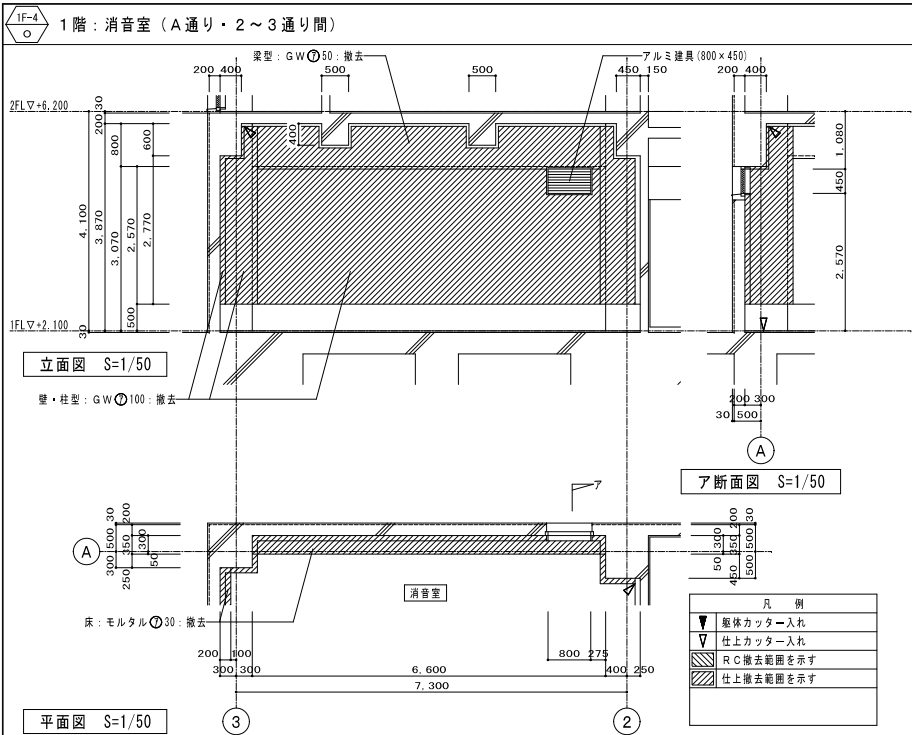
事業名	令和 6 年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名称	断面図 (3) (改修無)		
縮尺	1/100	設計年月日	令和 5 年 3 月
工種	設計者	株式会社 日新技術コンサルタント	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-21



事業名	令和 6年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名称	改修部詳細図（1）		
縮尺	1/50	設計年月日	令和 5年 3月
工種	設計者	株式会社 日新技術コンサルタント	
事業主体	四日市市 上下水道部	図面番号	A-22

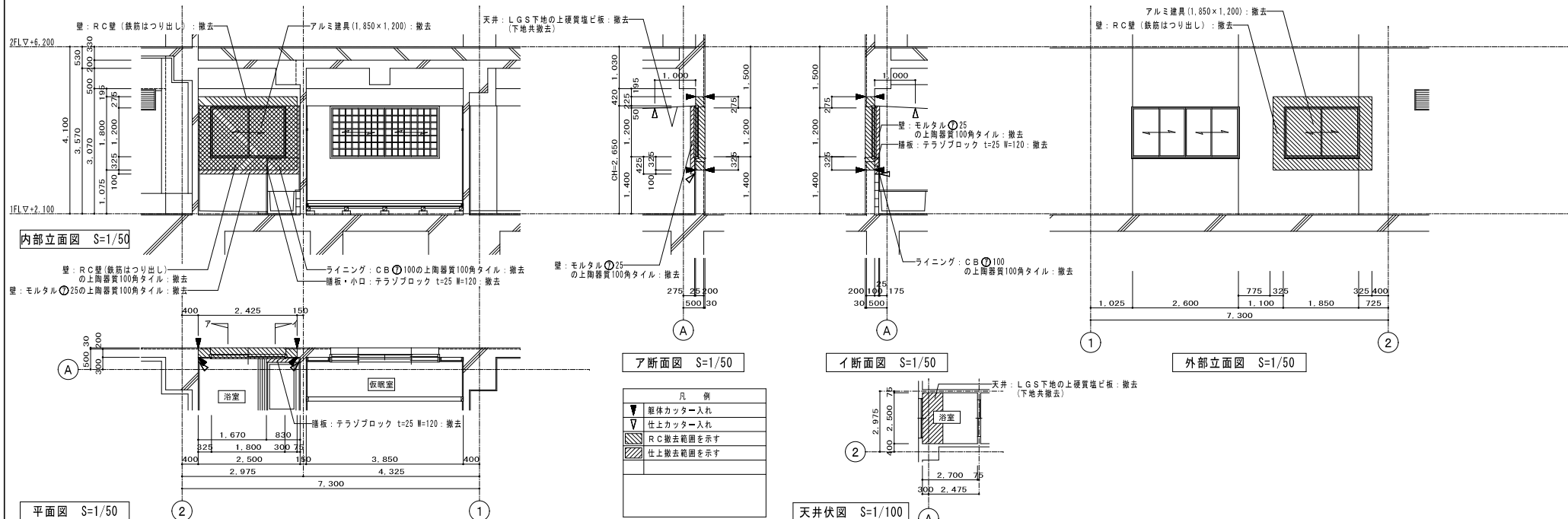


事業名	令和 6年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名称	改修部詳細図（2）		
縮尺	1/50	設計年月日	令和 5年 3月
工種	設計者	株式会社 日新技術コンサルタント	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-23



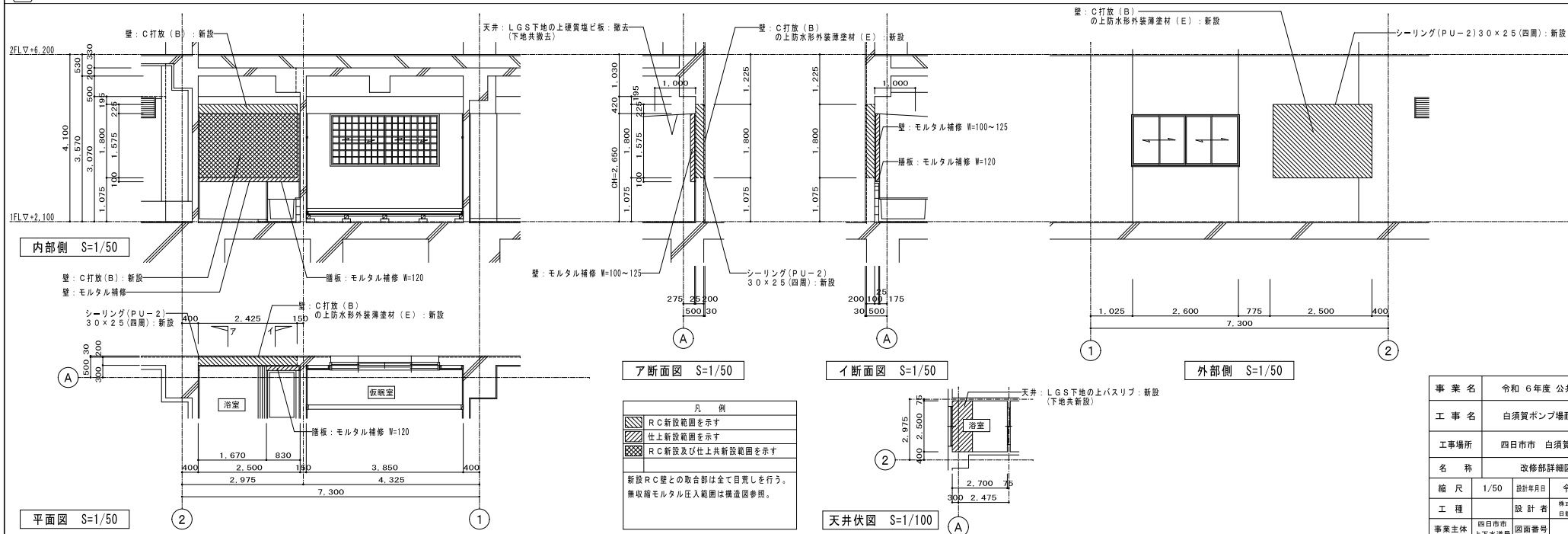
事業名	令和6年度 公共下水道事業
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内
名称	改修部詳細図（3）
縮尺	1/50
設計年月日	令和5年3月
工種	設計者
事業主体	四日市市 上下水道部
図面番号	A-24

1F-5 1階：浴室（A通り・1～2通り間）



1F-5
N

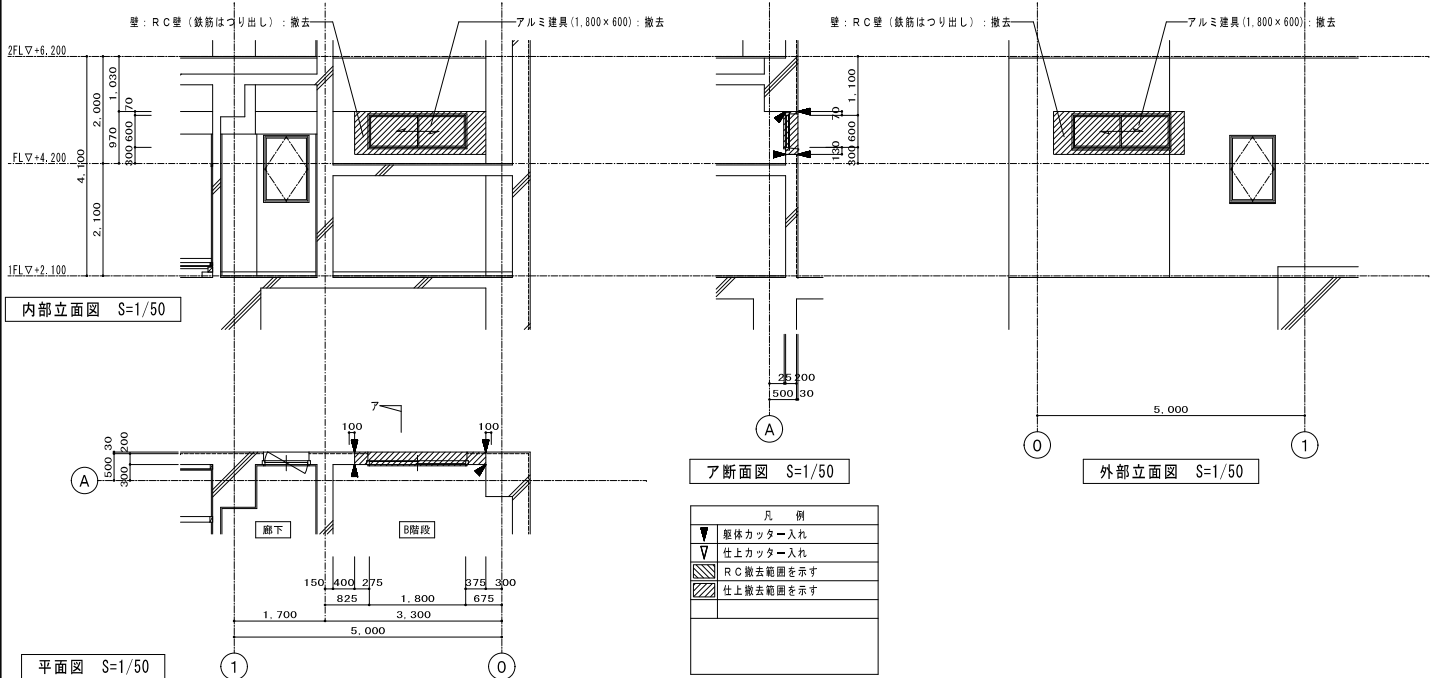
1階：浴室（A通り・1～2通り間）



事業名	令和 6 年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ増設耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名称	改修部詳細図（４）		
縮尺	1/50	設計年月日	令和 5 年 3 月
工種		設計者	株式会社 目黒技研コンサルタン
事業主体	四日市市	図面番号	A-25

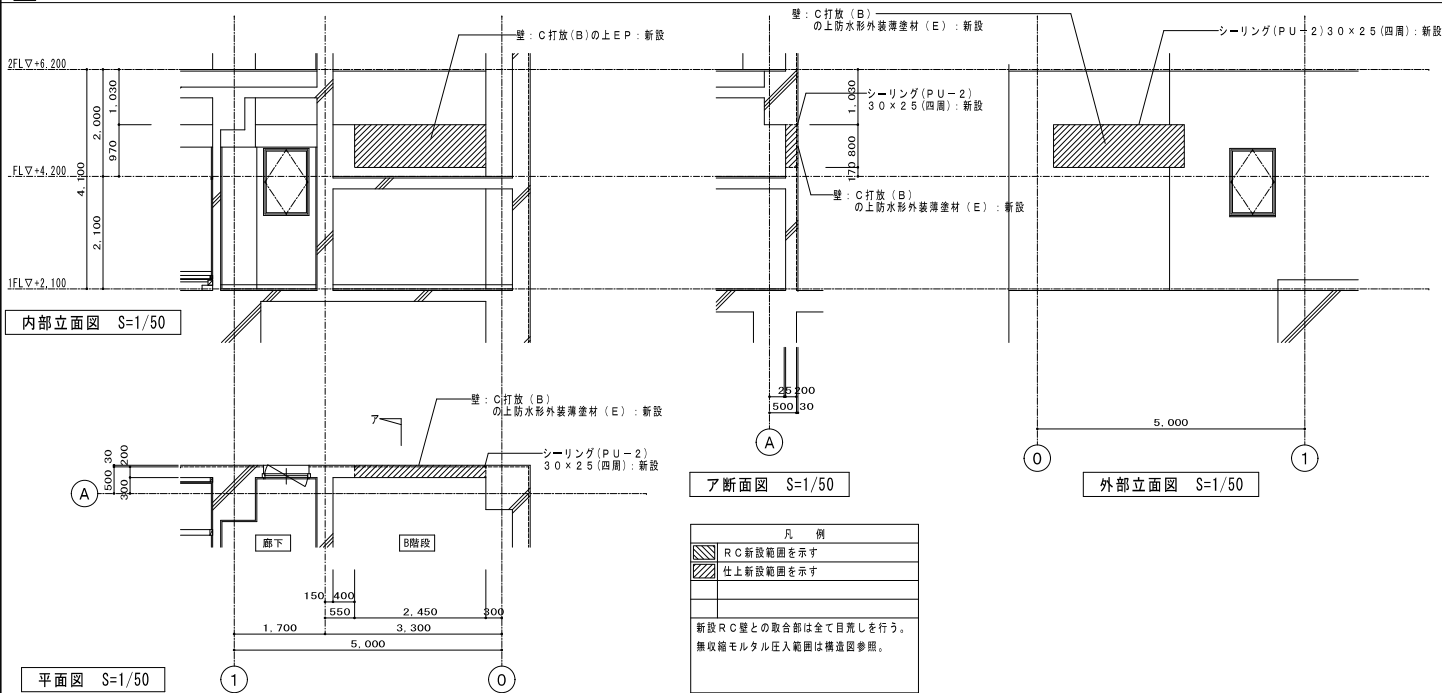
1F-6
O

1 階：B 階段（A 通り・O ～ 1 通り間）

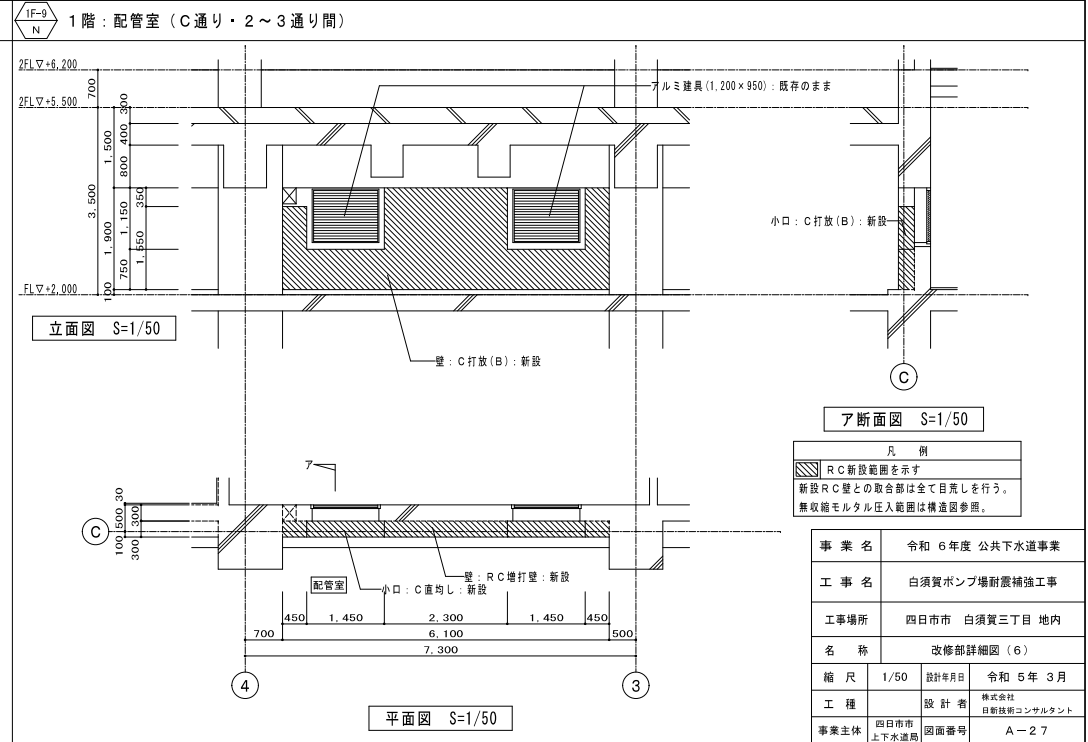
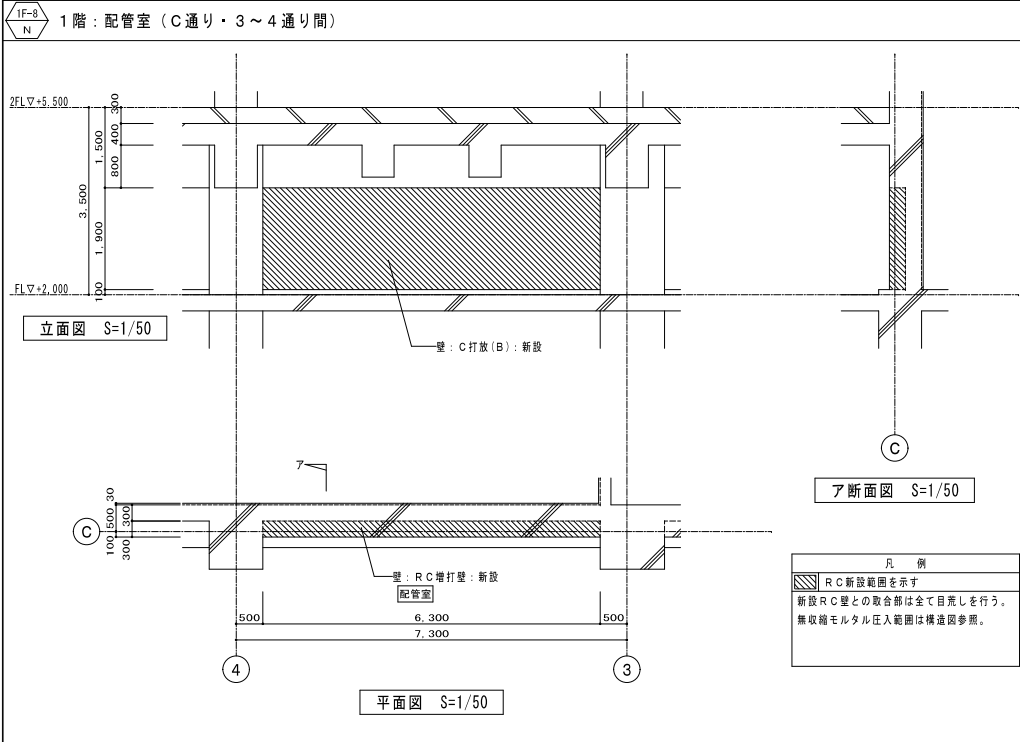
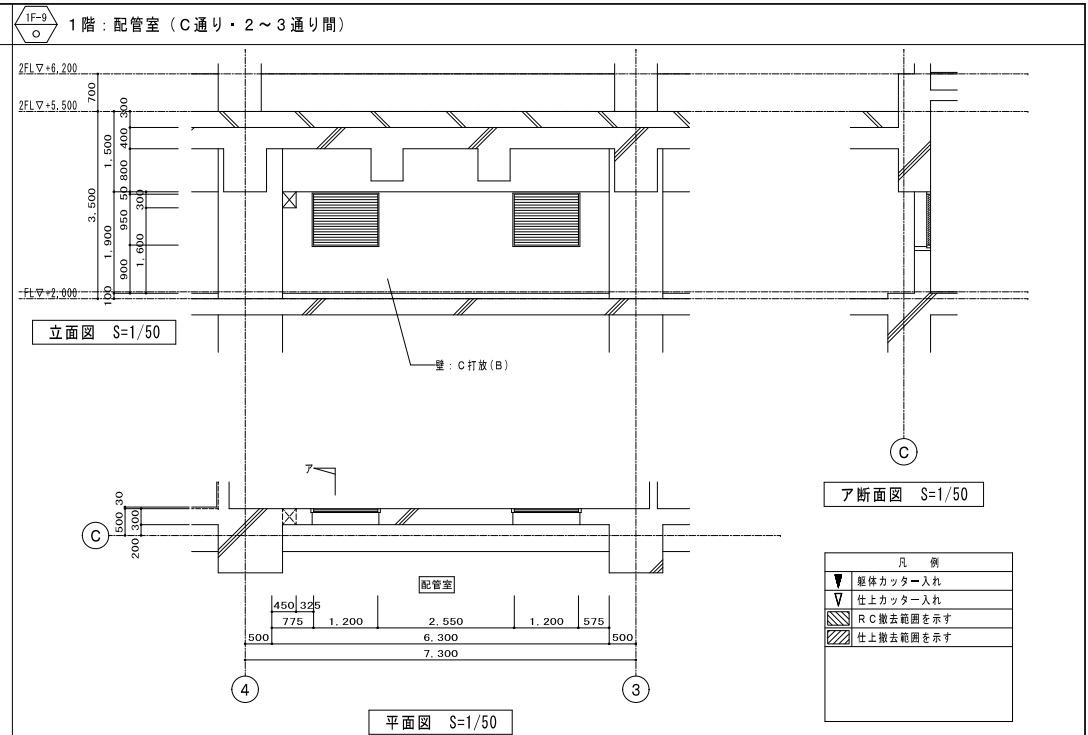
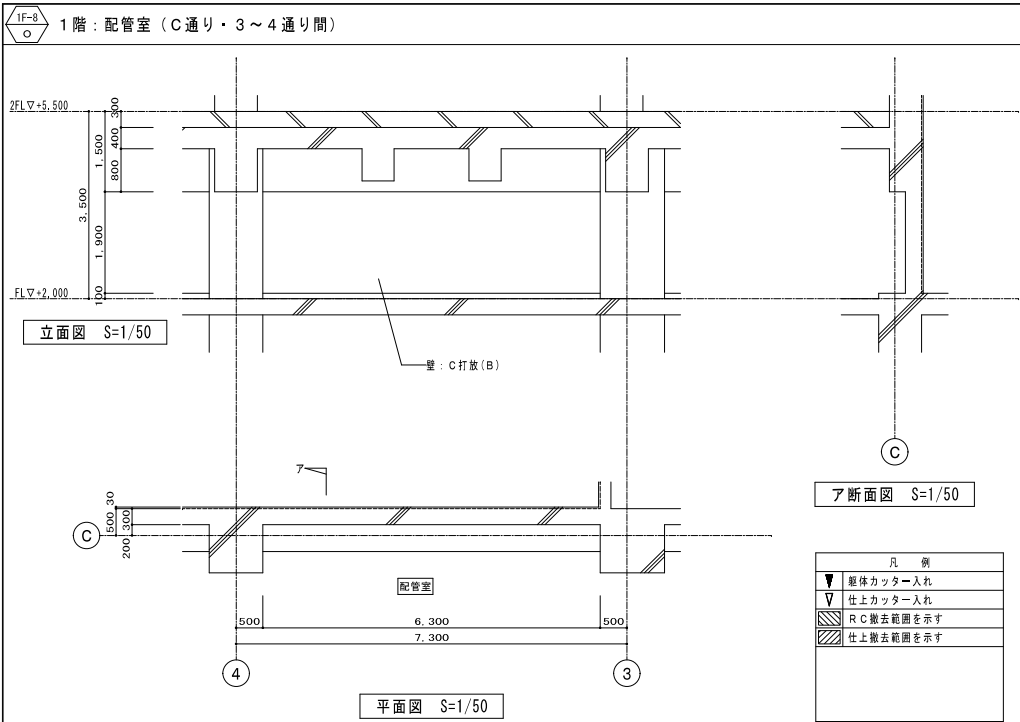


1F-6
N

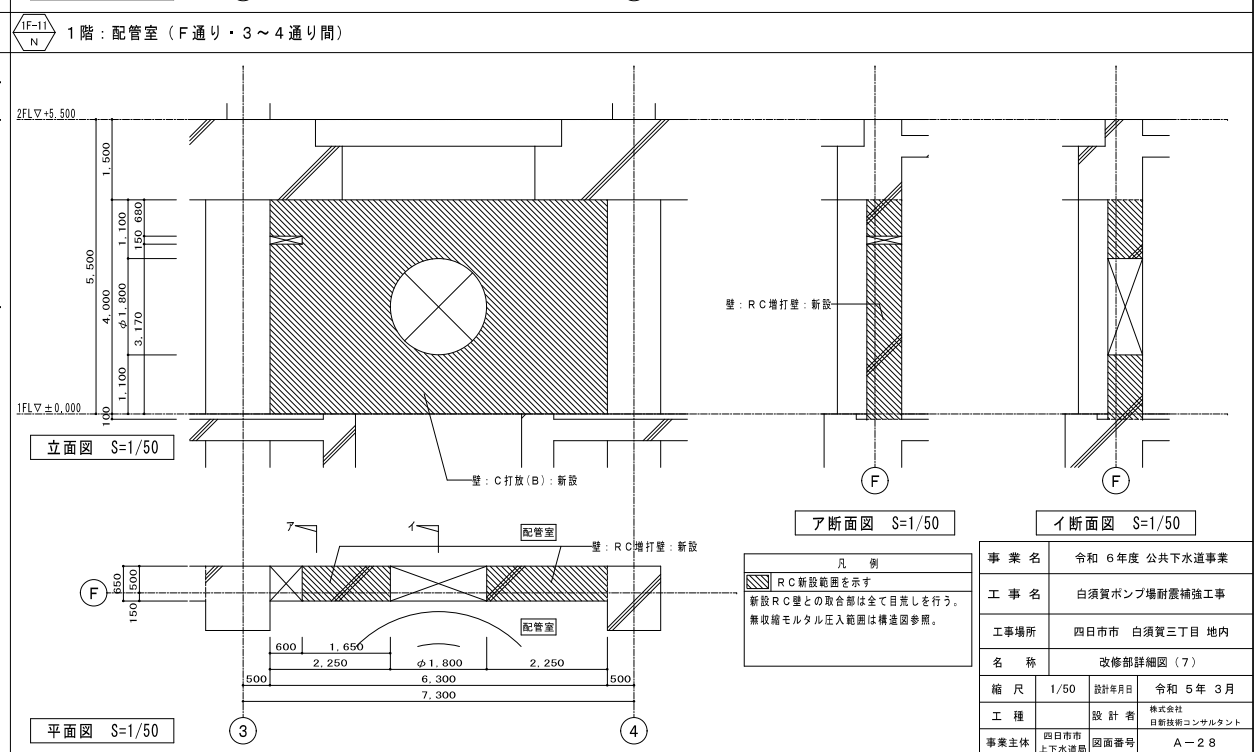
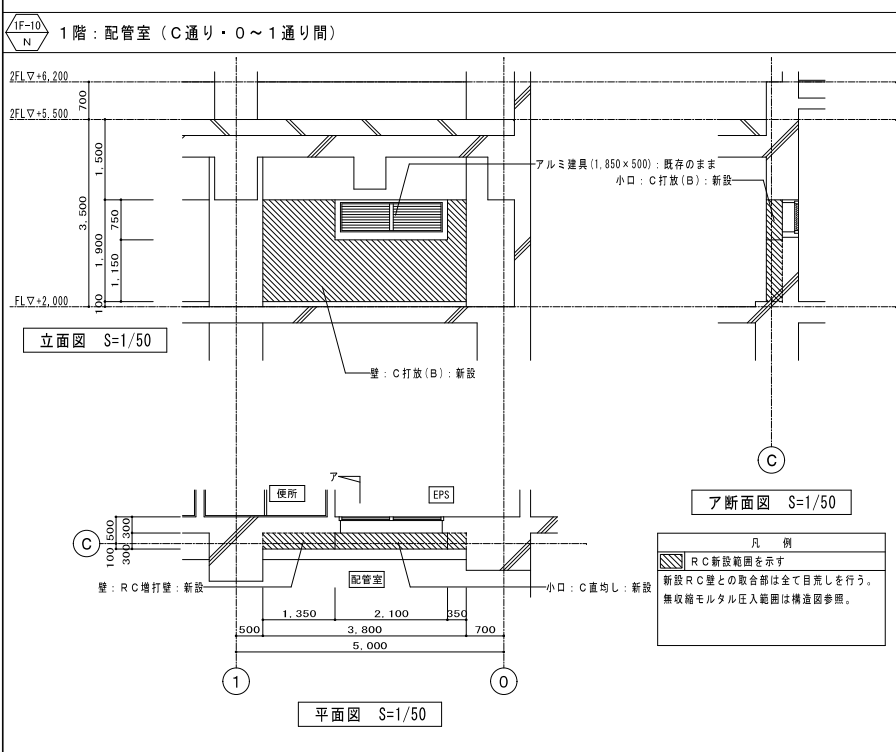
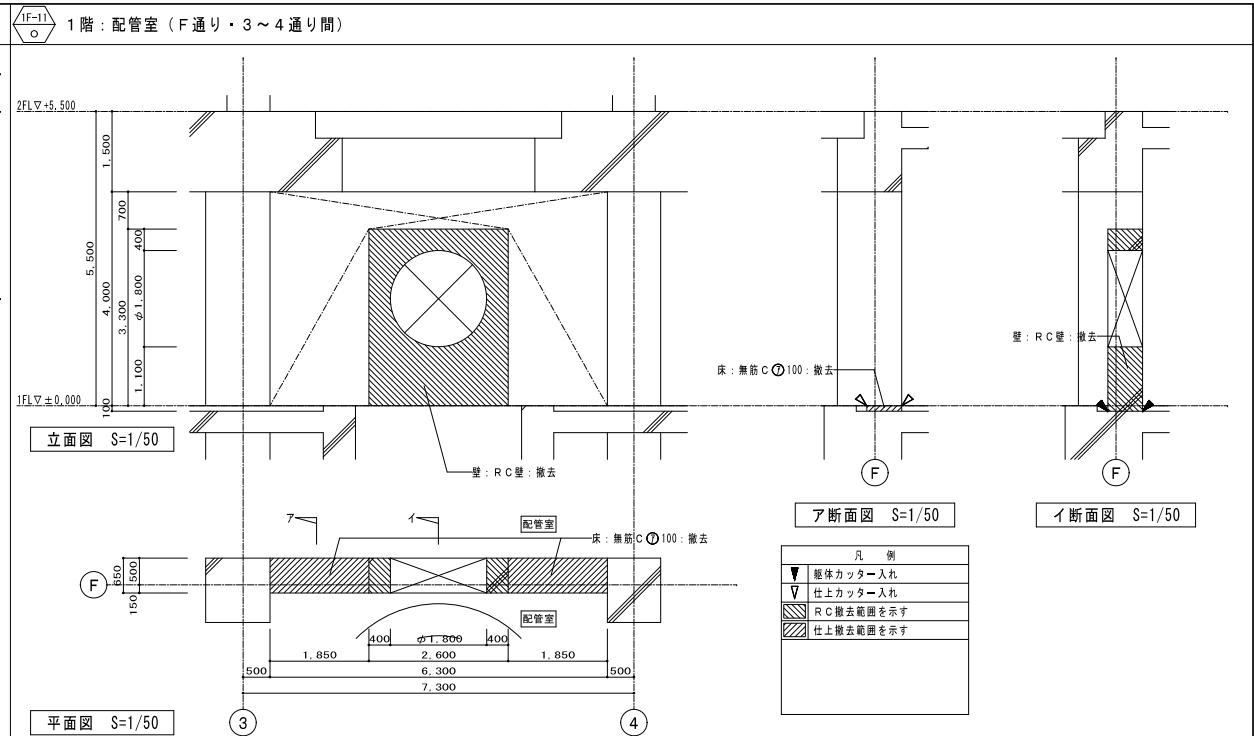
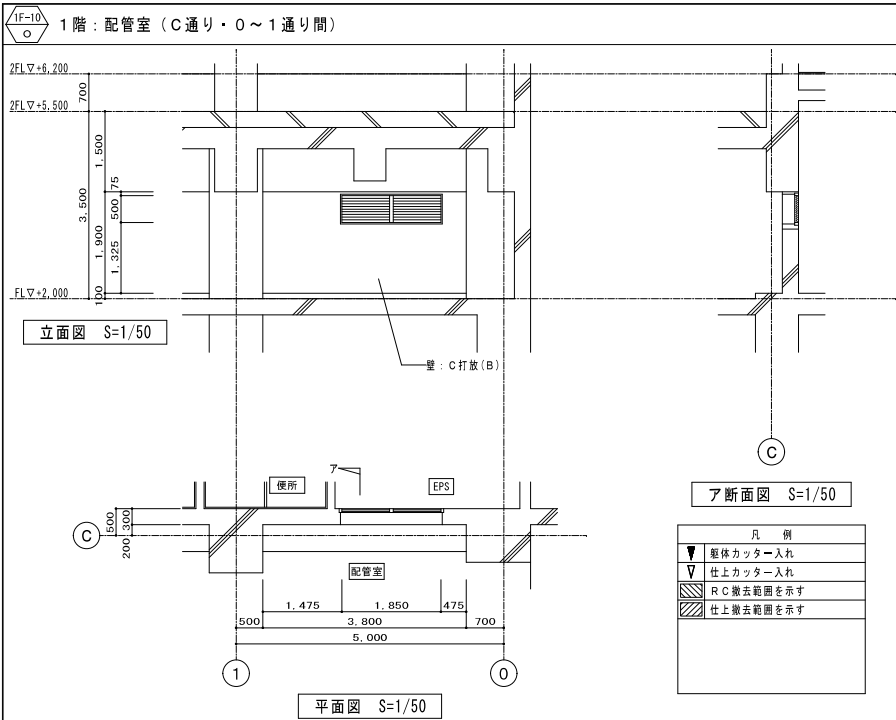
1 階：B 階段（A 通り・O ～ 1 通り間）



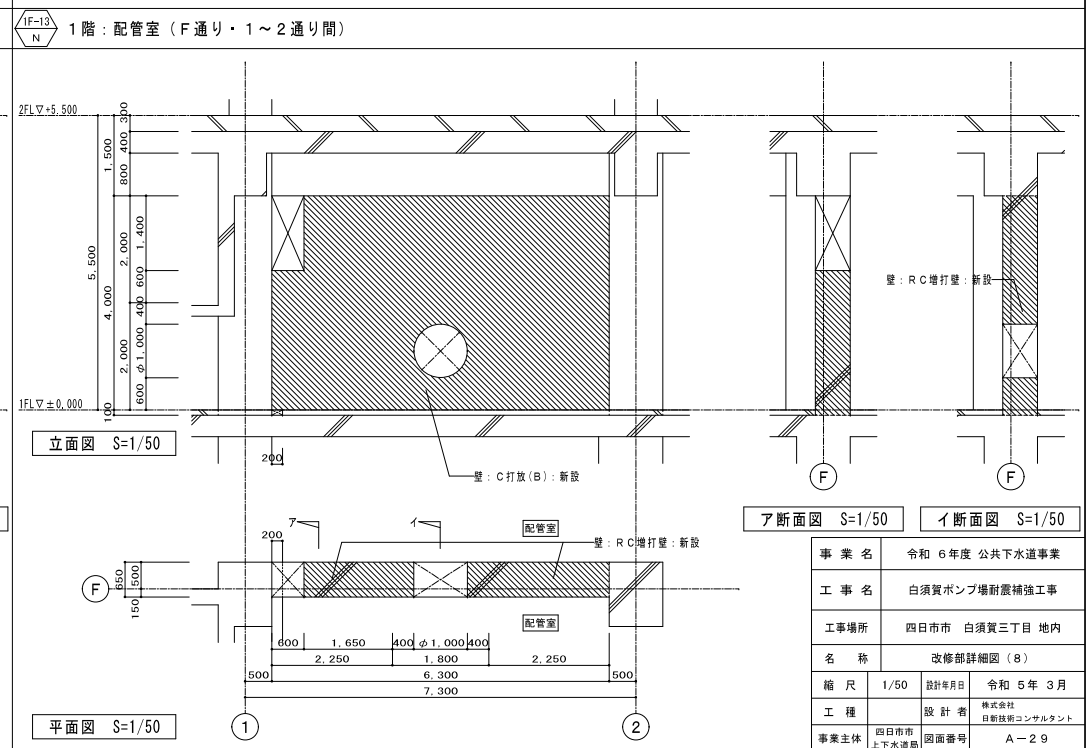
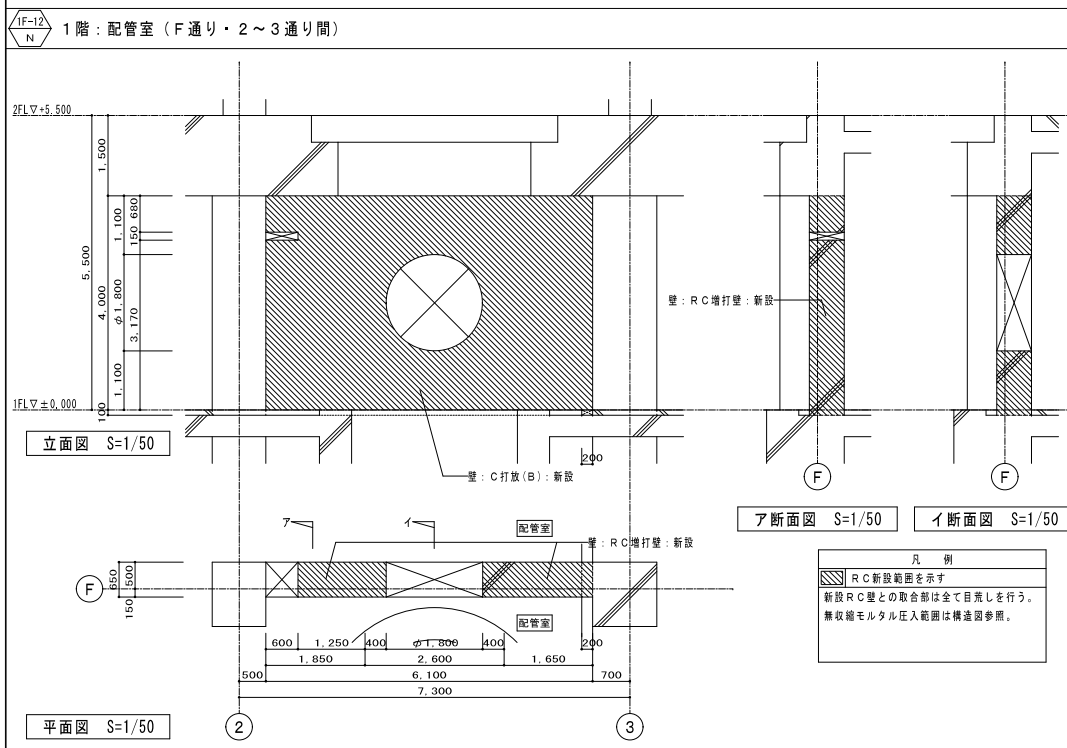
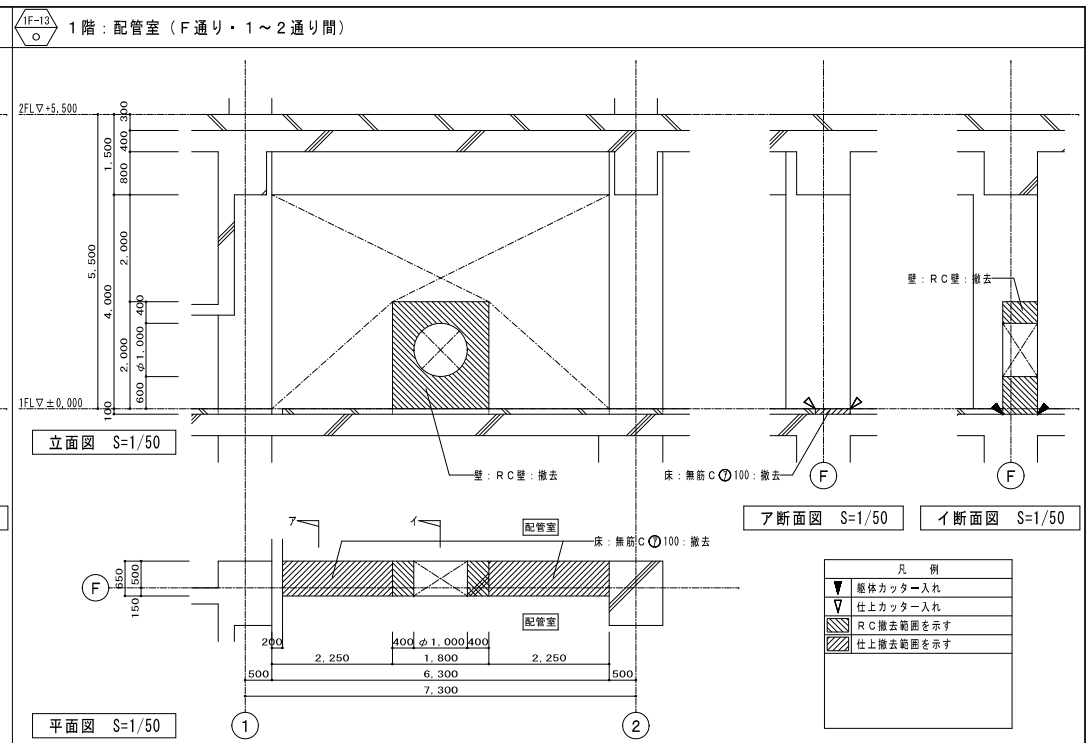
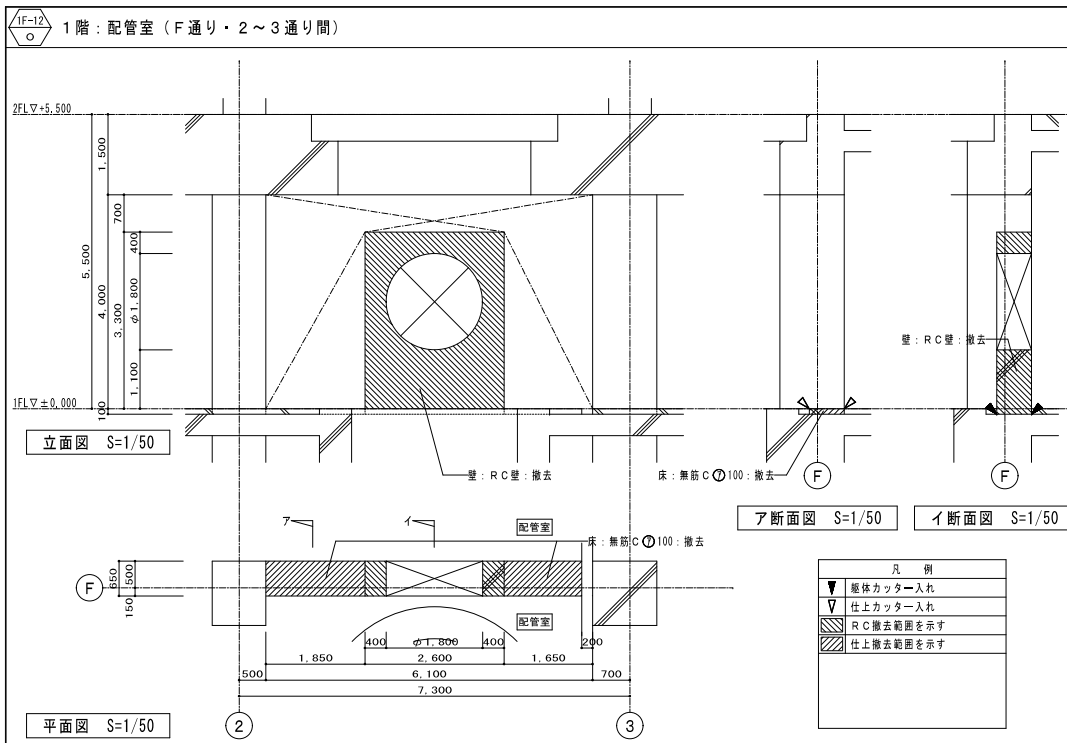
事業名	令和 6 年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名称	改修部詳細図（5）		
縮尺	1/50	設計年月日	令和 5 年 3 月
工種	設計者	株式会社 日新技術コンサルタント	
事業主体	四日市市 上下水道部	図面番号	A-26

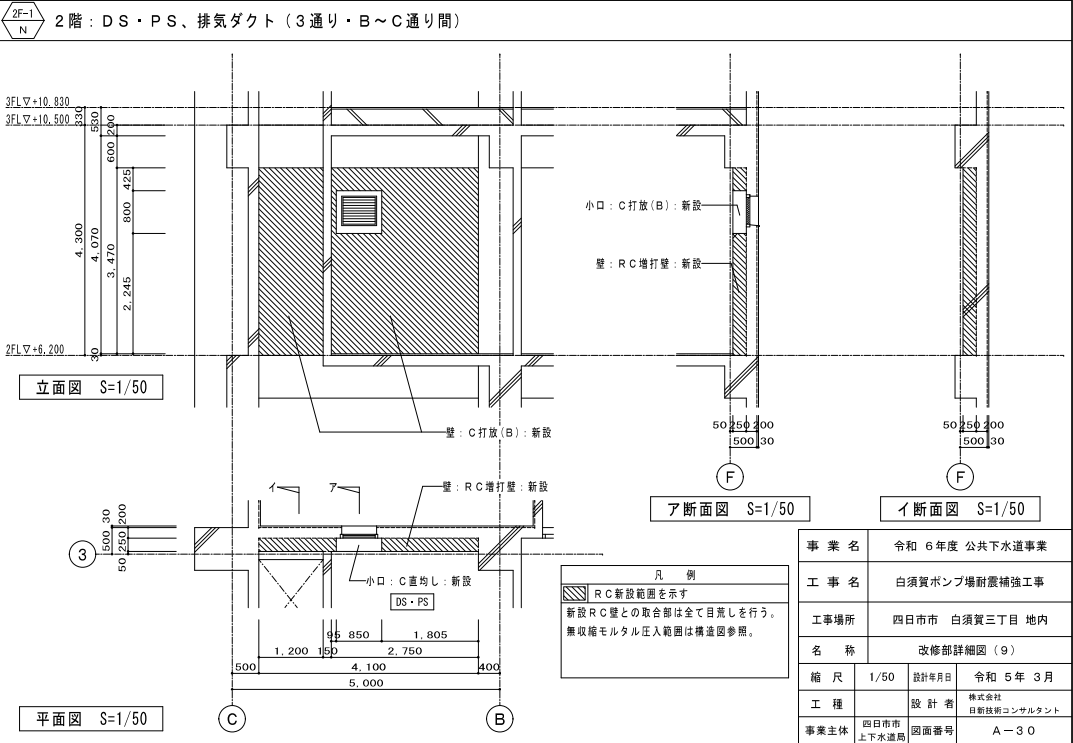
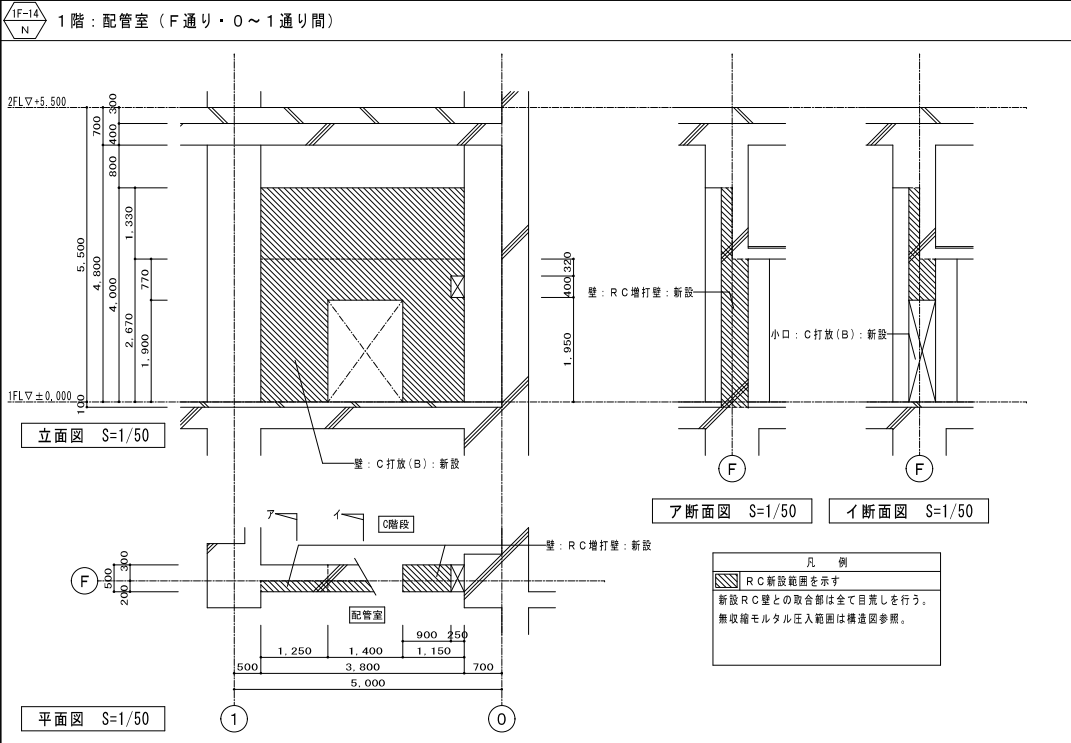
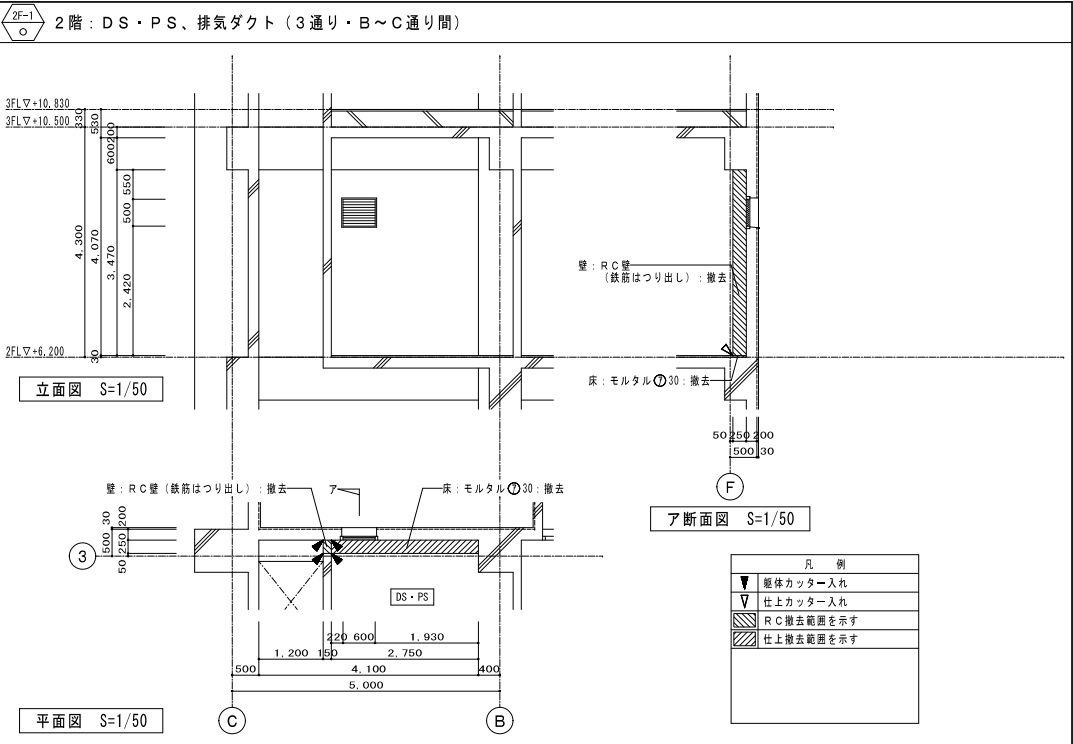
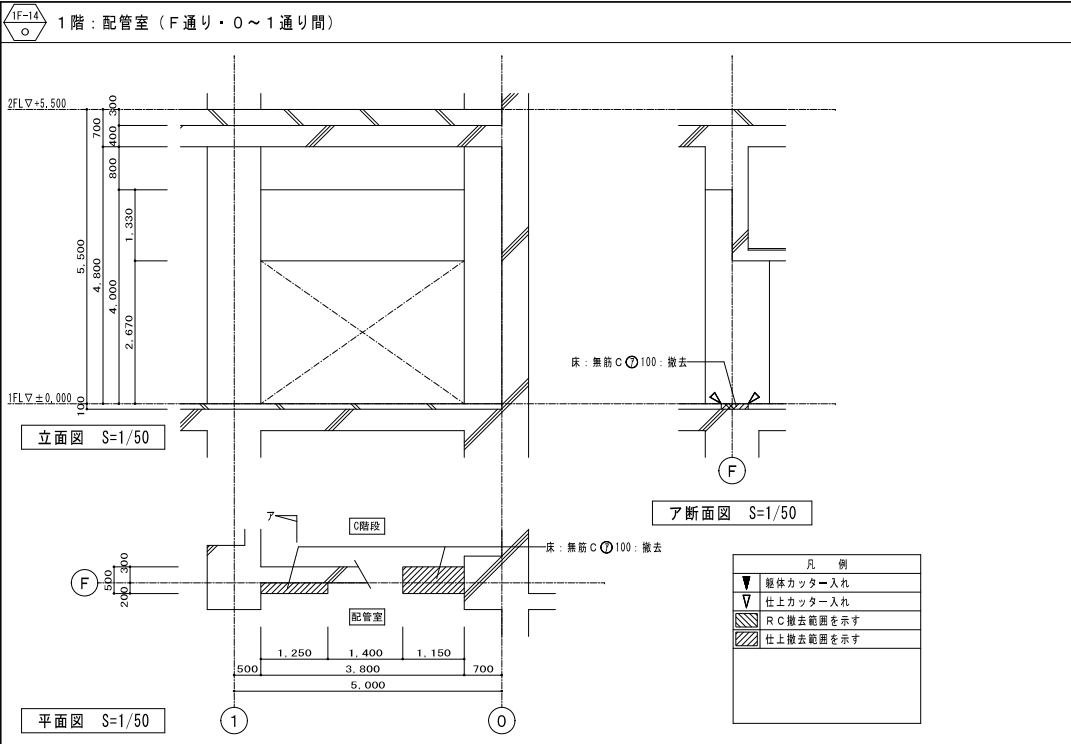


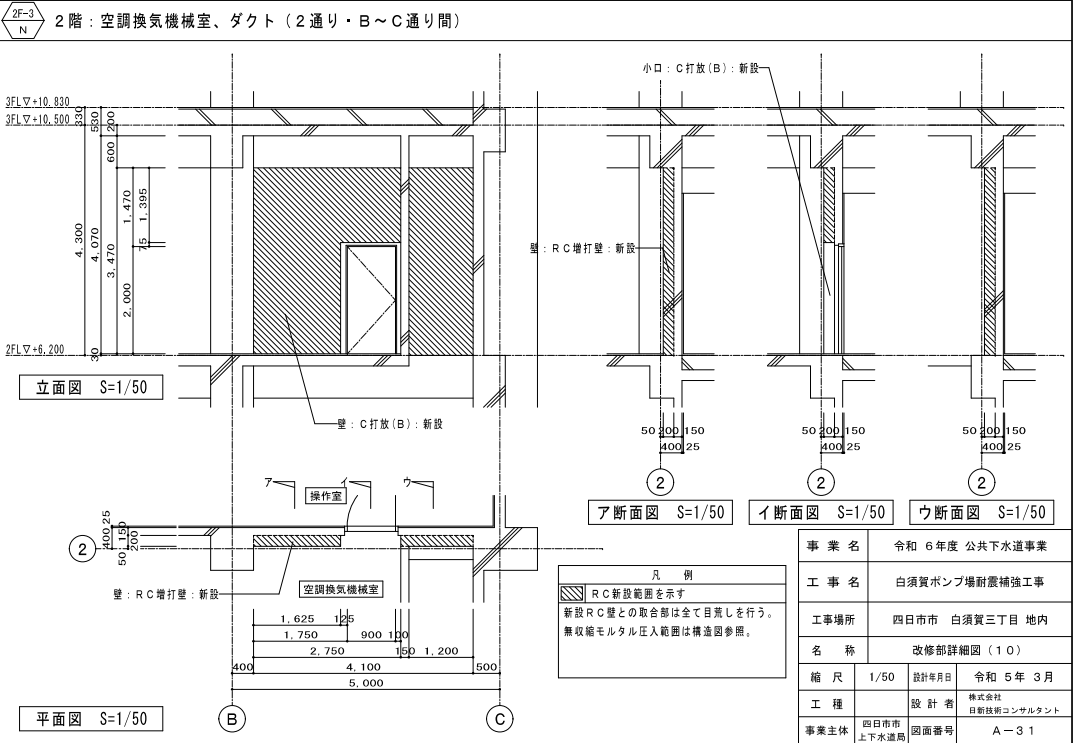
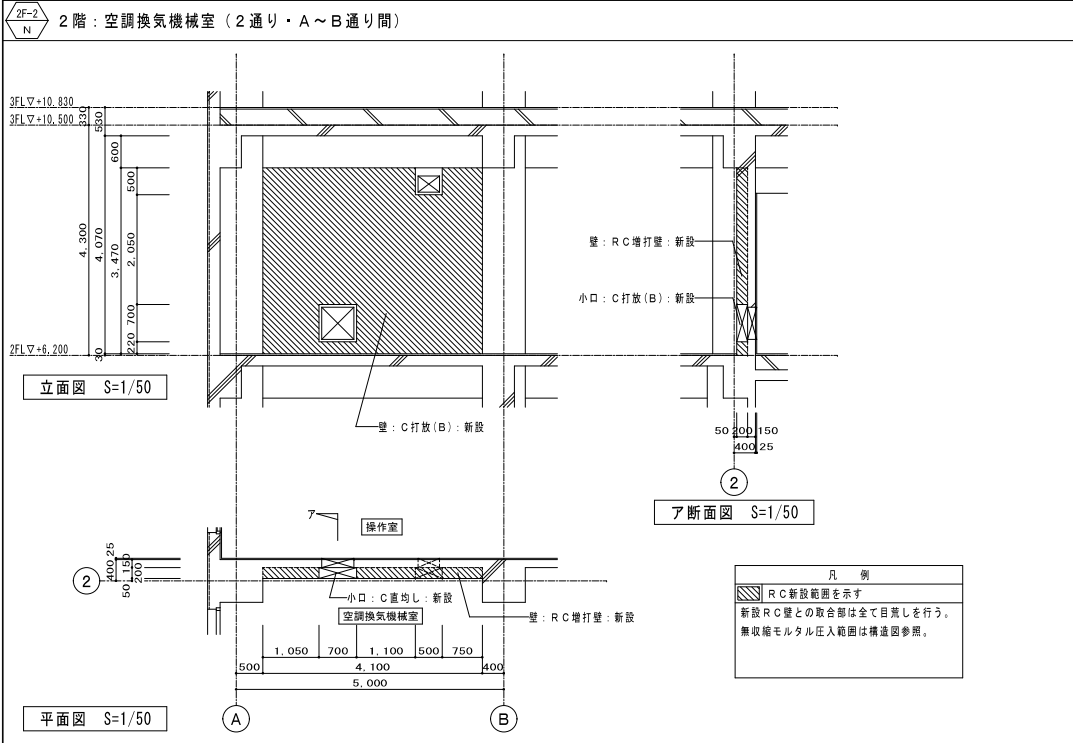
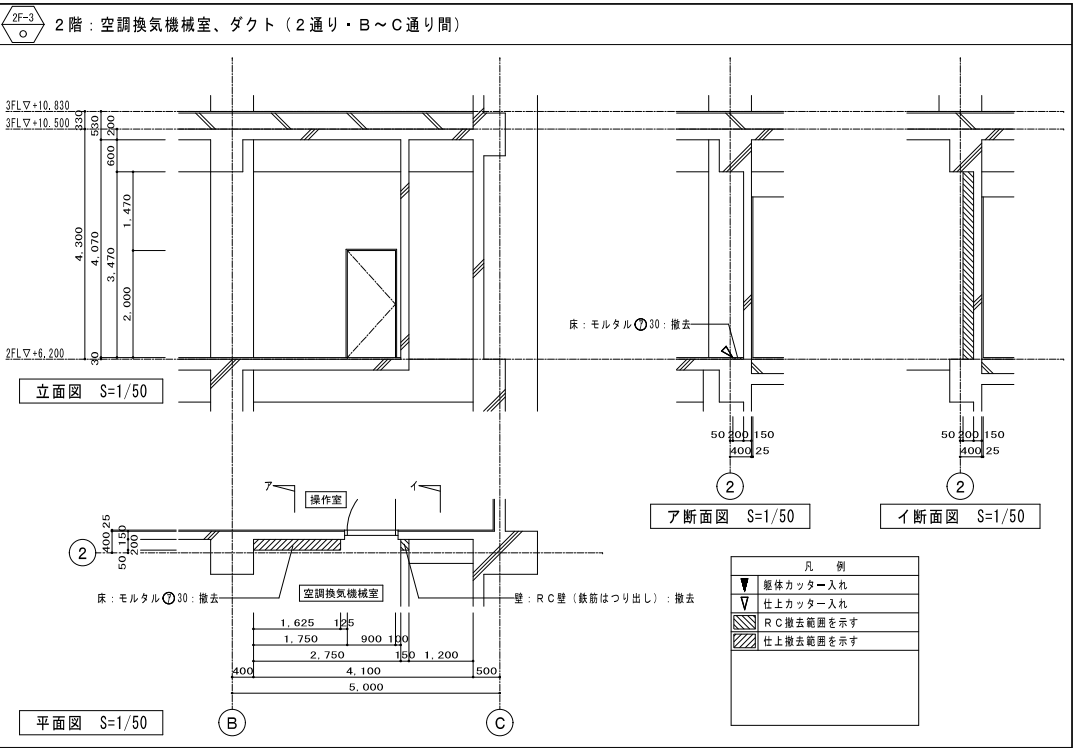
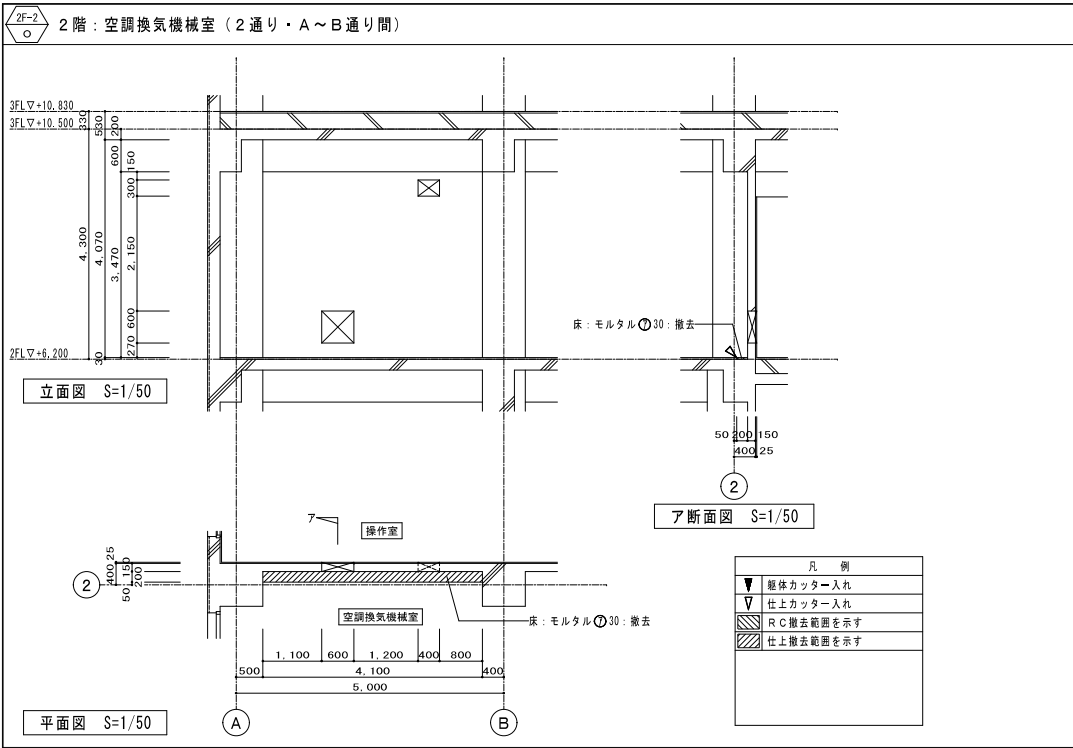
事業名	令和 6 年度 公共下水道事業
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内
名称	改修部詳細図（6）
縮尺	1/50
設計年月日	令和 5 年 3 月
工種	設計者
事業主体	四日市市 上下水道部
図面番号	A-27



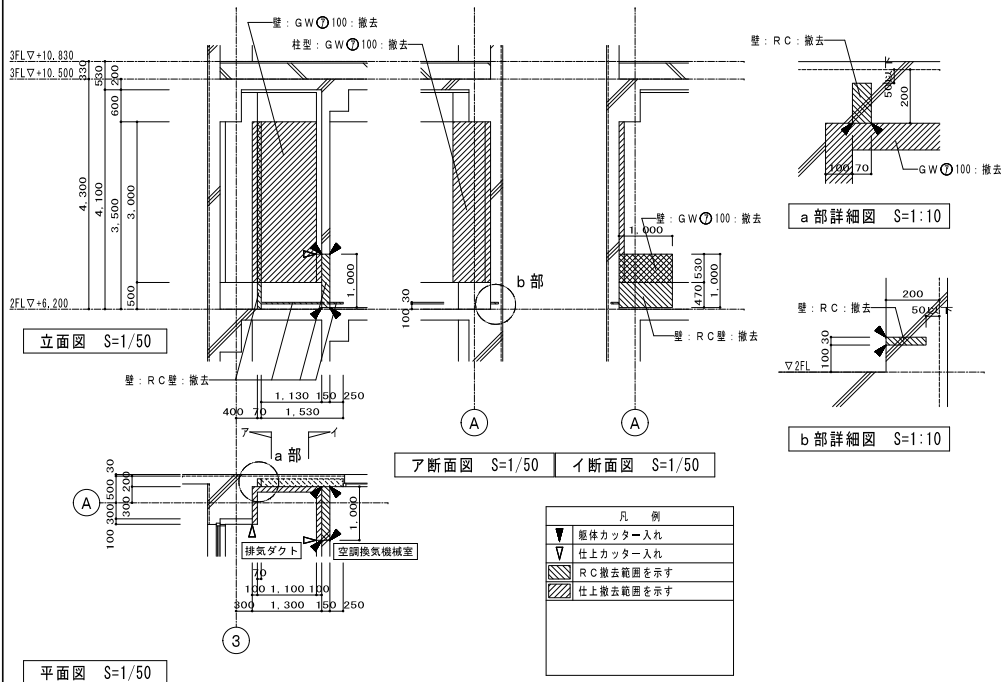
事業名	令和 6 年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名称	改修部詳細図 (7)		
縮尺	1/50	設計年月日	令和 5 年 3 月
工種	設計者	株式会社 日新技術コンサルタント	
事業主体	四日市市 上下水道部	図面番号	A-28



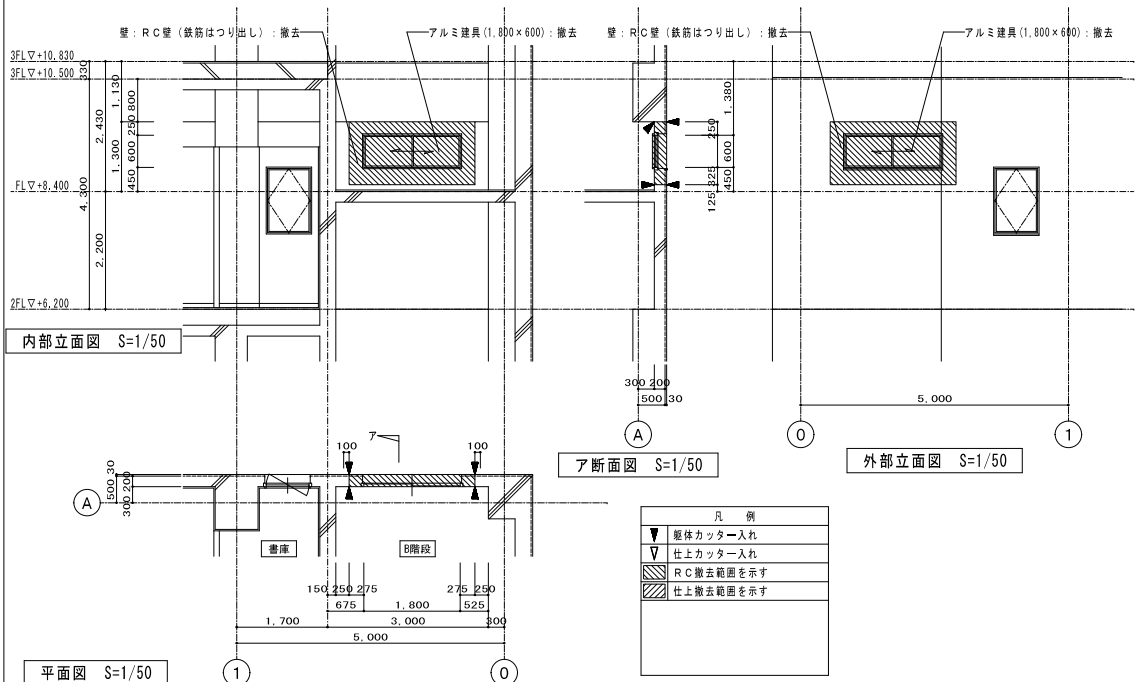




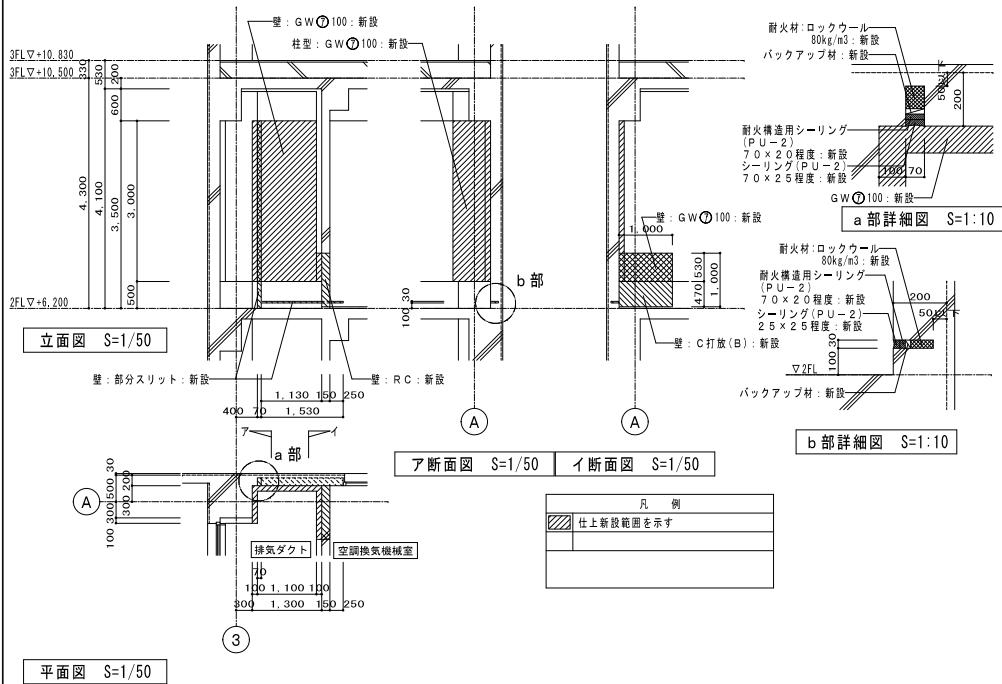
2F-A
2階：排気ダクト（A通り・3通り～）



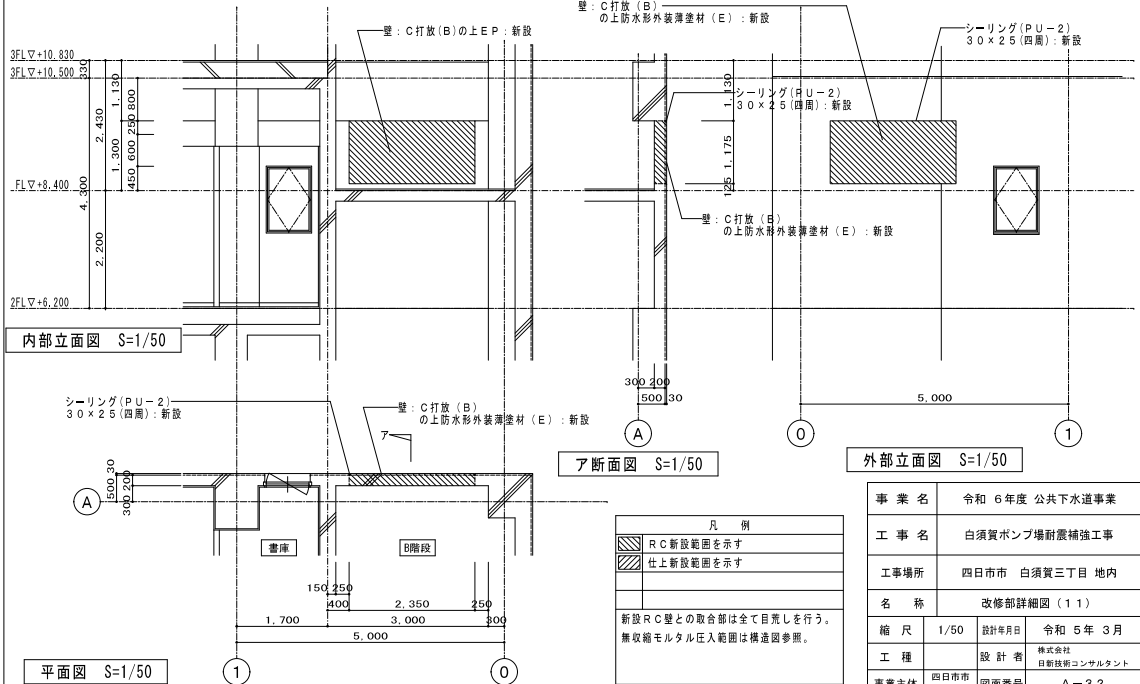
2F-B
2階：B階段（A通り・0～1通り間）



2F-A
2階：排気ダクト（A通り・3通り～）

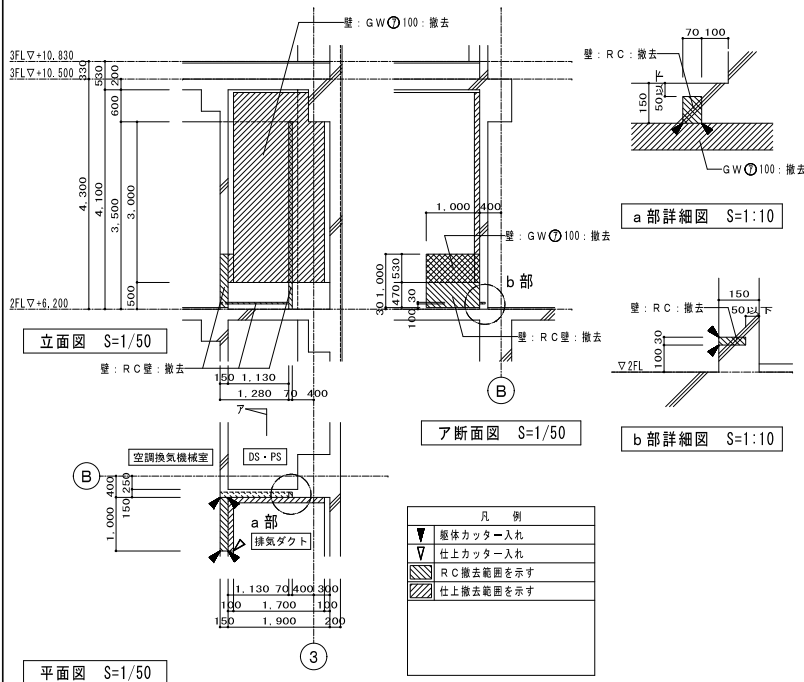


2F-B
2階：B階段（A通り・0～1通り間）

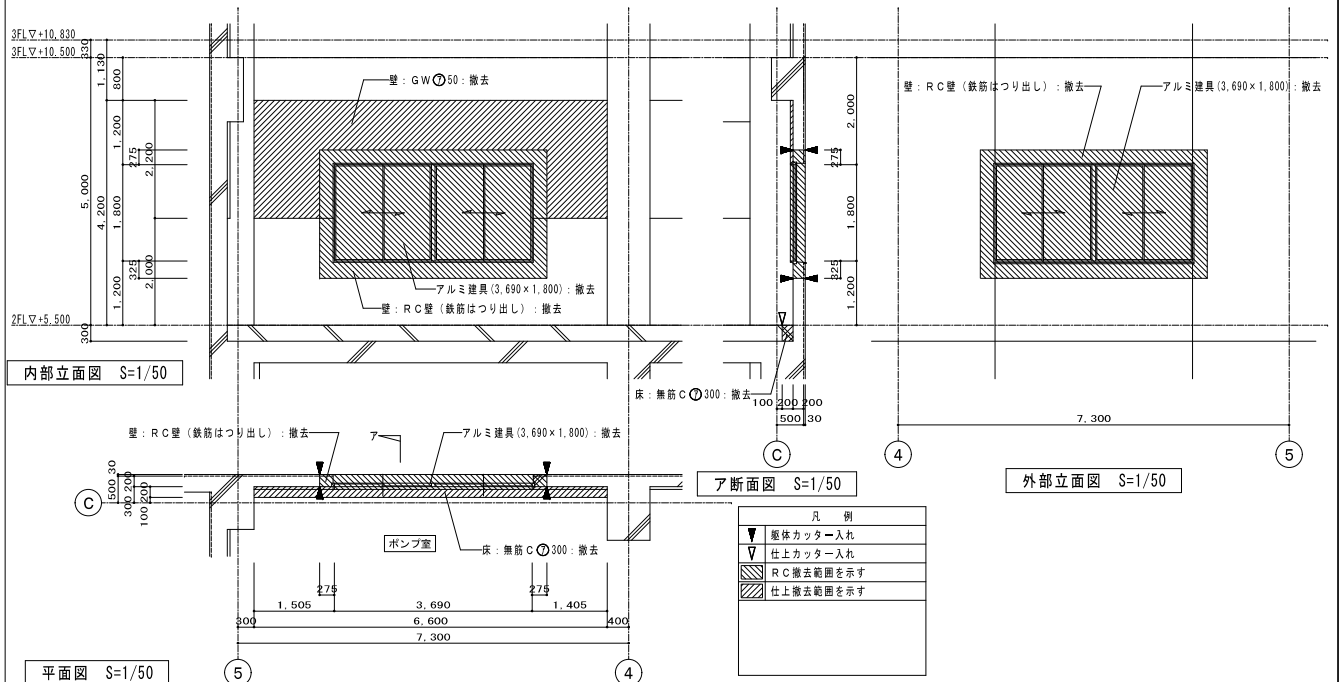


事業名	令和 6年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名称	改修部詳細図（11）		
縮尺	1/50	設計年月日	令和 5年 3月
工種	設計者	株式会社 日新技術コンサルタント	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-32

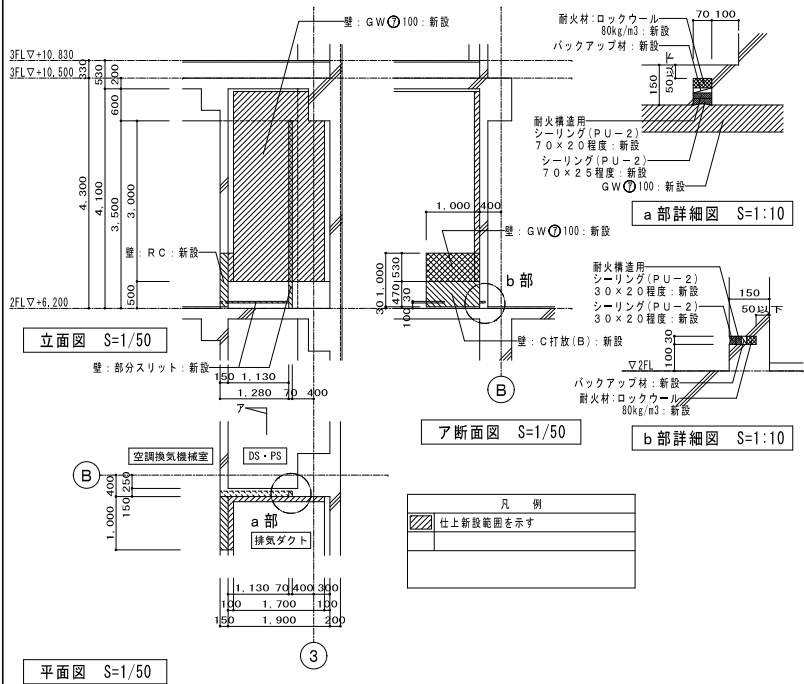
2F-6
2階：排気ダクト（B通り・3通り～）



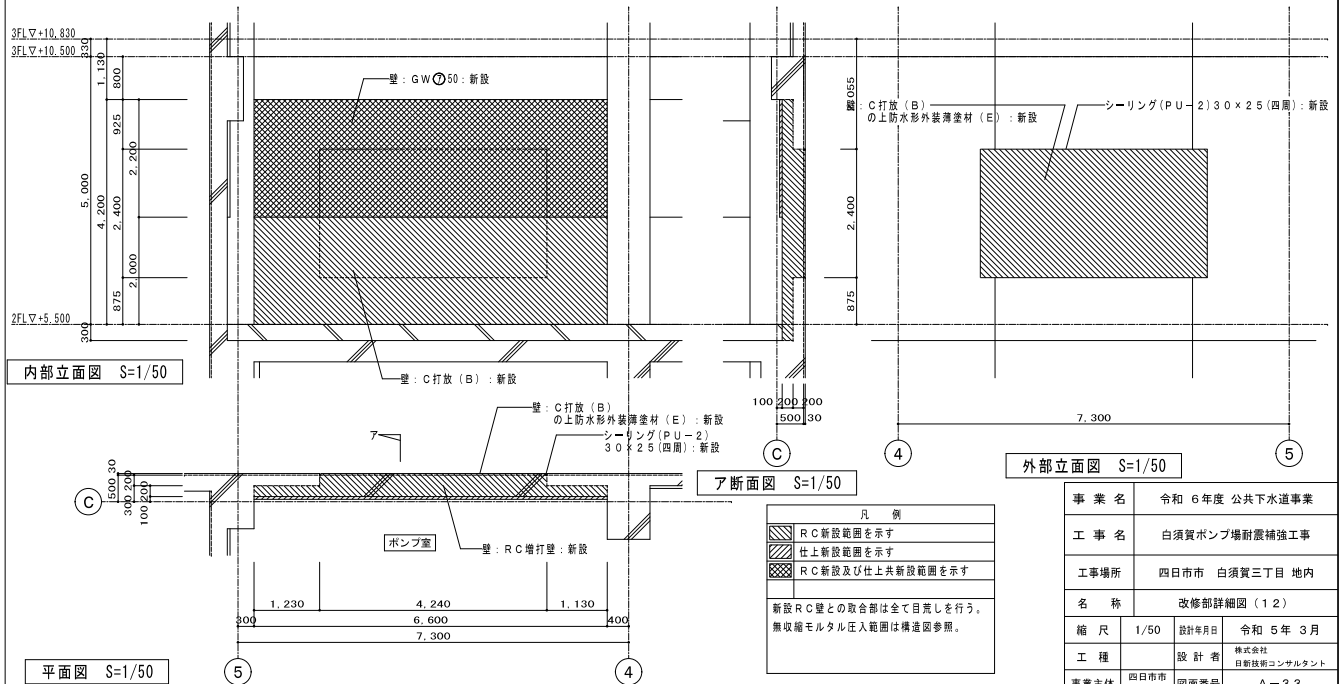
2F-7
2階：ポンプ室（C通り・4～5通り間）



2F-6
N
2階：排気ダクト（B通り・3通り～）



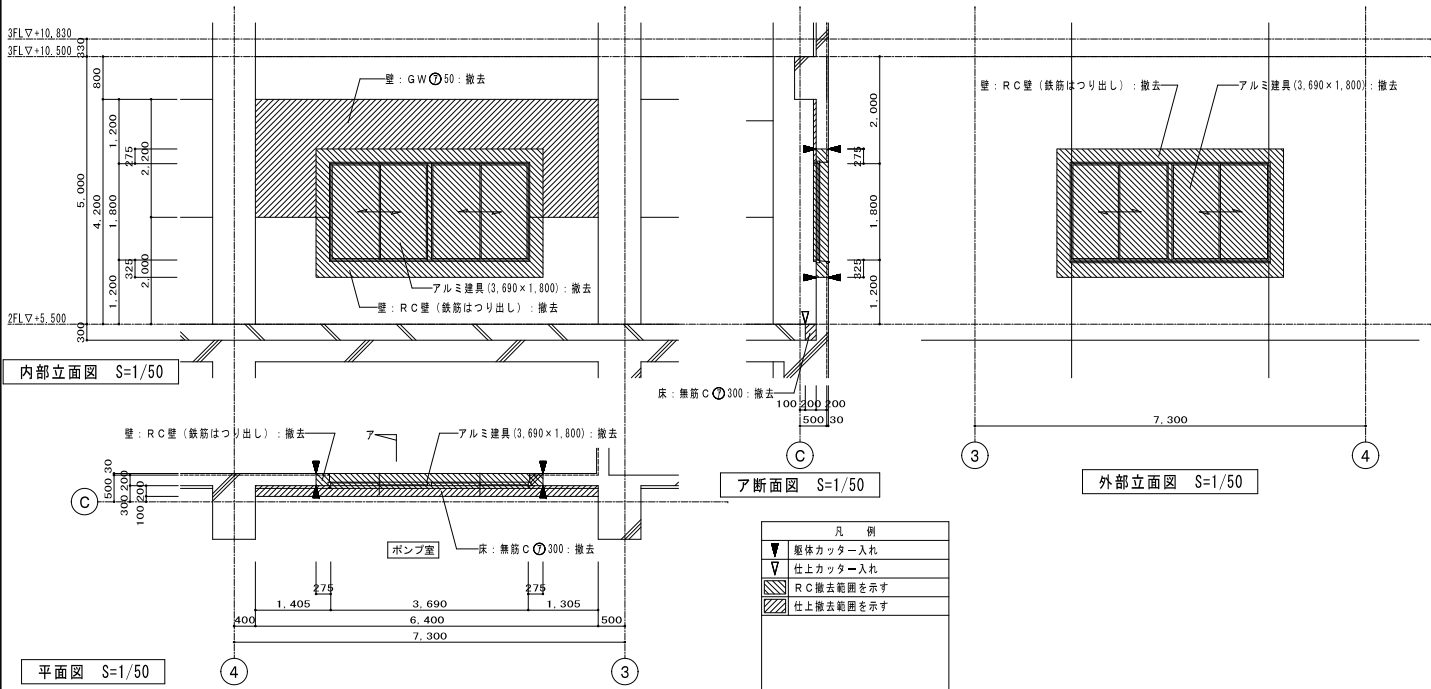
2F-7
N
2階：ポンプ室（C通り・4～5通り間）



事業名	令和6年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名称	改修部詳細図（12）		
縮尺	1/50	設計年月日	令和5年3月
工種	設計者	株式会社 日新技術コンサルタント	
事業主体	四日市市 上下水道部	図面番号	A-33

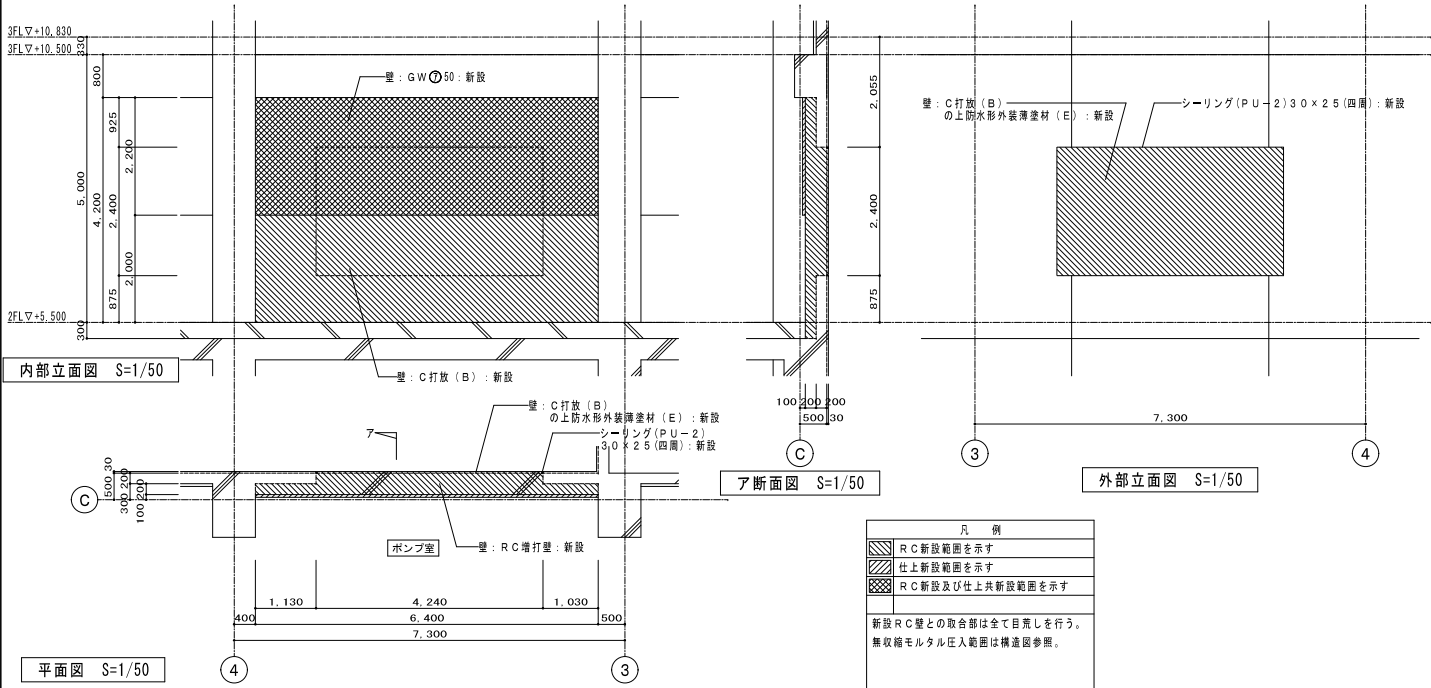
2F-8
○

2階：ポンプ室（C通り・3～4通り間）



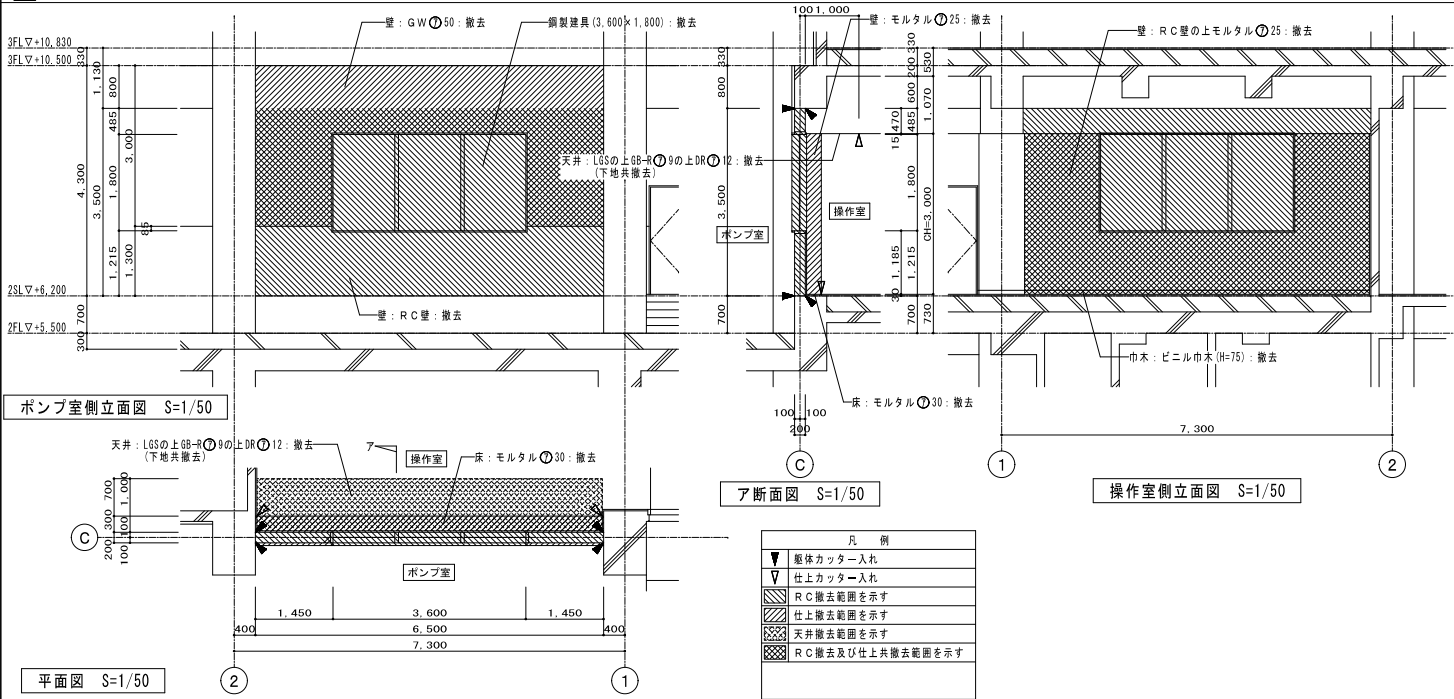
2F-8
N

2階：ポンプ室（C通り・3～4通り間）

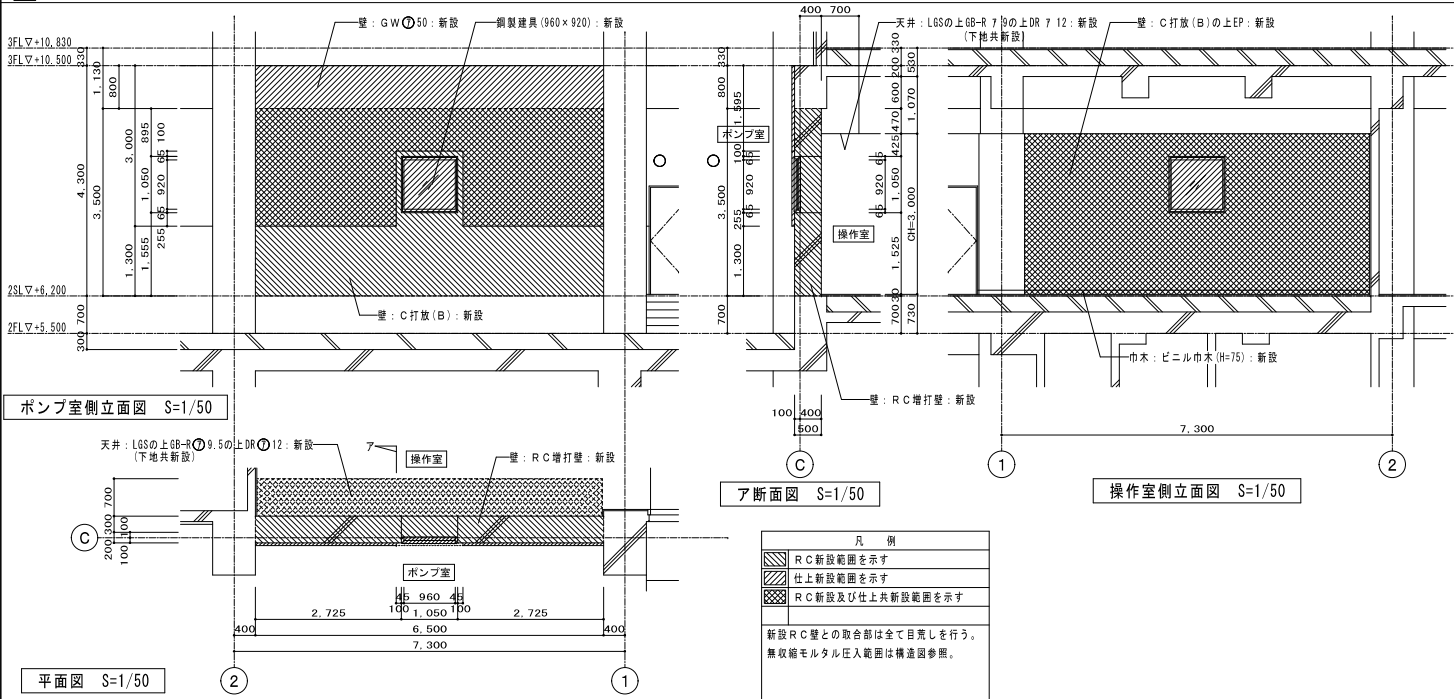


事業名	令和 6 年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名称	改修部詳細図（13）		
縮尺	1/50	設計年月日	令和 5 年 3 月
工種	設計者	株式会社 日新技術コンサルタント	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-34

2F-9
○ 2階：ポンプ室、操作室（C通り・1～2通り間）



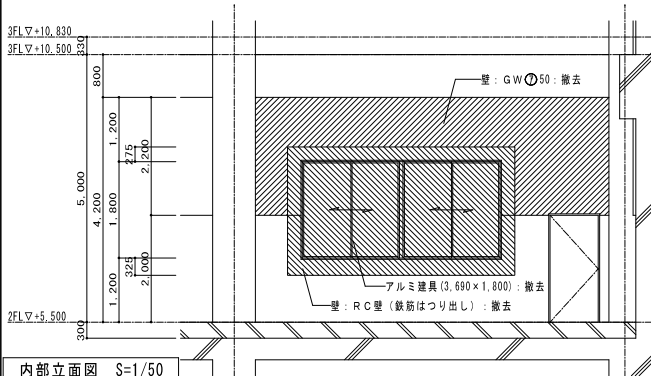
2F-9
N 2階：ポンプ室、操作室（C通り・1～2通り間）



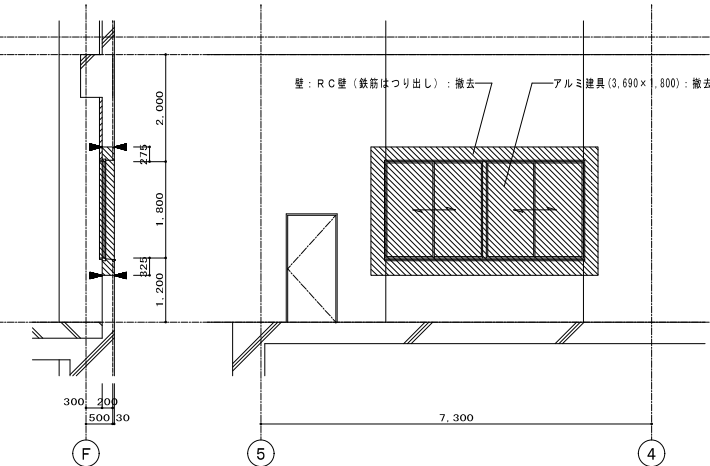
事業名	令和 6年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名称	改修部詳細図（14）		
縮尺	1/50	設計年月日	令和 5年 3月
工種	設計者	株式会社 日新技研コンサルタント	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-35



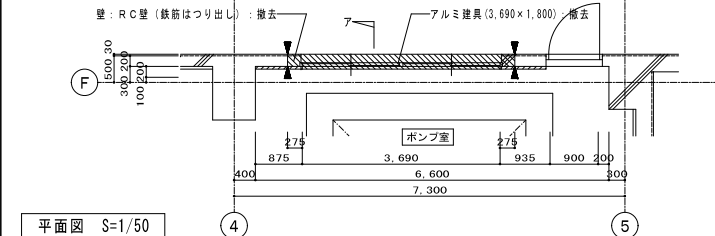
2階：ポンプ室（F通り・4～5通り間）



内部立面図 S=1/50



外部立面図 S=1/50



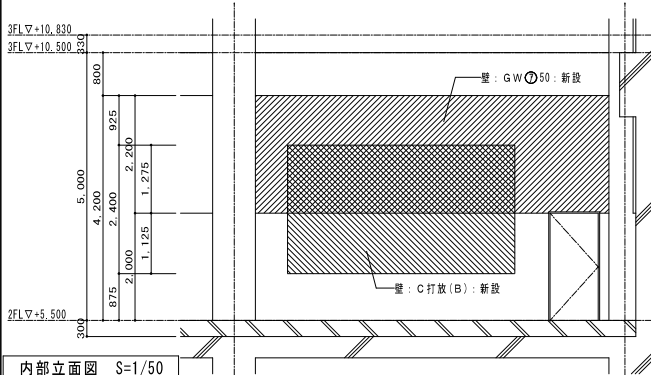
平面図 S=1/50

ア断面図 S=1/50

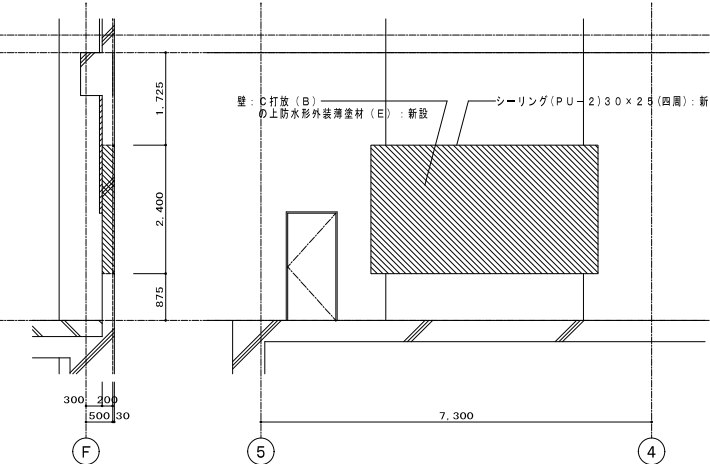
凡 例	
▼	躯体カッター入れ
▽	仕上カッター入れ
■	RC撤去範囲を示す
▨	仕上撤去範囲を示す



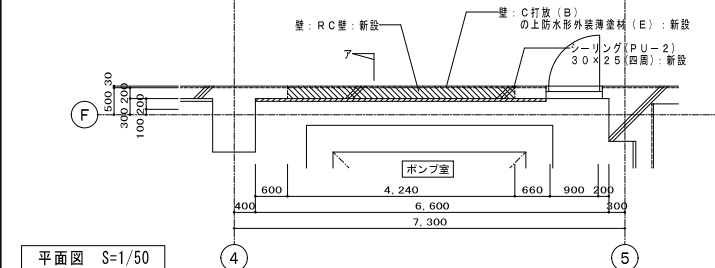
2階：ポンプ室（F通り・4～5通り間）



内部立面図 S=1/50



外部立面図 S=1/50



平面図 S=1/50

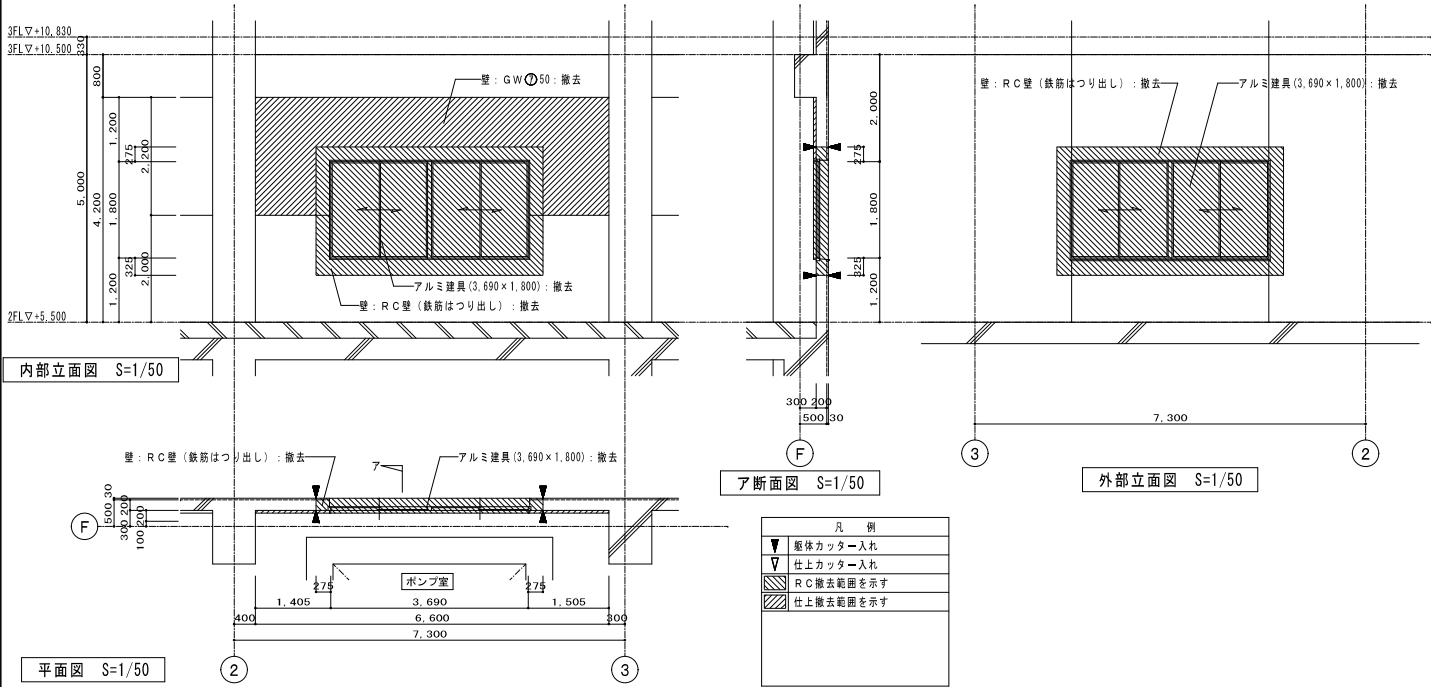
ア断面図 S=1/50

凡 例	
■	RC新設範囲を示す
▨	仕上新設範囲を示す
▩	RC新設及び仕上新設範囲を示す

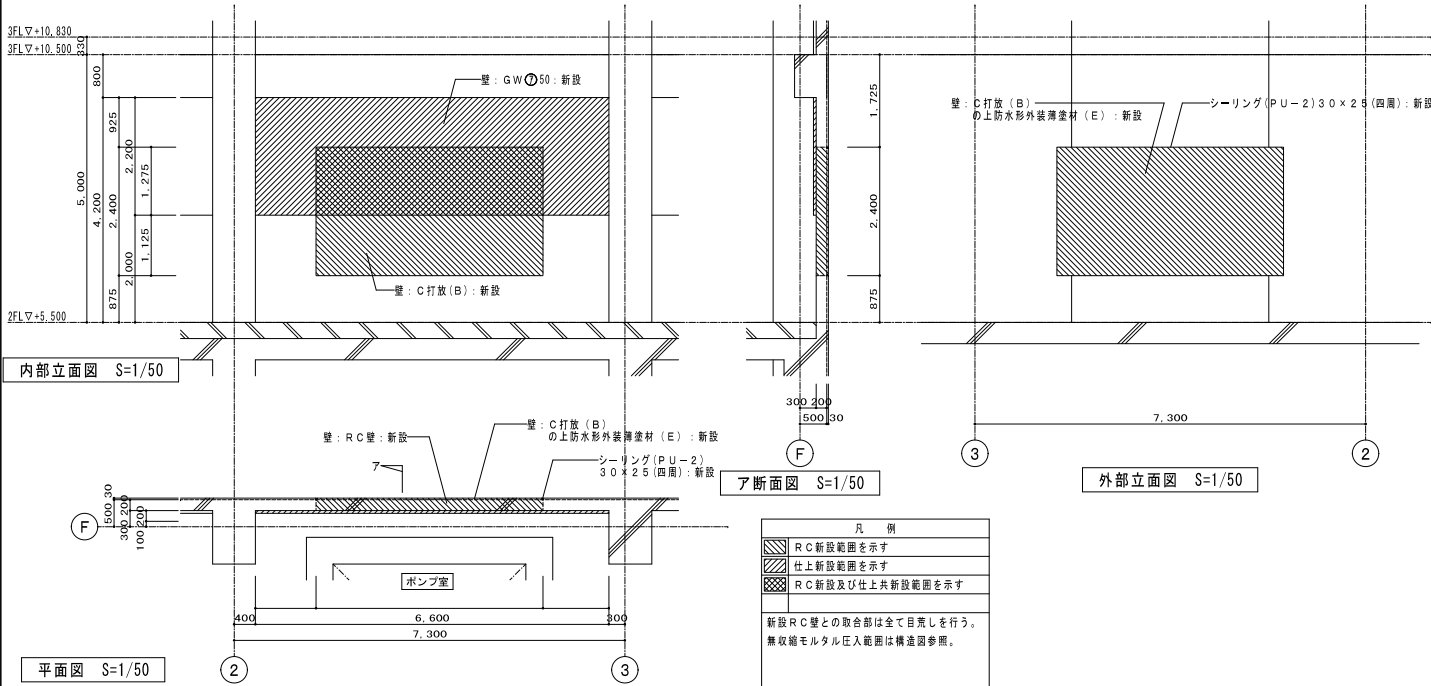
新設RC壁との取合部は全て目貫しを行う。
無収縮モルタル圧入範囲は構造図参照。

事業名	令和 6 年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名 称	改修部詳細図 (15)		
縮 尺	1/50	設計年月日	令和 5 年 3 月
工 種	設計者	株式会社 日新技術コンサルタント	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-36

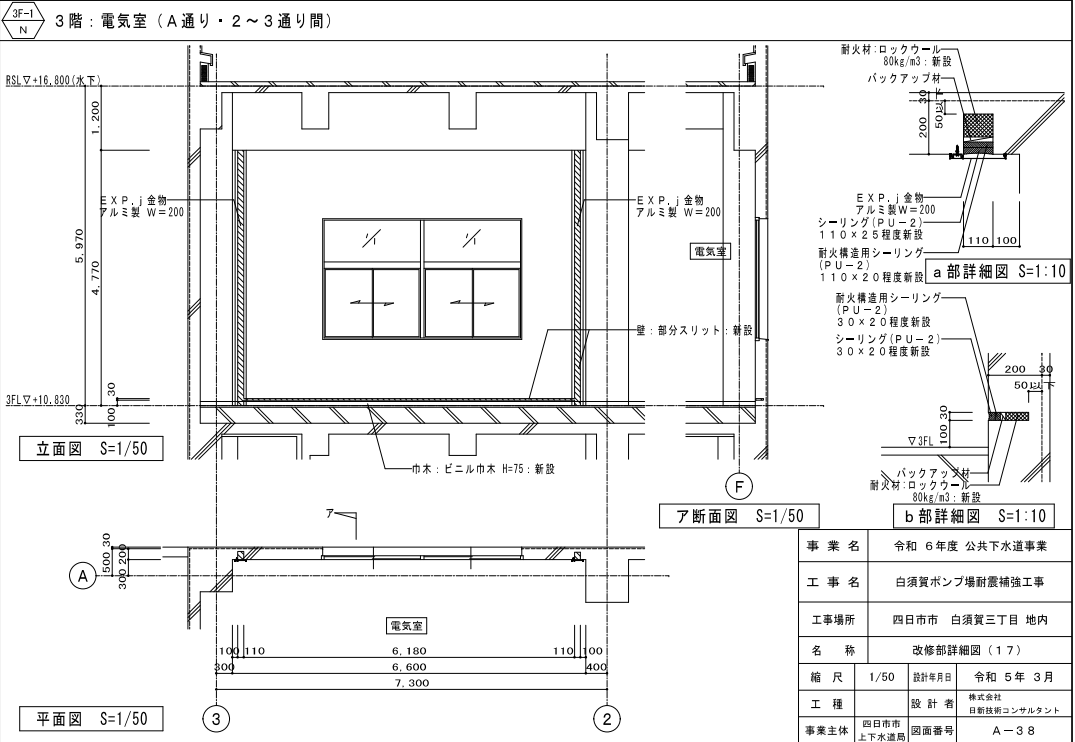
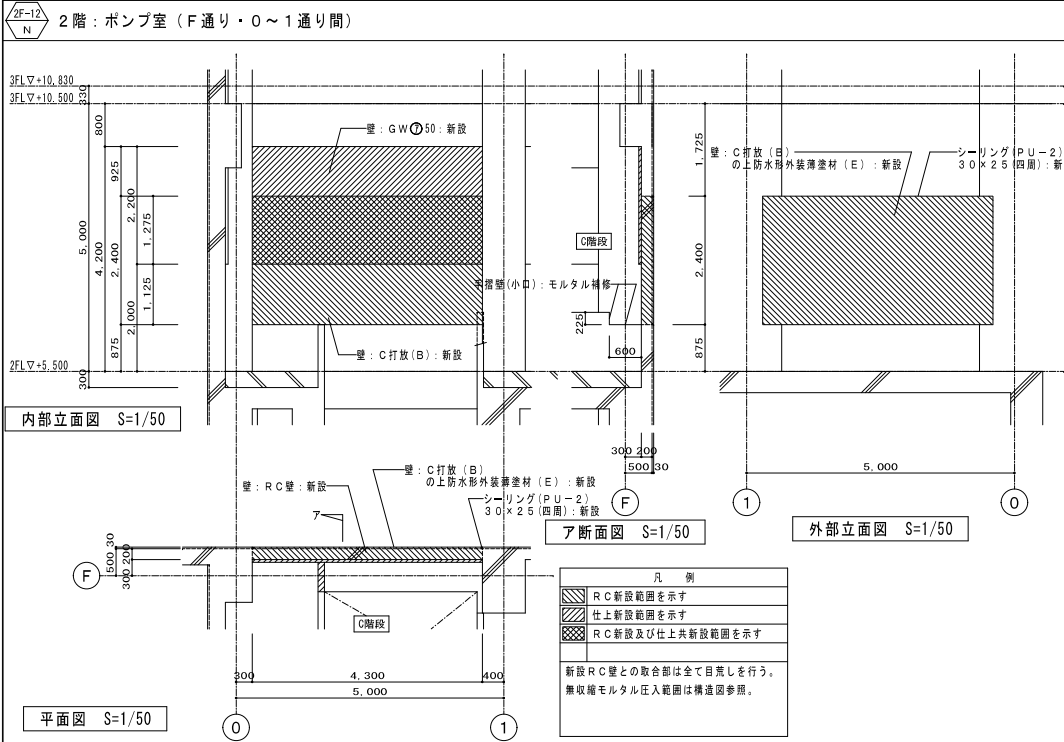
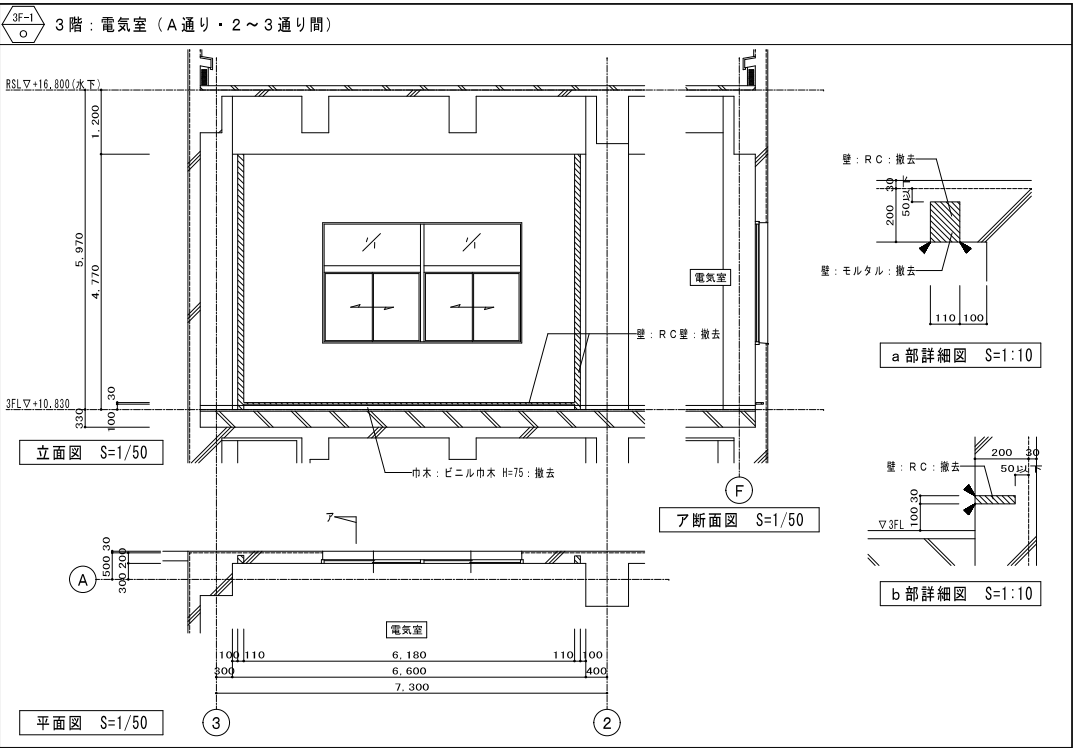
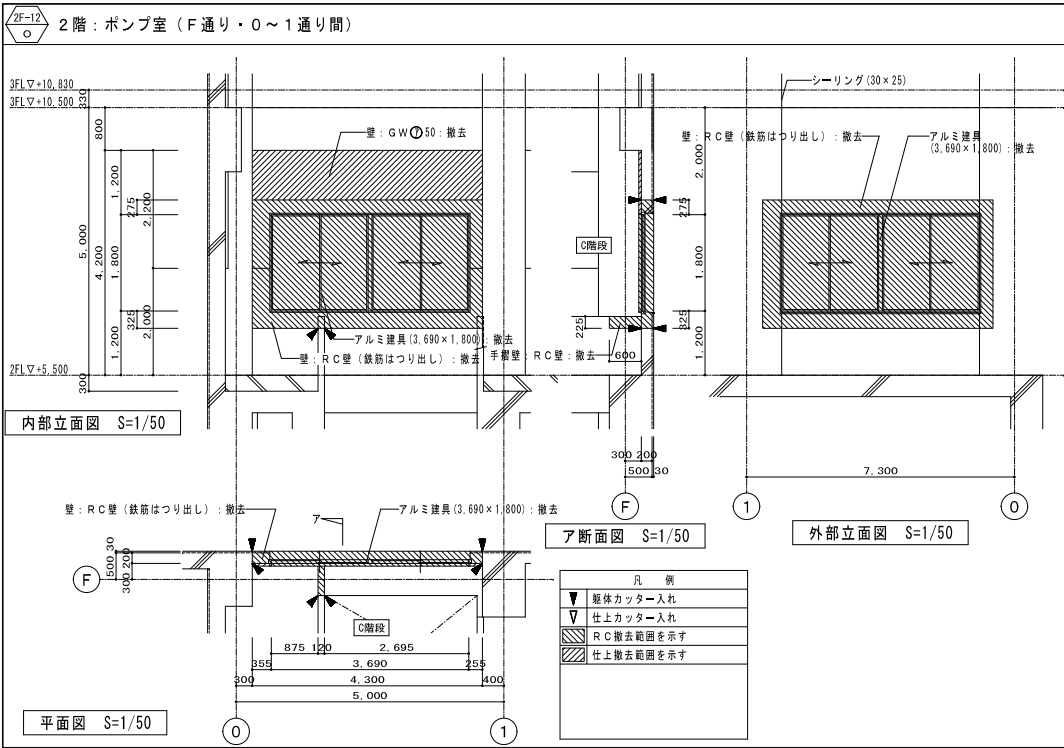
2F-11
2階：ポンプ室（F通り・2～3通り間）



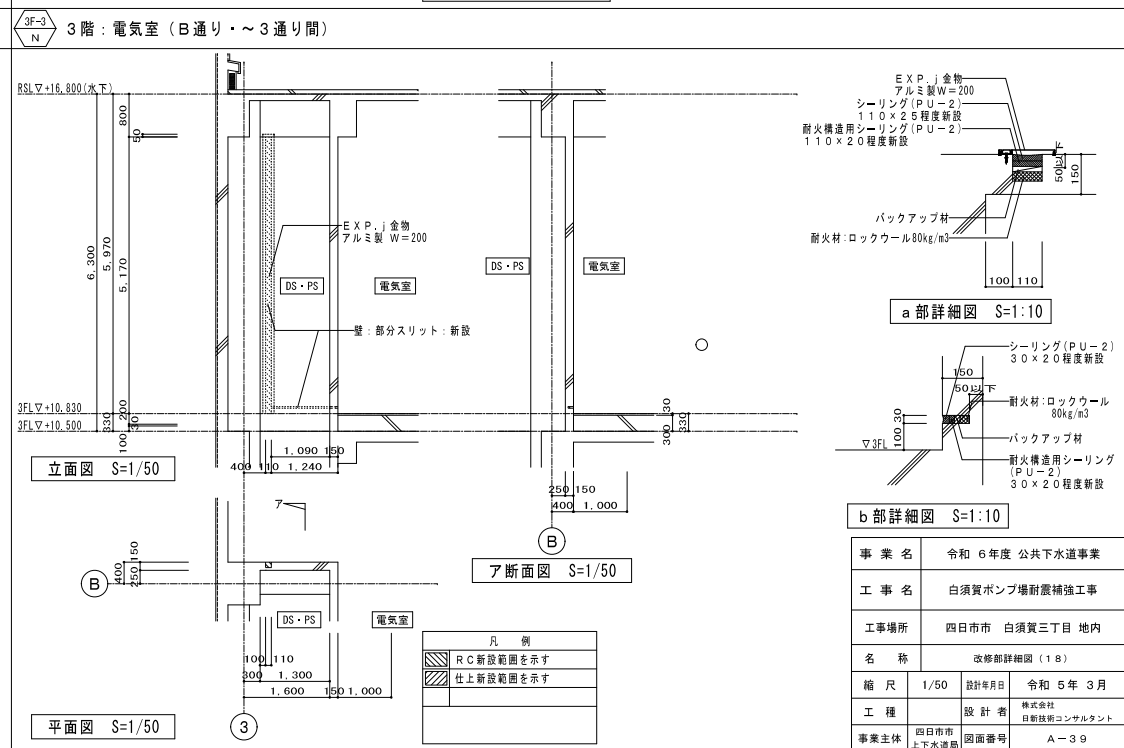
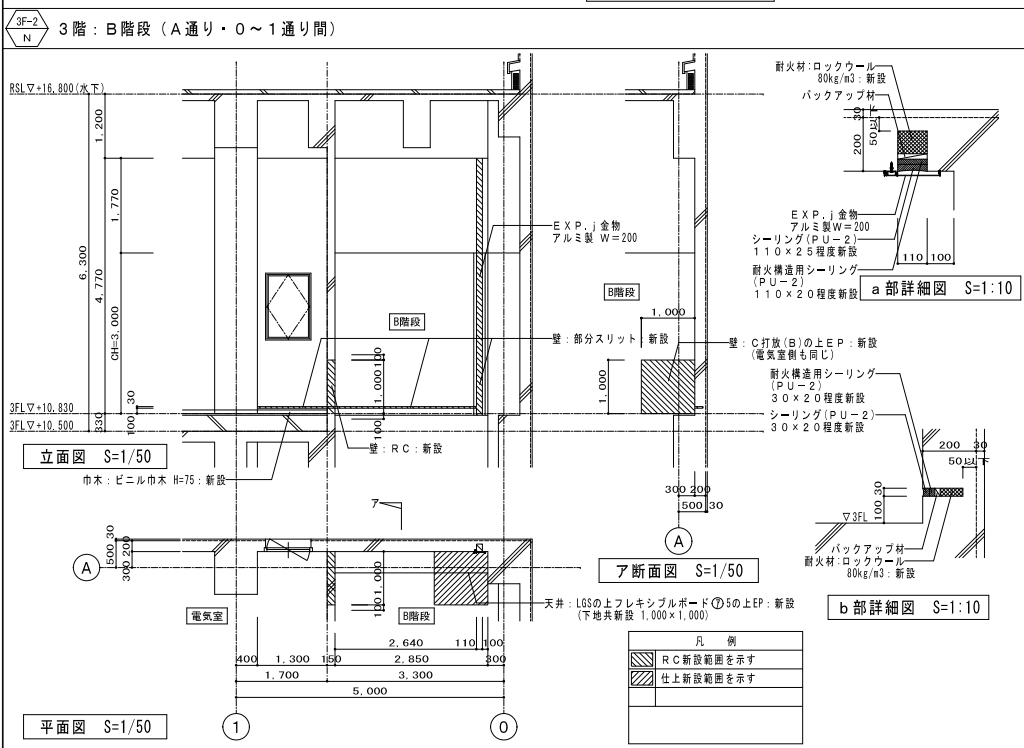
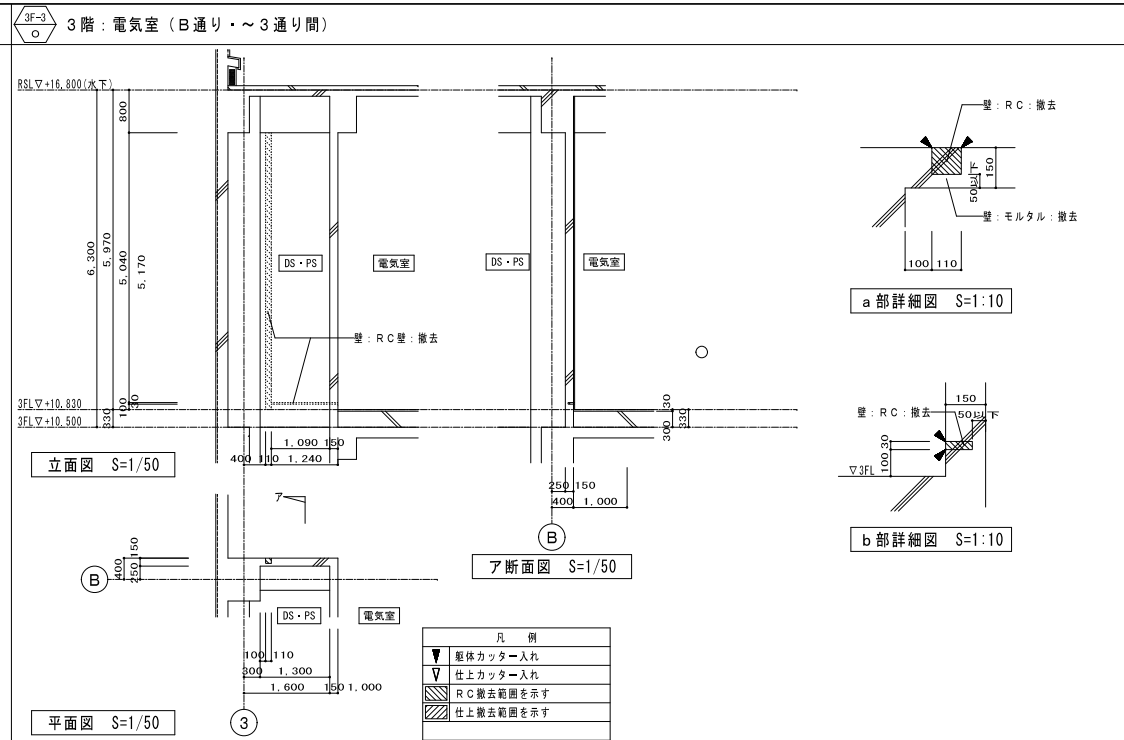
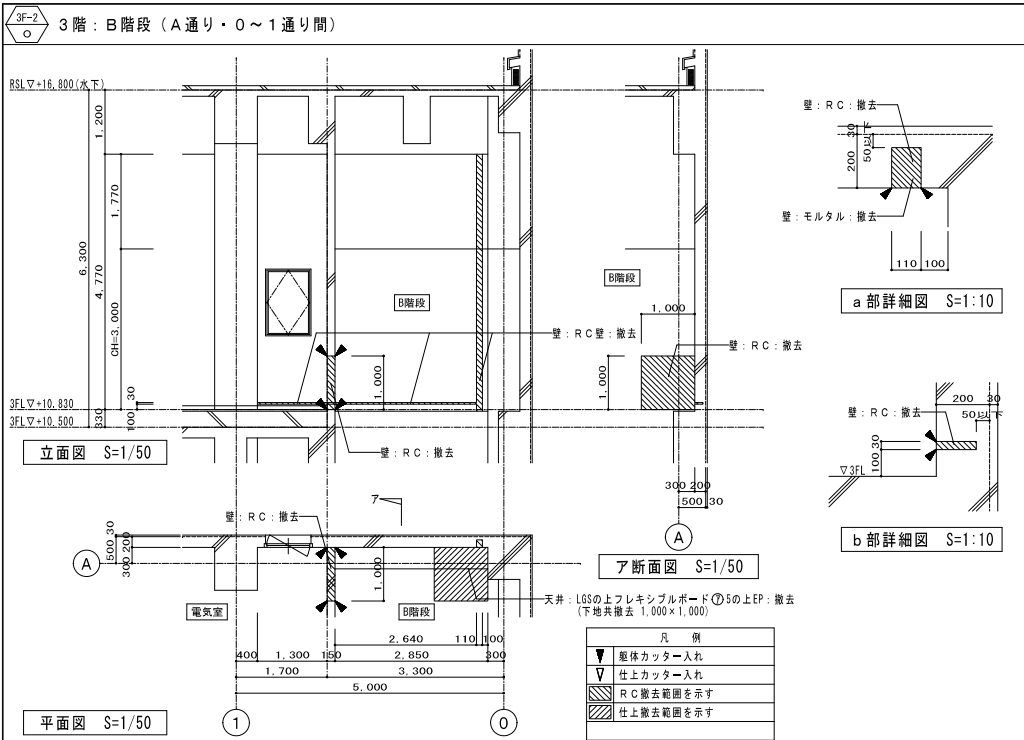
2F-11
2階：ポンプ室（F通り・2～3通り間）



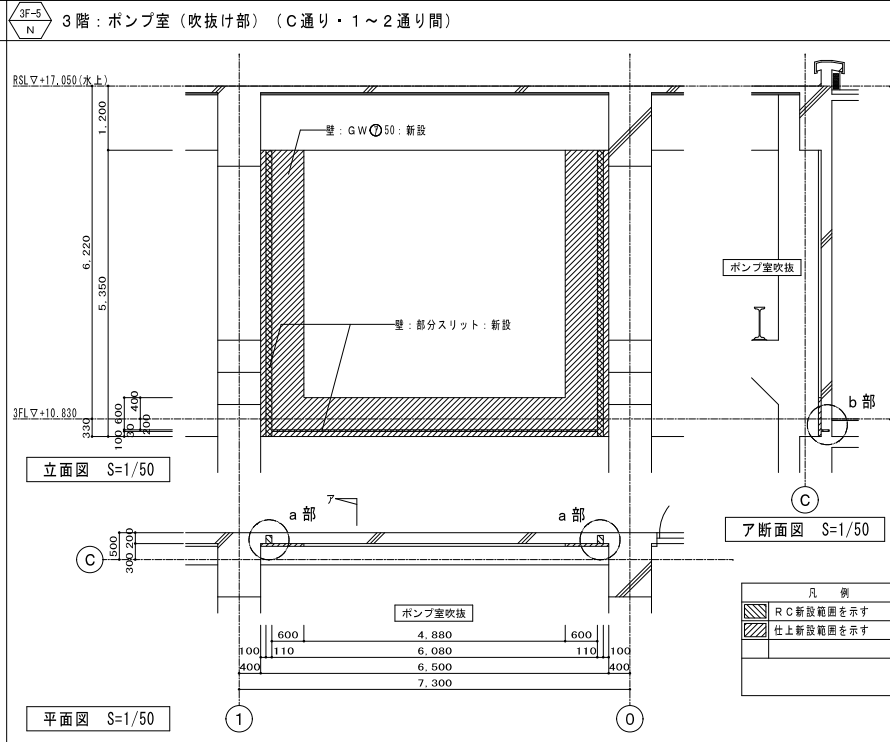
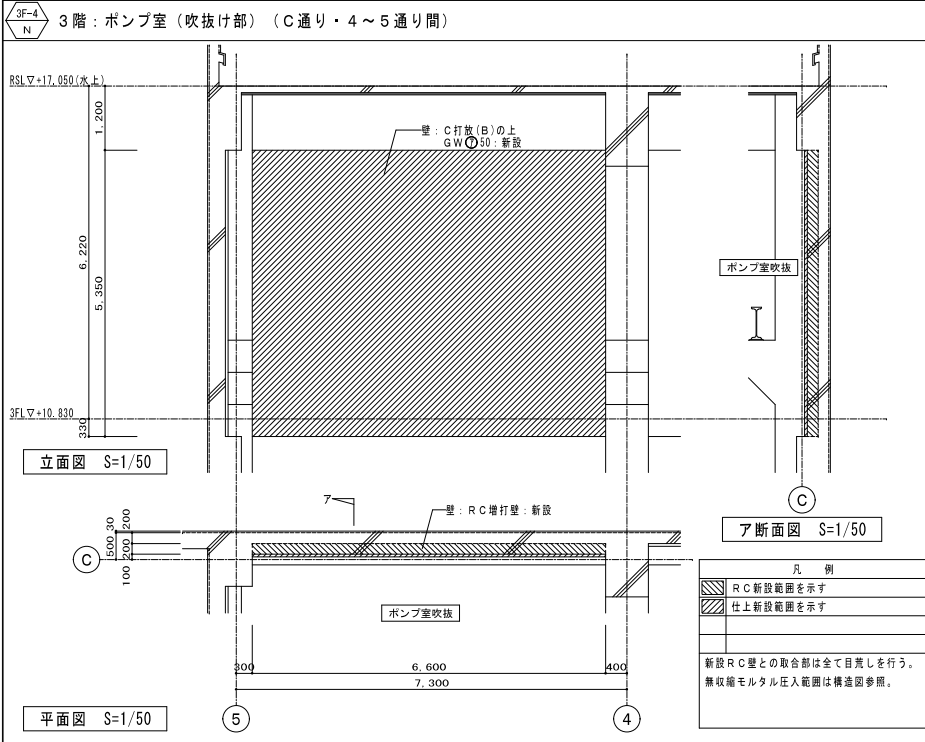
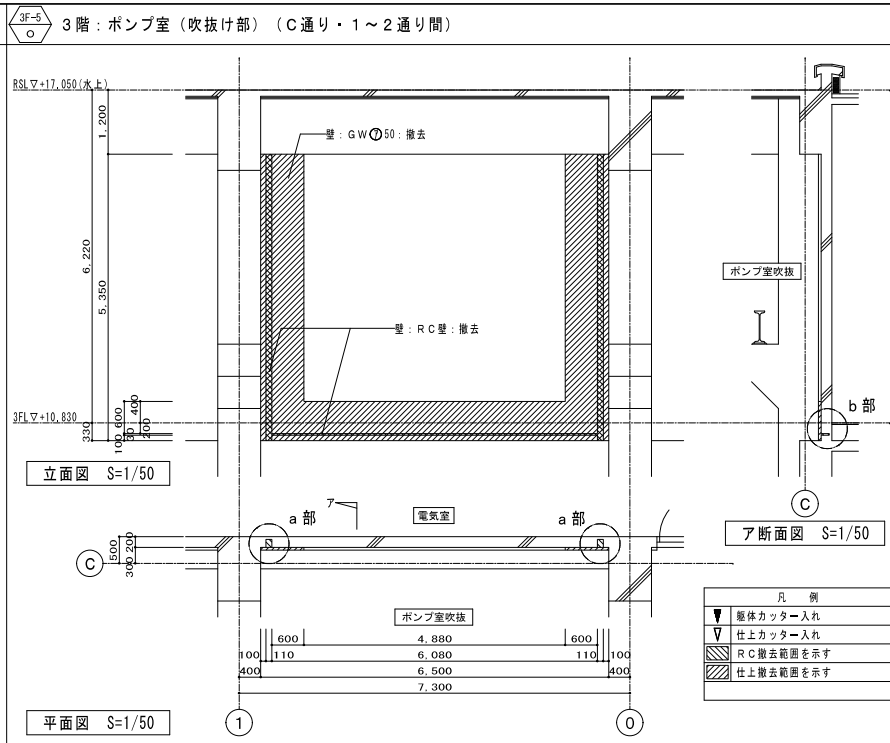
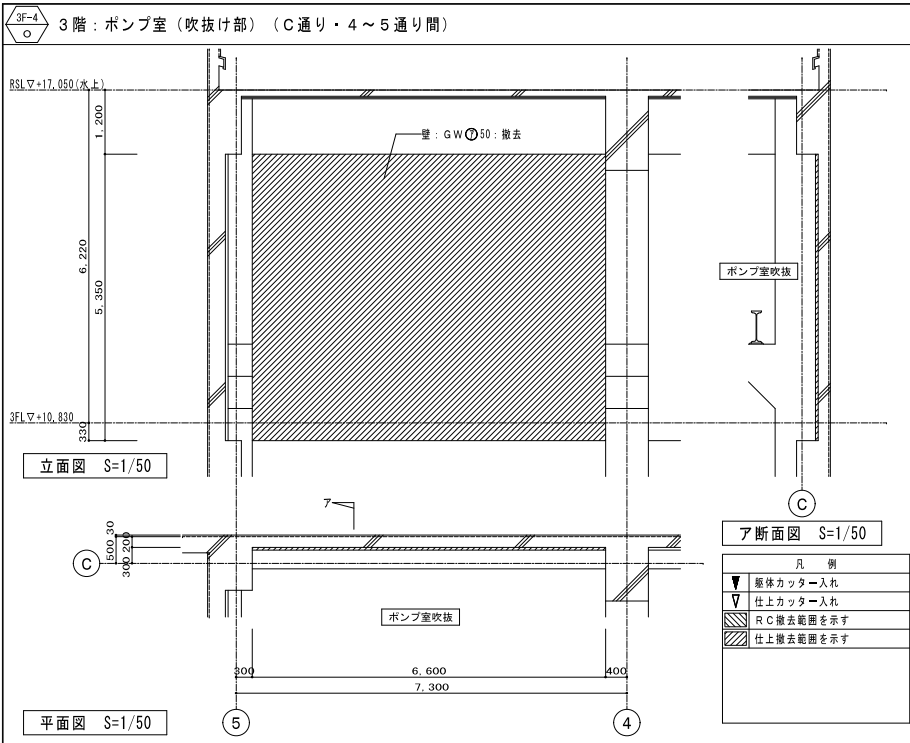
事業名	令和 6 年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名称	改修部詳細図 (16)		
縮尺	1/50	設計年月日	令和 5 年 3 月
工種	設計者	株式会社 日新技術コンサルタント	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-37



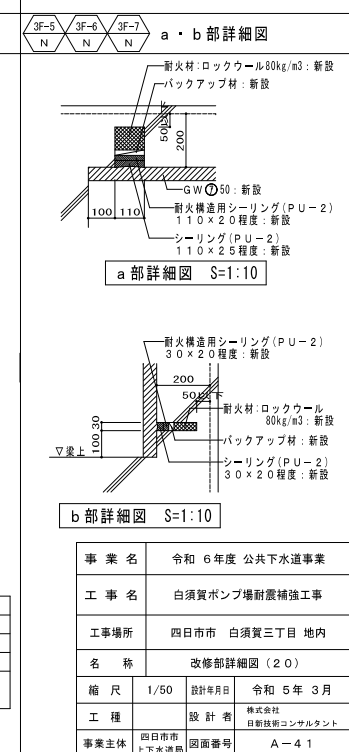
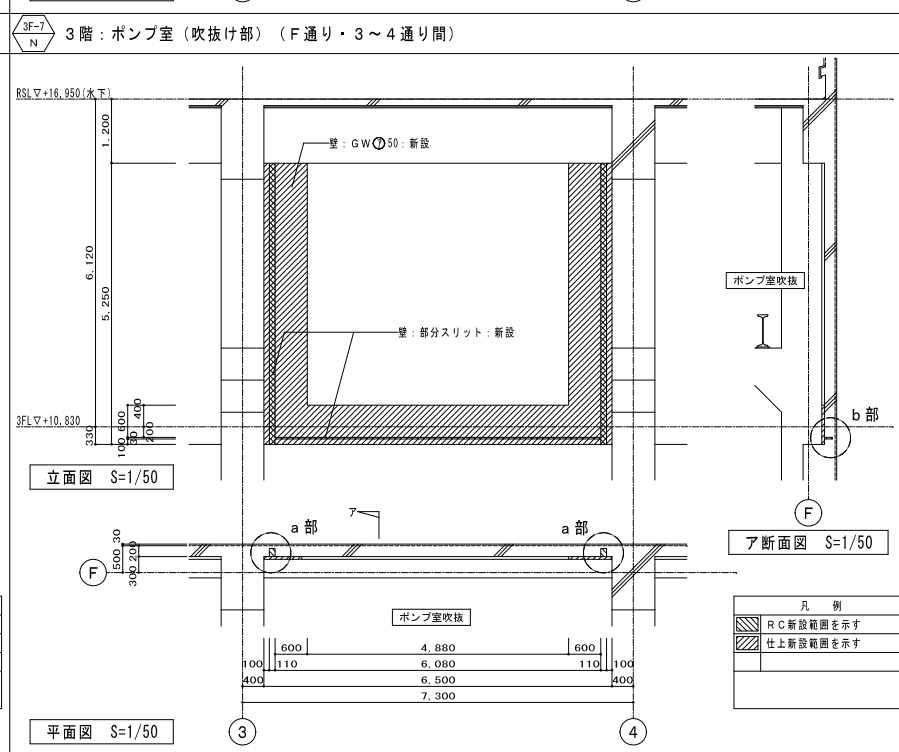
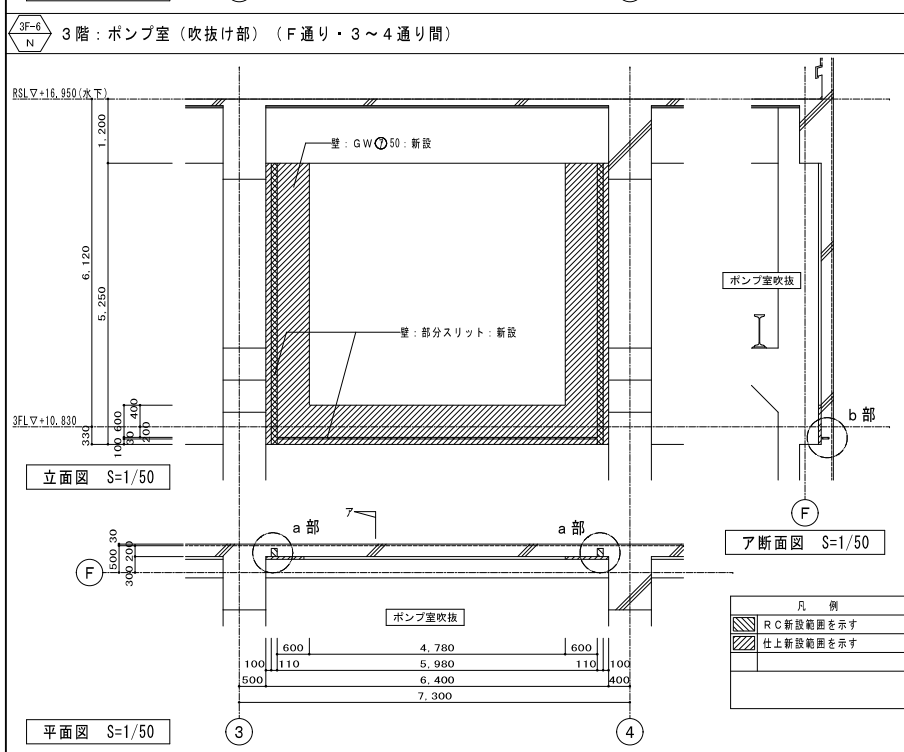
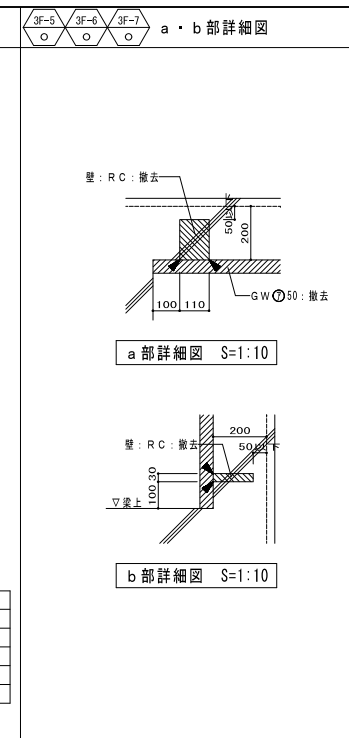
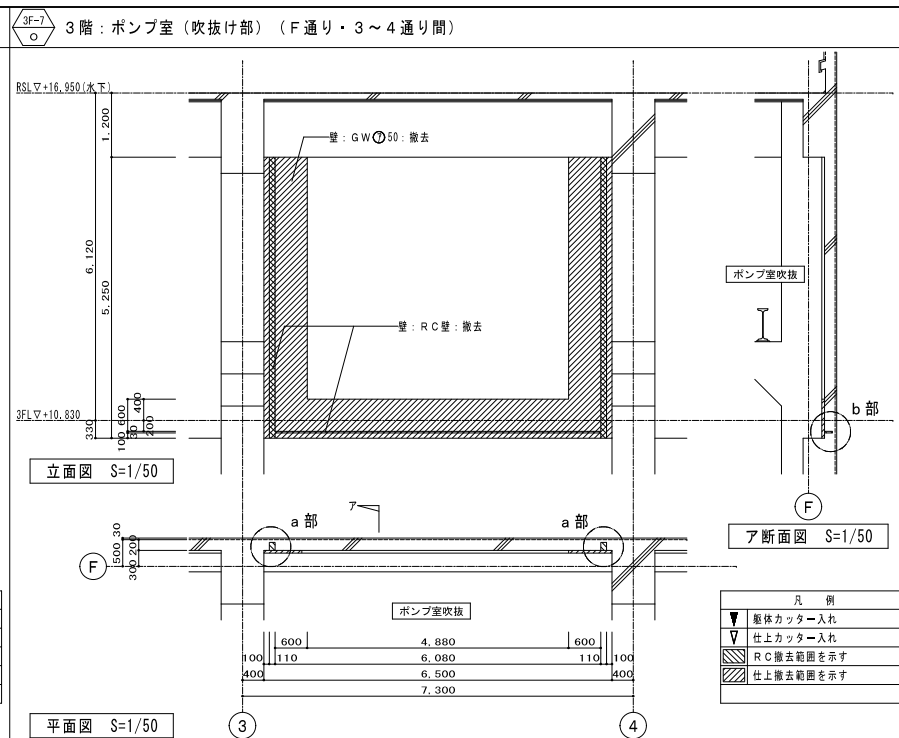
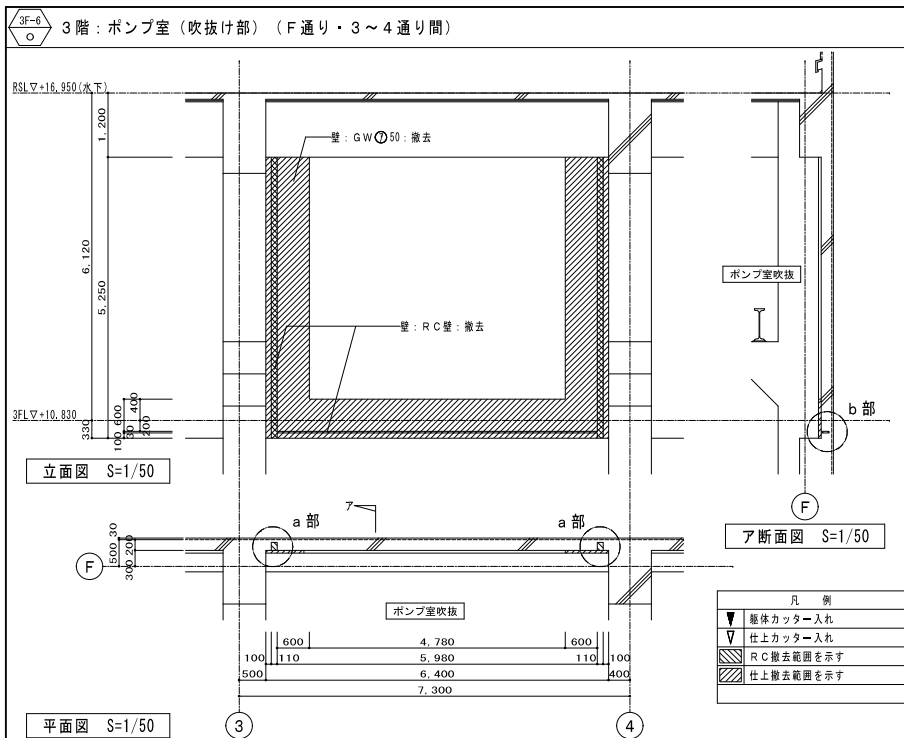
事業名	令和6年度 公共下水道事業
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内
名称	改修部詳細図（17）
縮尺	1/50 設計年月日 令和5年3月
工種	設計者 株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局 図面番号 A-38



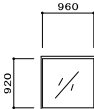
事業名	令和6年度公共下水道事業
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内
名称	改修部詳細図（18）
縮尺	1/50
設計年月日	令和5年3月
工種	設計者 株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局
図面番号	A-39

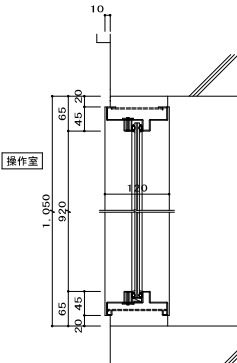


事業名	令和6年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名称	改修部詳細図(19)		
縮尺	1/50	設計年月日	令和5年3月
工種		設計者	株式会社 日新技研コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道部	図面番号	A-40

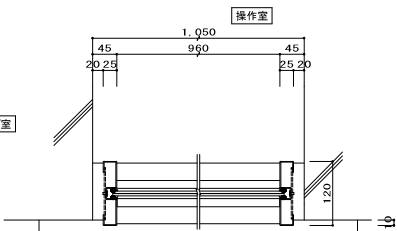


撤去建具表									
符号・名称・個数		AW 1 アルミ製連窓引違い窓	5	AW 3 アルミ製引違い窓	1	AW 5 アルミ製引違い窓	2	SW 1 鋼製縦め殺し窓	1
場 所		2階 ポンプ室		1階 浴室		2階・3階 ⑤階段		2階 操作室	
仕上（特共）									
建具	見込（ランマ）								
	硝子（ランマ）	P⑦5		F⑦5		NP⑦6.8		NP⑦6.8	
	ガラリ								
建具枠	見込取合 番据	70		70		70		120	
枠記号 番据（水切）記号									
建具金物									
その他									
形状・寸法									

新設建具表			新設建具廻り詳細図	
符号・名称・個数		SY 101 鋼製縦め殺し窓（特定防火設備）	1	
場 所		2 階 操作室		
仕上（特共）		表面処理 亜鉛メッキ鋼板 S O P		
建具	見込（ランマ）			
	硝子（ランマ）	透明割熱合せガラス⑦ 8. 6		
	ガラリ			
建具枠	見込取合 番据	1 2 0		
枠記号 番据（水切）記号				
建具金物				
その他				
形状・寸法				



断面

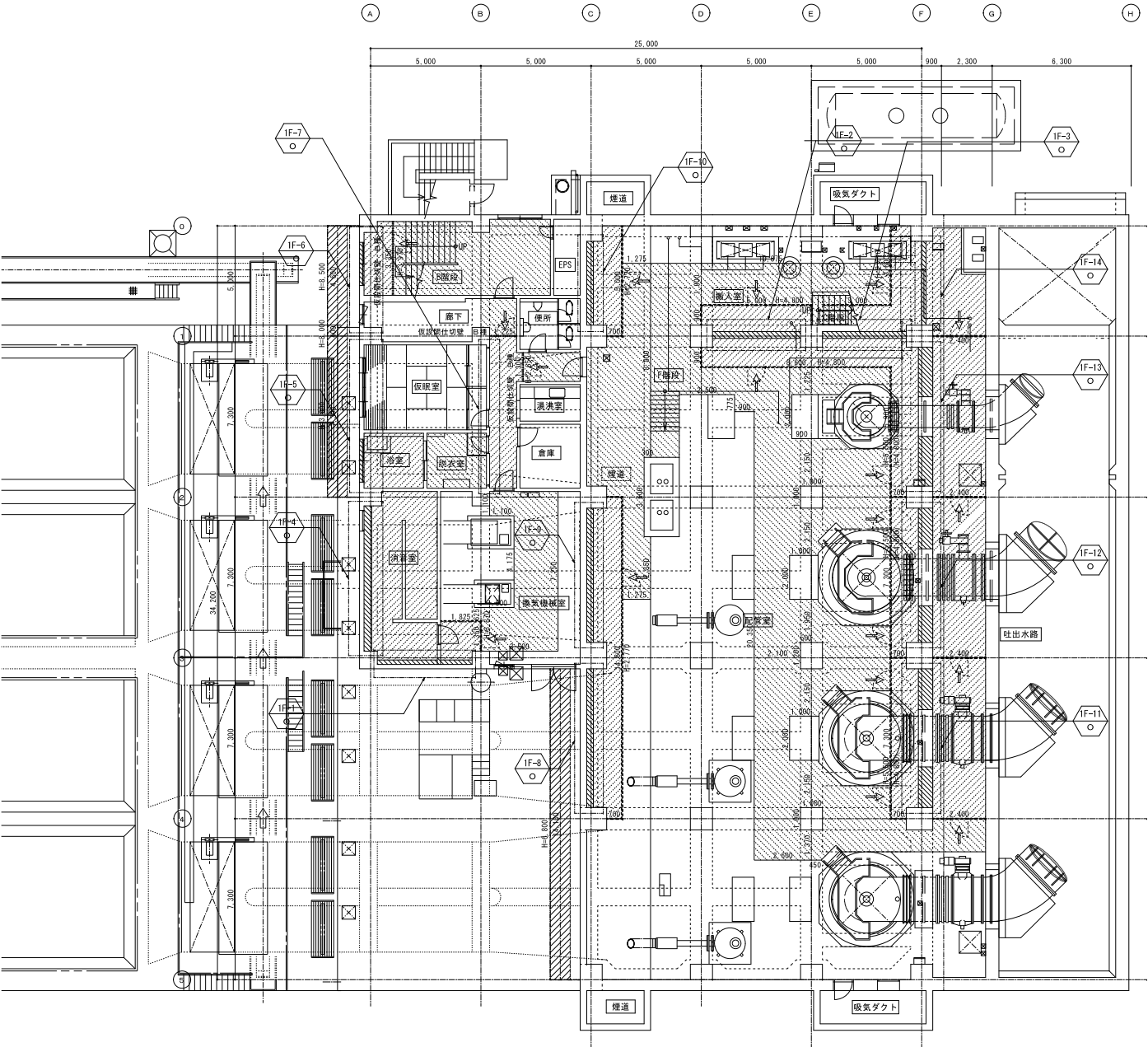


平面

共通事項	1. 特記なき廻り外部はシリング両面（内部サムターン）とし内部は本締り付きモノロックとする。 但し、昇板、昇降の場合は、シリング本締りとする。		8. 特記なき廻り内部建具ガラリはイ型とする。（特選り詳細による。）																																																																																									
	2. バイブスペース、ダクトスペースの点検扉の鍵はシリング本締り錠（特記なき廻り同一キー）とする。		9. 特記なき廻り調製戸の見込みは40mmとする。																																																																																									
	3. 便所等の施錠を必要としない箇所は空錠とし、昇板、昇降の場合は錠不要とする。		10. 防火戸の位置は建具配置図による。																																																																																									
	4. A H、F Hを除きD Cの有無にかかわらず出入口には戸当り、および止めをつける。 錠仕上げボード類等の場合は床付とする。（但し、通行に支障のあるものは除く。）		11. 特記なき廻り気密扉・断熱気密扉の吸音材の充填は行なわないものとする。																																																																																									
	5. 特記なき廻り外部に面するガラリは防鳥網付きとする。		12. 外部アルミニウム製建具の耐風圧性は、S－5とする。																																																																																									
	6. アルミニウム製窓の網り金物、縁取り操作レバーの位置は床から1、500以内とする。																																																																																											
	7. 大型、気密断熱建具はシリング本締り錠付きとする。																																																																																											
	<table><tr><td>種別</td><td>戸</td><td>窓</td><td>ガラリ</td><td>フローアウトレット</td><td>風障子</td><td>ふすま</td><td>シャッター</td><td>扉戸</td></tr><tr><td>アルミニウム製</td><td>A</td><td>D</td><td>A</td><td>W</td><td>A</td><td>G</td><td>A</td><td>O</td><td>D</td><td></td><td></td><td>A</td><td>S</td><td>a</td><td>W</td></tr><tr><td>断熱</td><td>S</td><td>D</td><td>S</td><td>W</td><td>S</td><td>G</td><td>S</td><td>O</td><td>D</td><td></td><td></td><td>S</td><td>S</td><td></td><td></td></tr><tr><td>鋼製縦め</td><td>L</td><td>D</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>L</td><td>S</td><td></td><td></td></tr><tr><td>ステンレス製</td><td>S</td><td>S</td><td>D</td><td>S</td><td>S</td><td>W</td><td>S</td><td>S</td><td>G</td><td></td><td></td><td>S</td><td>S</td><td>S</td><td></td></tr><tr><td>木製</td><td>W</td><td>D</td><td>W</td><td>W</td><td>W</td><td>G</td><td></td><td></td><td></td><td>P</td><td>H</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			種別	戸	窓	ガラリ	フローアウトレット	風障子	ふすま	シャッター	扉戸	アルミニウム製	A	D	A	W	A	G	A	O	D			A	S	a	W	断熱	S	D	S	W	S	G	S	O	D			S	S			鋼製縦め	L	D										L	S			ステンレス製	S	S	D	S	S	W	S	S	G			S	S	S		木製	W	D	W	W	W	G				P	H				
	種別	戸	窓	ガラリ	フローアウトレット	風障子	ふすま	シャッター	扉戸																																																																																			
	アルミニウム製	A	D	A	W	A	G	A	O	D			A	S	a	W																																																																												
断熱	S	D	S	W	S	G	S	O	D			S	S																																																																															
鋼製縦め	L	D										L	S																																																																															
ステンレス製	S	S	D	S	S	W	S	S	G			S	S	S																																																																														
木製	W	D	W	W	W	G				P	H																																																																																	
<table><tr><td>ガラ</td><td>F</td><td>型板ガラス</td><td>金</td><td>D</td><td>G</td><td>ドアクローザー</td></tr><tr><td>ス</td><td>P</td><td>フロート板ガラス</td><td>物</td><td>A</td><td>H</td><td>オートヒンジ</td></tr><tr><td>部</td><td>N</td><td>断入型板ガラス</td><td>類</td><td>F</td><td>H</td><td>フロアヒンジ</td></tr><tr><td>材</td><td>N</td><td>P</td><td>断入みがき板ガラス</td><td>母</td><td>P</td><td>H</td><td>ビボットヒンジ</td></tr></table>			ガラ	F	型板ガラス	金	D	G	ドアクローザー	ス	P	フロート板ガラス	物	A	H	オートヒンジ	部	N	断入型板ガラス	類	F	H	フロアヒンジ	材	N	P	断入みがき板ガラス	母	P	H	ビボットヒンジ																																																													
ガラ	F	型板ガラス	金	D	G	ドアクローザー																																																																																						
ス	P	フロート板ガラス	物	A	H	オートヒンジ																																																																																						
部	N	断入型板ガラス	類	F	H	フロアヒンジ																																																																																						
材	N	P	断入みがき板ガラス	母	P	H	ビボットヒンジ																																																																																					

事業名	令和 6 年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名称	建具表（改修前・後）		
縮尺	1/50	設計年月日	令和 5 年 3 月
工種		設計者	株式会社 自然技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A－4 2

事業名	令和6年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名称	建具表（改修前・後）		
縮尺	1/50	設計年月日	令和5年3月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-42



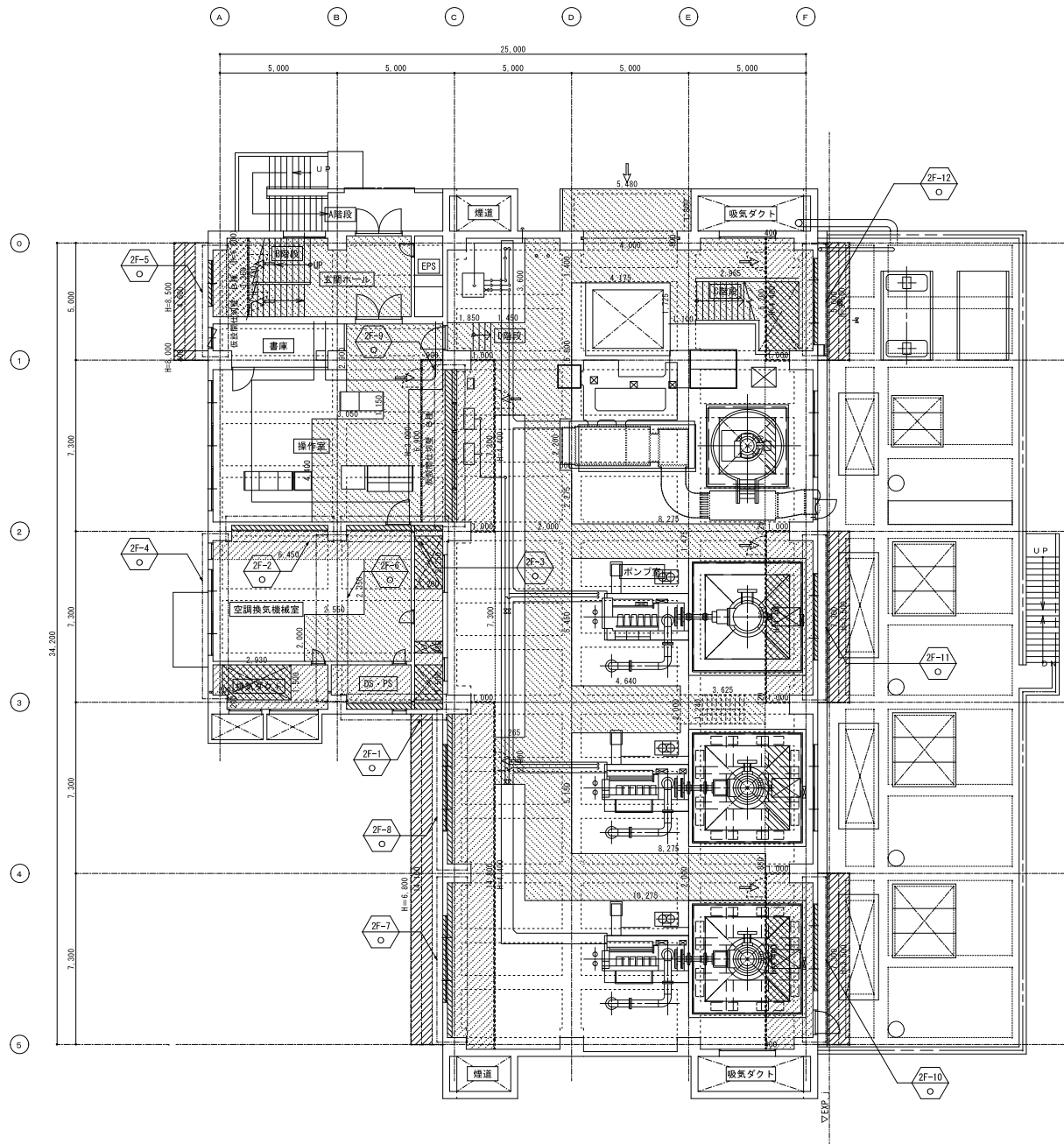
1 階平面図 1/100

- 凡 例
- 仮設間仕切壁 B種
軽量鉄骨下地+GB-R t=9.5
 - 仮設間仕切壁 C種
単管足場+不燃養生シート
 - 内部工事用通路等の床養生シート範囲
 - 内部工事作業スペース
 - 水平養生
無石綿セメント板 t=9.5+不燃シート張り
 - 外部枠組本足場 (W900)+養生シート
 - 工事動線

- 注 記
- 仮設間仕切壁の軽量鉄骨下地は公共建築改修工事標準仕様書 表 6. 7. 1 に準ずる。
 - 仮設間仕切壁の継目や床・天井取合い部等に隙間が生じる場合には、隙間を防ぐ処置を施すこと。
 - 仮設間仕切壁に貼る膜は下地を木製とし、上はフレキシブル板 t=4 (不燃) とする。厚み法はW=800H=2100とし、常時閉鎖とする。
 - 養生シート等の防火種別は、外部枠組本足場防炎シートは防炎Ⅰ類、内部養生シートは防炎Ⅱ類とする。
 - 特記なき限り工事作業スペース内の実験台・設備機器等はシートにより養生とする。

(参考図)

事業名	令和 6 年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名称	仮設計画図 (0-1)		
縮尺	1/100	設計年月日	令和 5 年 3 月
工種	設計者	株式会社 日新技術コンサルタント	
事業主	四日市市 上下水道局	図面番号	A-43



凡 例

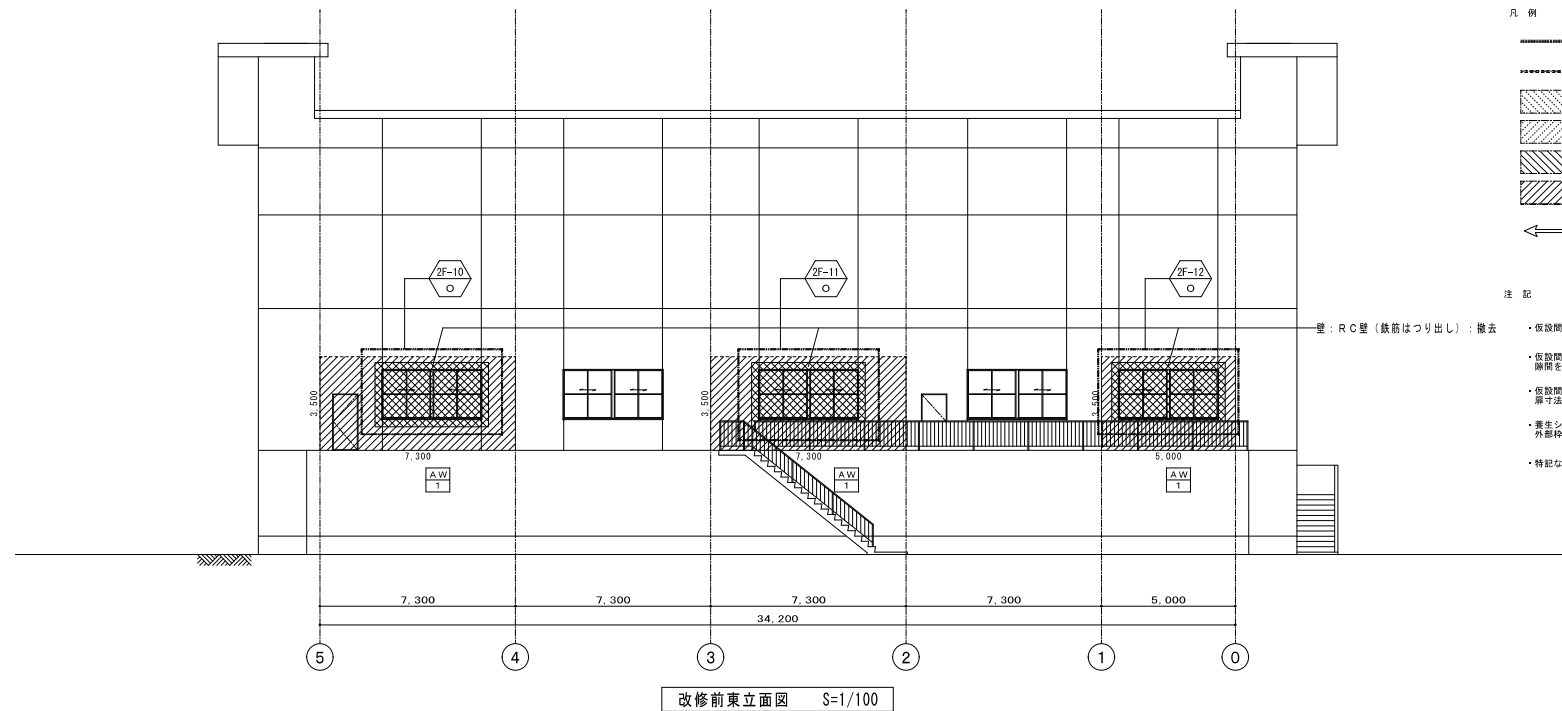
- 仮設間仕切壁 B種
軽量鉄骨下地+GB-R t=9.5
- 仮設間仕切壁 C種
庫管足場+不燃養生シート
- 内部工事用通路等の床養生シート範囲
- 内部工事作業スペース
- 水平養生
魚石鋪セメント板 t9.5+不燃シート張り
- 内部枠組 (W900)
- 外部枠組本足場 (W900) +養生シート
- 工事動線

注 記

- 仮設間仕切壁の軽量鉄骨下地は公共建築改修工事標準仕様書 表6.7.1に準ずる。
- 仮設間仕切壁の耐力や床・天井敷き等には、隙間を防ぐ処置を怠ること。
- 仮設間仕切壁に設ける扉は下地を木製とし、仕上はフレキシブル板 t=4 (不燃) とする。
扉寸法はW800H2100とし、常時閉鎖とする。
- 養生シート等の防火種別は、
外部枠組本足場防音シートは防火1類、内部養生シートは防火2類とする。
- 特記なき限り工事作業スペース内の実験台・設備機器等はシートにより養生とする。

(参考図)

事業名	令和6年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名称	仮設計画図 (0-2)		
縮尺	1/100	設計年月日	令和5年 3月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-44



- 凡 例

	仮設簡仕切壁 B種 軽量敷設下地+G-B-R t=9.5
	仮設簡仕切壁 C種 単管足場+必要養生シート
	内部工事用通路等の仮養生シート範囲
	内部工事作業スペース
	水平養生 無石棉セメント板 t=9.5+不要シート張り
	外部枠組本足場 (W900) +養生シート

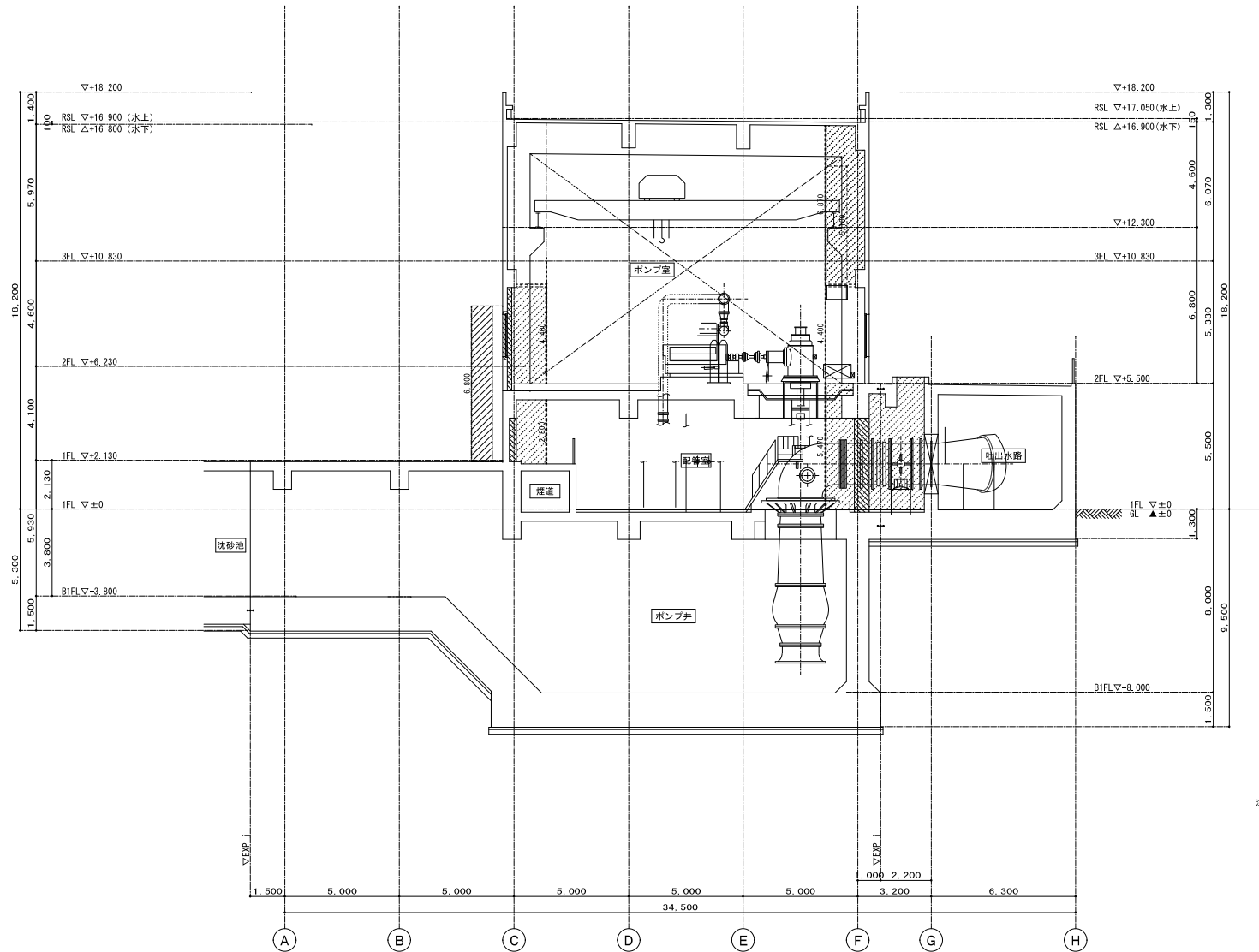
工事動線

注 記

- ・仮設掘削切壁の程度が軟弱な地下では公共建築改修工事標準仕様書 表 6. 7. 1 に準ずる。
- ・仮設掘削切壁の目的や、土井取合い部などに加算が生じる場合には、除算を防ぐ措置を講ずる。
- ・仮設掘削切壁に付する鋼材は太木製とし、土圧はフキシール板 $t = 4$ (不燃) とする。
 $\text{層式土圧} = W = 800 \text{ kg} = 2100 \text{ t}$ とし、常に併用する。
- ・養生シート等の防突対策は、
 - ・外部除根不足箇所のシートの防突Ⅰ類、内部養生シートは防突Ⅱ類とする。
- ・特記記載通り作業スペース内の家財物・設備機器等はシートにより養生とする。

(参考图)

事業名	令和 6 年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名称	仮設計画図（0－4）		
縮尺	1/100	設計年月	令和 5 年 3 月
工種	設計者 株式会社 目視技術コンサルタント		
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A－46

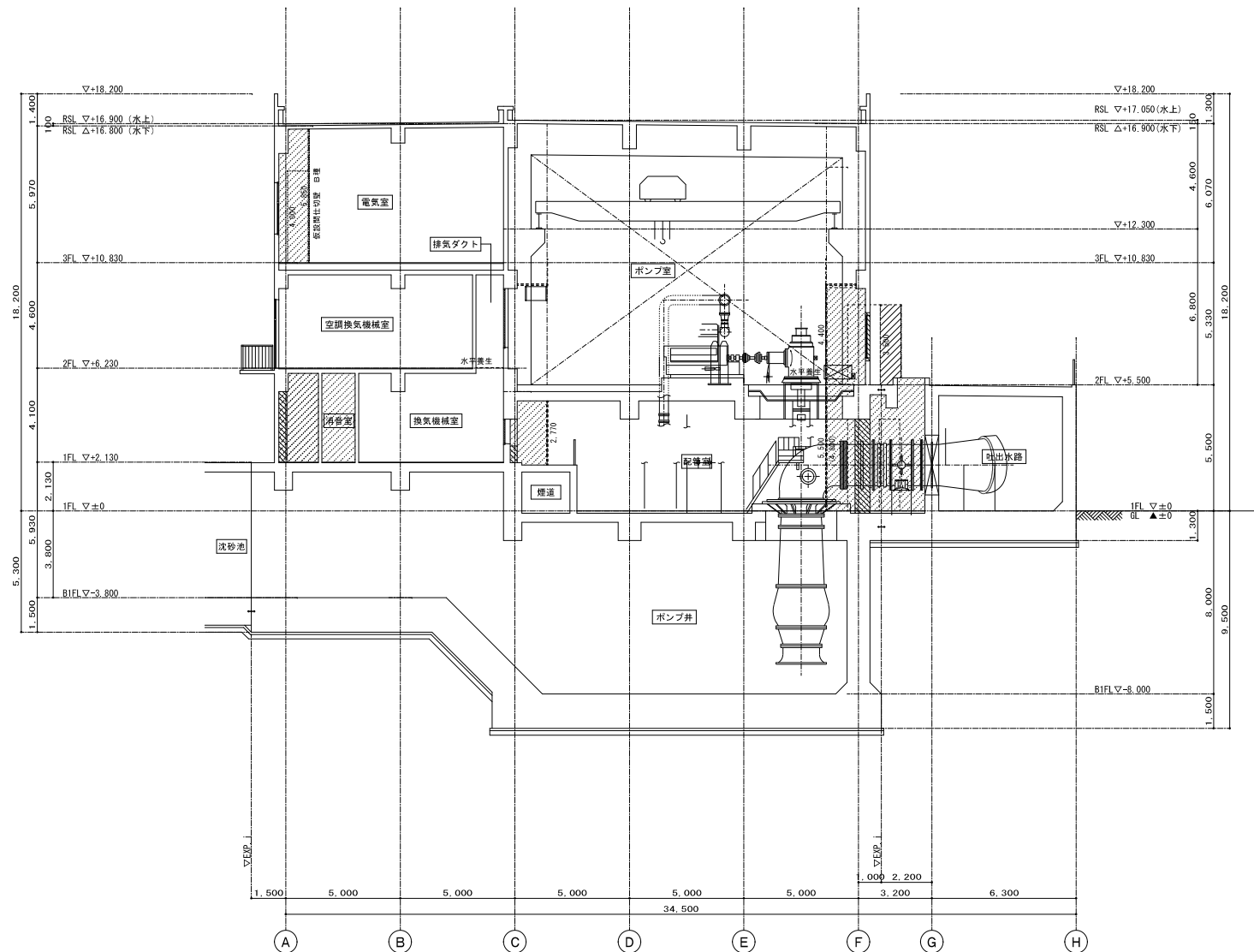


- 凡 例
- 仮設間仕切壁 B種
軽量鉄骨下地+GB-R t=9.5
 - 仮設間仕切壁 C種
縦管足場+不燃養生シート
 - 内部工事用通路等の床養生シート範囲
 - 内部工事作業スペース
 - 水平養生
無石緑セメント板 t=9.5+不燃シート張り
 - 外部种植本足場 (W900) +養生シート

- 注 記
- 仮設間仕切壁の軽量鉄骨壁下地は公共建築改修工事標準仕様書 表 6. 7. 1 に準ずる。
 - 仮設間仕切壁の壁目や床・天井取合い部等に隙間が生じる場合には、隙間を防ぐ処置を施すこと。
 - 仮設間仕切壁に設ける扉は下地を木製とし、仕上はフレキシブル板 t=4 (不燃) とする。扉寸法はW=800H=2100とし、兼時閉鎖とする。
 - 養生シート等の防火識別は、外部种植本足場防炎シートは防炎I類、内部養生シートは防炎II類とする。
 - 特記なき限り工事作業スペース内の家騒音・設備機器等はシートにより養生とする。

(参考図)

事業名	令和 6 年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名称	仮設計画面図 (0-5)		
縮尺	1/100	設計年月日	令和 6 年 3 月
工種		設計者	株式会社 日動技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-47



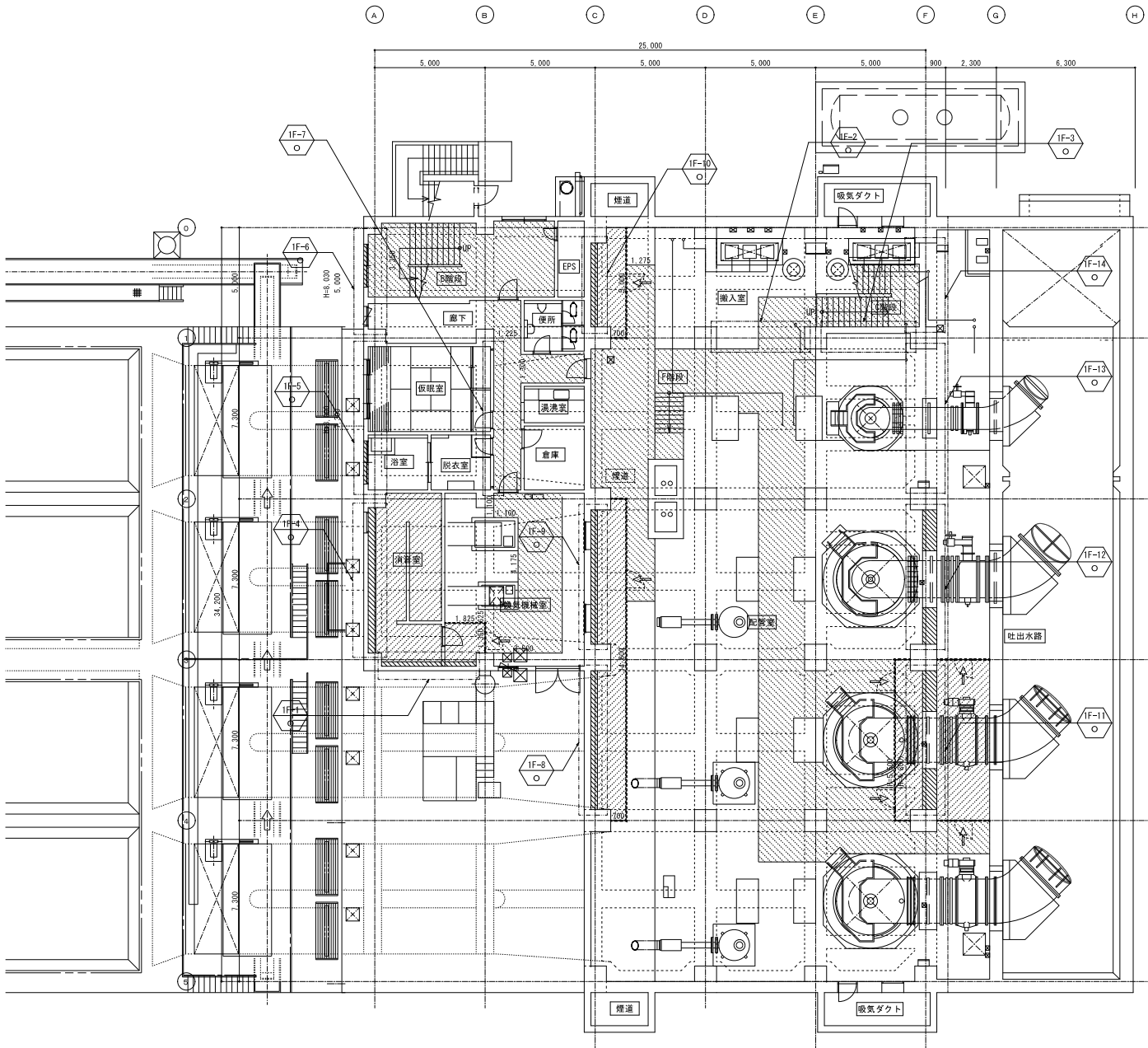
- 凡 例
- 仮設間仕切壁 Ⅱ種
軽量鉄骨下地+GB-R t:9.5
 - 仮設間仕切壁 C種
単管足場+不燃養生シート
 - 内部工事用通路等の床養生シート範囲
 - 内部工事作業スペース
 - 水平養生
無石棉セメント板 t:9.5+不燃シート張り
 - 外部枠組本足場 (W900) +養生シート
- ← 工事動線

- 注 記
- 仮設間仕切壁の軽量鉄骨下地は公共建築改修工事標準仕様書 表 6、7、1に準ずる。
 - 仮設間仕切壁の欄目や床・天井取合い部等に隙間が生じる場合には、隙間を防ぐ処置を施すこと。
 - 仮設間仕切壁に設ける扉は下地を本型とし、仕上はフレキシブル板 t=4 (不燃) とする。
扉寸法はW=800 H=2100とし、常時閉鎖とする。
 - 養生シート等の防火種別は、
外部枠組本足場防音シートは防火Ⅰ類、内部養生シートは防火Ⅱ類とする。
 - 特記なき限り工事作業スペース内の実験台・設備機器等はシートにより養生とする。

(参考図)

事業名	令和 6 年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名称	仮設計画図 (0-6)		
縮尺	1/100	設計年月日	令和 5 年 3 月
工種	設計者	株式会社 日動技術コンサルタント	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-48

断面図 (2) 1/100

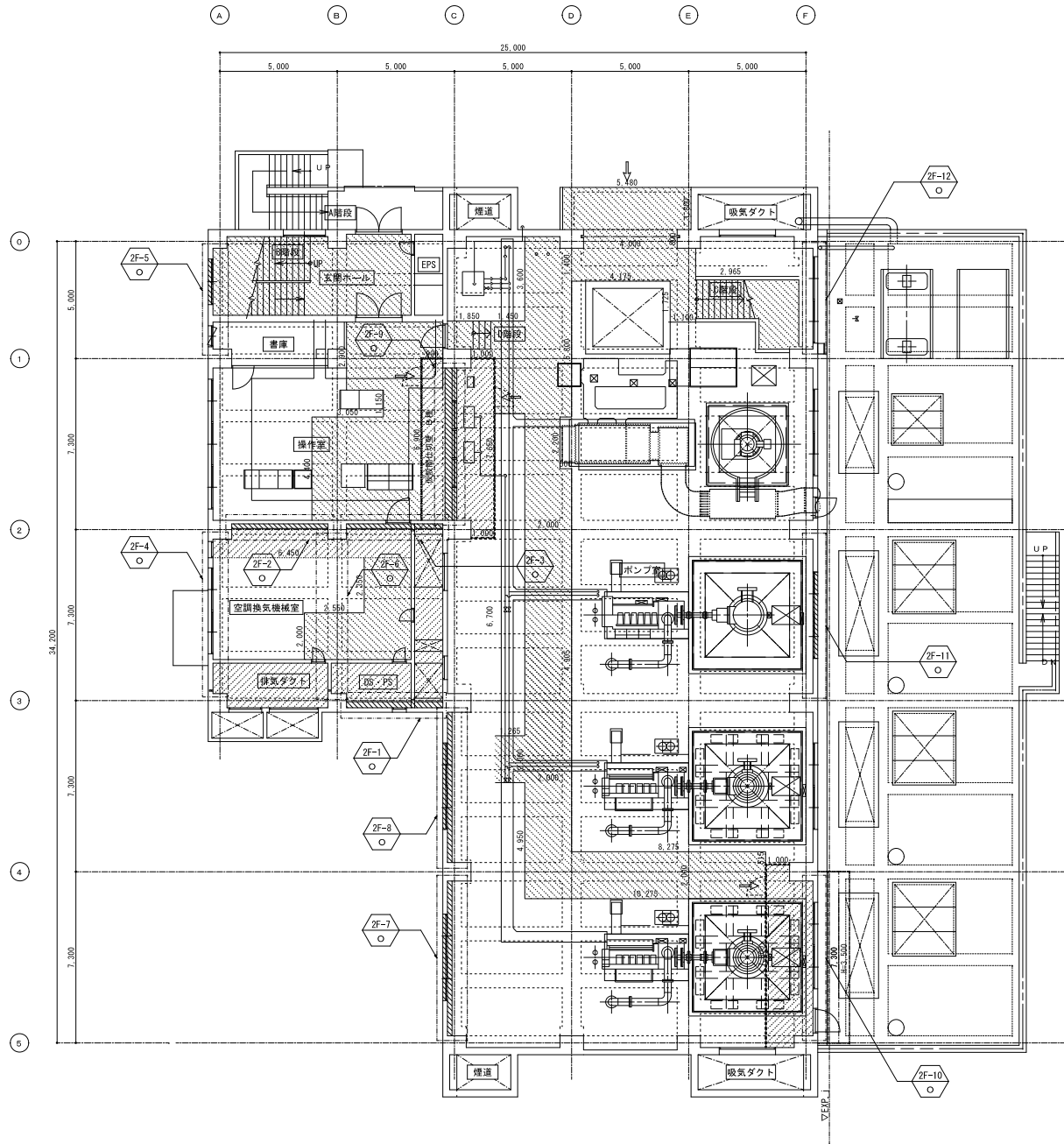


1 階平面図 1/100

- 凡 例
- 仮設間仕切壁 B種
軽量鉄骨下地+GB-R t=9.5
 - 仮設間仕切壁 C種
単管足場+不燃養生シート
 - 内部工事用通路等の床養生シート範囲
 - 内部工事作業スペース
 - 水平養生
無石鋪セメント板 t 9.5+不燃シート張り
 - 外部枠組本足場 (W900) +養生シート
 - 工事動線

- 注 記
- 仮設間仕切壁の軽量鉄骨下地は公共建築改修工事標準仕様書 表6、7、1に準ずる。
 - 仮設間仕切壁の柱目や床・天井取合い部等に隙間が生じる場合には、隙間を防ぐ処置を要すること。
 - 仮設間仕切壁に設ける扉は下地を木製とし、仕上はフレキシブル板 t=4 (不燃) とする。厚寸法はW=800H=2100とし、常時閉鎖とする。
 - 養生シート等の防炎種別は、外部枠組本足場防炎シートは防炎I類、内部養生シートは防炎II類とする。
 - 特記なき限り工事作業スペース内の実験台・設備機器等はシートにより養生とする。

Step 1		(参考図)	
事業名	令和 6 年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名 称	仮設計画図 (1 - 1)		
縮 尺	1/100	設計年月日	令和 5 年 3 月
工 種		設計 者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-49

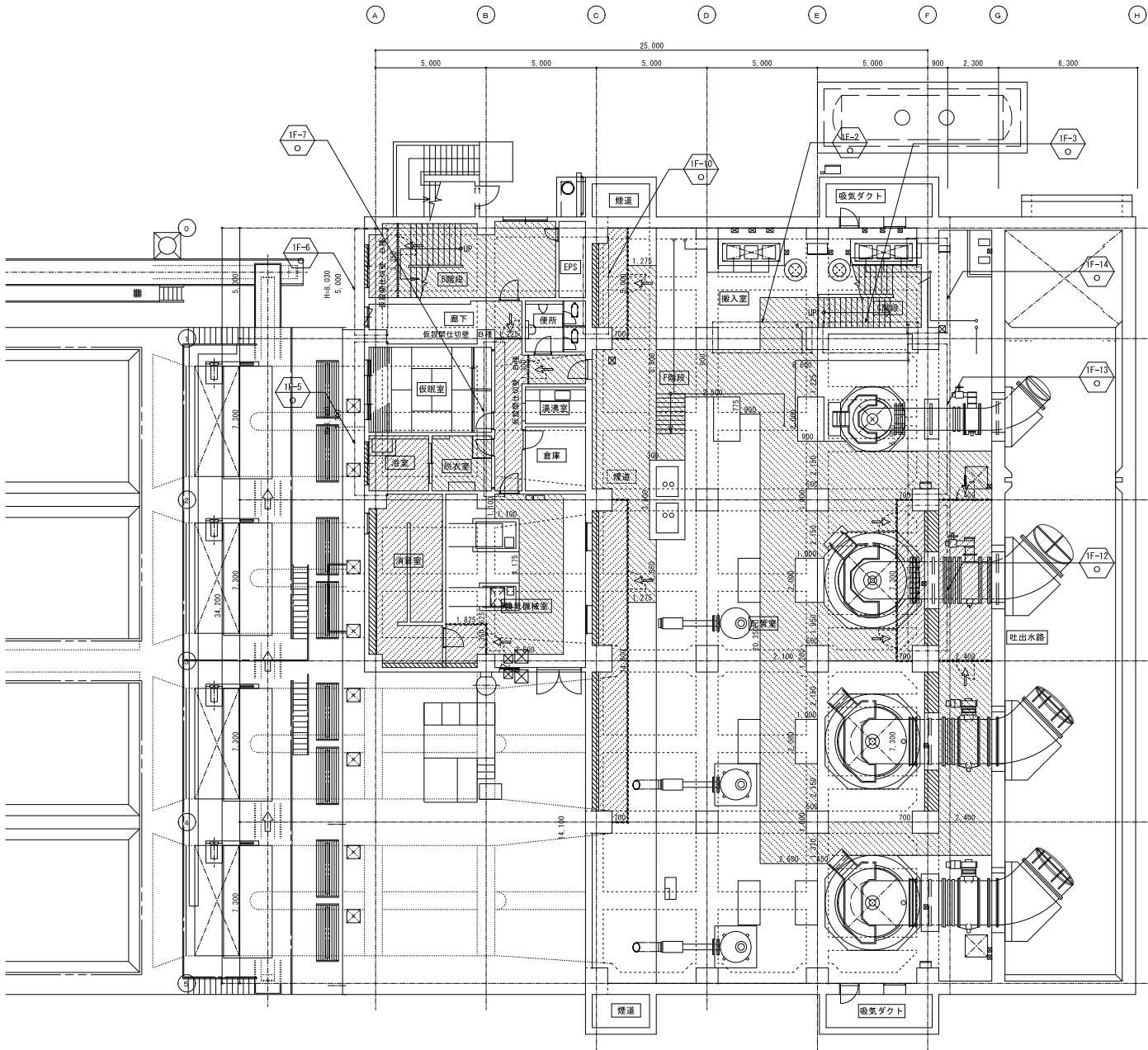


2 階平面図 1/100

- 凡 例
- 仮設間仕切壁 B棟
軽量鉄骨下地+GB-R t=9.5
 - 仮設間仕切壁 C棟
厚型足場+不燃養生シート
 - 内部工事用通路等の床養生シート範囲
 - 内部工事作業スペース
 - 水平養生
無石棉セメント板 t9.5+不燃シート張り
 - 外部枠組本足場 (W900) +養生シート
- ← 工事動線

- 注 記
- 仮設間仕切壁の軽量鉄骨壁下地は公共建築改修工事標準仕様書 表6.7.1に準ずる。
 - 仮設間仕切壁の柱目や床・天井取合い部等に隙間が生じる場合には、隙間を防ぐ処置を怠ること。
 - 仮設間仕切壁に貼ける層は下地を木製とし、仕上はフレキシブル板 t=4 (不燃) とする。厚寸法はW=B O H=2100とし、常時閉鎖とする。
 - 養生シート等の防火規格は、外部枠組本足場防音シートは防火Ⅰ類、内部養生シートは防火Ⅱ類とする。
 - 特記なき限り工事作業スペース内の実験台・設備機器等はシートにより養生とする。

(参考図)			
事業名	令和 6 年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名称	仮設計画図 (1-2)		
縮尺	1/100	設計年月日	令和 5 年 3 月
工種		設計者	株式会社 日射技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-50

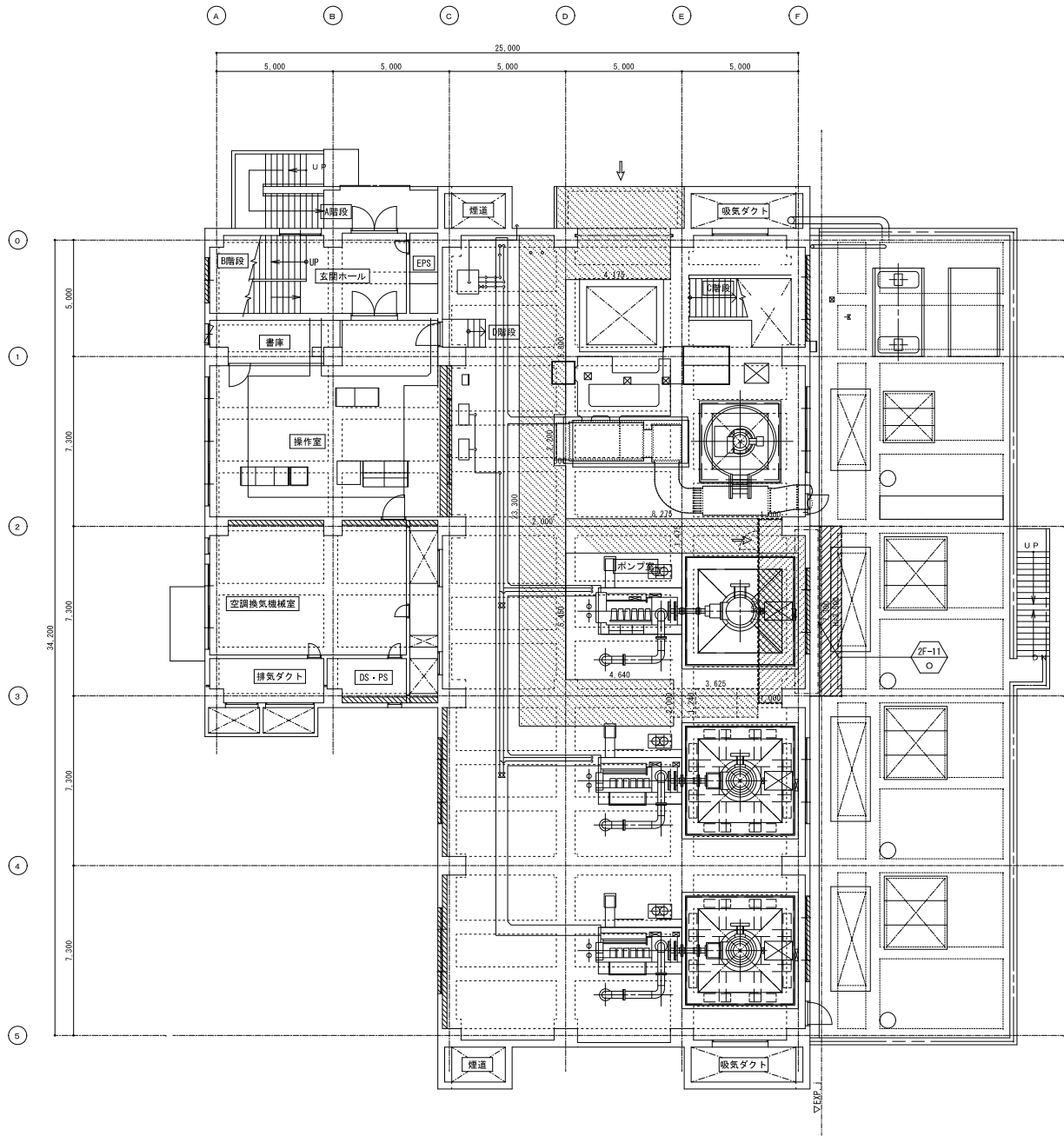


1 階平面図 1/100

- 凡 例
- 仮設間仕切壁 B種
軽量鉄骨下地+GB-R t=9.5
 - 仮設間仕切壁 C種
単管足場+不燃養生シート
 - 内部工事用通路等の床養生シート範囲
 - 内部工事作業スペース
 - 水平養生
無石鋪せメント板 t=9.5+不燃シート張り
 - 外部枠組本足場 (W900) +養生シート
 - 工事動線

- 注 記
- 仮設間仕切壁の軽量鉄骨下地は公共建築改修工事標準仕様書 表6、7、1に準ずる。
 - 仮設間仕切壁の柱目や床・天井取合い部等に開閉が生じる場合には、開閉を防ぐ処置を施すこと。
 - 仮設間仕切壁に設ける扉は下地を木製とし、仕上はフレキシブル板 t=4 (不燃) とする。厚寸法はW=800H=2100とし、常時閉鎖とする。
 - 養生シート等の防火種別は、外部枠組本足場防炎シートは防火I類、内部養生シートは防火II類とする。
 - 特記なき限り工事作業スペース内の実験台・設備機器等はシートにより養生とする。

Step 2		(参考図)	
事業名	令和 6 年度 公共下水道事業	設計年月日	令和 5 年 3 月
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事	設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内	図面番号	A-51
名称	仮設計画図 (2-1)		
縮尺	1/100		
工種	下水道局		
事業主体	四日市市		



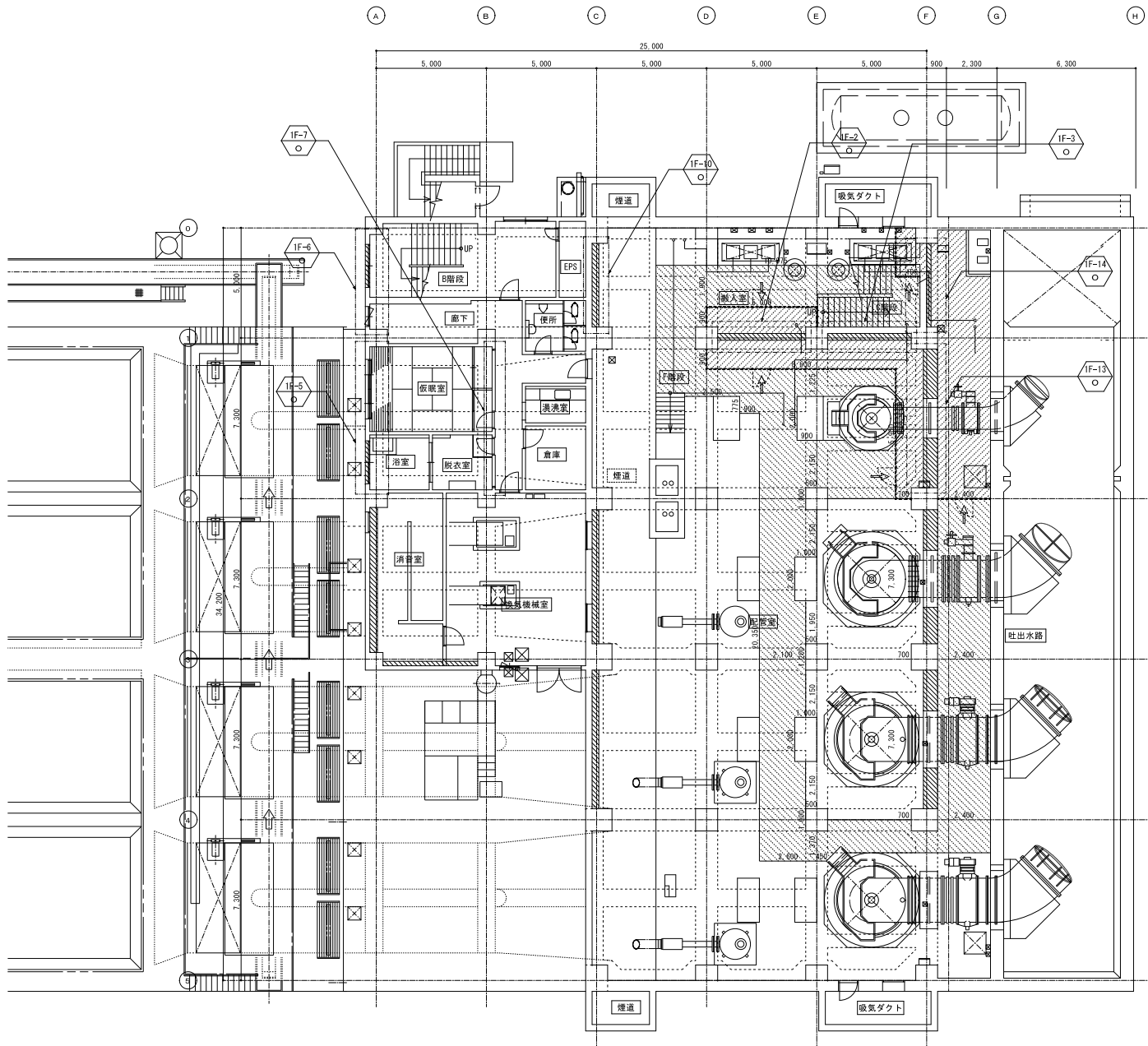
2 階平面図 1/100

- 凡 例
- 仮設間仕切壁 B種
軽量鉄骨壁下地+GB-R t=9.5
 - 仮設間仕切壁 C種
軽量足場+不燃養生シート
 - 内部工事用通路等の床養生シート範囲
 - 内部工事作業スペース
 - 水平養生
麻石舗装メント板 t9.5+不燃シート張り
 - 外部枠組本足場 (W900) +養生シート
 - 工事動線

- 注 記
- 仮設間仕切壁の軽量鉄骨壁下地は公共建築改修工事標準仕様書 表6、7、1に準ずる。
 - 仮設間仕切壁の隙目や床・天井敷合い部等に隙間が生じる場合には、隙間を防ぐ措置を施すこと。
 - 仮設間仕切壁に設ける扉は下地を木製とし、仕上はフレキシブル板 t=4 (不燃) とする。扉寸法はW=800 H=2100とし、常時閉鎖とする。
 - 養生シート等の防火種別は、外部枠組本足場防音シートは防炎Ⅰ類、内部養生シートは防炎Ⅱ類とする。
 - 特記なき限り工事作業スペース内の実験台・設備機器等はシートにより養生とする。

(参考図)

事業名	令和 6 年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名称	仮設計画図 (2-2)		
縮尺	1/100	設計年月日	令和 5 年 3 月
工種	設計者	株式会社 四日市市 白須賀三丁目	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-52



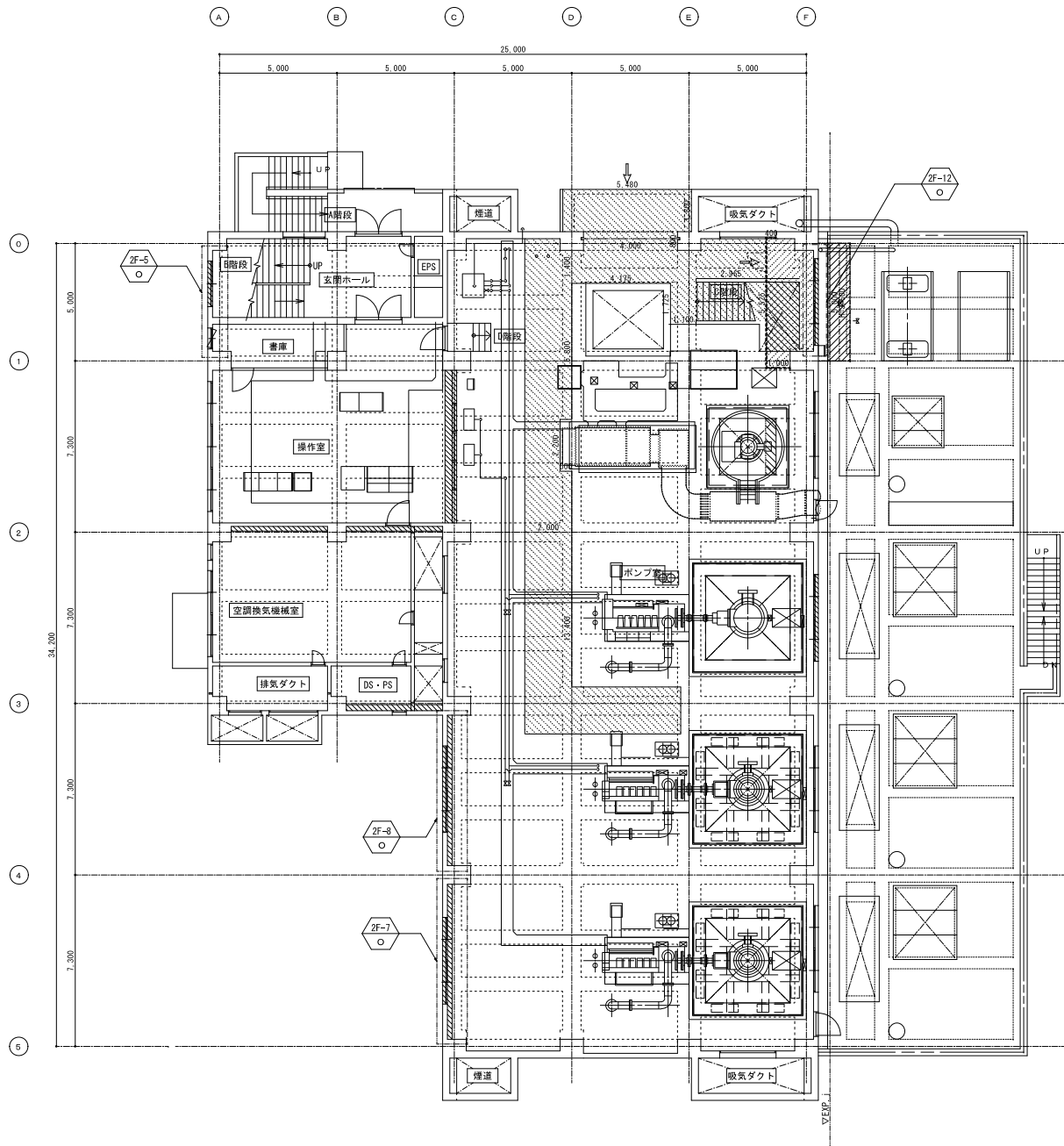
1階平面図 1/100

- 凡 例
- 仮設間仕切壁 B種
軽量鉄骨下地+G B-R t=9.5
 - 仮設間仕切壁 C種
単管足場+不燃養生シート
 - 内部工事用通路等の床養生シート範囲
 - 内部工事作業スペース
 - 水平養生
兼石積セメント板 t9.5+不燃シート張り
 - 外部枠組本足場 (W900) +養生シート
 - 工事動線

- 注 記
- 仮設間仕切壁の軽量鉄骨下地は公共建築改修工事標準仕様書 表6、7、1に準ずる。
 - 仮設間仕切壁の継目や床・天井取合い部等に隙間が生じる場合には、隙間を防ぐ処置を施すこと。
 - 仮設間仕切壁に設ける扉は下地を木製とし、仕上はフレキシブル板 t=4 (不燃) とする。
扉寸法はW=800 H=2100とし、常時閉鎖とする。
 - 養生シート等の防火種別は、
外部枠組本足場防炎シートは防炎Ⅰ種、内部養生シートは防炎Ⅱ種とする。
 - 特記なき限り工事作業スペース内の美観・設備機器等はシートにより養生とする。

Step 3 (参考図)

事業名	令和 6 年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名 称	仮設計画図 (3-1)		
縮 尺	1/100	設計年月日	令和 6 年 3 月
工 種	設計者	株式会社 日新技術コンサルタント	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-53



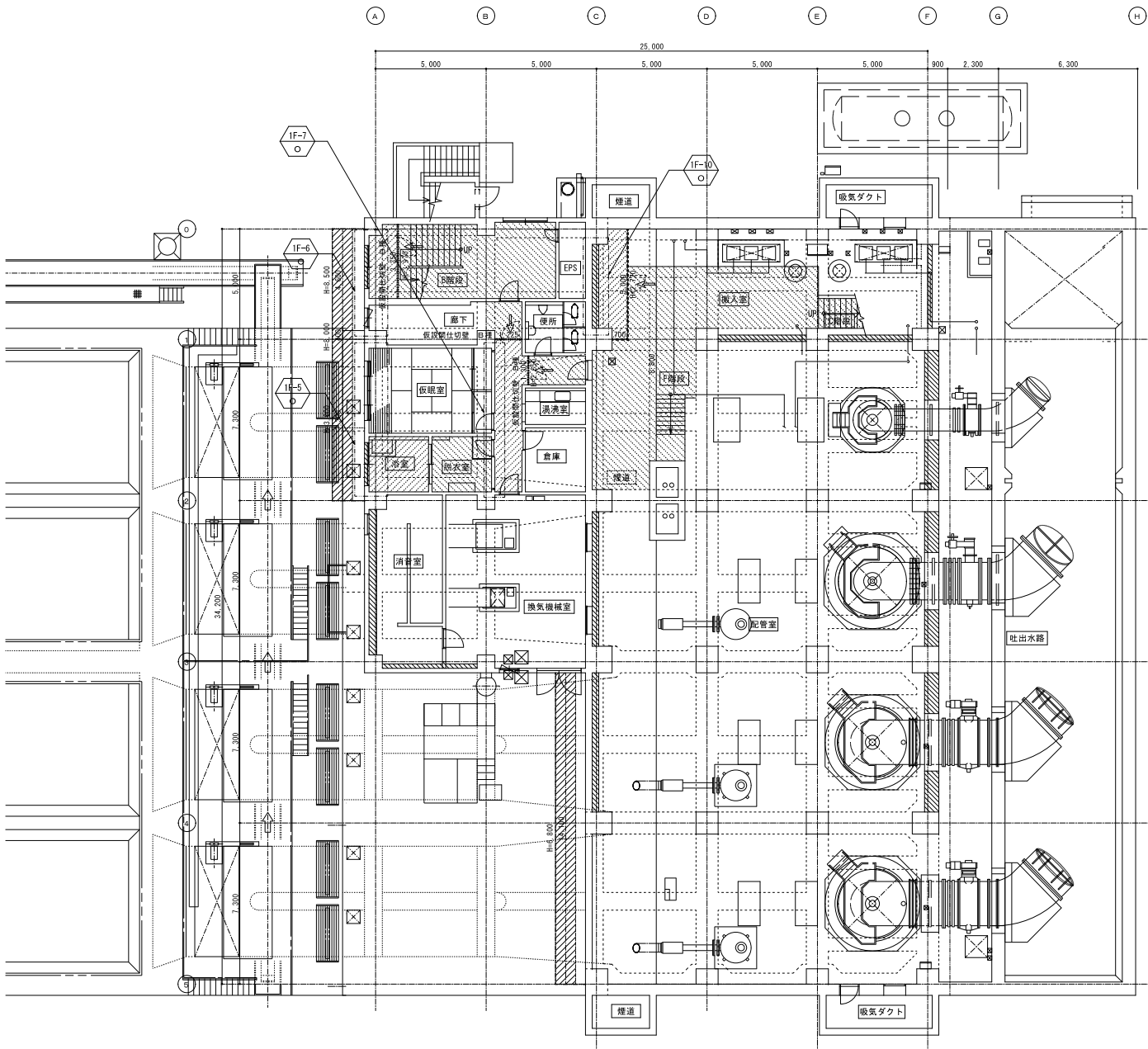
2 階平面図 1/100

- 凡 例
- 仮設間仕切壁 B種
軽量鉄骨下地+G B-R t=9.5
 - 仮設間仕切壁 C種
単管足場+不燃養生シート
 - 内部工事用通路等の床養生シート範囲
 - 内部工事作業スペース
 - 水平養生
無石棉セメント板 t=9.5+不燃シート張り
 - 外部幹線未足場 (W900) +養生シート
 - 工事動線

- 注 記
- 仮設間仕切壁の軽量鉄骨壁下地は公共建築改修工事標準仕様書 表 6. 7. 1 に準ずる。
 - 仮設間仕切壁の縦目や床・天井取合い部等に隙間が生じる場合には、隙間を防く処置を施すこと。
 - 仮設間仕切壁に設ける扉は下地を木製とし、仕上はフレキシブル板 t=4 (不燃) とする。扉寸法はW=800H=2100とし、常時閉鎖とする。
 - 養生シート等の防炎種別は、外部幹線未足場防炎シートは防炎Ⅰ種、内部養生シートは防炎Ⅱ種とする。
 - 特記なき限り工事作業スペース内の美観・設備機器等はシートにより養生とする。

(参考図)

事業名	令和 6 年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名称	仮設計画図 (3-2)		
縮尺	1/100	設計年月日	令和 5 年 3 月
工種	設計者	株式会社 日新技術コンサルタント	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-54

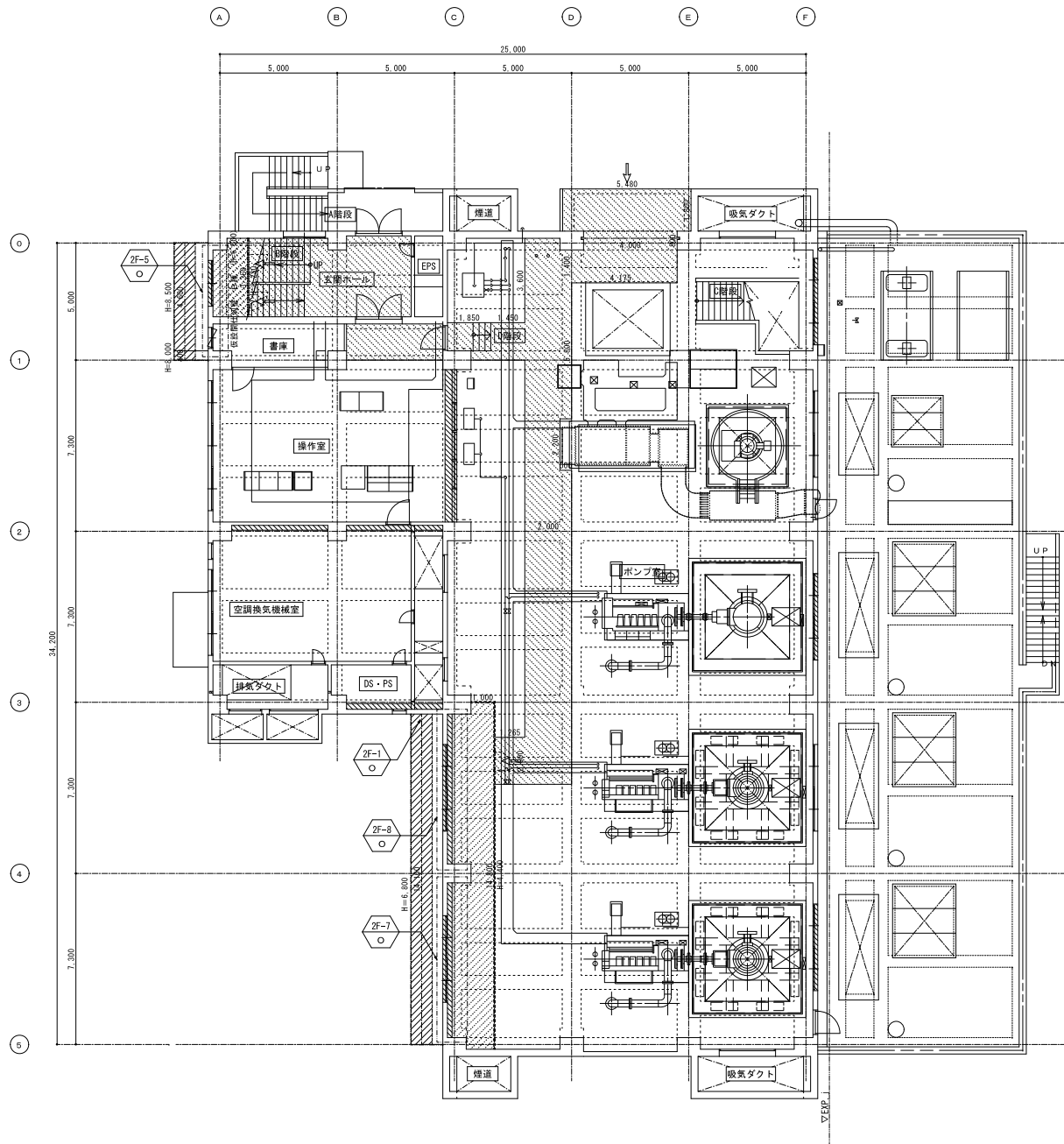


1 階平面図 1/100

- 凡 例
- 仮設間仕切壁 B種
軽量鉄骨下地+GB-R t=9.5
 - 仮設間仕切壁 C種
単管足場+不燃養生シート
 - 内部工事用通路等の床養生シート範囲
 - 内部工事作業スペース
 - 水平養生
鋼石膏セメント板 t=9.5+不燃シート張り
 - 外部枠組本足場 (W900) +養生シート
 - 工事動線

- 注 記
- 仮設間仕切壁の軽量鉄骨下地は公共建築改修工事標準仕様書 表 6. 7. 1 に準ずる。
 - 仮設間仕切壁の欄干や床・天井取合い部等に隙間が生じる場合には、隙間を防ぐ処置を施すこと。
 - 仮設間仕切壁に設ける扉は下地を木製とし、仕上はフレキシブル板 t=4 (不燃) とする。扉寸法はW=800H=2100とし、常時閉鎖とする。
 - 養生シート等の防火種別は、外部枠組本足場防炎シートは防火1類、内部養生シートは防火2類とする。
 - 特記なき限り工事作業スペース内の美観台・設備機器等はシートにより養生とする。

Step 4		(参考図)	
事業名	令和 6 年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名 称	仮設計画図 (4 - 1)		
縮 尺	1/100	設計年月日	令和 5 年 3 月
工 種		設 計 者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-55

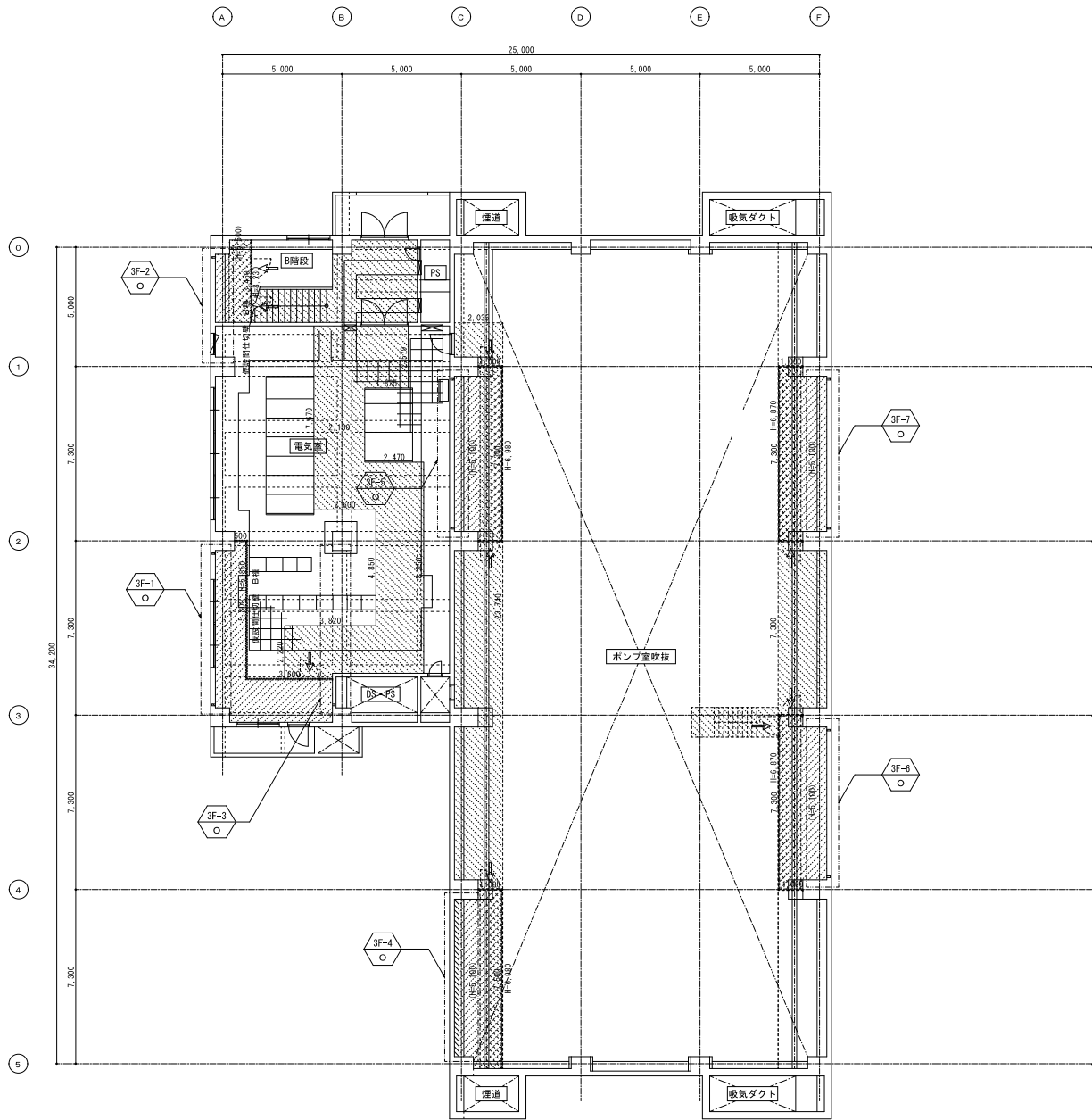


2 階平面図 1/100

- 凡 例
- 仮設間仕切壁 B種
軽量鉄骨下地+GB-R t=9.5
 - 仮設間仕切壁 C種
単管足場+不燃養生シート
 - 内部工事用通路等の床養生シート範囲
 - 内部工事作業スペース
 - 水平養生
魚石舗セメント板 t 9.5+不燃シート張り
 - 内部枠組 (W900)
 - 外部枠組本足場 (W900) +養生シート
 - 工事動線

- 注 記
- 仮設間仕切壁の軽量鉄骨下地は公共建築改修工事標準仕様書 表 6. 7. 1 に準ずる。
 - 仮設間仕切壁の継目や床・天井取合い部等に隙間が生じる場合には、隙間を防ぐ処置を怠ること。
 - 仮設間仕切壁に設ける扉は下地を木製とし、仕上はフレキシブル板 t=4 (不燃) とする。扉寸法はW=800 H=2100とし、常時閉鎖とする。
 - 養生シート等の防火種別は、外部枠組本足場防音シートは防火Ⅰ類、内部養生シートは防火Ⅱ類とする。
 - 特記なき限り工事作業スペース内の実験台・設備機器等はシートにより養生とする。

(参考図)			
事業名	令和 6 年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名称	仮設計画図 (4-2)		
縮尺	1/100	設計年月日	令和 5 年 3 月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-56



3 階平面図 1/100

- 凡 例
- 仮設間仕切壁 B種
軽量鉄骨下地+GB-R t=9.5
 - 仮設間仕切壁 C種
単管足場+不燃養生シート
 - 内部工事用通路等の床養生シート範囲
 - 内部工事作業スペース
 - 水平養生
無石綿セメント板 t9.5+不燃シート張り
 - 内部枠組 (W900)
 - 外部枠組本足場 (W900) +養生シート
 - 工事動線

- 注 記
- 仮設間仕切壁の軽量鉄骨壁下地は公共建築改修工事標準仕様書 表 6. 7. 1 に準ずる。
 - 仮設間仕切壁の壁目や床・天井取合い部等に隙間が生じる場合には、隙間を防ぐ処置を施すこと。
 - 仮設間仕切壁に設ける扉は下地を木製とし、仕上はフレキシブル板 t=4 (不燃) とする。扉寸法はW=800×H=2100とし、常時閉鎖とする。
 - 養生シート等の防炎識別は、外部枠組本足場防炎シートは防炎Ⅰ類、内部養生シートは防炎Ⅱ類とする。
 - 特記なき限り工事作業スペース内の家騒音・設備機器等はシートにより養生とする。

(参考図)

事業名	令和 6 年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名称	仮設計画図 (4-3)		
縮尺	1/100	設計年月日	令和 6 年 3 月
工種		設計者	株式会社 日動技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-57

番 号	図 面 名 称	縮 尺
S-1	構造細目共通図（建築構造物）（1）	1/100
S-2	構造細目共通図（建築構造物）（2）	1/100
S-3	構造細目共通図（建築構造物）（3）	1/100
S-4	構造細目共通図（建築構造物）（4）	1/100
S-5	構造細目共通図（建築構造物）（5）	1/100
S-6	構造細目共通図（建築構造物）（6）	1/100
S-7	耐震改修標準詳細図	NONE
S-8	1 階伏図（改修前）	1/100
S-9	1 階伏図（改修後）	1/100
S-10	2 階伏図（改修前）	1/100
S-11	2 階伏図（改修後）	1/100
S-12	3 階伏図（改修前）	1/100
S-13	3 階伏図（改修後）	1/100
S-14	1 通り軸組図（改修前）	1/100
S-15	1 通り軸組図（改修後）	1/100
S-16	2 通り軸組図（改修前）	1/100
S-17	2 通り軸組図（改修後）	1/100
S-18	3 通り軸組図（改修前）	1/100
S-19	3 通り軸組図（改修後）	1/100
S-20	A 通り軸組図（改修前）	1/100
S-21	A 通り軸組図（改修後）	1/100
S-22	B 通り軸組図（改修前）	1/100
S-23	B 通り軸組図（改修後）	1/100
S-24	C 通り軸組図（改修前）	1/100
S-25	C 通り軸組図（改修後）	1/100
S-26	F 通り軸組図（改修前）	1/100
S-27	F 通り軸組図（改修後）	1/100
S-28	1 階改修詳細図（ 1 ）	1/50
S-29	1 階改修詳細図（ 2 ）	1/20, 50
S-30	1 階改修詳細図（ 3 ）	1/20, 50

番 号	図 面 名 称	縮 尺
S-31	1 階改修詳細図(4)	1/20, 50
S-32	1 階改修詳細図(5)	1/50
S-33	1 階改修詳細図(6)	1/20, 50
S-34	1 階改修詳細図(7)	1/50
S-35	1 階改修詳細図(8)	1/50
S-36	1 階改修詳細図(9)	1/50
S-37	1 階改修詳細図(10)	1/20, 50
S-38	1 階改修詳細図(11)	1/50
S-39	1 階改修詳細図(12)	1/50
S-40	1 階改修詳細図(13)	1/20, 50
S-41	1 階改修詳細図(14)	1/50
S-42	1 階改修詳細図(15)	1/20, 50
S-43	1 階改修詳細図(16)	1/50
S-44	1 階改修詳細図(17)	1/20, 50
S-45	1 階改修詳細図(18)	1/50
S-46	1 階改修詳細図(19)	1/20, 50
S-47	1 階改修詳細図(20)	1/50
S-48	1 階改修詳細図(21)	1/20, 50
S-49	1 階改修詳細図(22)	1/50
S-50	1 階改修詳細図(23)	1/20, 50
S-51	1 階改修詳細図(24)	1/50
S-52	1 階改修詳細図(25)	1/20, 50
S-53	1 階改修詳細図(26)	1/20, 50
S-54	2 階改修詳細図(1)	1/50
S-55	2 階改修詳細図(2)	1/20, 50
S-56	2 階改修詳細図(3)	1/50
S-57	2 階改修詳細図(4)	1/20, 50
S-58	2 階改修詳細図(5)	1/50
S-59	2 階改修詳細図(6)	1/20, 50
S-60	2 階改修詳細図(7)	1/50

[illegible]

構造細目共通図（建築構造物）

＜ 令和4年版 ＞

※本図面は、(一社)全国下水道コンクリート協会が著作権を有するものである。.....
使用にあたっては、上記協会への使用願いの提出と、配布番号の記載が必要である。
枠外下の【協会員番号】と【配布番号】の記載が無い図面は無効とする。.....

1 特記事項

1. 1 適用範囲

(1) 本構造細目共通図は下水道施設における処理場、ポンプ場の建築構造物に適用する。
(2) 図面及び構造細目共通図に記載されていない事項は、下記に基づくものとし、
これらに相違がある場合は監督職員に確認し指示を受ける。

1) 建築工事特記仕様書

2) 建築改修工事特記仕様書

3) 建築工事一般仕様書

4) 公共建築工事標準仕様書（建築工事編）

5) 公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）

(別紙による。)

(別紙による。)

(令和 4年版)

(令和 4年版)

(令和 4年版)

(3) 項目は、○印のついたものを適用する。○印のない場合は、※印のあるものを適用する。○印と⊙印のある場合は、共に適用する。

1. 2 鉄筋の仕様

鉄筋の種類及び継手は、別紙建築工事特記仕様書又は建築改修工事特記仕様書による。

1. 1 表 鉄筋の種類及び継手

種 別	径	
鉄筋の種類	SD 235	※D16以下
	SD 345	※D19以上
鉄筋の継手	重ね継手	下記以外
	ガス圧接	※D19以上、D29以下の柱、梁主筋
	機械式継手	※図示による。

1. 3 コンクリートの仕様

コンクリートの仕様は、別紙建築工事特記仕様書又は建築改修工事特記仕様書による。

1. 2 表 コンクリートの仕様

分 類	コンクリート種別	設計基準強度 (N/mm ²)	スラブ厚 (mm)	セメントの種類	
鉄筋コンクリート	地上	※普通コンクリート	※24	※18	※普通ポルトランドセメント
	地下基礎、基礎壁	※普通コンクリート	※24	※15	※普通ポルトランドセメント
無筋コンクリート	※普通コンクリート	※18	※15	※ 普通ポルトランドセメント	

注1) 無筋コンクリートには捨てコンクリートを含む。

1. 4 砕石及び捨てコンクリート

砕石及び捨てコンクリートの厚さは、特記がなければ 1. 3 表による。

1. 3 表 砕石及び捨てコンクリートの仕様

種 別	厚さ (mm)
砂利または砕石	※ 60
捨てコンクリート	※ 50

2 共通事項

2. 1 記号及び符号

設計図中で使用する記号及び符号は、2. 1 表及び2. 2 表を標準とする。

2. 1 表 鉄筋の断面表示

径	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
記 号	●	×	∅	●	○	⊙	⊗	⊗

2. 2 表 一般凡例

記 号 符 号	内 容	※印の説明及び注意事項
F※	フーチング断面種別	※番号
※1C※2	柱断面種別	※1 階数 ※2 その階の番号
※1G※2	大梁断面種別	※1 階数、地中大梁はFとする ※2 その階の番号 X方向1, 2, 3 - - - Y方向A, B, C - - -
CB※	片持大梁断面種別	※ 番号、階別区分はしない
※1B※2	小梁断面種別	※1 地中小梁のみとする。 ※2 階別区分はしない 地中小梁を除く
CB※	片持小梁断面種別	※ 番号、階別区分はしない
※1W※2	壁配筋種別	※1 E: 耐震壁、K: 階段壁 D: 土圧、水圧を受ける壁 ※2 階別区分はしない 壁厚 (mm)
※1S※2※3	床版配筋種別	※1 片持床版のみとする ※2 床厚 (mm) ※3 配筋種別 (英大文字) 階別区分はしない
※1K※2	階段の配筋種別	※1 A: 片持床版形 B: 二辺固定床版形 ※2 配筋種別 (数字) 階別区分はしない
CB※	コンクリートブロック壁	※ 壁厚 (mm)
打ち増し範囲		
梁・床版の上がり下がり		一般には基準凡例の+、-に 応じた凡例により表示
(※)	採用機軸荷重	機軸荷重の値 (kN/m ²)
STP	あばら筋、スターラップ	梁、基礎梁、小梁
HOOP	帯筋、帯鉄筋、フープ	柱
S.HOOP	スバイラル筋、らせん筋	柱
幅止筋	幅止め筋	柱、梁、壁
組立て筋	組立て筋	床版、造版

2. 2 一般注意事項

(1) 設計図は監督職員の承諾を得なければ変更してはならない。
変更の必要を生じた場合は、監督職員と協議すること。

3 鉄筋の折曲げ加工

鉄筋の折曲げ加工は、3. 1 表を標準とする。
(1) Dは、折曲げ内法直径を示す。
(2) dは、鉄筋直径（呼び名）を示す。

3. 1 表 鉄筋の折曲げ形状及び寸法（末端部）

曲げ角度	折 曲 げ 図	折曲げ内法直径 (D)		使用箇所
		SD295 SD345		
		D16 以下	D19 "D38	
180°		3d以上	4d以上	柱、梁の主筋 杭基礎のベース筋 D16以上の鉄筋
135°		3d以上	4d以上	D13以下の鉄筋 あばら筋、帯筋、 スバイラル筋
90°		3d以上	4d以上	T形及びL形の梁の あばら筋
135° 90°		3d以上	4d以上	幅止め筋

(注)1. 片持スラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90° フック又は135° フックを用いる場合は、余長を4d以上とする。
2. 90° 未満の折曲げの内法直径は図面による。

4 異形鉄筋の末端部

4. 1 フックを設ける位置

異形鉄筋の末端部には、4. 1 表によりフックを設ける。

4. 1 表 フックを設ける位置

部 位	継手方式		備 考	
	重ね継手	任接継手		
柱	四隅の主筋	――	1) 最上隅の柱頭部 4.1図の●印 8.1図参照	
	上下隅の柱断面が異なる場合	――	1) 下隅の柱主筋を引き通すことができない柱頭部 4.1図の●印 8.2図参照	
	帯筋 (HOOP)	1) 末端部 2) 継手部	1) 末端部	9.1図参照
梁	あばら筋 (STP)	1) 末端部 2) 継手部	1) 末端部	11.1図参照
	独立フーチング基礎の配筋筋	1) 末端部 2) 継手部	1) 末端部	20.1図参照
煙突の鉄筋	1) 末端部 2) 継手部	1) 末端部	壁の一部となる場合を含む	
	幅止め筋	――	――	3.1表参照

4. 1 図 異形鉄筋の末端部

5 鉄筋のかぶり及び間隔

5. 1 かぶり厚さ

かぶり厚さとは、一番外側の鉄筋（幅止め筋、組立筋を除く）の外面から躯体面までの距離 (5.1図) をいう。
鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上を確保し、最小かぶり厚さに許容施工誤差10mmを加えた厚さ以内に納めるものとする。

5.1図 鉄筋のかぶり厚さ

5. 2 最小かぶり厚さ

最小かぶり厚さは、5. 1 表による。
(1) 床版、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨てコンクリートの厚さを含まない。
(2) 柱及び梁の主筋にD 29 以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の 1. 5 倍以上として最小かぶり厚さを定める。
(3) 溶接金網にも適用する。

5. 1 表 鉄筋の最小かぶり厚さ (mm)

構造部分の種類	※ 通常の施工の場合	※ 塩害対策を必要とする場合	
一 般	床、耐力壁以外の壁	30	40
	柱、梁、耐力壁	40	50
	床版	40	50
	柱、梁、床、壁	40	50
土、水に接する部分	床版、基礎	60	70
煙突等高熱を受ける部分	60	70	

1: 打継目地部分は目地底より最小かぶり厚さを確保する。
2: 杭基礎の場合の最小かぶり厚さは、杭天端からとし、「21 杭基礎の補強」を参照。
3: 仕上なしの場合を標準とする。

5. 3 鉄筋相互のあき及び間隔

鉄筋相互のあきは、下記の最大値のもの以上とする。ただし、機械式継手及び溶接継手の場合のあきは図面による。
(1) 縦骨材の最大寸法の1.25倍
(2) 最小のあき25mm
(3) 隣り合う鉄筋の平均径（呼び名の数値）の1.5倍

鉄筋相互のあき及び間隔

5. 2 図 鉄筋相互のあき及び間隔

5. 2 表 鉄筋径と鉄筋間隔の関係一覧

鉄筋径 (mm)	鉄筋相互のあき a			最小鉄筋芯間隔
	(1) 最も外縁 D	(2) 最小あき	(3) 鉄筋径×1.5	
鉄筋径 d	縦骨材径×1.25	最小あき	鉄筋径×1.5	a+0
D10	11	25mm	15mm	43mm
D13	14		20mm	46mm
D16	18		24mm	50mm
D19	21		29mm	53mm
D22	25		33mm	58mm
D25	28		38mm	66mm
D29	33	44mm	77mm	

事 業 名

令和 6 年度 公共下水道事業

工 事 名

白須賀ポンプ場耐震補強工事

工事場所

四日市市 白須賀三丁目 地内

名 称

構造細目共通図（建築構造物）(1) R4

縮 尺

1/100

設計年月日

令和 5 年 3 月

工 種

株式会社
日新技術コンサルタント

設計者

事業主体
四日市市
上下水道局

図面番号

S-1

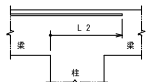
AWS C J (第5版) - 3 0 9 - 0 0 4

10 大梁筋の継手及び定着

10.1 大梁（基礎梁以外の大梁に限る）主筋の継手、定着及び余長

大梁主筋の継手及び定着の一般事項

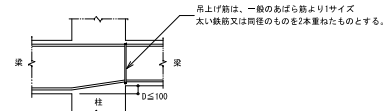
a. 梁主筋は、原則として、柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことが出来ない場合は、b. により柱内に定着することができる。
ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は、10.1図による。



10.1図 大梁主筋の梁内定着

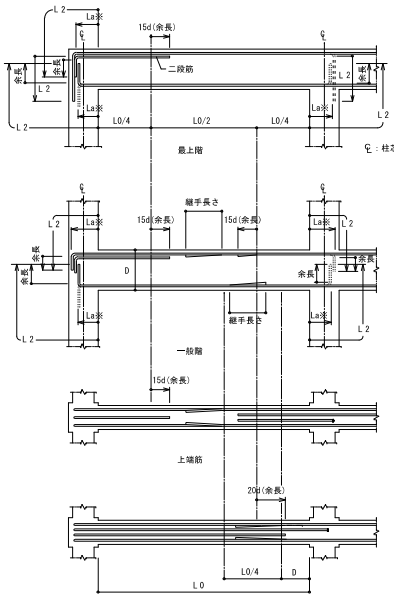
b. 梁主筋を、柱内に折曲げて定着する場合は次による。
なお、定着の方法は、6.1.4による。
上端筋：曲げ下ろす。
下端筋：原則として曲げ上げる。

c. 段違い梁は10.2図による。



10.2図 段違い梁

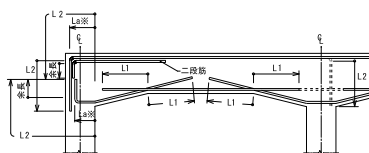
10.2 ハンチのない場合



10.3図 大梁の重ね継手、定着及び余長

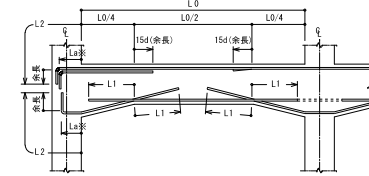
10.3 ハンチのある場合

(1) 最上層の場合



10.4図 ハンチのある大梁の定着及び余長（最上層）

(2) 一般層の場合



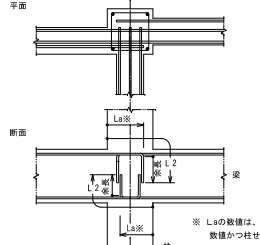
10.5図 ハンチのある大梁の定着及び余長（一般層）

(注) 1. 4. 異形鉄筋の末端部で定めた数値には、フックを付ける。
2. 印は、継手及び余長を示す。
3. 梁内定着の端部下端筋が接合するときは、のようにより引き通すことができる。
4. 破線は、梁内定着の場合を示す。
5. 梁筋カットオフ位置及び余長は図面による。
※ Laの数値は、原則として、6.3表の数値かつ柱せいの3/4倍以上とする。

10.4 水平段差のある場合

水平段差のある場合

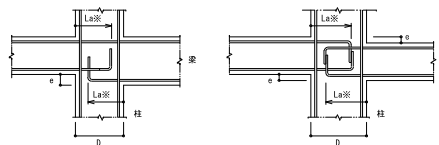
平面



10.6図 大梁の定着及び余長（水平段差のある場合）

10.5 鉛直段差（e）のある場合

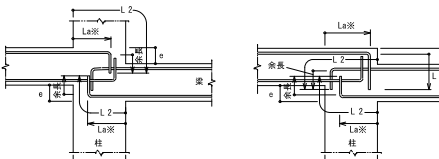
(1) e/D ≤ 1/6の場合



定着の長さは、10.3図に準ずる
※ Laの数値は、原則として、6.3表の数値かつ柱せいの3/4倍以上とする。

10.7図 鉛直段差梁（その1）

(2) e/D > 1/6の場合



10.8図 鉛直段差梁（その2）

11 梁のあばら筋、腹筋及び幅止め筋

11.1 一般事項

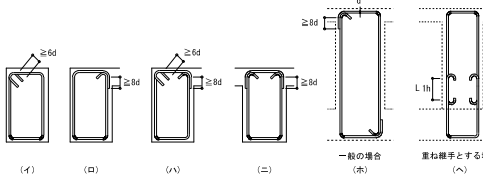
(1) 腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、150mm程度とする。
(2) 壁梁の場合、腹筋の定着長さ及び継手長さは、L2とする。
(3) 土圧、水圧を受ける家は、図面による。
(4) 幅止めの筋及び受け用幅止めの筋は、D10～100.0mm程度とする。

11.2 あばら筋組立の形及びフックの位置

(1) 形は、1.1.1図(イ)を標準とする。
ただし、(イ)によることが出来ない場合は、下記の方法によることが出来る。
a. 床版が外側に付く場合は、(ロ)又は(ハ)
b. 床版が内側に付く場合は、(ロ)～(ニ)

(2) フックの位置

a. (イ)の場合は交互とする。
b. (ロ)の場合 床版が片側に付く場合は床版の付く側。床版が両側に付く場合は交互。
c. (ハ)の場合は床版の付く側を90°折曲げ、Bdを確保する。
d. (ホ) (ヘ)の場合は梁の上のスラブが付く場合でかつ、梁せいが1.5m以上の場合に適用する事ができる。（基礎梁）



11.1図 あばら筋組立の形及びフックの位置

11.3 あばら筋の割付け

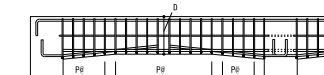
(1) 間隔が一樣でハンチのない場合



(注) 1. あばら筋は、柱梁の位置から割付ける。
2. 図中のP≦は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

11.2図 あばら筋の割付け（その1）

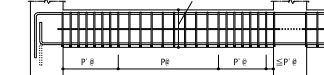
(2) 間隔が一樣でハンチのある場合



(注) 1. あばら筋は、柱梁の位置及びハンチに切り替わる位置から割付ける。
2. 図中のP≦は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

11.3図 あばら筋の割付け（その2）

(3) 梁の端部で間隔の異なる場合



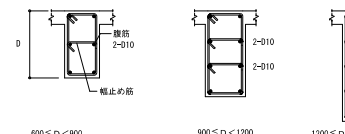
(注) 1. あばら筋は、柱梁の位置から割付ける。
2. 図中のP≦、P'≦は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

11.4図 あばら筋の割付け（その3）

11.4 腹筋及び幅止め筋

(1) 一般の梁

a. 腹筋及び幅止め筋



600 ≤ D < 900 900 ≤ D < 1200 1200 ≤ D ≤ 1500

11.5図 腹筋及び幅止め筋

(2) 特殊な梁

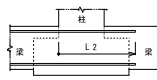
腹筋及び幅止め筋は、図面による。

12 基礎梁及び底版の継手及び定着

12.1 基礎梁主筋の継手、定着及び余長

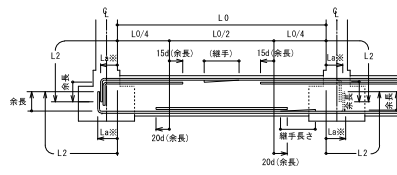
(1) 一般事項

(a) 梁筋は、連続壁で柱に接する床版が同数の時は柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合は柱内に定着する。やむを得ず梁内に定着する場合は、12.1図による。
(b) 梁筋を柱内に定着する場合は10.1(1)による。



12.1図 梁筋の基礎梁内への定着

(2) 独立基礎で基礎梁（スラブなどの上載荷重を受ける場合）の主筋の継手、定着及び余長



12.2図 主筋の継手、定着及び余長（その1）

事業名

令和6年度公共下水道事業

工事名

白須賀ポンプ場耐震補強工事

工事場所

四日市市 白須賀三丁目 地内

名 称

構造細目共通図（建築構造物）③ R4

縮 尺

1/100 設計年月日 令和5年3月

工 種

設計者 株式会社 目録技術コンサルタント

事業主体

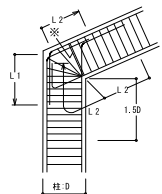
四日市市 上下水道局 図面番号 S-3

15床の配筋要領 15.1一般事項 (1)鉄筋の継手長さは、L1とする。 (2)定着長さ及び受け筋は、15.1図による。ただし、引き通すことができない場合は、15.2図、15.3図により梁内に定着する。 (3)基礎梁と床版を一体打ちとしないで、打ち継ぎを設ける場合の補強は図面による。 15.1図 スラブ筋の定着長さ及び受け筋(その1) 15.2図 スラブ筋の定着長さ及び受け筋(その2) 15.3図 スラブ筋の定着長さ及び受け筋(その3) ※ Lbの数値は、原則として、6.3表の数値かつ梁幅の1/2倍以上とする。 15.2片持スラブ (1)片持スラブの配筋 15.4図 片持スラブの配筋 (2)先端に小梁がなく壁が取り付く場合 15.5図 先端に壁が付く場合の配筋	15.3片持ちスラブ出隅部の補強配筋 (1)出隅部の補強筋は図面により、配筋方法は、15.6図による。 (2)出隅受け部分(図のハッチ部分)の配筋は、図面による。 15.6図 片持ちスラブ出隅部の補強配筋 15.4地上部最上階の屋根床版 (1)出隅及び入隅部分には、15.7図により、補強筋(溶接金網)を上端筋の下側に配筋する。 (2)陸屋根、勾配屋根共通とする。 15.7図 出隅及び入隅部分の補強配筋	16柱及び梁の増し打ち要領 16.1柱 (1)増し打ちコンクリートの補強は、16.1図による。 ただし、a<70mmの場合、補強は行わない。200mm<aの場合は、図面による。 16.1図 柱の増し打ち補強配筋 (2)増し打ち部分での鉄筋は、定着長さとして認めない。ただし、躯体と一体打ちの場合は除く。 (3)増し打ち部分の帯筋の定着長さは、L2以上とする。 (4)増し打ち部分主筋の定着、重ね長さは、柱の主筋による。 16.2梁 (1)増し打ちコンクリートの補強は、16.2図による。 a<70mmの場合、補強は行わない。200mm<aの場合は、図面による。 16.2図 梁の増し打ち補強配筋 (2)増し打ち部分での鉄筋は、定着長さとして認めない。ただし、躯体と一体打ちの場合は除く。 (3)増し打ち部分のあばら筋の定着長さは、L2以上とする。 (4)増し打ち部分の主筋の定着、重ね長さは、梁の主筋による。 (5)梁の上下の増し打ちが途中で終わる場合 16.3図 梁の上下の増し打ち配筋補強(途中で終わる場合) (6)梁の側面の増し打ちが途中で終わる場合 16.4図 梁の側面の増し打ち補強配筋(途中で終わる場合)	18階段の配筋要領 18.1階段の配筋要領 (1)壁配筋は、図面による。 (2)階段主筋は、壁の中心線を越えてから縦に曲げ下ろす。 18.1図 片持ちスラブ形階段配筋の定着
--	--	---	---

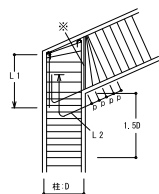
事業名	令和 6年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名称	構造補目共通図（建築構造物）(5) R4		
縮尺	1/100	設計年月日	令和 5年 3月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-5

19. 1 斜め柱・斜め梁の取り合い

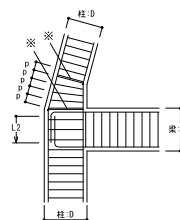
- a) 柱幅と斜材(柱又は梁)幅が同一



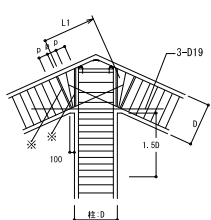
- b) 柱幅と斜材幅が異なる



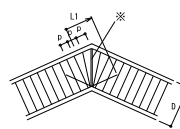
- c) 柱脚で斜材となる



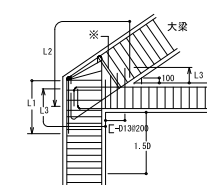
- d) 柱頭で斜材となる上端筋は、連続筋とする。



- e) 梁が斜材となる上端筋は、連続筋とする。

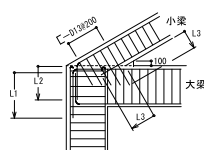


- f) 斜め大梁に小梁が接する場合
柱筋はa), b)に倣う。



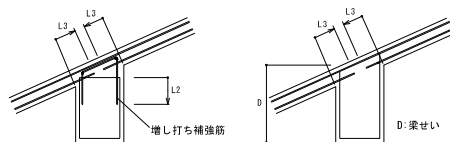
19.1図 斜め柱・斜め梁の取り合い配筋

- g) 大梁に斜め小梁が接する場合



増し打ち補強要領は、16.2による。

増し打ち補強要領は、16.2による。



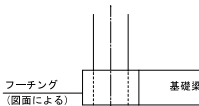
19.2図 梁と床版の取り合い配筋

19.3 円柱の取り合い

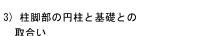
円柱と梁の取り合い



- 1) 柱頭部で柱芯に梁が



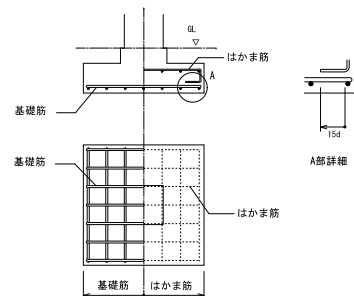
- 2) 柱頭部で柱外面に梁が



19.3図 円柱の取り合い配筋

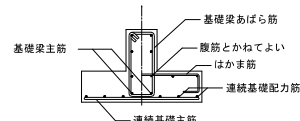
20.1 直接基礎の配筋

- (1) 獨立基礎

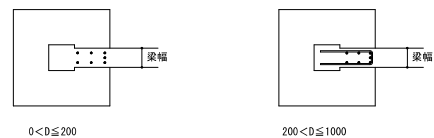
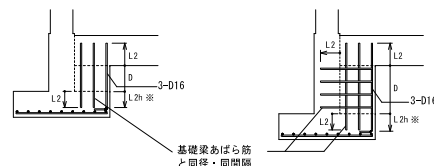


20.1図 独立基礎の配筋

- ## (2) 連續基礎



20.2図 連続基礎の配筋

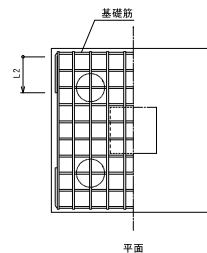
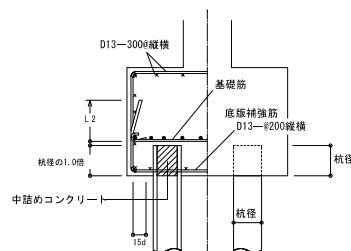


※L 2を確保できない場合は、標仕(5.3.4(e)(2))によることができる。

2.1 杭基礎の補強

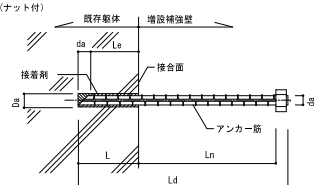
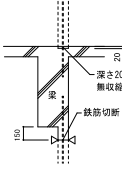
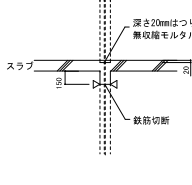
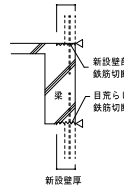
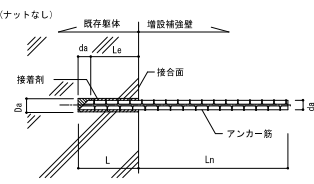
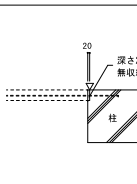
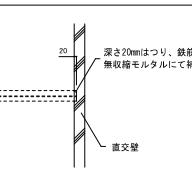
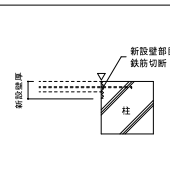
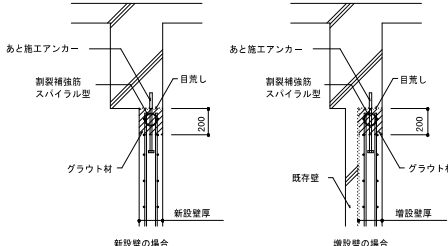
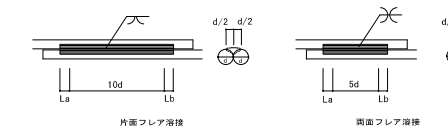
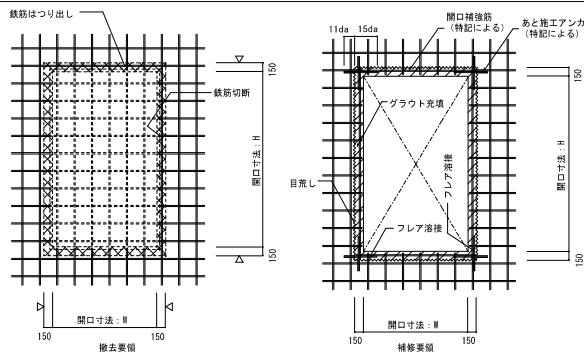
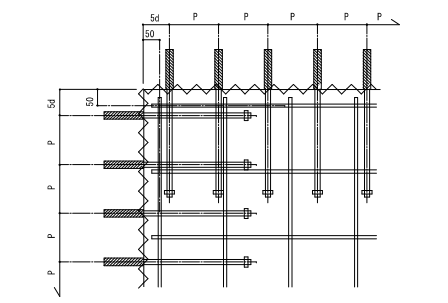
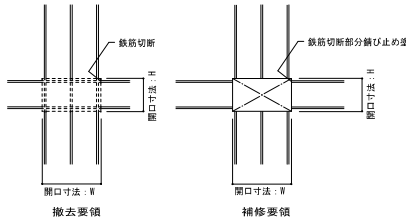
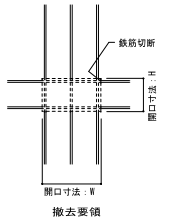
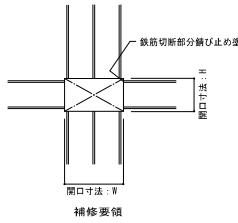
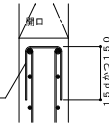
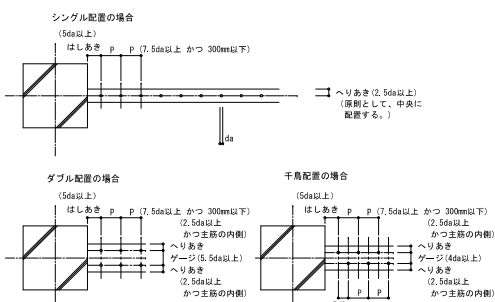
2 1. 1 杭基礎の配筋

- (1) 中詰めコンクリートは、基礎のコンクリートと同じ調合のコンクリートを使用する。
(2) 既製コンクリート杭以外の場合は、特記による。

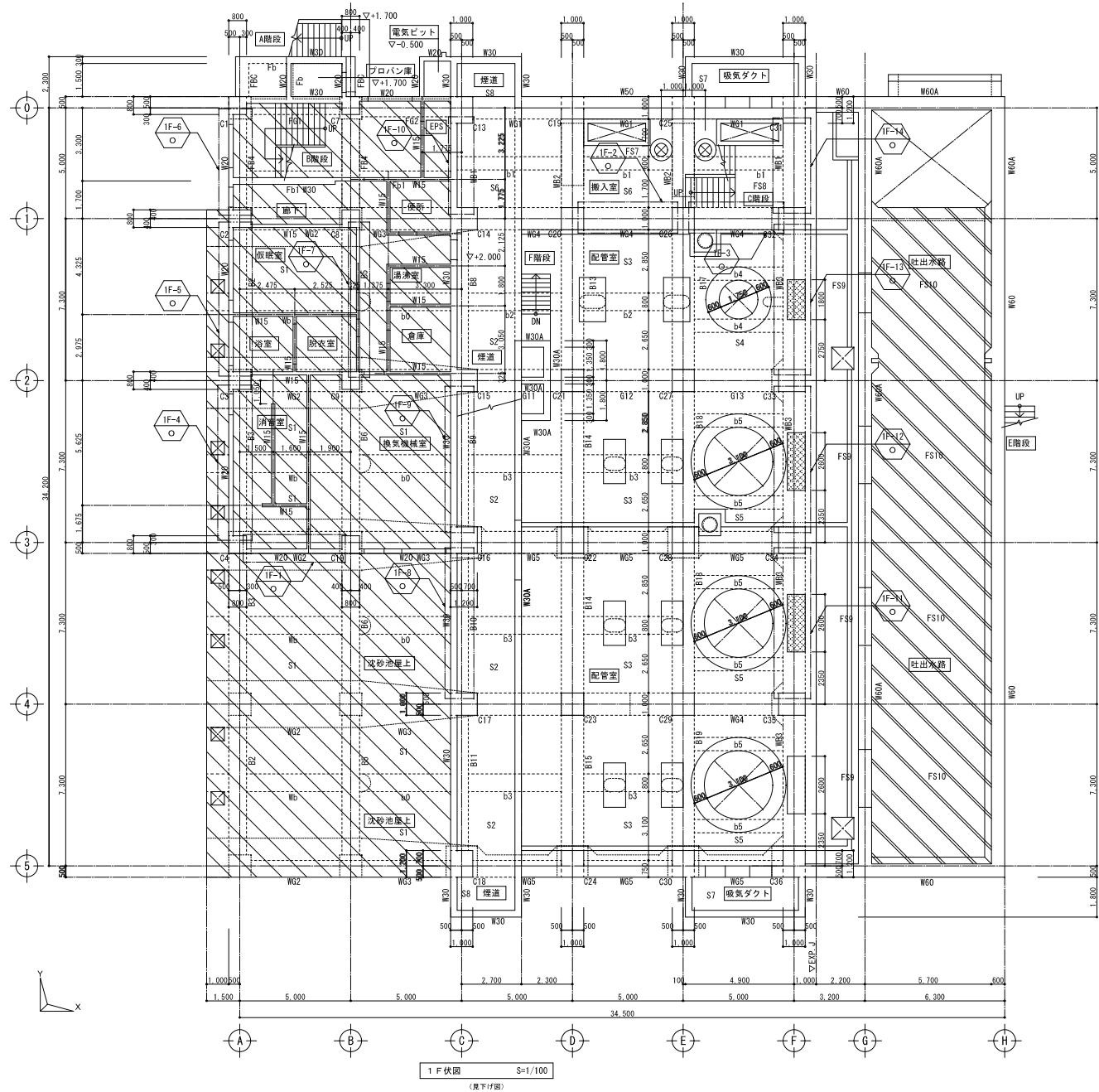


21.1図 杭基礎の配筋及び杭頭部の補強方法

事業名	令和 6 年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名称	構造細目共通図（建築構造物）(R) 64		
縮尺	1/100	設計年月日	令和 5 年 3 月
工種		設計者	株式会社 日新技研コンサルタンツ
事業主体	四日市市 下水道部	図面番号	S-6

あと施工アンカー		割製補強筋配筋要領		既存壁等撤去要領図		S=1/30		注記) 特記なき壁等の撤去は下図による。 注記) ◁ 印は、コンクリートカッター位置を示し、カッター深さ30とする。		注記) 鉄筋切断部には、横止の塗装を行う。 注記) 鉄筋はつり出しは、特記による。																																			
(1) 接着系アンカー				1. 割製補強筋は、改修壁の柱・梁に接する面全てに配置する。 2. 割製補強筋は、6φスパイラル型とし、ピッチ、スパイラル径は下記による。 3. 継手は、2巻以上の重ねとする。				撤去壁-梁 取合部（撤去のみの場合）		撤去壁-スラブ 取合部		撤去壁-梁 取合部（壁を新設する場合）																																	
				<table><tr><th>壁 厚</th><th>スパイラル径</th><th>割製補強筋</th><th>備 考</th></tr><tr><td>150</td><td>75φ</td><td>6φ#50</td><td></td></tr><tr><td>200</td><td>120φ</td><td>6φ#50</td><td></td></tr><tr><td>250</td><td>150φ</td><td>6φ#50</td><td></td></tr><tr><td>300</td><td>200φ</td><td>6φ#50</td><td></td></tr><tr><td>350</td><td>250φ</td><td>6φ#50</td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				壁 厚	スパイラル径	割製補強筋	備 考	150	75φ	6φ#50		200	120φ	6φ#50		250	150φ	6φ#50		300	200φ	6φ#50		350	250φ	6φ#50															
壁 厚	スパイラル径	割製補強筋	備 考																																										
150	75φ	6φ#50																																											
200	120φ	6φ#50																																											
250	150φ	6φ#50																																											
300	200φ	6φ#50																																											
350	250φ	6φ#50																																											
				新設・増設壁上部グラウト要領				撤去壁-柱 取合部（撤去のみの場合）		撤去壁-直交壁 取合部		撤去壁-柱 取合部（壁を新設する場合）																																	
L：コンクリートの穿孔深さ、または接着系アンカーの埋め込み長さ Le：アンカーの有効埋め込み長さ Ld：アンカー-筋の全長 Ln：有効定着長さ da：既存コンクリート躯体への穿孔径 da：アンカー-軸部の直径、アンカー-筋の呼び名				1. 特記なき新設・増設壁上部は、グラウトを行う。 2. グラウト材の設計基準強度は30N/mm2以上とする。調査はJIS R 5201(セメントの物理試験方法)のフロー試験によるモルタルのコンシステンシーに応じ、フロー値は180mm以上240mm未満とする。コンシステンシー試験はJIS R 5201試験法に準ずる。																																									
<table><tr><th colspan="3">アンカー関係共通事項</th></tr><tr><td>接着系アンカーの有効</td><td>埋め込み長さ</td><td>一般部：Le=7da 開口補強筋：Le=12da</td></tr><tr><td>接着系アンカーの有効</td><td>定着長さ</td><td>一般部：Ln=20da 開口補強筋：Ln=40da+5da (=補強筋との継手長さ+すり抜け)</td></tr><tr><td>アンカー-筋形状</td><td colspan="2">ナット付き異形棒鋼(開口補強筋用はナットなし)とし、ナットからねじ山が2山以上でこと。 また、先端形状は45°カットとする。</td></tr></table>				アンカー関係共通事項			接着系アンカーの有効	埋め込み長さ	一般部：Le=7da 開口補強筋：Le=12da	接着系アンカーの有効	定着長さ	一般部：Ln=20da 開口補強筋：Ln=40da+5da (=補強筋との継手長さ+すり抜け)	アンカー-筋形状	ナット付き異形棒鋼(開口補強筋用はナットなし)とし、ナットからねじ山が2山以上でこと。 また、先端形状は45°カットとする。						撤去壁-梁 取合部																									
アンカー関係共通事項																																													
接着系アンカーの有効	埋め込み長さ	一般部：Le=7da 開口補強筋：Le=12da																																											
接着系アンカーの有効	定着長さ	一般部：Ln=20da 開口補強筋：Ln=40da+5da (=補強筋との継手長さ+すり抜け)																																											
アンカー-筋形状	ナット付き異形棒鋼(開口補強筋用はナットなし)とし、ナットからねじ山が2山以上でこと。 また、先端形状は45°カットとする。																																												
<table><tr><th colspan="3">施工確認試験荷重（確認強度）</th></tr><tr><th>アンカー-筋呼び名(da)</th><th>アンカーの有効埋込長さ(Le)</th><th>荷 重 (kN)</th></tr><tr><td>D16</td><td>7da</td><td>17.9</td></tr><tr><td>D19</td><td>7da</td><td>28.4</td></tr><tr><td>D22</td><td>7da</td><td>36.3</td></tr><tr><td>D19</td><td>12da</td><td>49.0</td></tr><tr><td>D22</td><td>12da</td><td>62.5</td></tr></table> 確認強度は、計算で得られた、アンカーの鋼材による引張荷重又はコンクリート破壊による引張荷重（埋込みピッチ及びへりあきの影響を受ける場合は、低減した荷重）の小さい方の2/3程度の荷重。				施工確認試験荷重（確認強度）			アンカー-筋呼び名(da)	アンカーの有効埋込長さ(Le)	荷 重 (kN)	D16	7da	17.9	D19	7da	28.4	D22	7da	36.3	D19	12da	49.0	D22	12da	62.5	鉄筋フレア溶接要領				新設壁開口配筋要領図																
施工確認試験荷重（確認強度）																																													
アンカー-筋呼び名(da)	アンカーの有効埋込長さ(Le)	荷 重 (kN)																																											
D16	7da	17.9																																											
D19	7da	28.4																																											
D22	7da	36.3																																											
D19	12da	49.0																																											
D22	12da	62.5																																											
				1. 特記なき鉄筋のフレア溶接は、下図の片面または両面とする。 2. 鉄筋のフレア溶接の溶接長さは、ビードの始点(La)及び、クレーター(Lb)を離れた部分の長さとする。但し、La 及び Lbは 2d以上とする。				1. 床・壁にコア抜きにより先導孔を開ける。 2. 各開口寸法に合わせ、コンクリートカッター及び、はつり出しにより開口部を開ける。 3. 小開口部は切断面の補修（横び止めの塗装）を施す。 大開口部はあと施工アンカーにより、開口補強筋を設ける。 開口補強筋を取り付けた後、内型枠に合わせグラウト材を充填する。		○大開口部 ・適用は特記による。																																			
アンカー-筋ピッチ標準				○小開口部 ・適用は特記による。				撤去要領		補修要領																																			
																																													
(2) あと施工アンカーの位置と間隔				一般事項				1. 参考図書 「2017年改訂版 既存鉄筋コンクリート建築物の耐震改修設計指針 同解説」 日本建築防災協会／国土交通大臣指定耐震改修支援センター ※第3章 補強部材・部位の設計 ※第4章 補強工事の施工																																					
																																													

事業名	令和 6年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名称	耐震改修標準詳細図		
縮尺	-	設計年月日	令和 5年 3月
工種	設計者	株式会社 日新技術コンサルタント	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-7



凡例

特記なき限り下記による。

○ 部位置号 を示す。

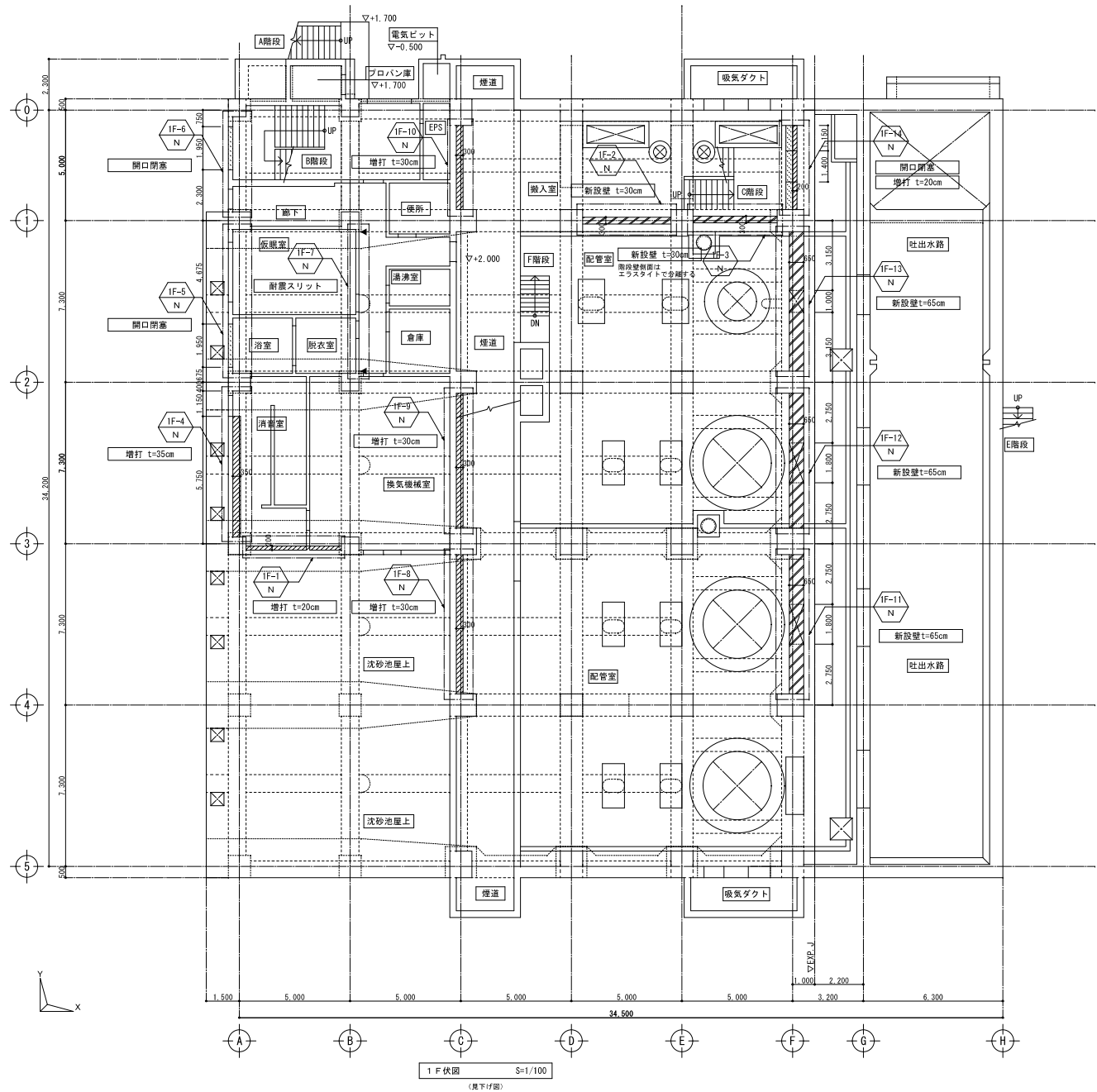
○ : 補強前、N : 補強後

改修工事範囲

特記なき限り下記による。

基準レベル	: IFL±0.0
第1スラブ上階レベル	: -1.00
スラブ	: S3
柱	: W20
印レベル	: ±2100 (▽±2,100)
印レベル	: ±0 (▽±0)

事業名	令和 6年度 公共下水道事業
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内
名称	1階伏図(改修前)
縮尺	1/100 設計年月日 令和 5年 3月
工種	設計者 株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局 図面番号 S-8

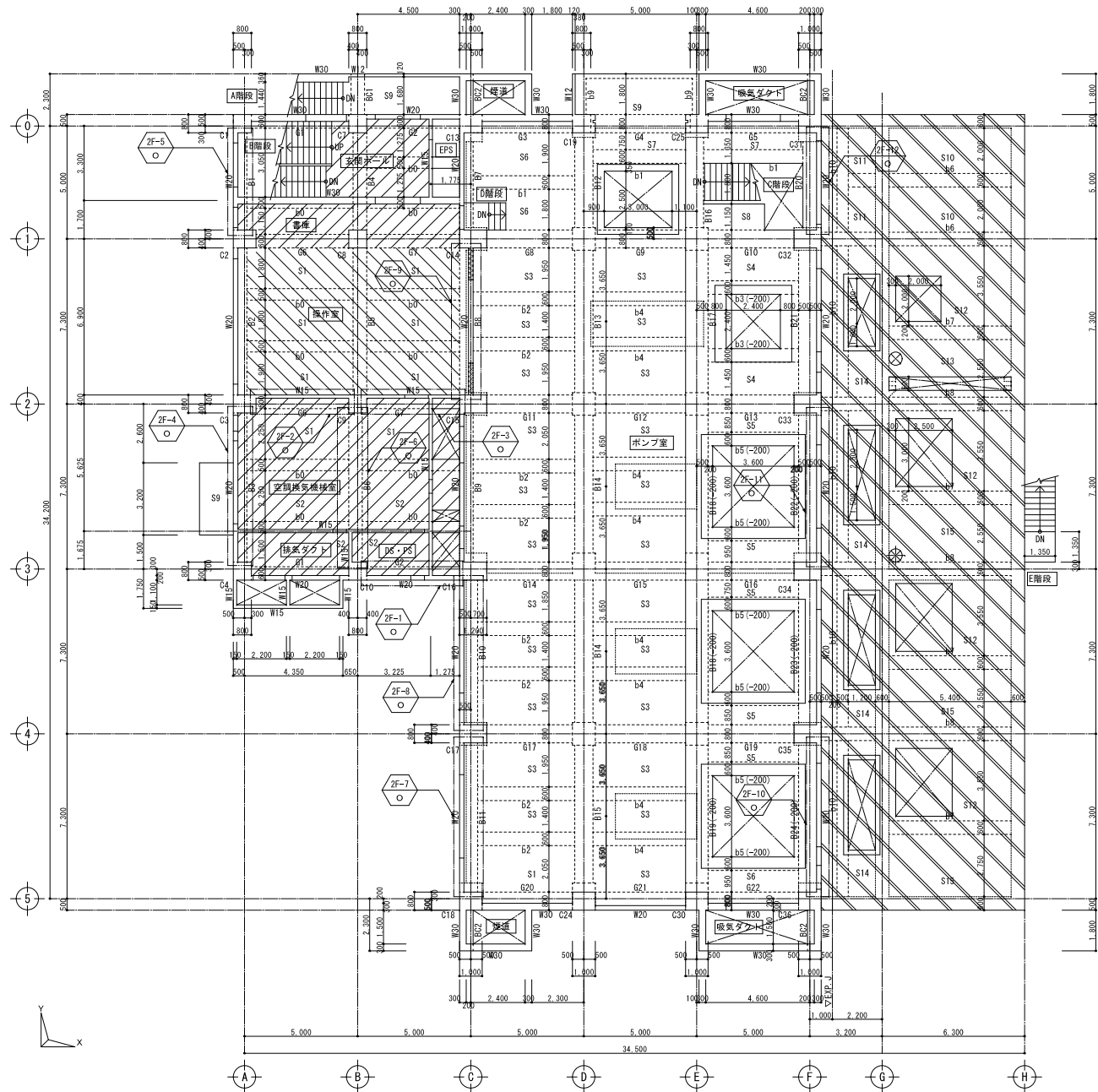


凡例

..... 断線なき限り下記による。

	 柱：開口部裏を示す。
	 柱：増打を示す。
	 柱：配筋精査を示す。
	 柱：耐震スリットを示す。

事業名	令和 6 年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名称	1階伏図(改修後)		
縮尺	1/100	設計年月日	令和 5 年 3 月
工種	設計者	株式会社 日新技術コンサルタント	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-9



凡例

○

特記なき限り下記による。

○

印：既設コンクリート。

及び鉄筋除去範囲を示す。

○

印：補強前、N：補強後

○ 部位番号 を示す。

□ 改修工事範囲

特記なき限り下記による。

基準レベル：2F上+5,500

第・スラブ上端レベル：-300

スラブ：S3

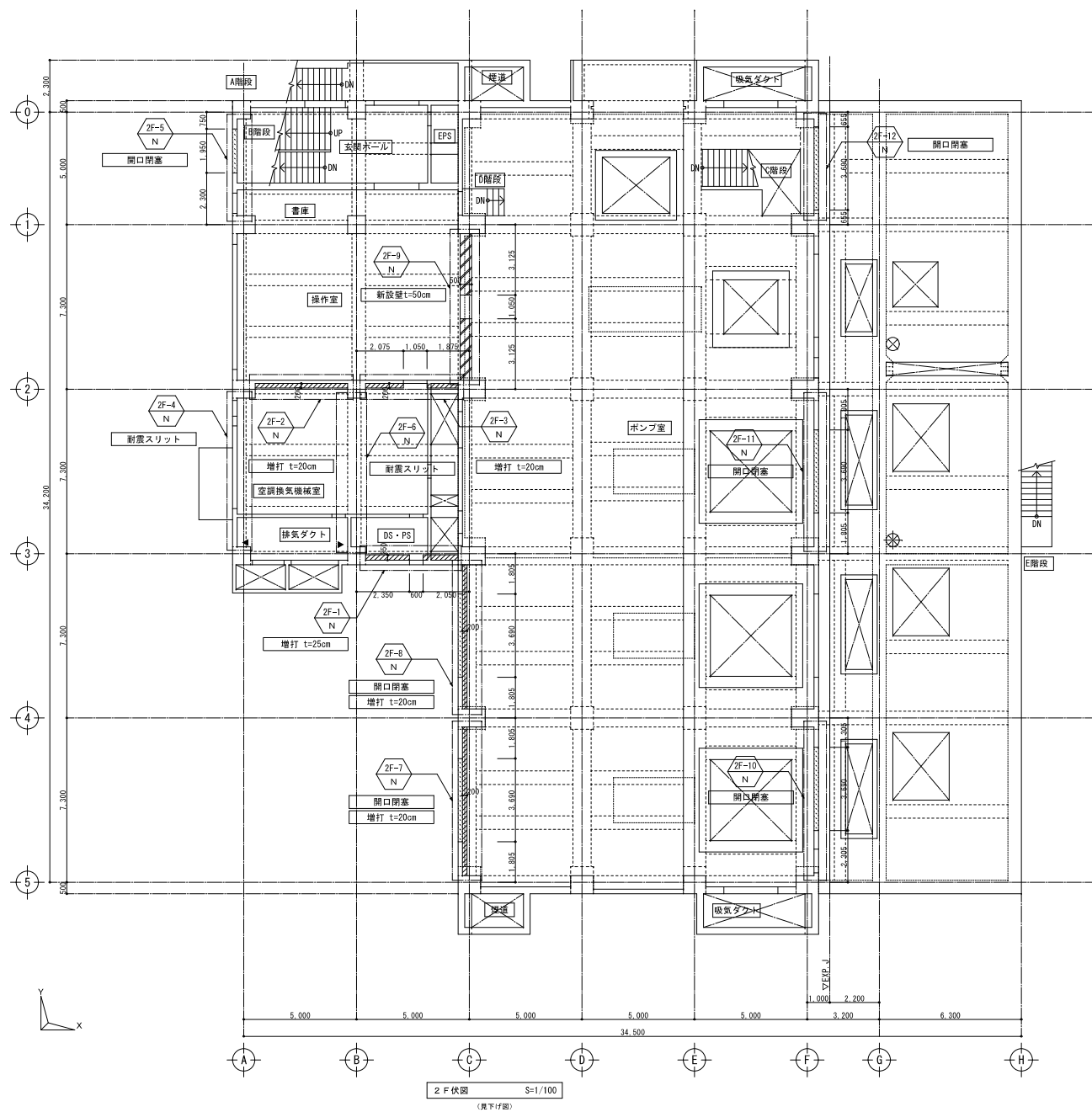
壁：W20

印レベル：+400 (▽+5,900)

印レベル：+700 (▽+6,200)

印レベル：-100±0 (▽+5,400→+5,500)

事業名	令和 6年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名称	2階伏図(改修前)		
縮尺	1/100	設計年月日	令和 5年 3月
工種	設計者	株式会社 日新技術コンサルタント	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-10



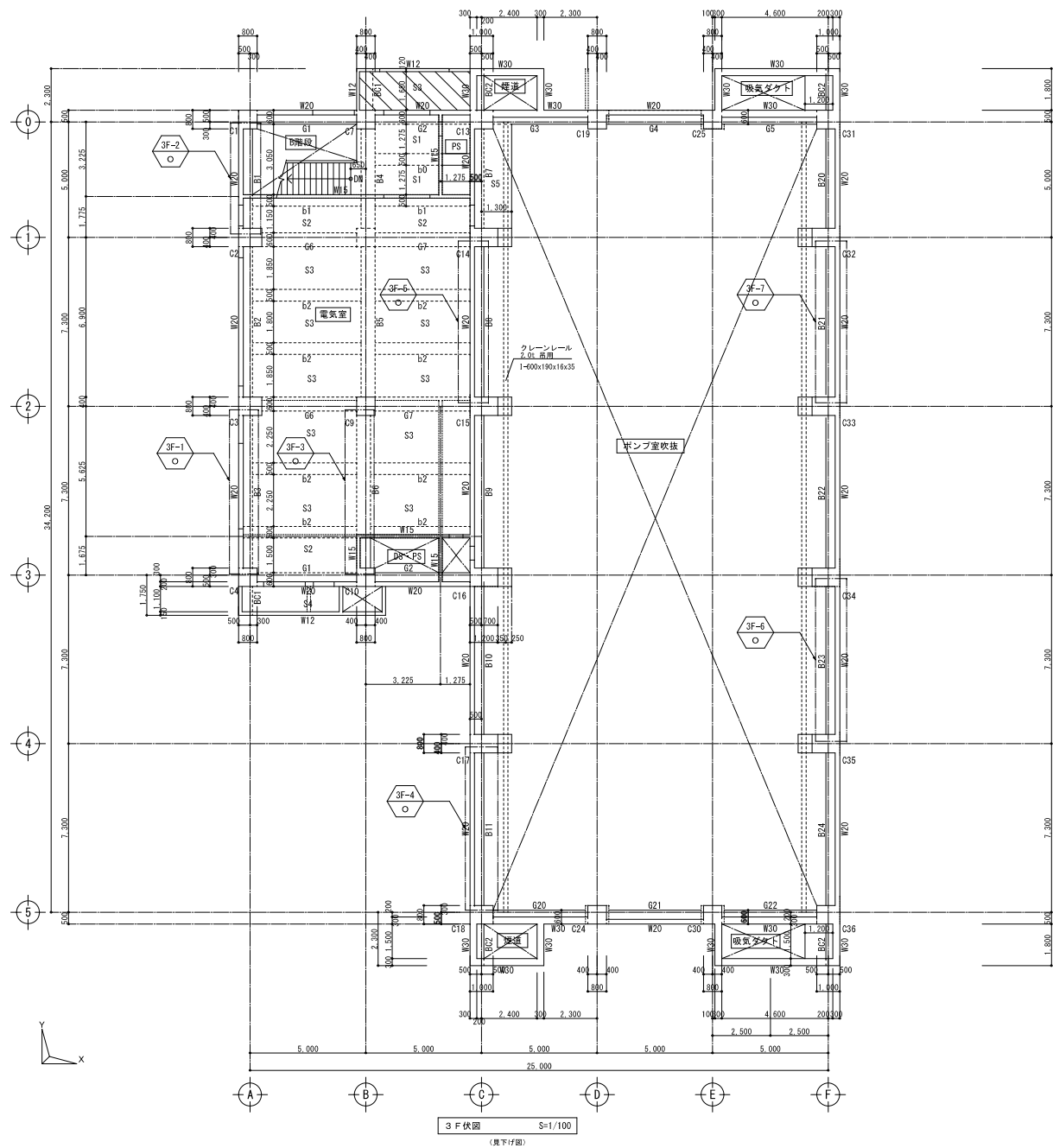
凡例

..... 略記なき限り下記による。

..... 印：開口閉塞を示す。

..... 印：増打を示す。

事業名	令和 6 年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名称	2階伏図(改修後)		
縮尺	1/100	設計年月日	令和 5 年 3 月
工種	設計者	株式会社 日新技術コンサルタント	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-11



凡例

..... 特記なき限り下記による.....

部位番号

○

補強前、N：補強後

.....

改修工事範囲

特記なき限り下記による。	
基準レベル	：3F・W+10,500
階・スラブ上端レベル	：±0
スラブ	：S3
壁	：W20
凹レベル	：-500 (▽+188,800)
凹レベル	：+2100 (▽+200,900)
凹レベル	：+2950 (▽+201,750)
凹レベル	：+700 (▽+189,500)

事業名	令和 6 年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名称	3階伏図(改修前)		
縮尺	1/100	設計年月日	令和 5 年 3 月
工種	設計者	株式会社 日新技術コンサルタント	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-12



〈見下付圖〉

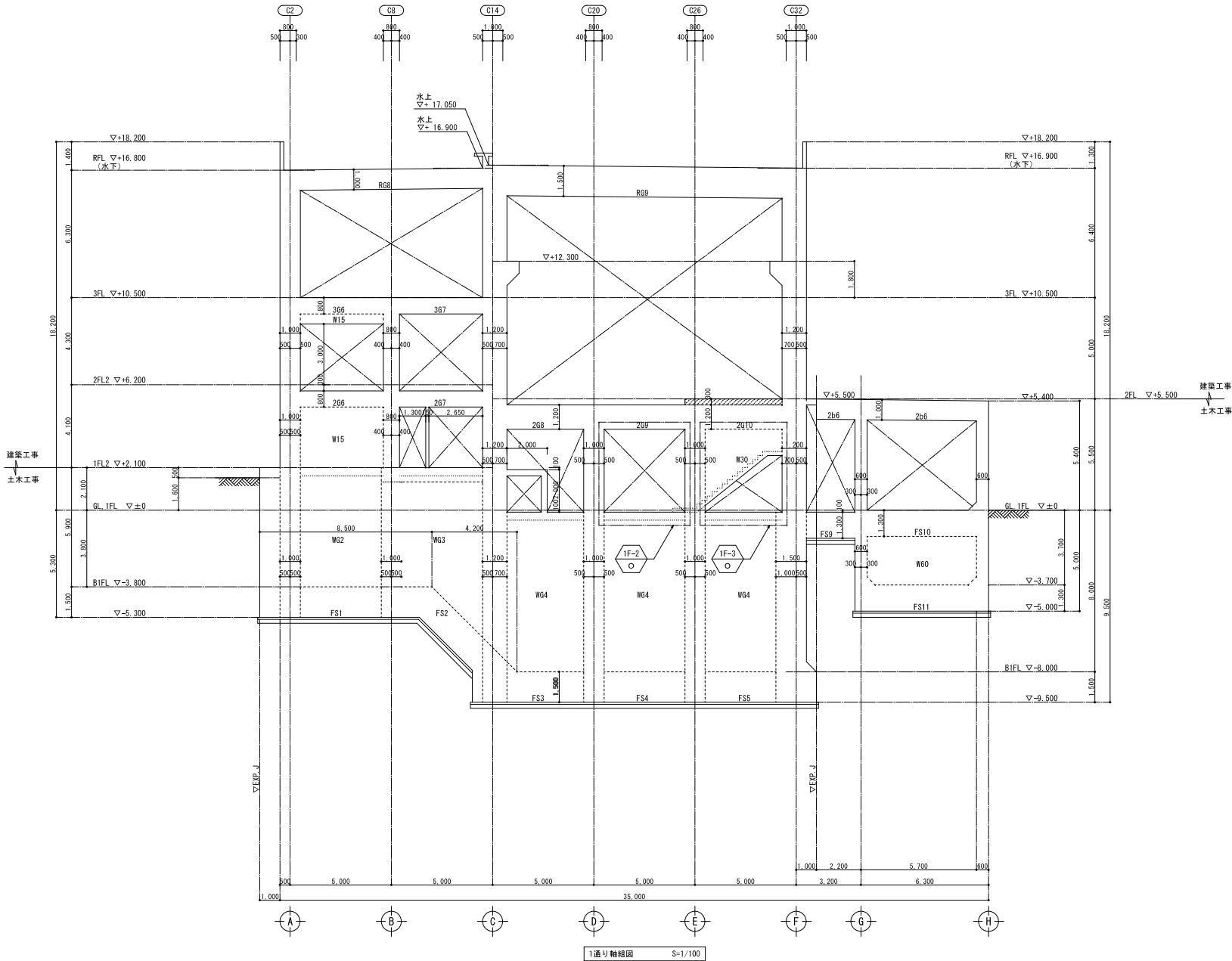
凡例

…検定なき限り下記による。

 印…増訂を示す。

 印…脱震ハリットを示す。

事業名	令和 6 年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名称	3階伏図(改修後)		
縮尺	1/100	設計年月日	令和 5 年 3 月
工種		設計者	株式会社 日暮建設コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道課	図面番号	S-13



凡例

..... 特記なき限り下記による。

 部位番号 を示す。

 ○ : 補強前、N : 補強後

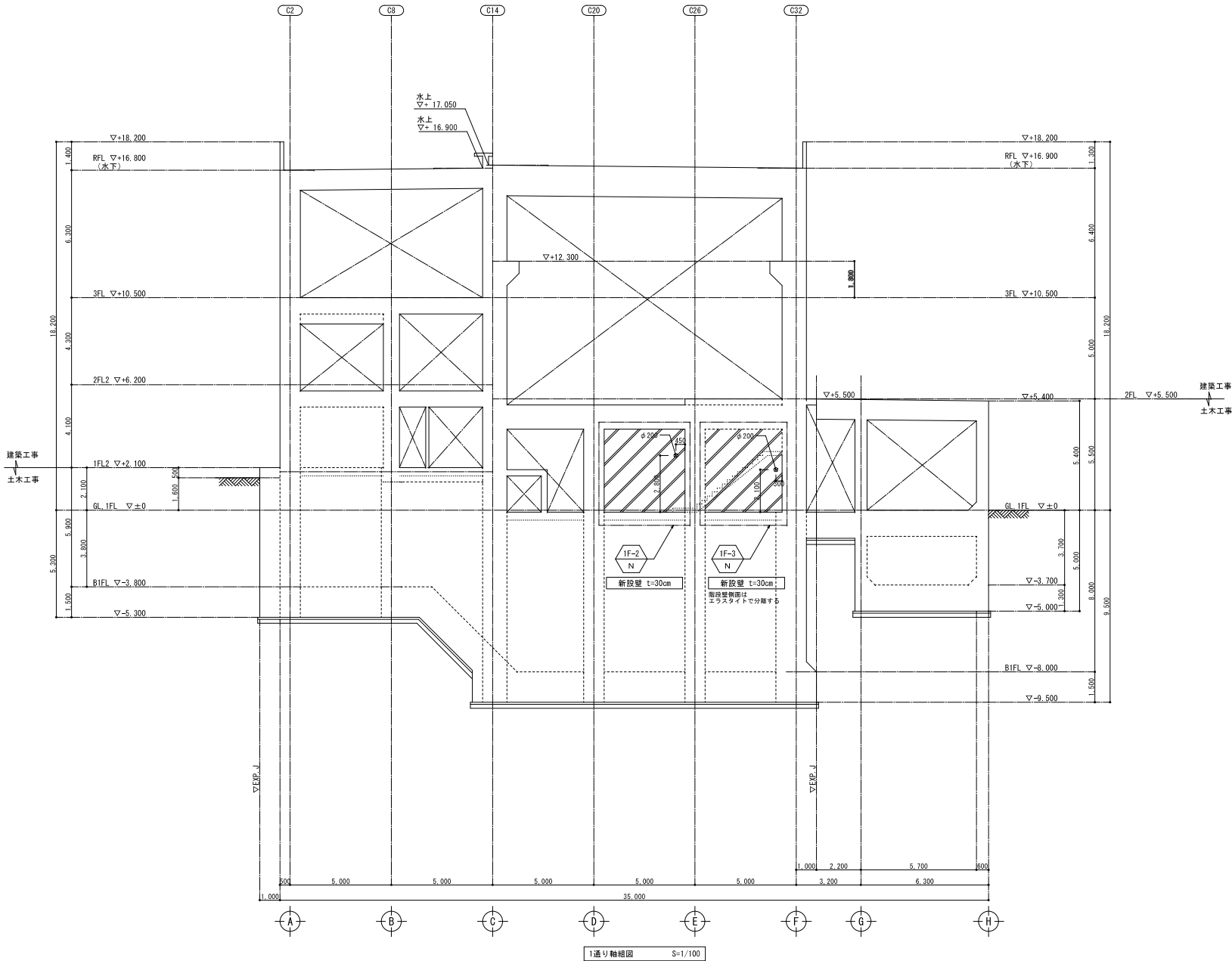
 改修工事範囲

特記なき限り下記による。

 印: フカシを示す。

 印は柱番号を示す。

事業名	令和 6 年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名称	1通り軸組図 (改修前)		
縮尺	1/100	設計年月日	令和 5 年 3 月
工種	設計者	株式会社 日新技術コンサルタント	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-14

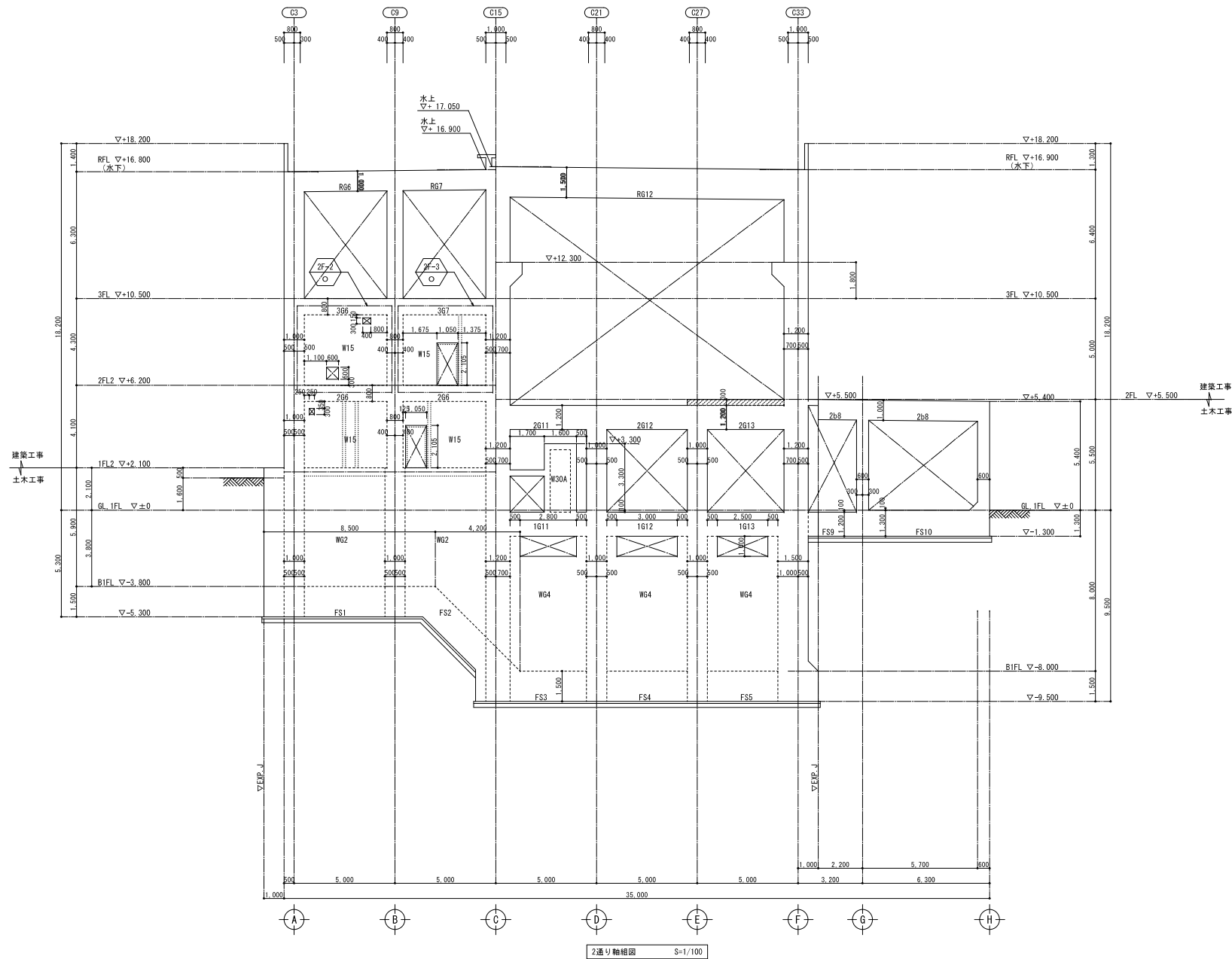


凡例

.....特記なき限り下記による。

 印：新設新設を示す。

事業名	令和 6 年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名称	1通り軸組図（改修後）		
縮尺	1/100	設計年月日	令和 5 年 3 月
工種	設計者	株式会社 日新技術コンサルタント	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-15



凡例

特記なき限り下記による。

部位番号 を示す。

○：補強前、N：補強後

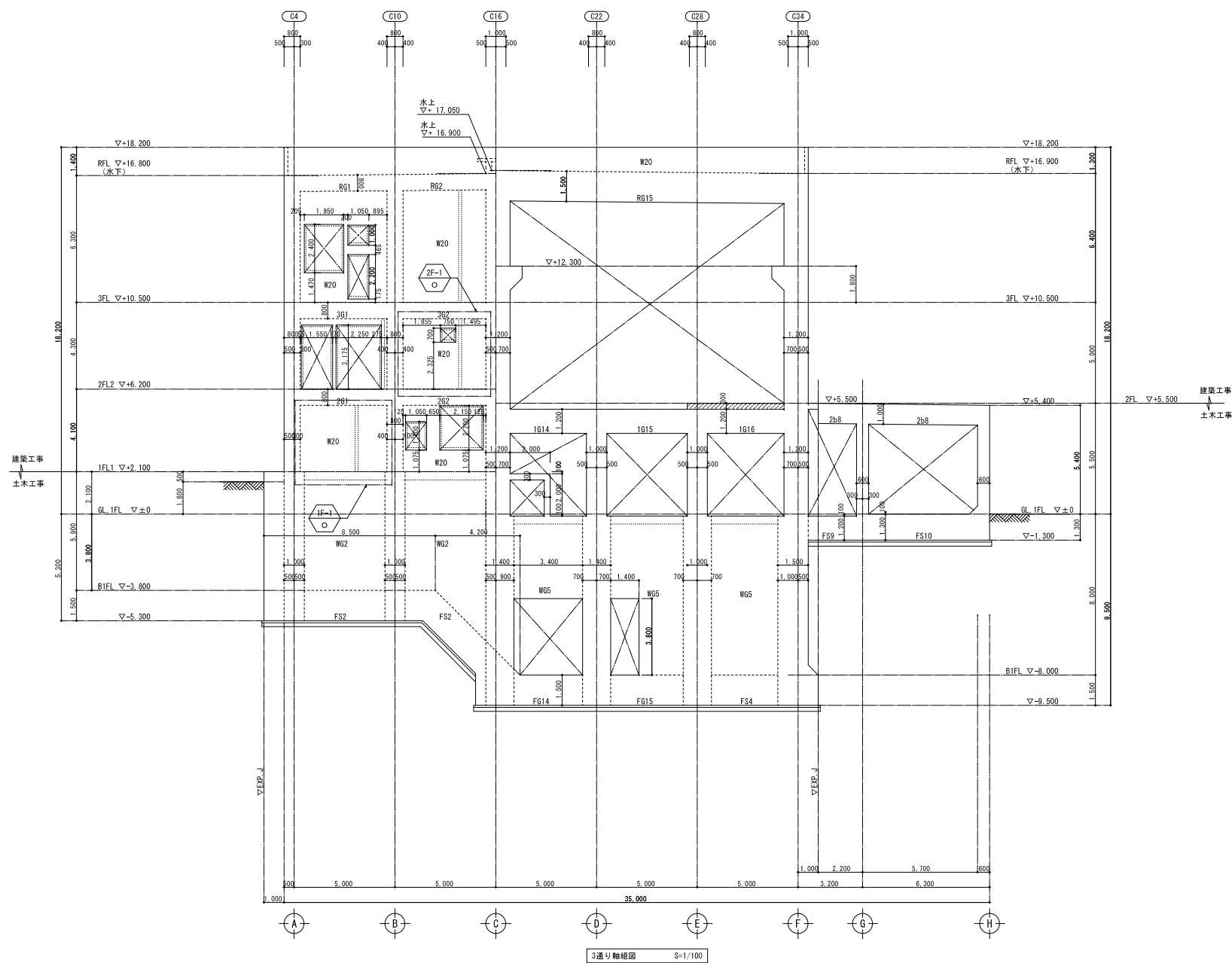
改修工事範囲

特記なき限り下記による。

印：フカシを示す。

印は柱番号を示す。

事業名	令和 6 年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名称	2通り軸組図（改修前）		
縮尺	1/100	設計年月日	令和 5 年 3 月
工種	設計者	株式会社 日新技術コンサルタント	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-16



凡例

.....特記なき限り下記による。

 部位番号 を示す。

 ○：補強前、N：補強後

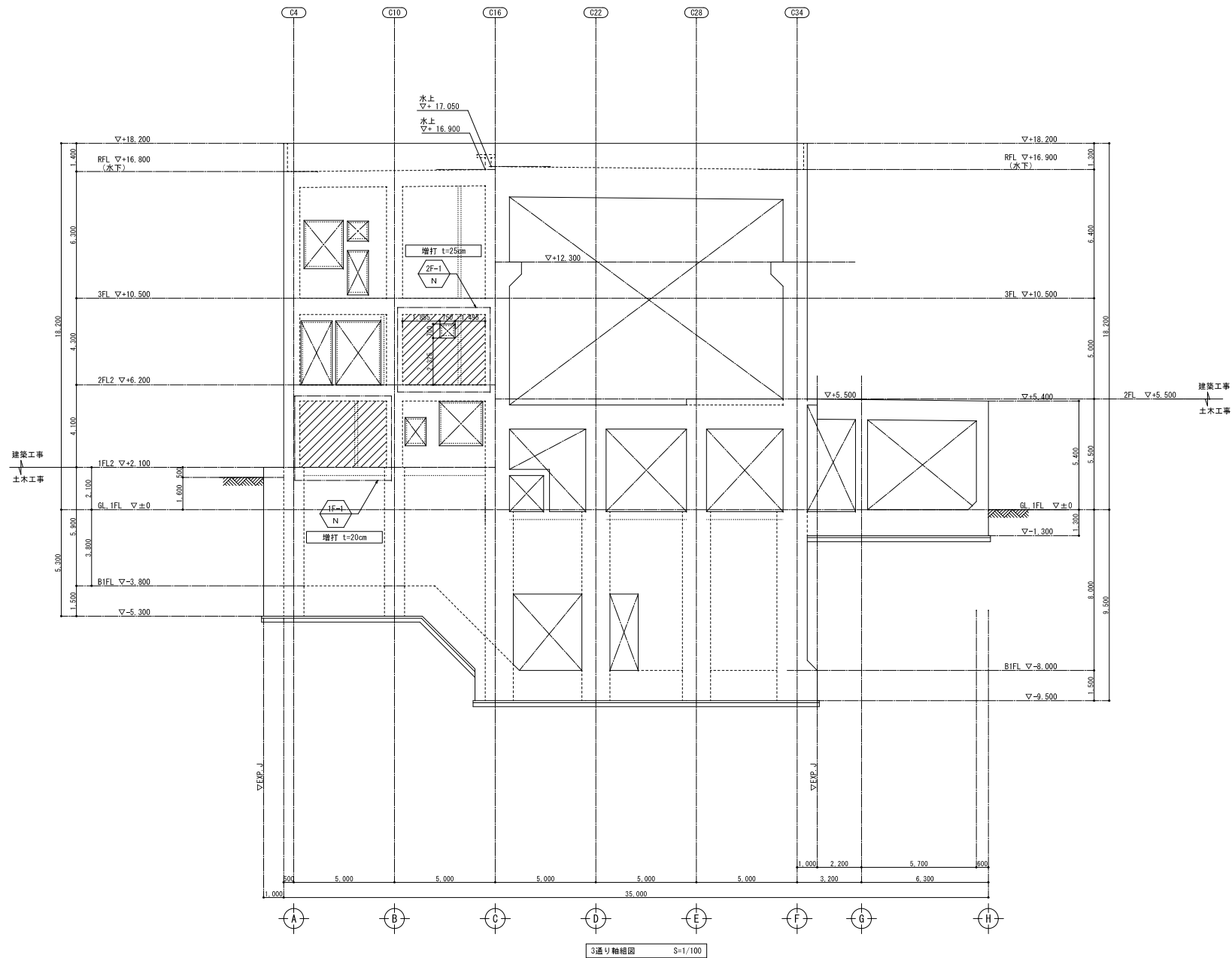
 改修工事範囲

特記なき限り下記による。

 印：フカシを示す。

 印は柱番号を示す。

事業名	令和 6 年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名称	3通り軸組図（改修前）		
縮尺	1/100	設計年月日	令和 5 年 3 月
工種	設計者	株式会社 日新技術コンサルタント	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-18

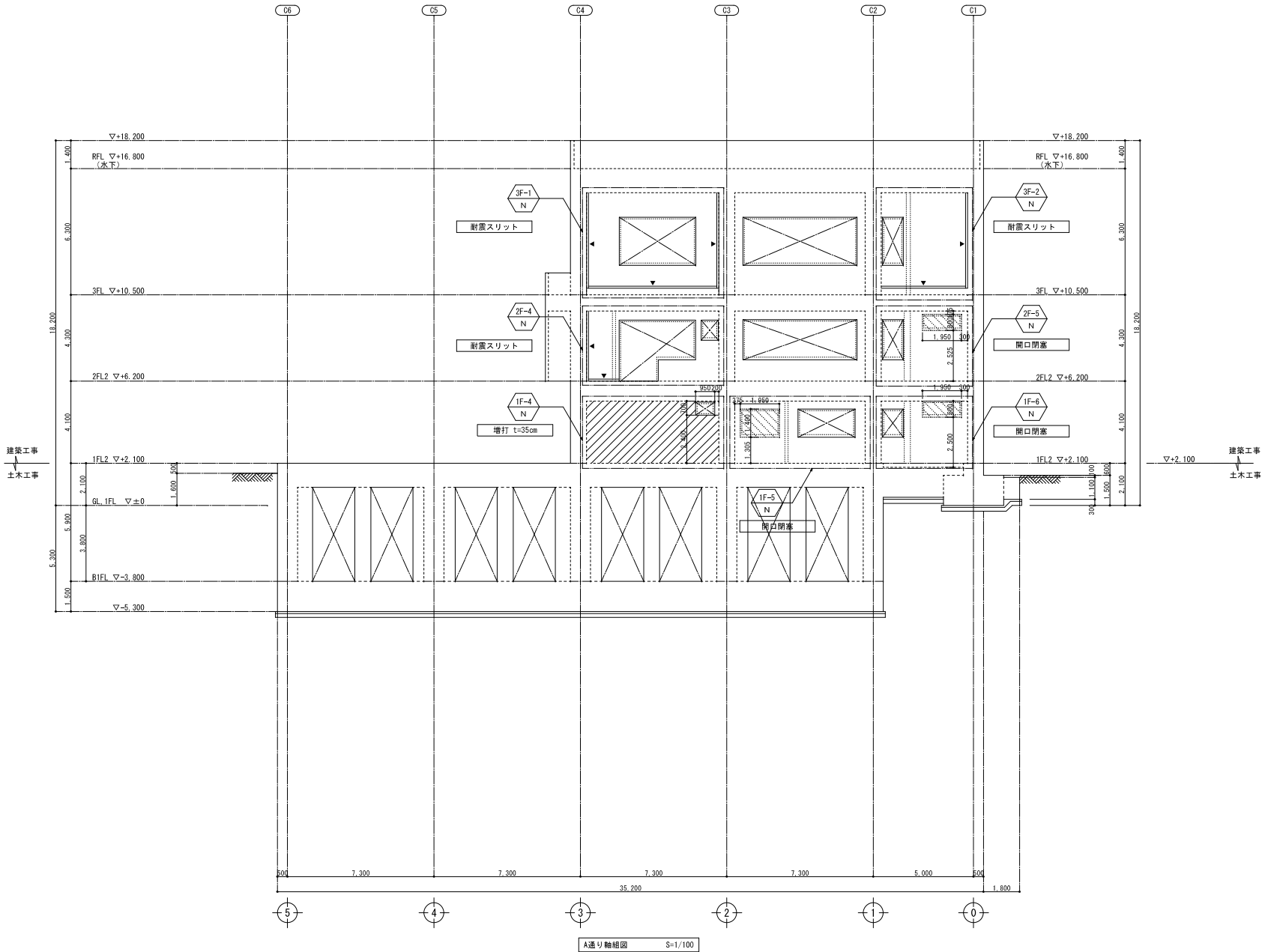


凡例

.....特記なき限り下記による。

 印：増打を示す。

事業名	令和 6 年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀沼場前震害補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名称	3通り軸組図（改修後）		
縮尺	1/100	設計年月日	令和 5 年 3 月
工種	設計者 株式会社 日新技術コンサルタント		
事業主体	四日市市 上下水道課	図面番号	S-19

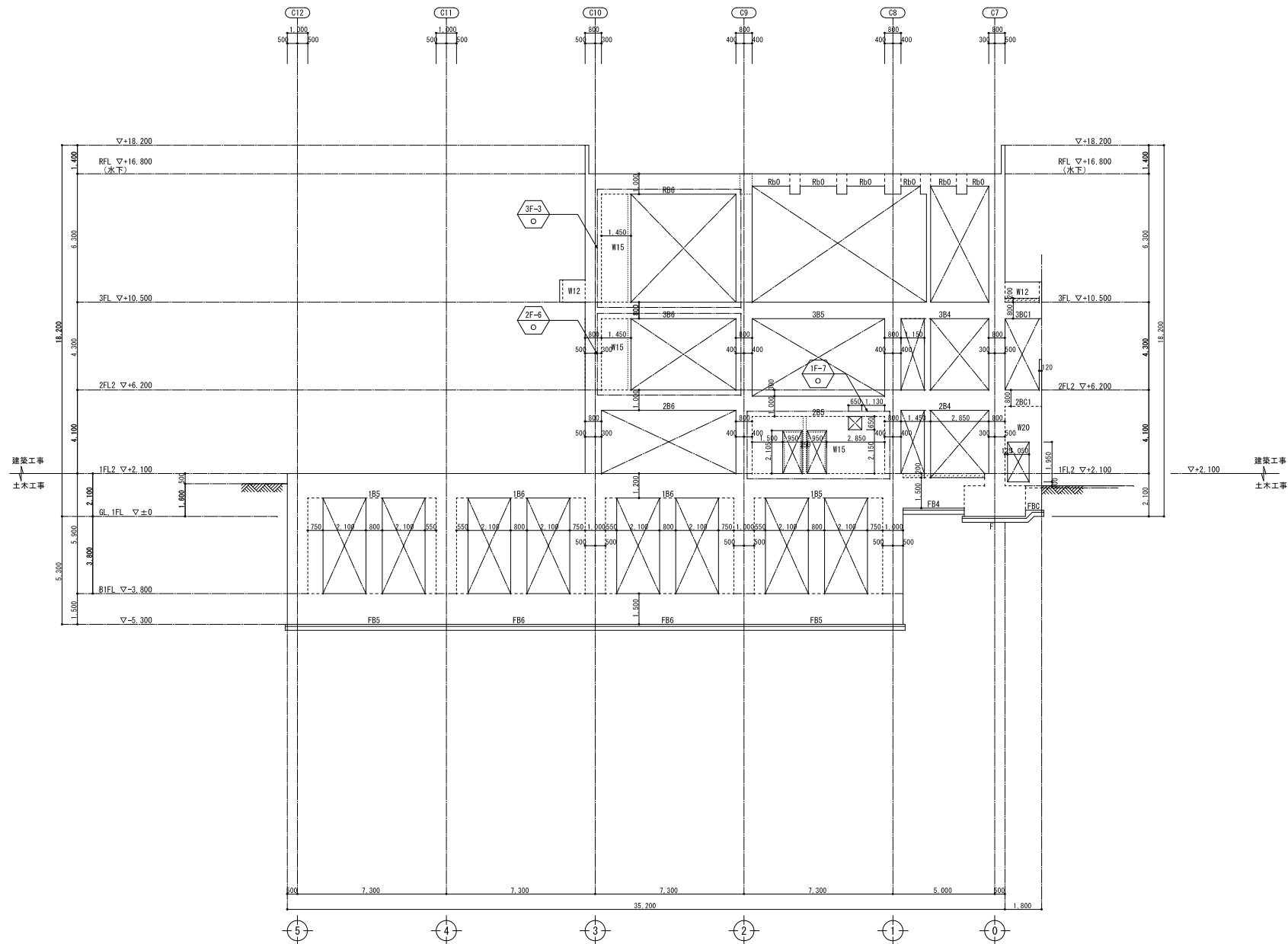


凡例

.....物記なき限り下記による。

	印：開口閉塞を示す。
	印：増打を示す。
	印：耐震スリットを示す。

事業名	令和 6 年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名称	A通り軸組図（改修後）		
縮尺	1/100	設計年月日	令和 5 年 3 月
工種	設計者	株式会社 日新技術コンサルタント	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-21



凡例

.....特記なき限り下記による。

 部屋番号 を示す。

 ○：補強前、N：補強後

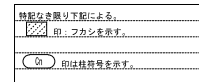
 改修工事範囲

特記なき限り下記による。

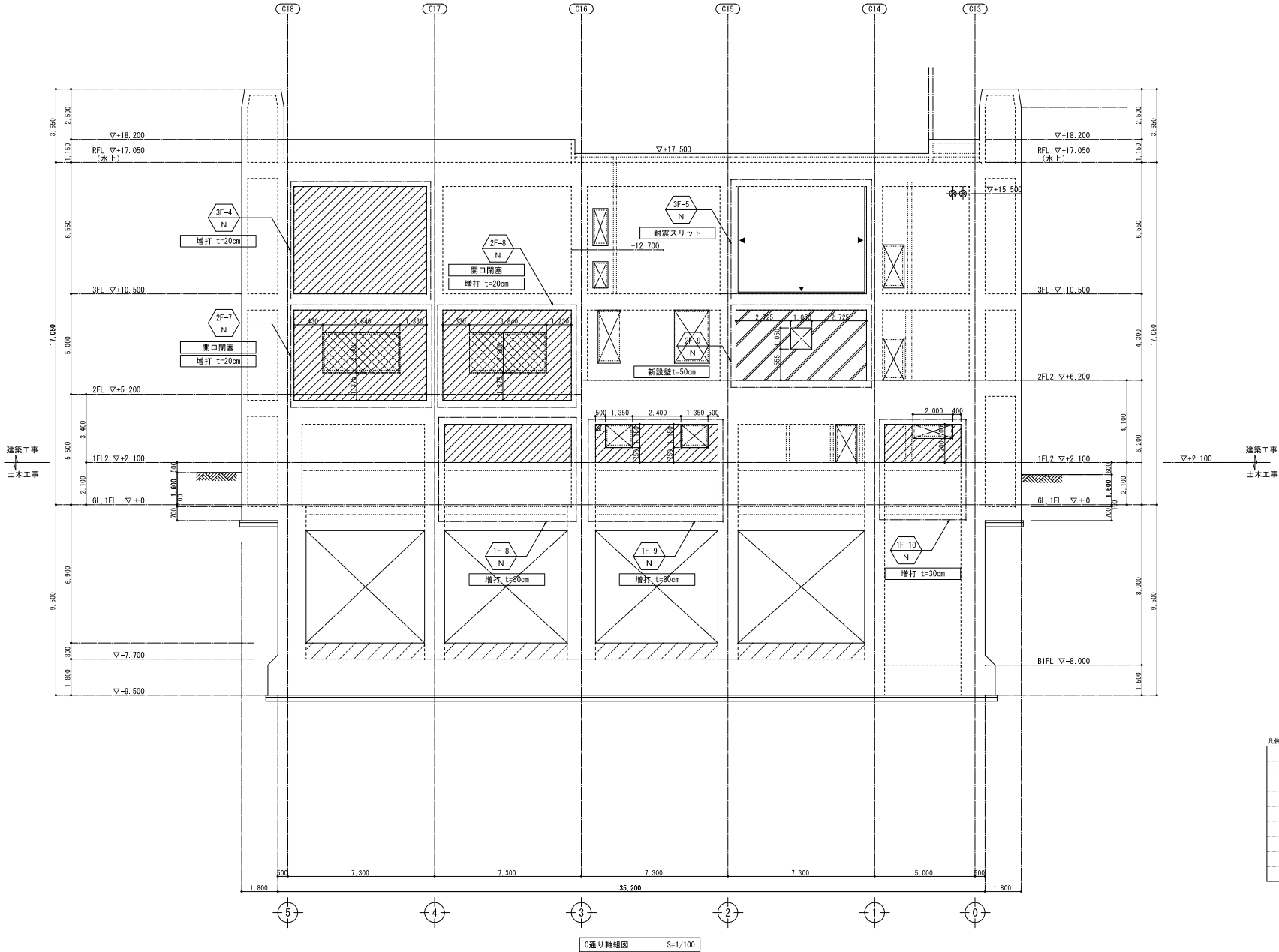
 印：フカシを示す。

 印は柱番号を示す。

事業名	令和 6 年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名称	B通り軸組図（改修前）		
縮尺	1/100	設計年月日	令和 5 年 3 月
工種	設計者	株式会社 日新技術コンサルタント	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-22



事業名	令和 6 年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名 称	〇通り軸組田 (改修前)		
縮 尺	1/100	設計年月日	令和 5 年 3 月
工 種	設 計 者		株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道部	図面番号	S-24

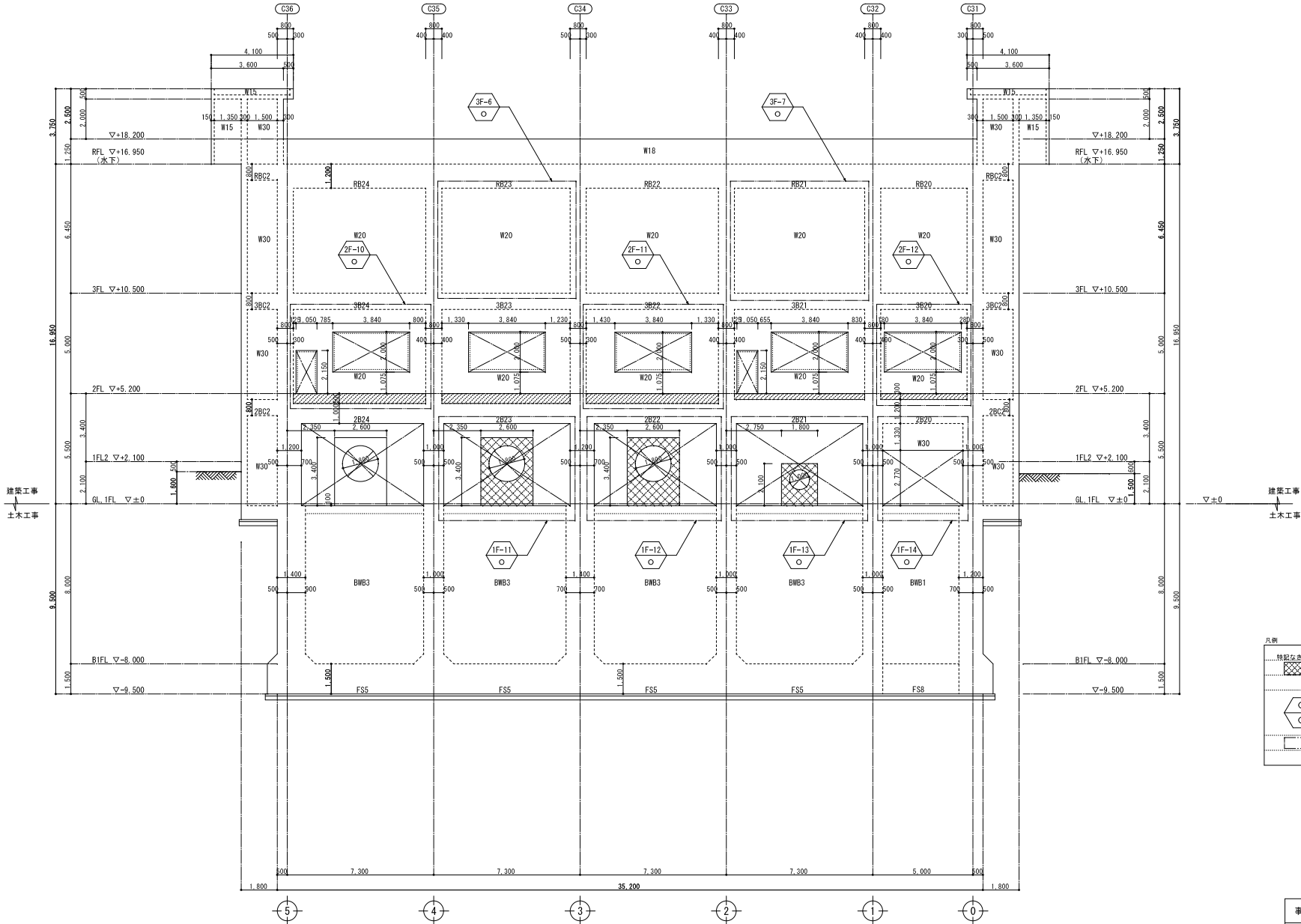


凡例

.....特記なき限り下記による.....

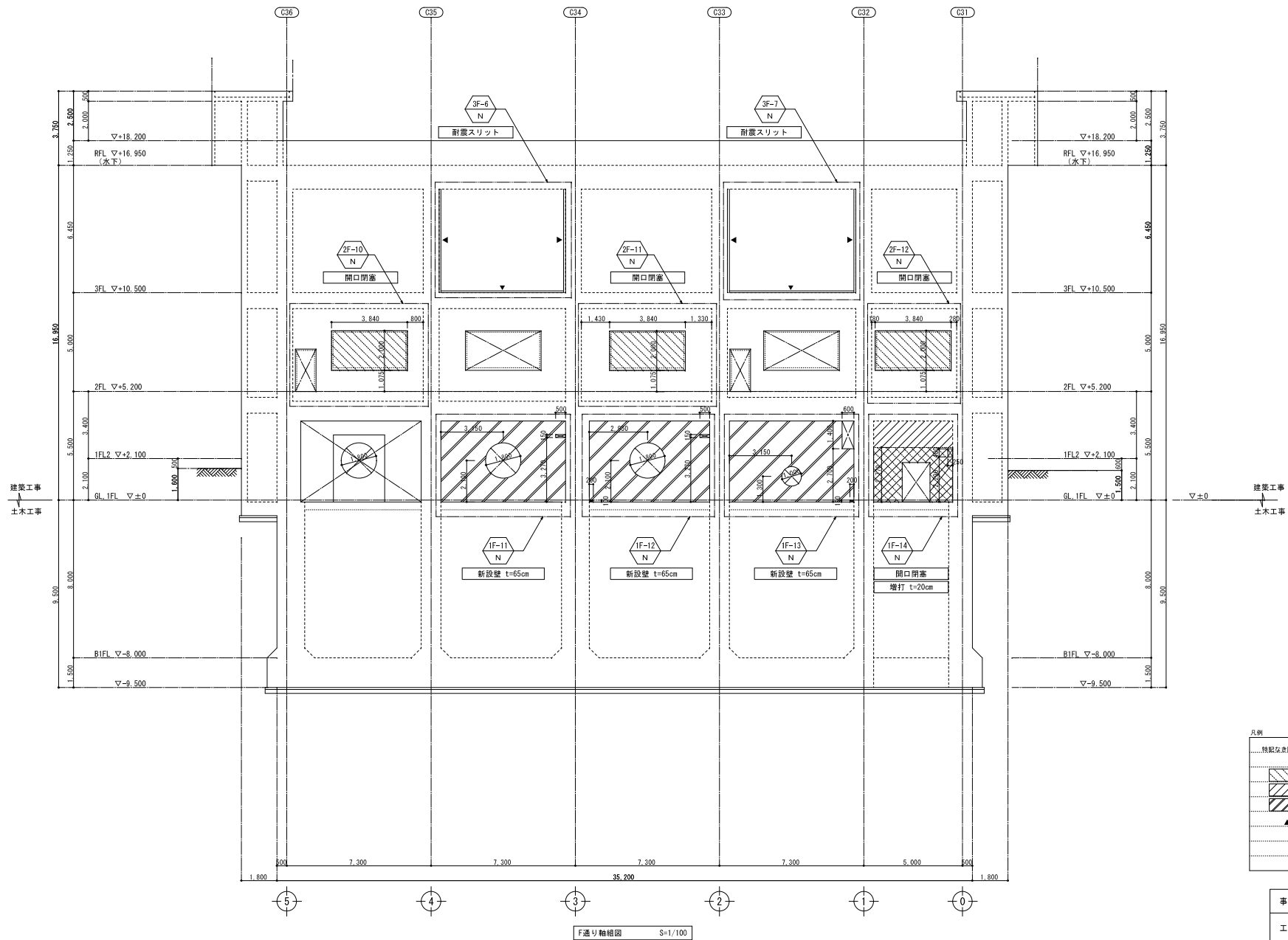
	印：開口閉塞を示す。
	印：増打を示す。
	印：新設断を示す。
	印：耐震スリットを示す。

事業名	令和 6年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名称	C通り軸組図 (改修後)		
縮尺	1/100	設計年月日	令和 5年 3月
工種	設計者	株式会社 日新技術コンサルタント	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-25



F通り軸組図 S=1/100

事業名	令和 6 年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名称	F通り軸組図（改修前）		
縮尺	1/100	設計年月日	令和 5 年 3 月
工種	設計者	株式会社 日新技術コンサルタント	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-26



凡例

.....特記なき限り下記による。



印：増打表示す。

印：RC 變新說表示

印：耐震スリットを示す。

事業名	令和 6 年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀沼場防震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名 称	F通り軸組図 (改修後)		
縮 尺	1/100	設計年月日	令和 5 年 3 月
工 種	設 計 者 株式会社 日新技術コンサルタント		
事業主体	四日市市 上下水道課	図面番号	S-27

工 事 名	白須賀ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名 称	F通り軸組工 (改修後)		
縮 尺	1/100	設計年月日	令和 5 年 3 月
工 種		設 計 者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-27

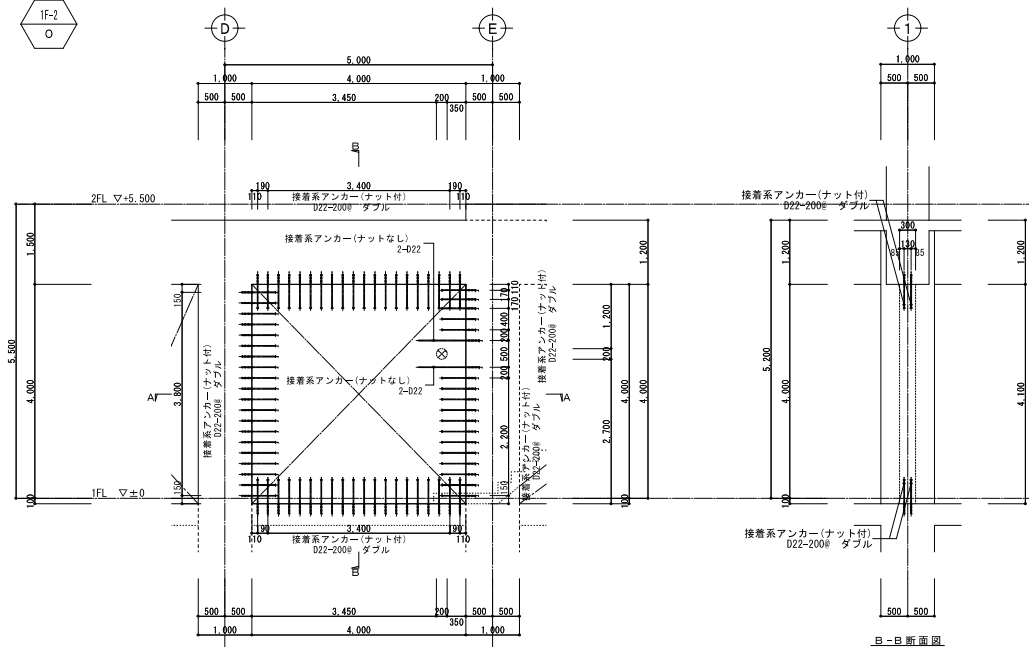
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名 称	F通り軸組図（改修後）		
縮 尺	1/100	設計年月日	令和 5年 3月
工 種		設 計 者	株式会社 日新技研コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道部	図面番号	S-27

名 称	F通り軸組図 (改修後)		
縮 尺	1/100	設計年月日	令和 5年 3月
工 種		設 計 者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-27

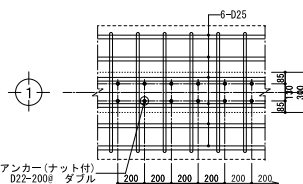
縮 尺	1/100	設計年月日	令和 5 年 3 月
工 種		設 計 者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-27

工 種		設 計 者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-27

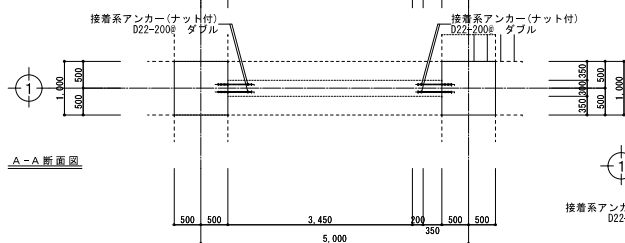
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-27
------	---------------	------	------



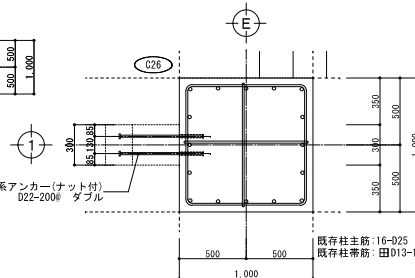
B-B 断面图



b部詳細図 (平面)



A-A 断面图



a部詳細図 (平面)
(S=1/20)

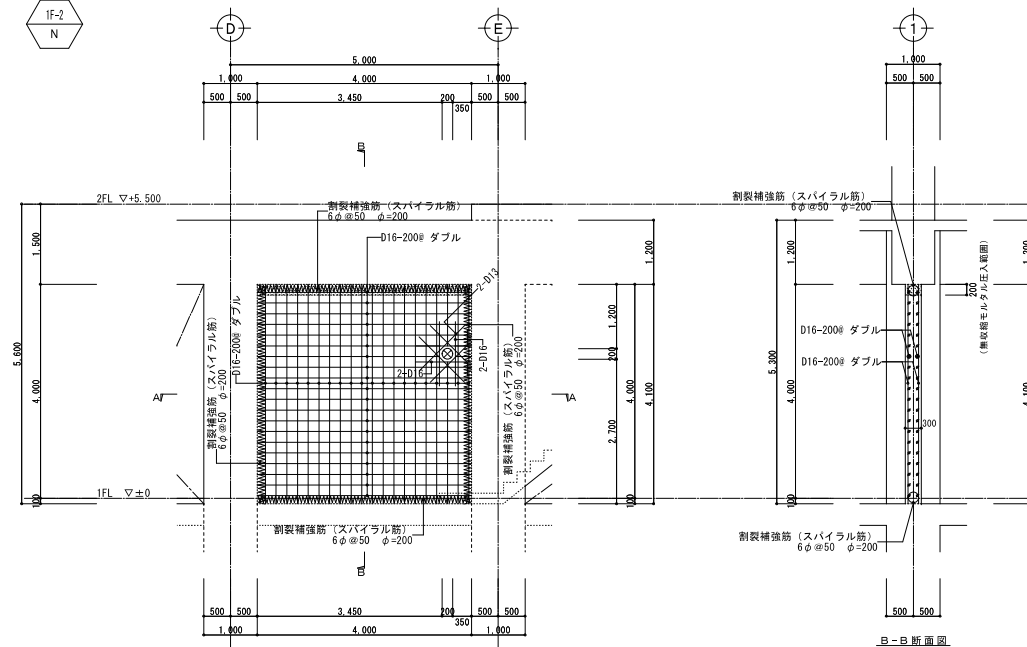
1 通り補強詳細図 S=1/50

接着系アンカー配筋標準

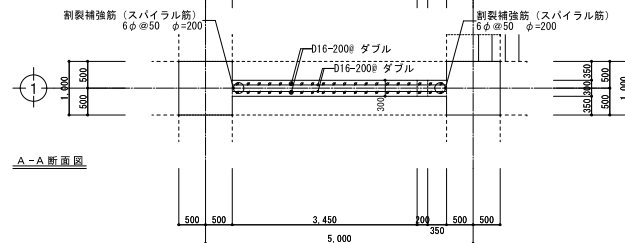
		アンカー筋長さ							
		一般部			開口部				
		鉄筋径 (da)	Le	L	Ln	鉄筋径 (da)	Le	Ln	
		D13	97	110	260	D13	157	170	590
		D16	114	130	320	D16	194	210	720
		D19	141	160	380	D19	231	250	860
		D22	158	180	440	D22	268	290	990
		D25	175	200	500	D25	305	330	1130

	記号凡例	Le	有効埋込み長さ（一般部:Le≧7da, 開口部:Le≧12da)
		Ln	埋込み長さ（L=Le+da）
			有効定寸長さ（一般部:Ln≧20daナット付, 開口部:Ln≧40da+5daナットなし）

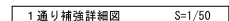
1 通り補強詳細図



B-B 断面图



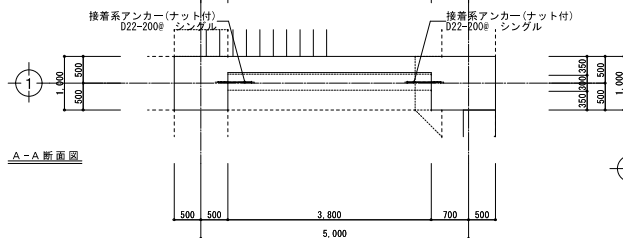
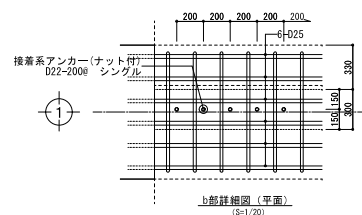
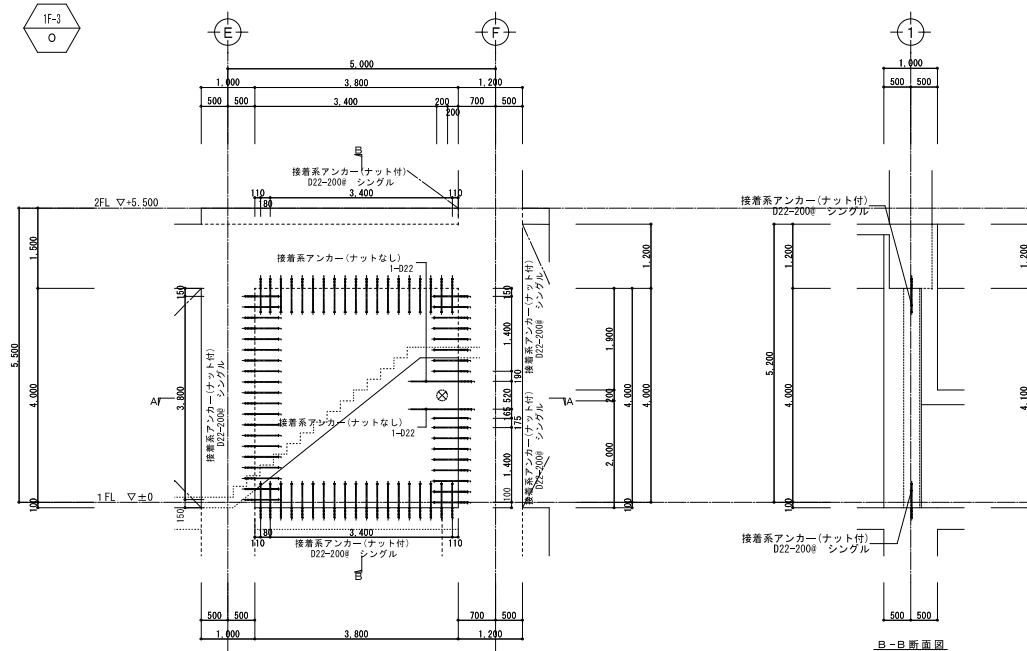
A-A 断面图



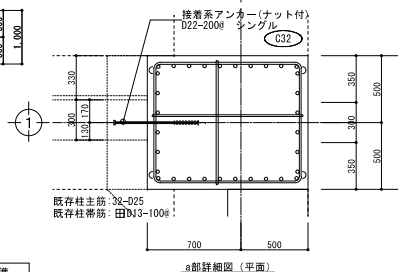
特記なき限り下記による。

印：無収縮モルタル圧入範囲を示す。

事業名	令和 6 年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ站耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名称	1) 図改修詳細図 (3)		
縮尺	1/20.0	設計年月日	令和 6 年 3 月
工種		設計者	株式会社 目新技研コンサルタンツ
事業主体	四日市市 上下水道課	図面番号	S-30



A-A 断面图

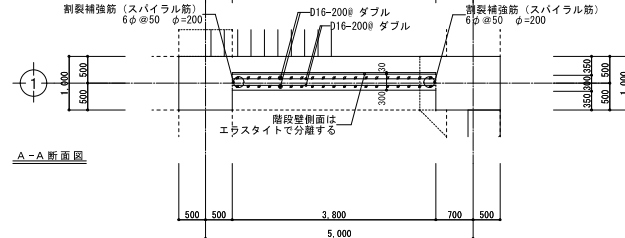
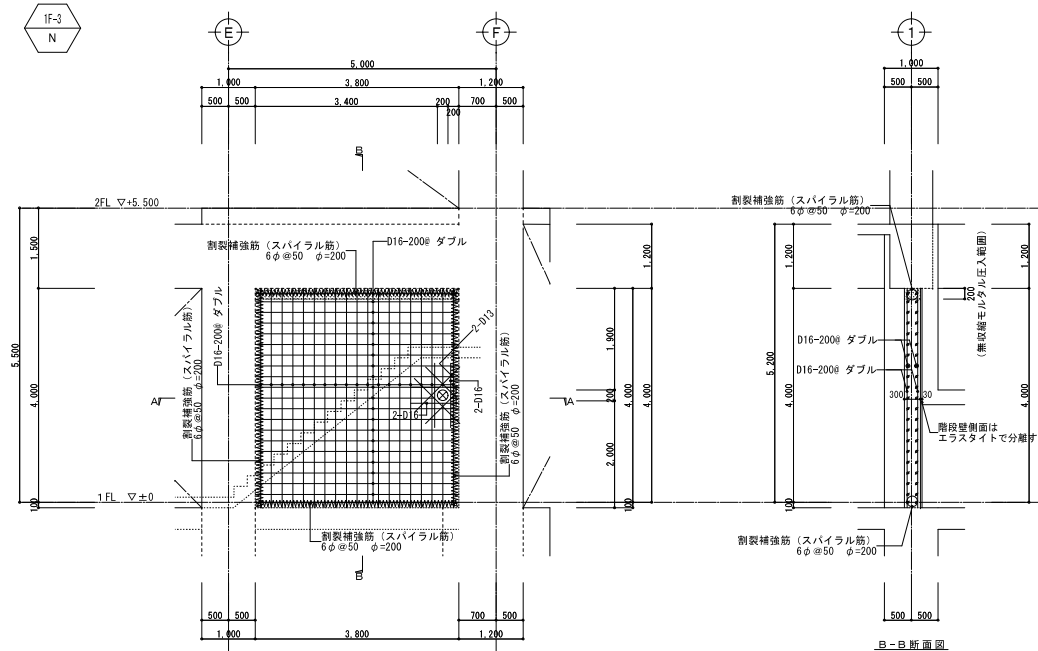


a部詳細図（平面）

1 通り補強詳細図 S=1/50

接着系アンカー配筋標準

		アンカー筋長さ						
		一般筋			開口筋			
	鉄筋径 (da)	Le	L	Ln	鉄筋径 (da)	Le	Ln	
	D13	97	110	260	D13	157	170	590
	D16	114	130	320	D16	194	210	720
	D19	141	160	380	D19	231	250	860
	D22	158	180	440	D22	268	290	990
	D25	175	200	500	D25	305	330	1130
記号凡例	Le	有効埋込み長さ (一般筋: $Le \geq 7d_n$, 開口筋: $Le \geq 12d_n$)						
	L	増込み長さ ($L = Le + da$)						
	Ln	着字等長長さ (一般筋: $Ln \geq 20d_n$ サット付, 開口筋: $Ln \geq 40d_n + 5d_n$ サットなし)						



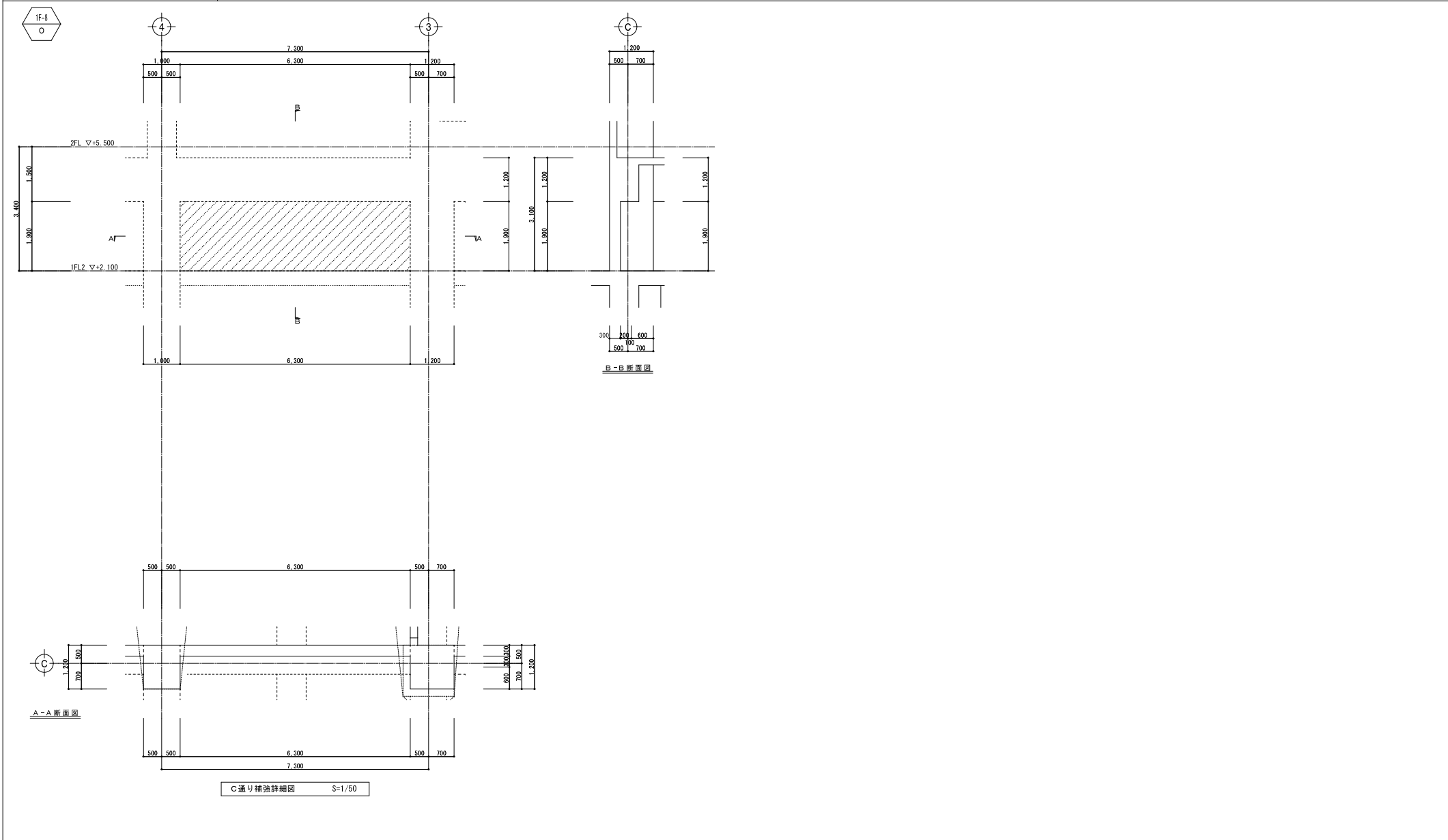
A-A 断面图

1 通り補強詳細図 S=1/50

特記なき限り下記による。

印：無収縮モルタル圧入範囲を示す。

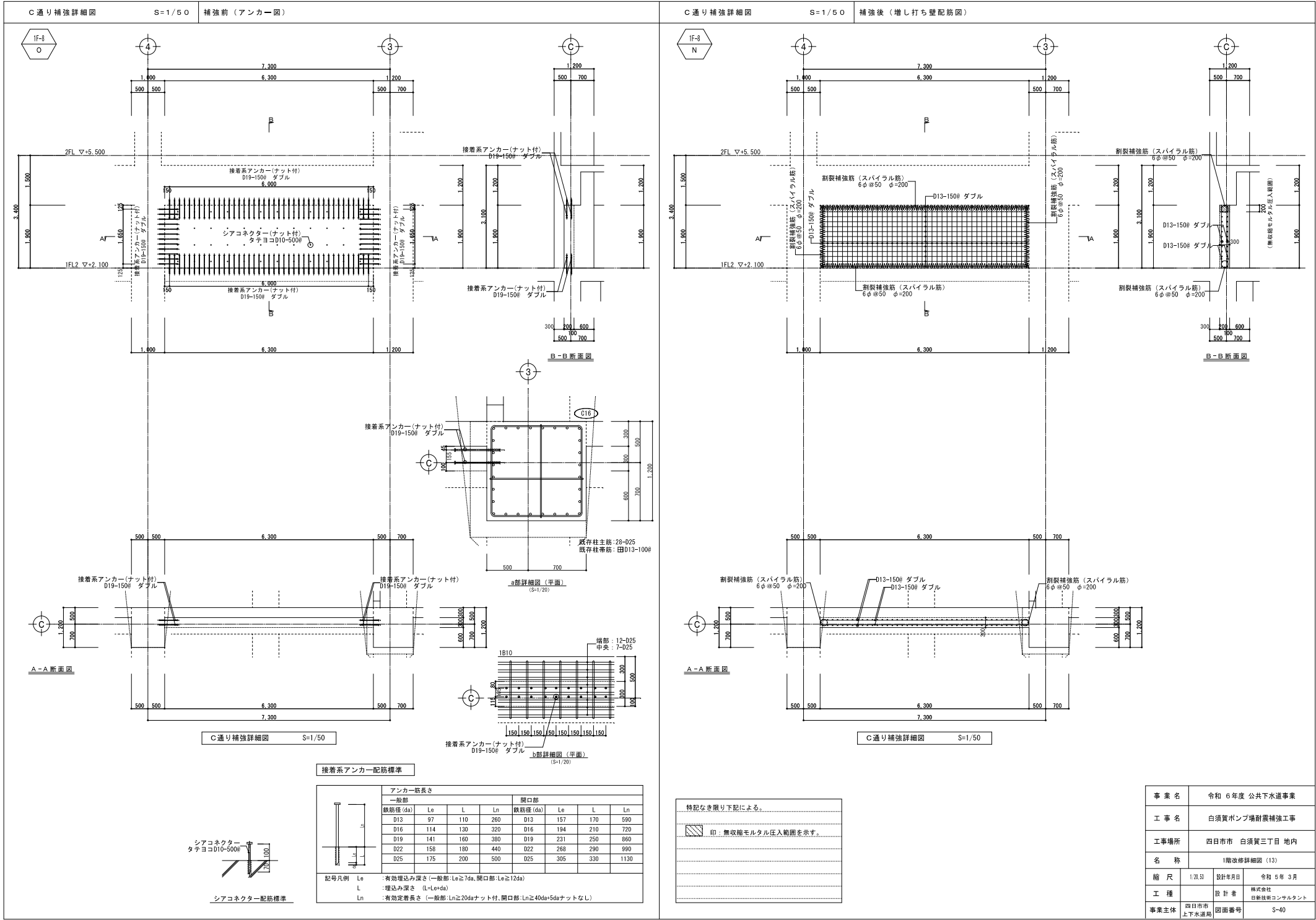
事業名	令和 6 年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	西日市市 白須賀三丁目 地内		
名称	1) 図改詳細図 (4)		
縮 尺	1/20.50	設計年月日	令和 5 年 3 月
工 種		設 計 者	株式会社 目黒技術コンサルタンツ
事業主体	西日市市 上下水道課	図面番号	S-31



特記なき限り下記による。

 印：目差し範囲を示す。

事業名	令和 6 年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名称	1階改修詳細図 (12)		
縮尺	1/50	設計年月日	令和 5 年 3 月
工種	設計者	株式会社 日新技術コンサルタント	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-39



事業名

令和 6 年度 公共下水道事業

工事名

白須賀ポンプ場耐震補強工事

工事場所

四日市市 白須賀三丁目 地内

名称

1階改修詳細図 (13)

縮尺

1/20.50

設計年月日

令和 5 年 3 月

工種

設計者

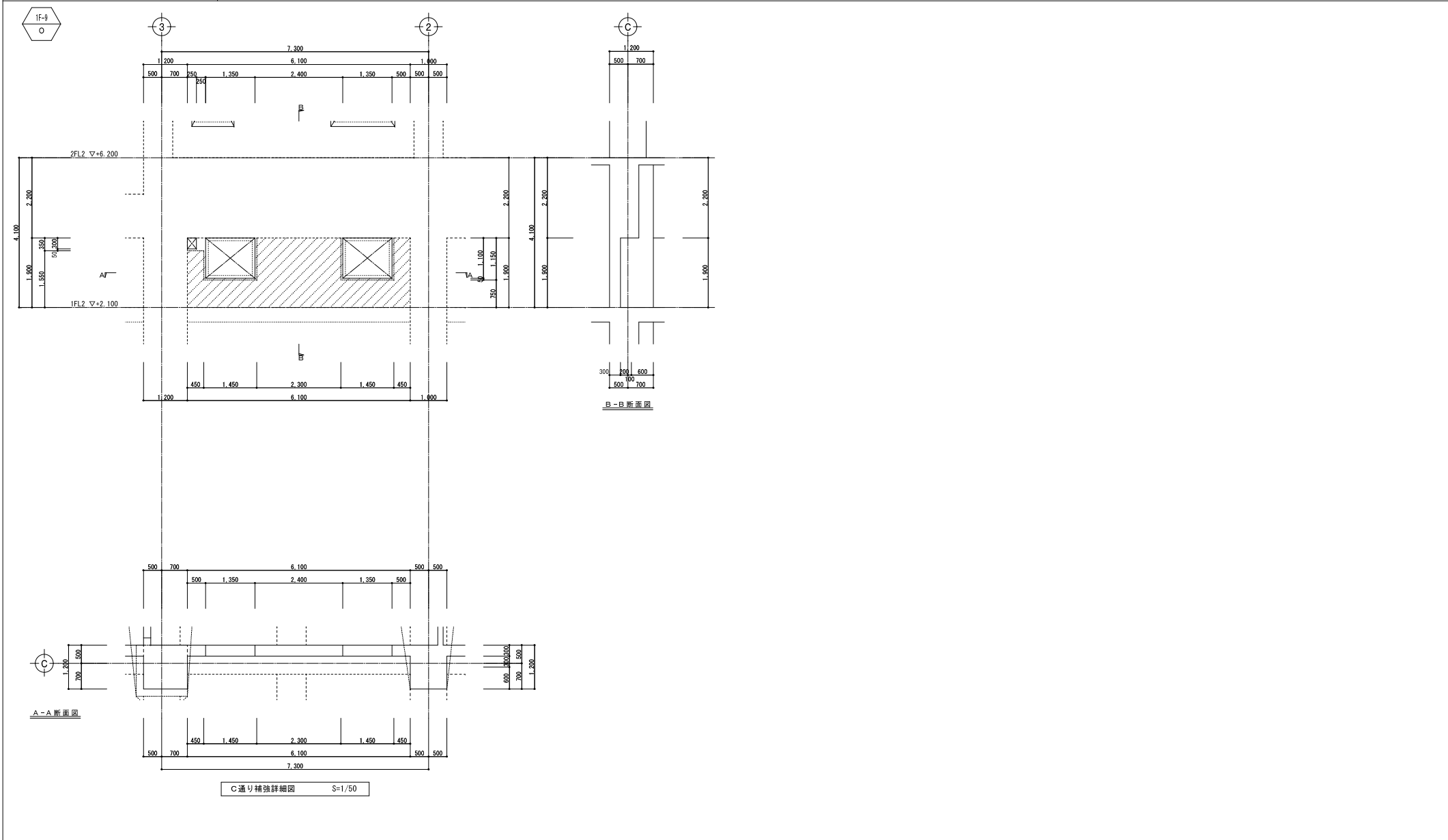
株式会社
日新技術コンサルタント

事業主体

四日市市
上下水道局

図面番号

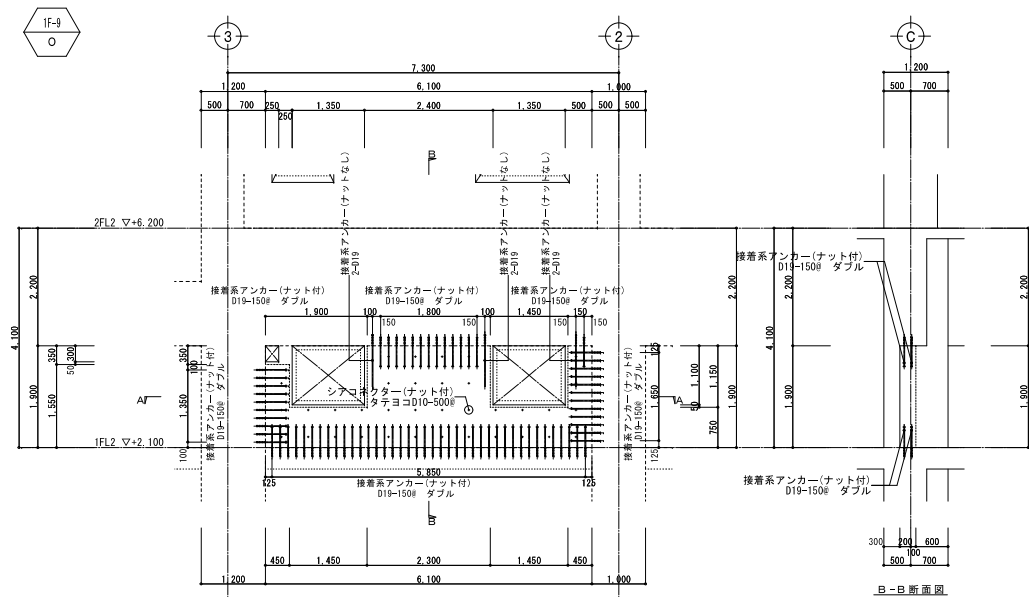
S-40



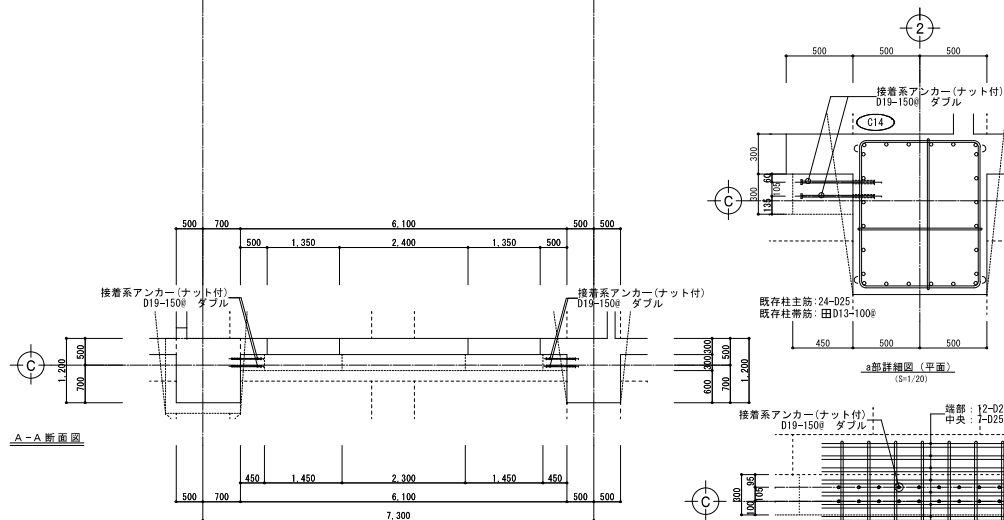
特記なき限り下記による。

印：目差し範囲を示す。

事業名	令和6年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名称	1階改修詳細図 (14)		
縮尺	1/50	設計年月日	令和5年3月
工種	設計者	株式会社 日新技術コンサルタント	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-41



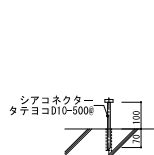
B-B 断面图



A-A 断面图

C通り補強詳細図

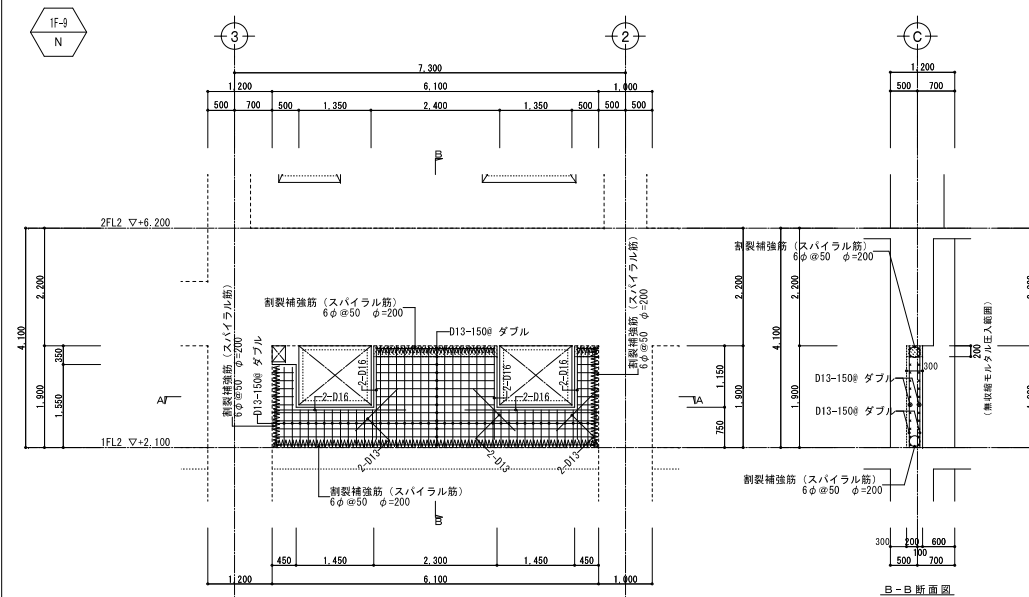
接着系アンカー配筋標準



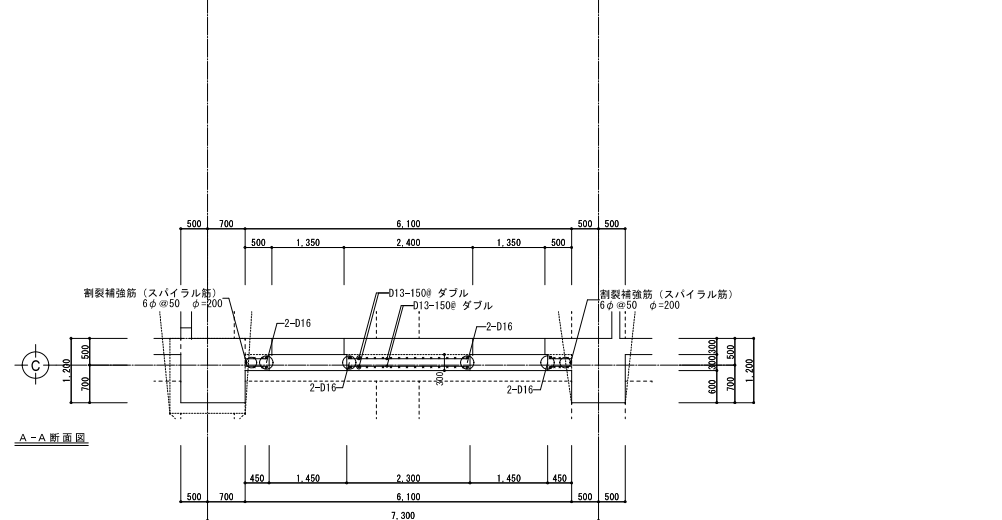
シアコネクタ－配筋標準

		アンカー筋長さ					
		一般筋			開口筋		
鉄筋径 (da)	Le	L	Ln	鉄筋径 (da)	Le	L	Ln
D13	97	110	260	D13	157	170	590
D16	114	130	320	D16	194	210	720
D19	141	160	380	D19	231	250	860
D22	158	180	440	D22	268	290	990
D25	175	200	500	D25	305	330	1130

記号凡例	Le	Ln	Ln
	有効埋込み長さ (一般筋: $Le \geq 7da$, 開口筋: $Le \geq 12da$)		
	増込み長さ ($L = Le + da$)		
	有効半筋長 (一般筋: $Ln \geq 20da$ ナット付, 開口筋: $Ln \geq 40da + 5da$ ナットなし)		



B-B 断面图



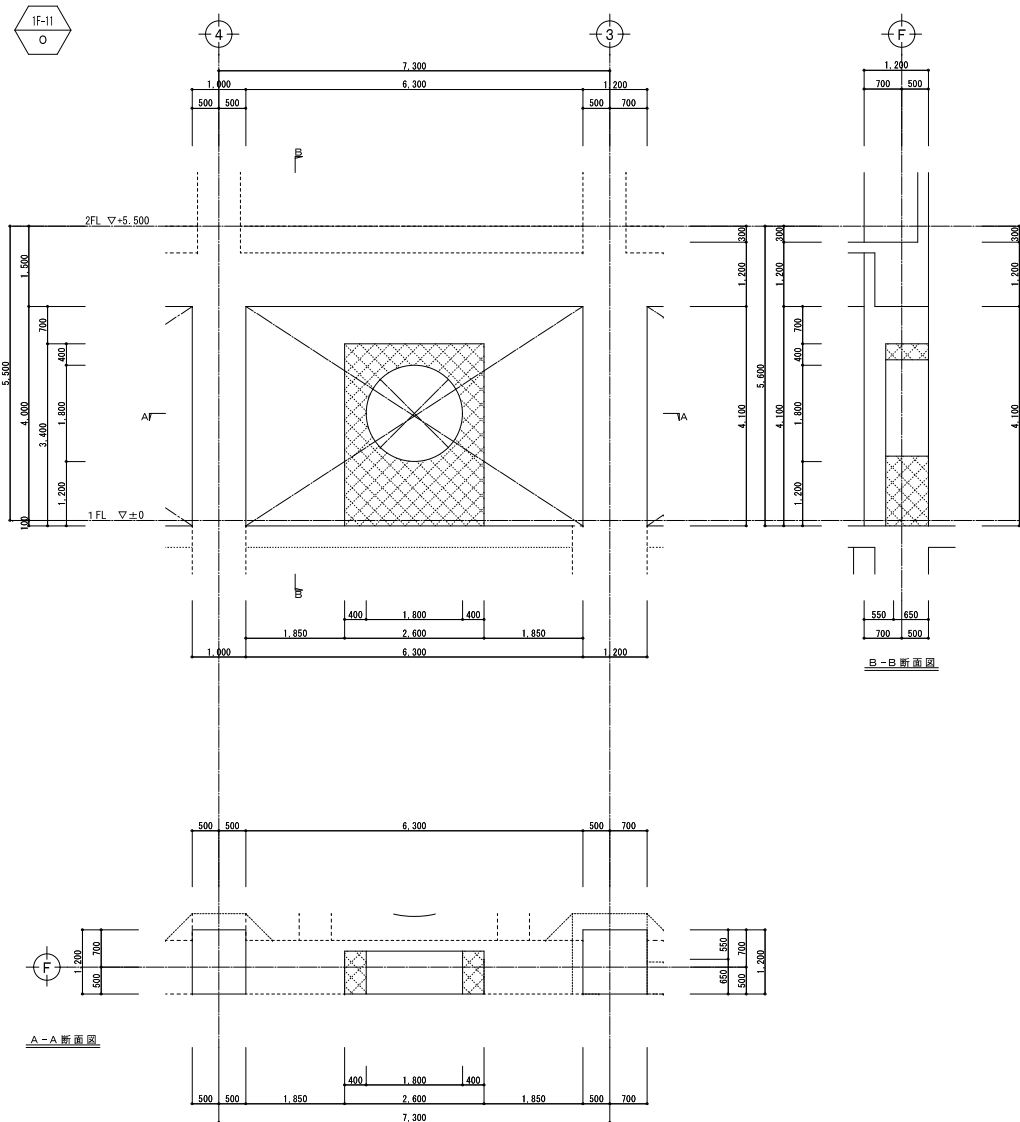
A-A 断面图

C通り補強詳細図

特記なき限り下記による。

 印：無収縮モルタル圧入範囲を示す。

事業名	令和 6 年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ站耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名称	1) 概設計詳細図 (15)		
縮尺	1/20.0	設計年月	令和 5 年 3 月
工種		設計者	株式会社 目黒技術コンサルタン
事業主体	四日市市 上下水道部	図面番号	S-42



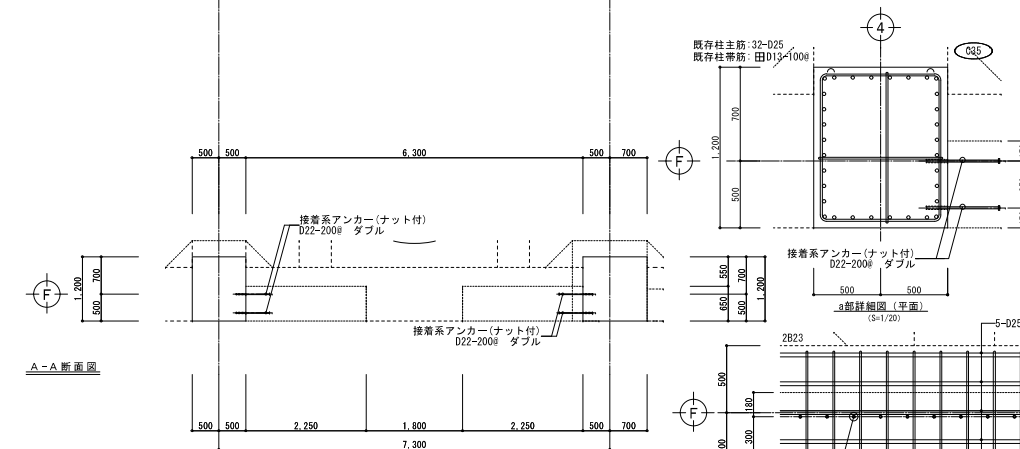
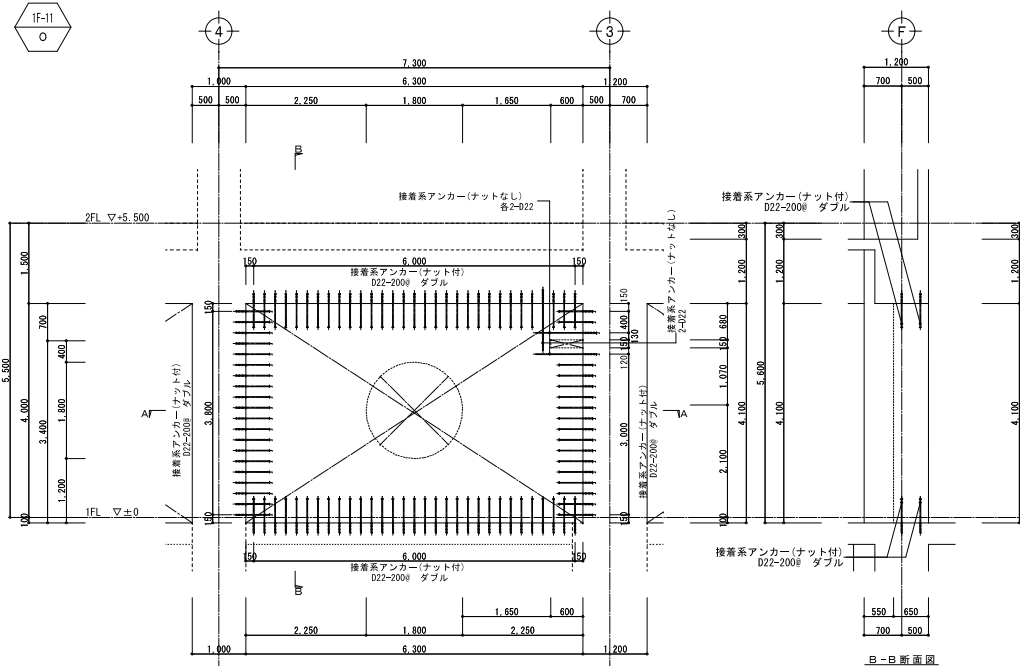
B-B 断面图

A-A 断面图

特記なき限り下記による。

 印：既設壁撤去範囲を示す。

事業名	令和 6 年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名称	1階改修詳細図 (18)		
縮尺	1:50	設計年月日	令和 5 年 - 月 - 日
工種		設計者	株式会社 目黒技研コンサルタンツ
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-45

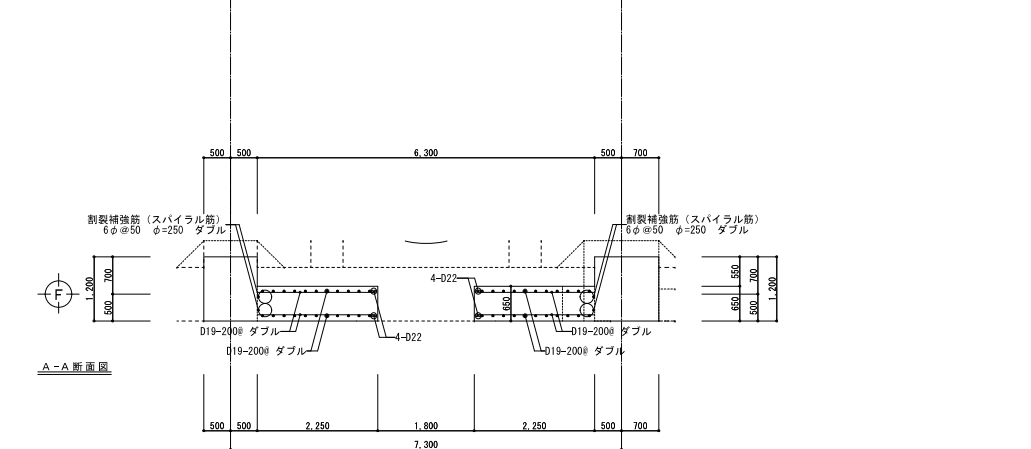
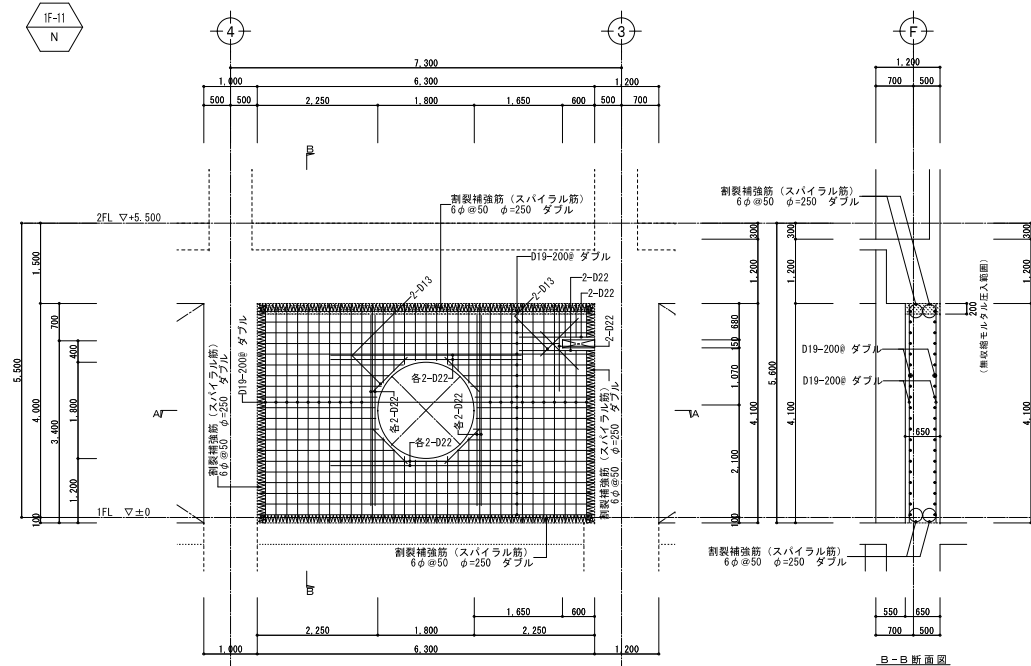


F 通り補強詳細図 S=1/50

接着系アンカー配筋標準

		アンカー筋長さ					
		一般筋			開口筋		
鉄筋径 (da)	Le	L	Ln	鉄筋径 (da)	Le	L	Ln
D13	97	110	260	D13	157	170	590
D16	114	130	320	D16	194	210	720
D19	141	160	380	D19	231	250	860
D22	158	180	440	D22	268	290	990
D25	175	200	500	D25	305	330	1130

記号凡例	Le	L	Ln
	有効埋込み長さ (一般筋: $L \geq 7d$, 開口筋: $L \geq 12d$)		
	増込み長さ (L=Le $\times$ d)		
	有効定着長さ (一般筋: $L \geq 20d$ ナット付, 開口筋: $L \geq 40d + 5d$ ナットなし)		

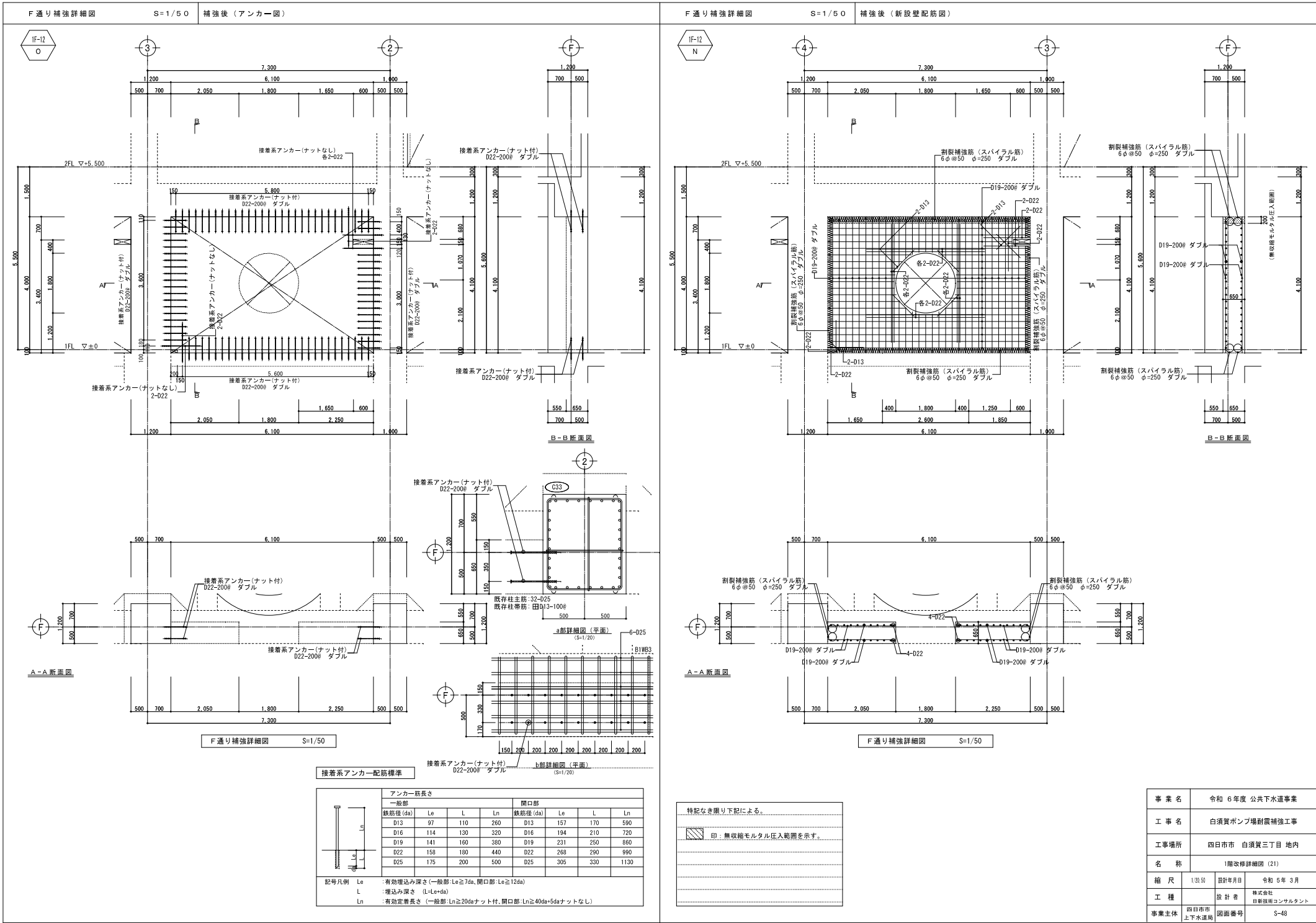


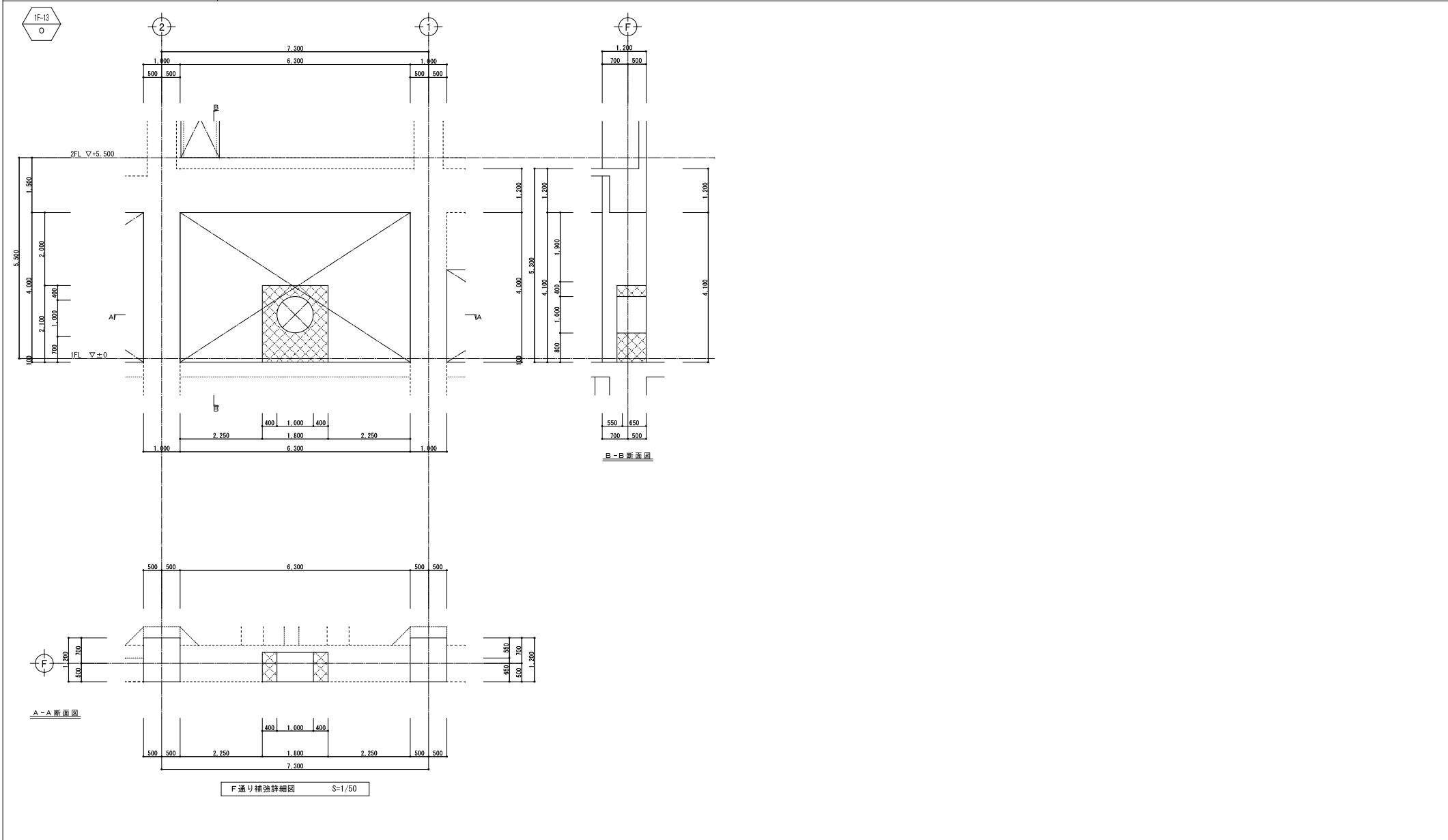
F 通り補強詳細図 S=1/50

特記なき限り下記による。

 印：無収縮モルタル圧入範囲を示す。

事業名	令和 6 年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名称	1階改修詳細図 (19)		
縮尺	1/20.50	設計年月日	令和 6 年 3 月
工種		設計者	株式会社 目新技研コンサルタンツ
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-46





特記なき限り下記による。

印：既設壁撤去範囲を示す。

事業名	令和 6 年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名称	1階改修詳細図 (22)		
縮尺	1/50	設計年月日	令和 5 年 3 月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-49



A-A 断面图

F通り補強詳細図 S=1/50

接着系アンカー配筋標準

[illegible]

特記なき限り下記による。

 印：目荒し範囲を示す。

 印：既設壁撤去範囲を示す。



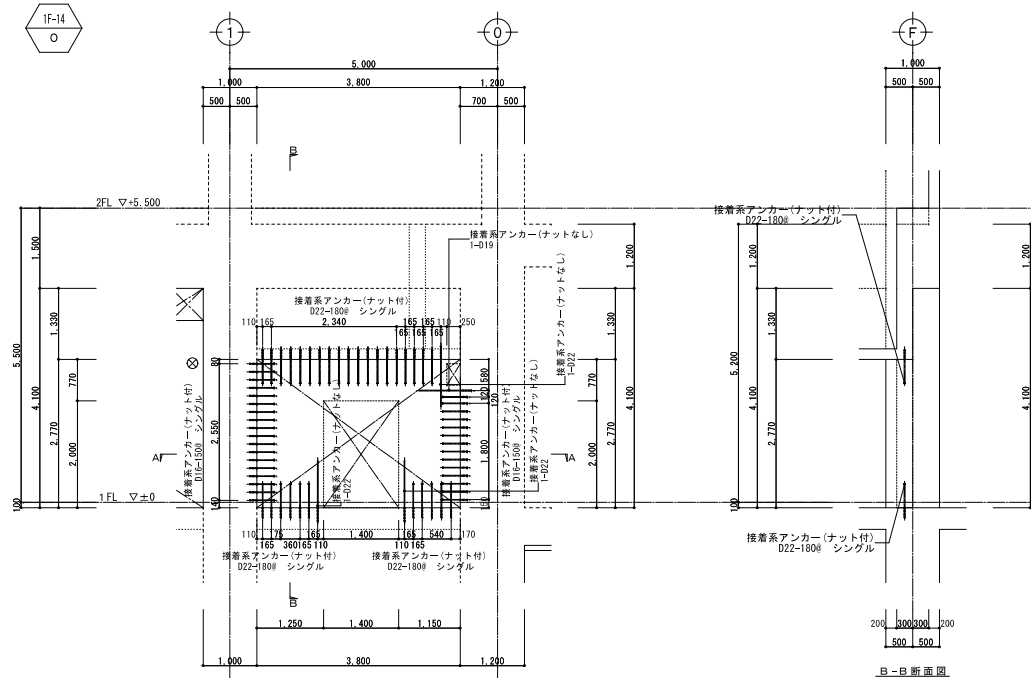
A-A 断面图

F 通り補強詳細図 S=1/50

特記なき限り下記による。

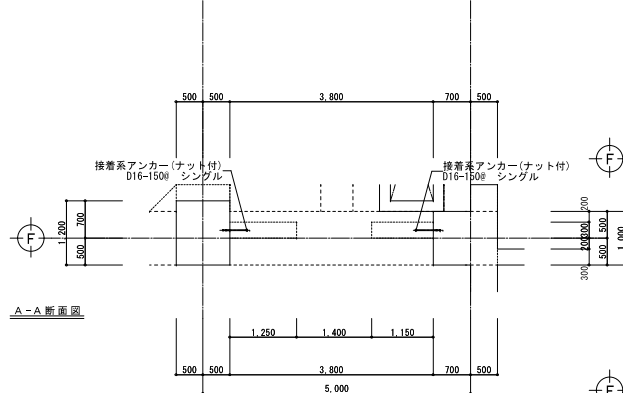
 印：無収縮モルタル圧入範囲を示す。

事業名	令和 6 年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプstation耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名称	1階改修詳細図 (23)		
縮尺	1/20.50	設計年月日	令和 5 年 3 月
工種	設計者 株式会社 自然技術コンサルタント		
事業主体	四日市市 下水道局	図面番号	S-50

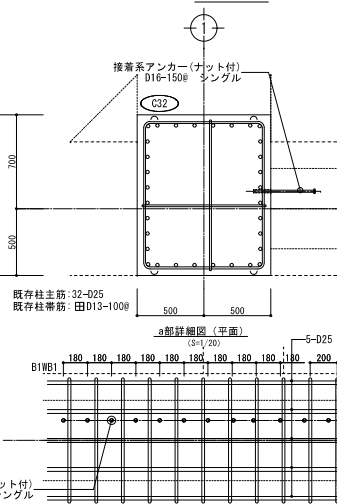


B-B 断面图

B-B 断面图



A-A 断面图



a部詳細図（平

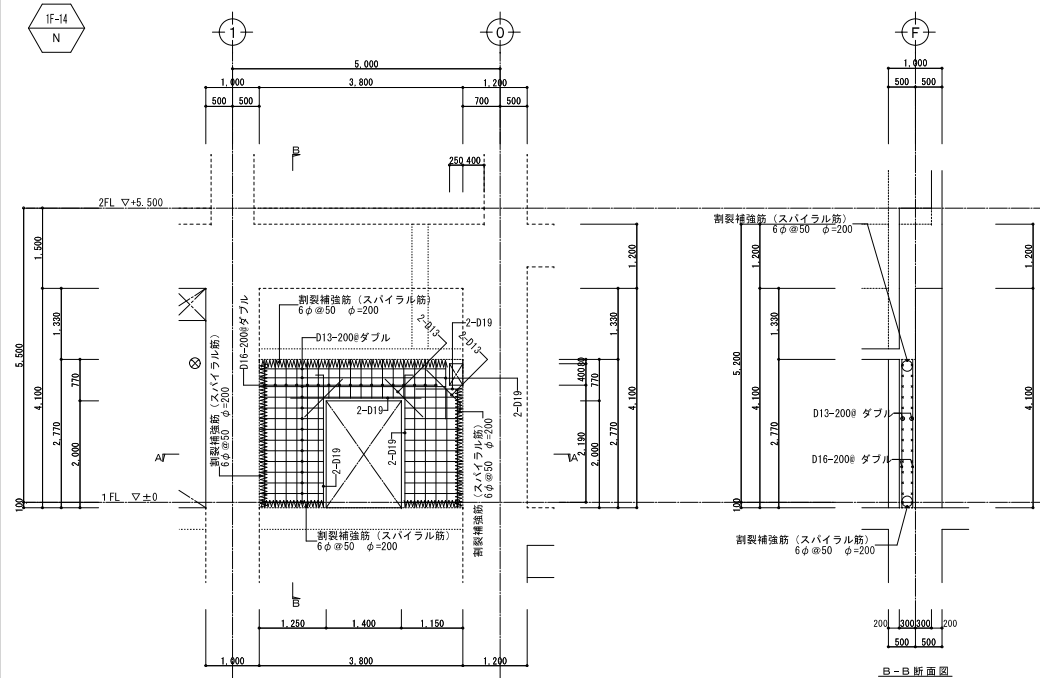
a部詳細図（平

F通り補強詳細図 S=1/50

接着系アンカー配筋標準

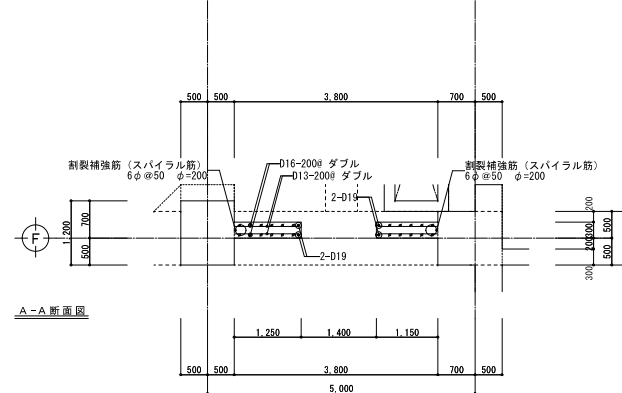
		アンカー筋長さ					
		一般筋			開口筋		
鉄筋径 (da)	Le	L	Ln	鉄筋径 (da)	Le	L	Ln
D13	97	110	260	D13	157	170	590
D16	114	130	320	D16	194	210	720
D19	141	160	380	D19	231	250	860
D22	158	180	440	D22	268	290	990
D25	175	200	500	D25	305	330	1130

記号凡例	Le	L	Ln
	有効埋込み長さ (一般筋: $L \geq 7d$, 開口筋: $L \geq 12d$)		
	増込み長さ (L=Le $\times$ d)		
	有効定着長さ (一般筋: $L \geq 20d$ ナット付, 開口筋: $L \geq 40d + 5d$ ナットなし)		

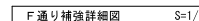


B-B 断面图

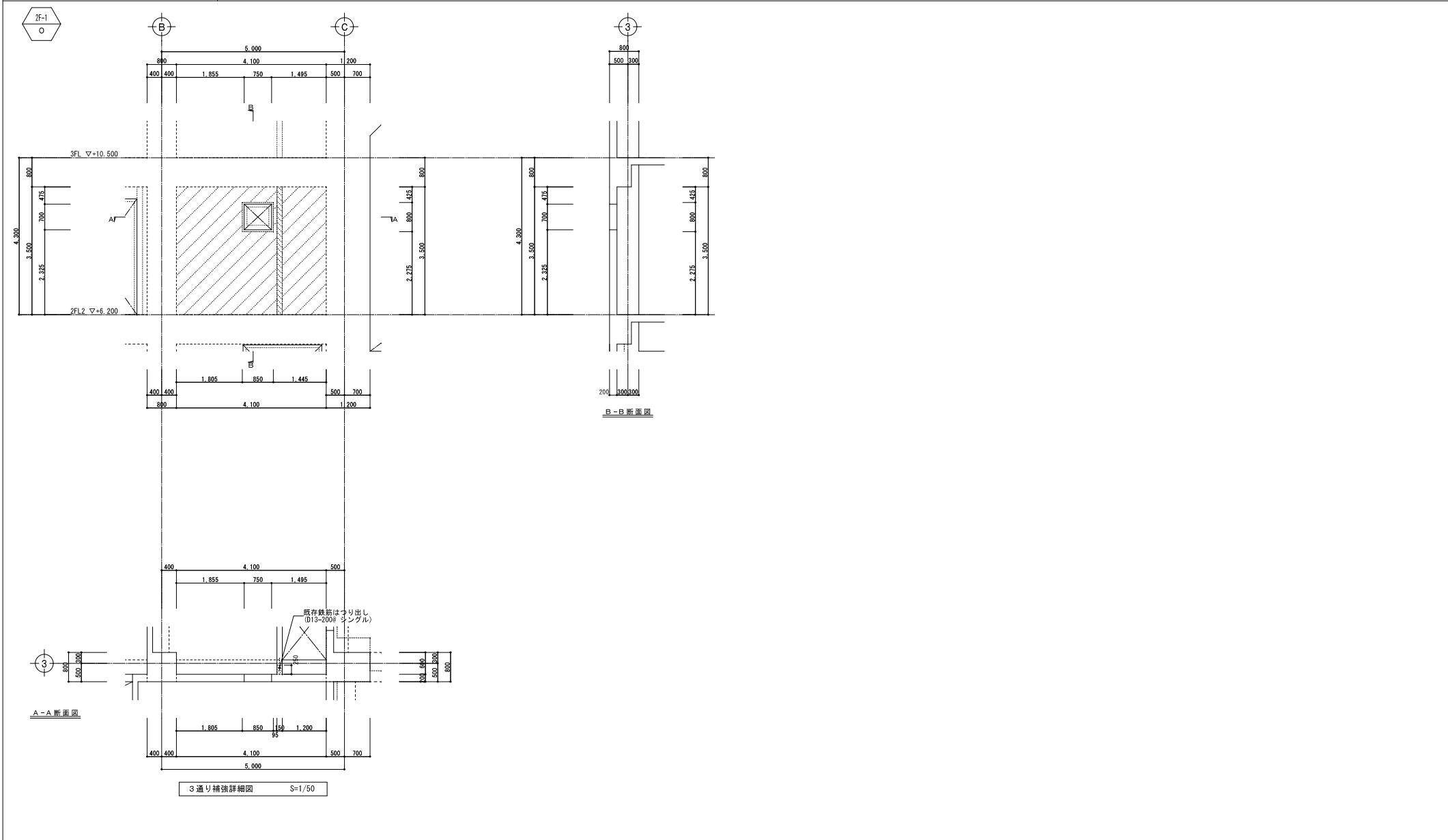
B-B 断面图



A-A 断面图



事業名	令和 6 年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ場附震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名 称	1階改修詳細図 (25)		
縮 尺	1/20.0	設計年月	令和 5 年 3 月
工 種	設計 者		株式会社 目黒技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-52

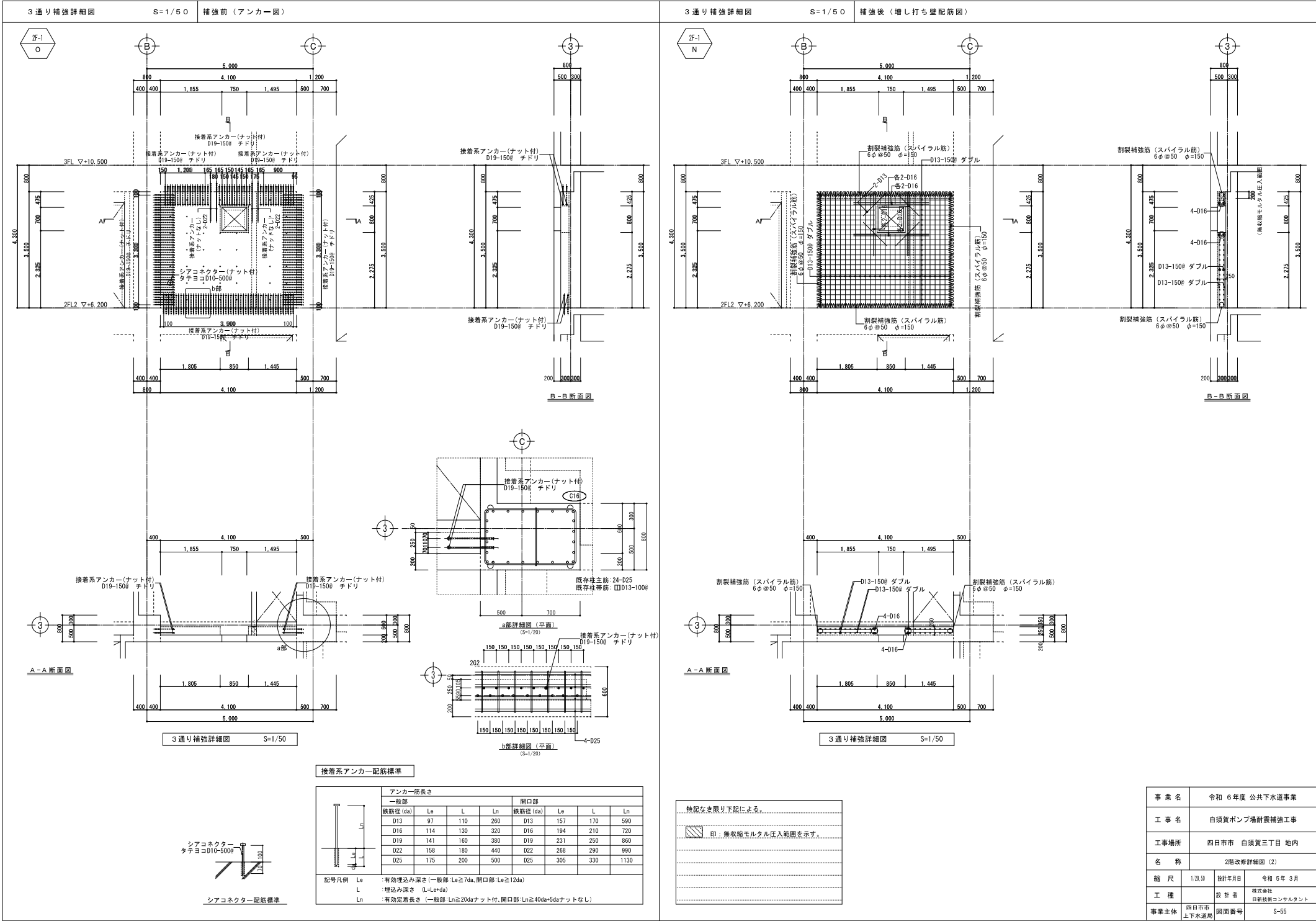


特記なき限り下記による。

印：目差し範囲を示す。

印：既設壁撤去（鉄筋はつり出し）範囲を示す。

事業名	令和 6 年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名称	2階改修詳細図 (1)		
縮尺	1/50	設計年月日	令和 5 年 3 月
工種	設計者	株式会社 日新技術コンサルタント	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-54



事業名

令和6年度 公共下水道事業

工事名

白須賀ポンプ場耐震補強工事

工事場所

四日市市 白須賀三丁目 地内

名称

2階改修詳細図 (2)

縮尺

1/20.50

設計年月日

令和5年3月

工種

設計者

株式会社
日新技術コンサルタント

事業主体

四日市市
上下水道局

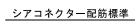
図面番号

S-55



2通り補強詳細図 S=1/50

接着系アンカー配筋標準



記号凡例	Le	:有効埋込み深さ(一般部:Le $\geq$ 7da、開口部:Le $\geq$ 12da)
	L	:埋込み深さ(L=Le+da)
	Ln	:有効定着長さ(一般部:Ln $\geq$ 20daナット付、開口部:Ln $\geq$ 40da+5daナットなし)

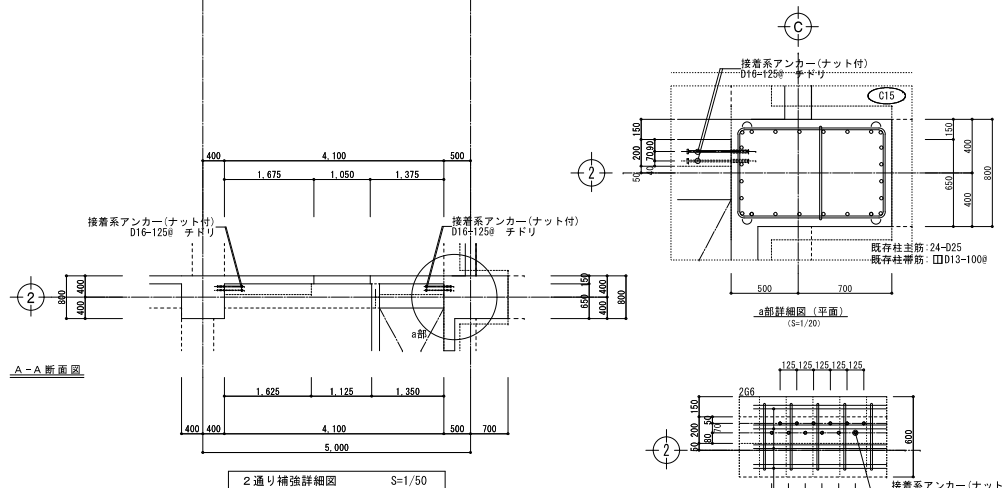
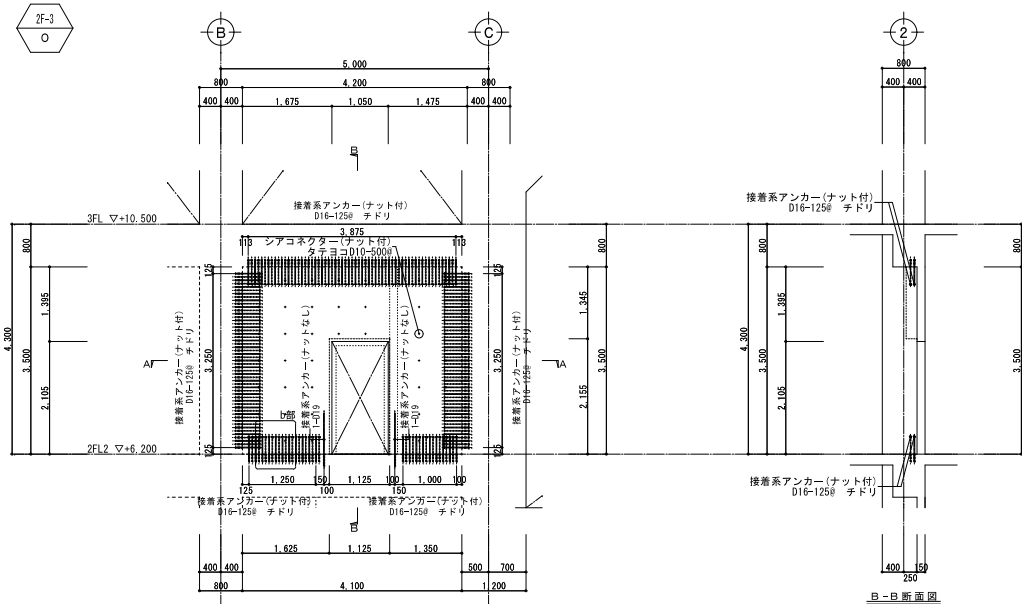


2通り補強詳細図 S=1/50

特記なき限り下記による。

 印：無収縮モルタル圧入範囲を示す。

事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-57
------	---------------	------	------



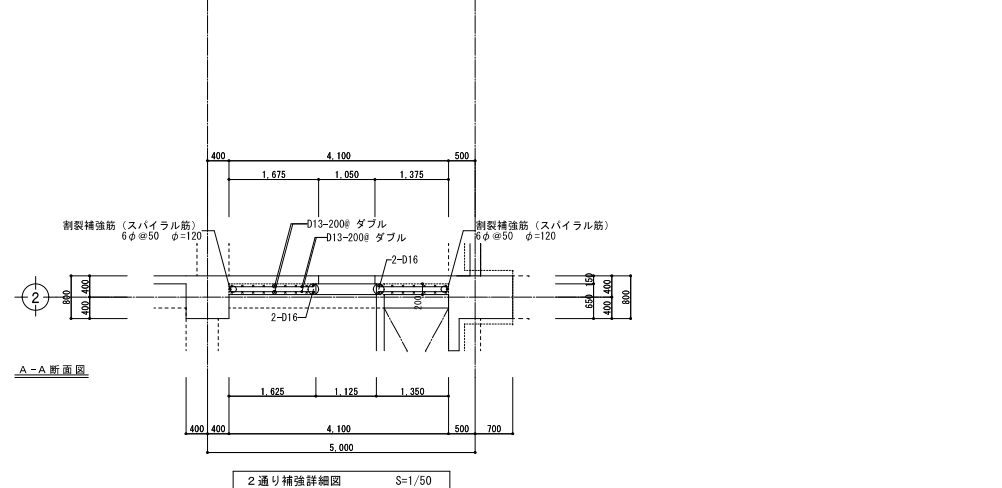
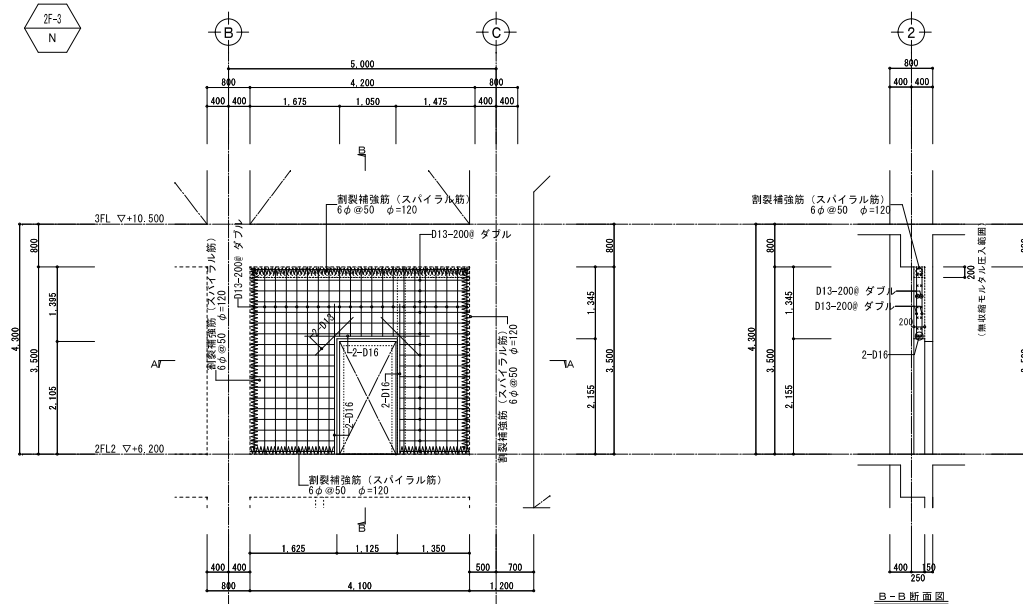
2通り補強詳細図 S=1/50

接着系アンカー配筋標準



シアコネクター
タテヨコD10-500

シアコネクター配筋標準

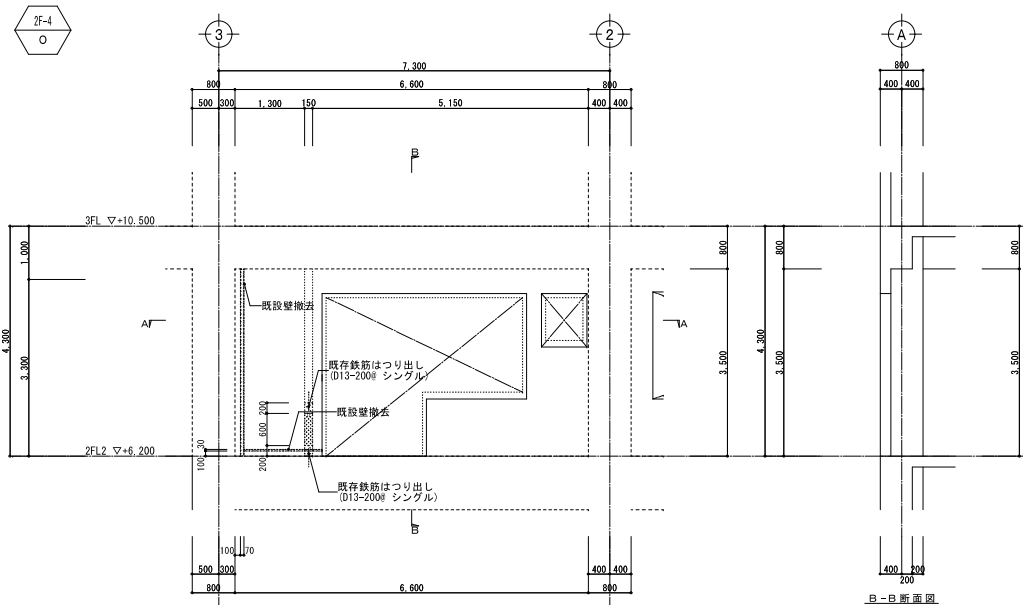


2通り補強詳細図 S=1/50

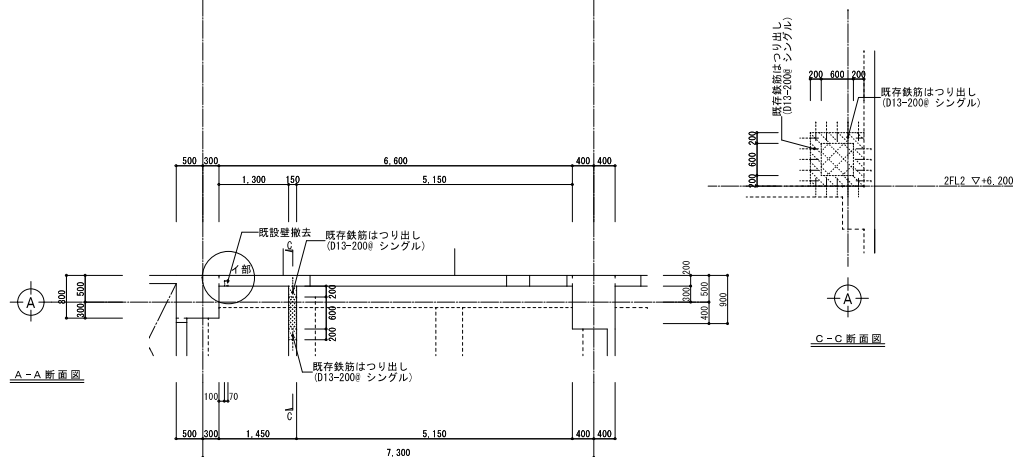
特記なき限り下記による。

 印：無収縮モルタル圧入範囲を示す。

事業名	令和 6 年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名称	2階改修詳細図 (6)		
縮尺	1/20.50	設計年月日	令和 6 年 3 月
工種		設計者	株式会社 目黒技研コンサルタンツ
事業主体	四日市市 上下水道課	図面番号	S-59



B-B 断面图

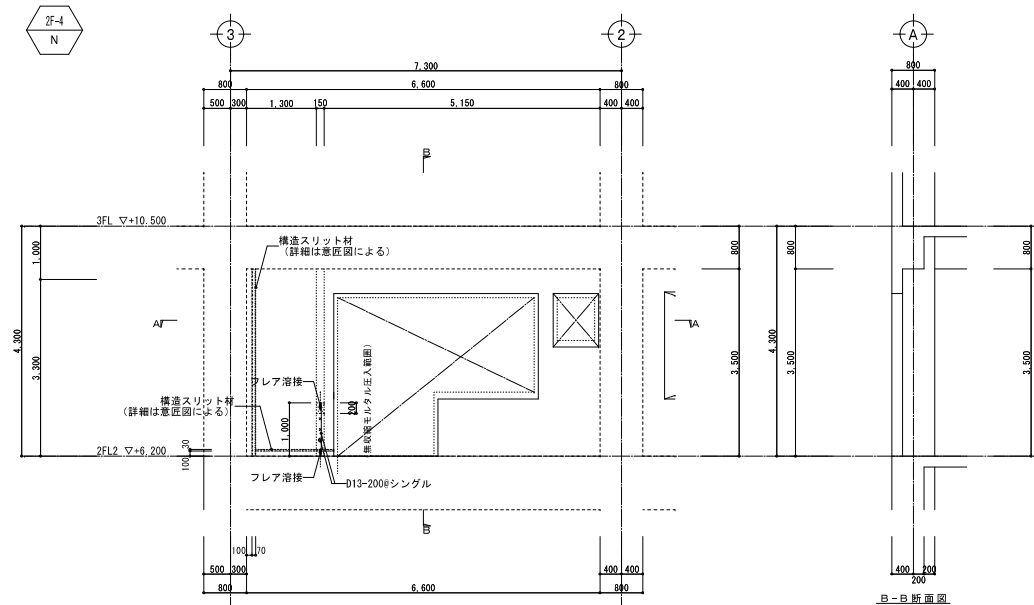
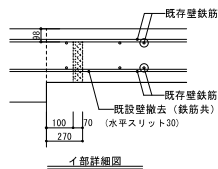
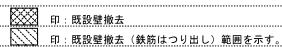


C-C 断面图

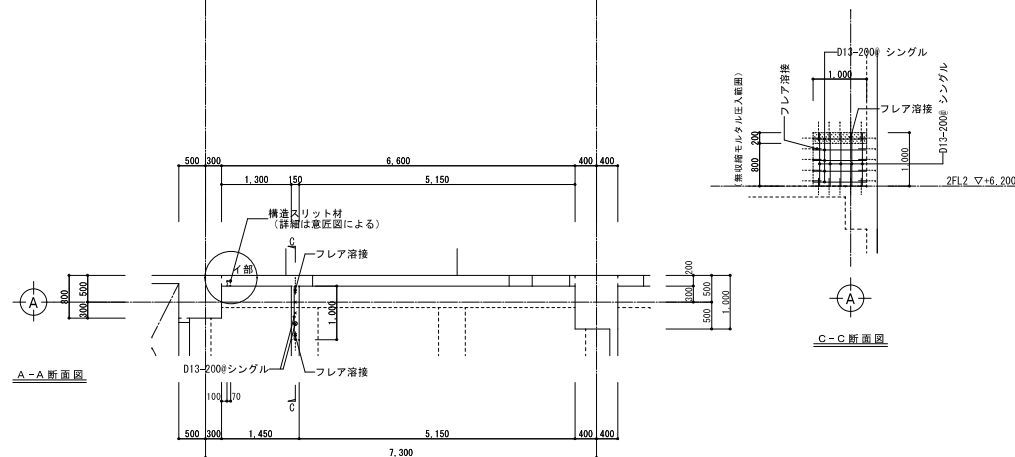
A-A 断面图

A通り補強詳細図 S=1/50

特記なき限り下記による。



B-B 断面图

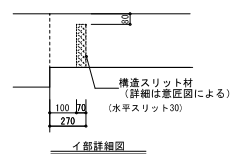
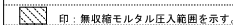


C-C 断面图

A-A 断面图

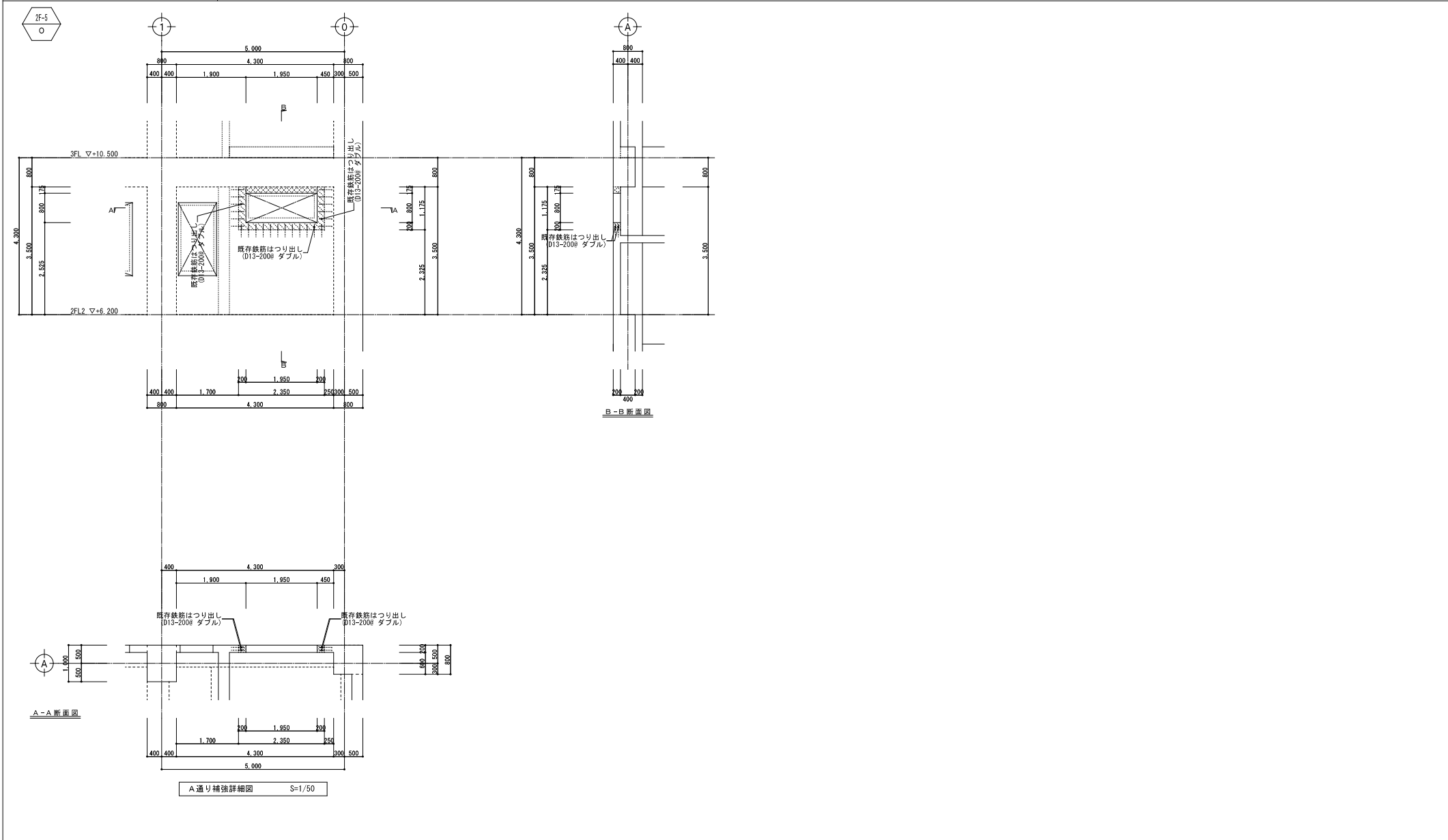
A 通り補強詳細図 S=1/50

特記なき限り下記による。

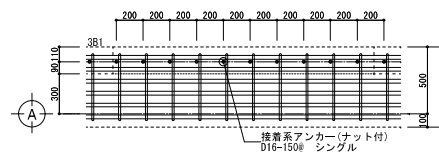
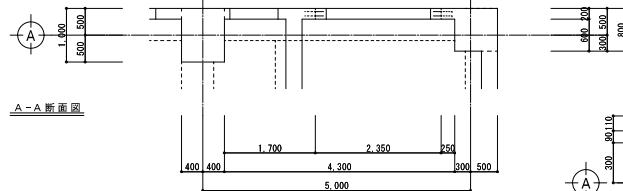
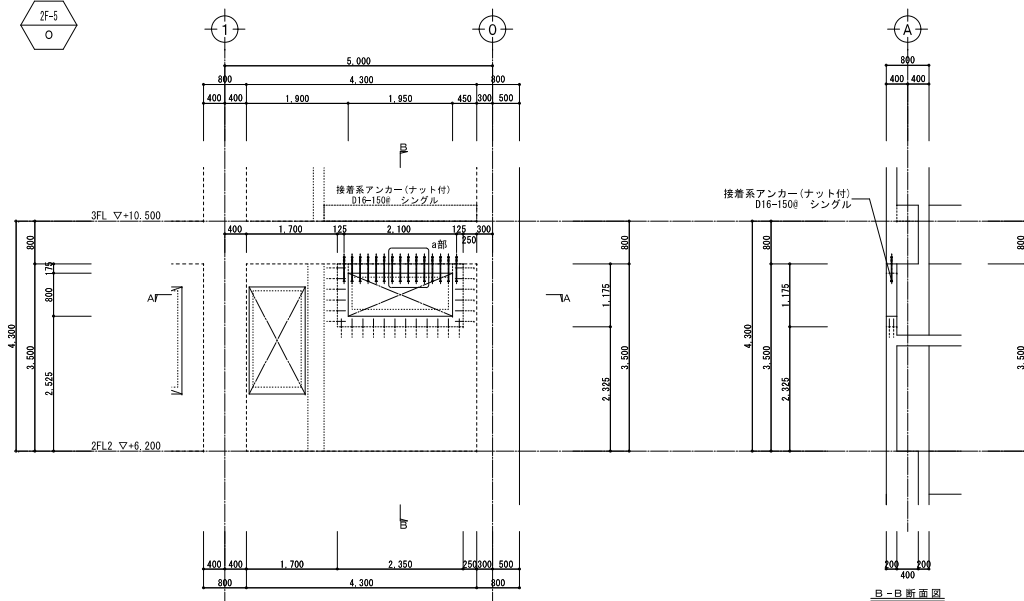


イ部詳細図

事業名	令和 6 年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名称	2階改修詳細図 (7)		
縮尺	1:50	設計年月日	令和 6 年 3 月
工種		設計者	株式会社 目黒技研コンサルタンツ
事業主体	四日市市 上下水道課	図面番号	S-60



事業名	令和 6 年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名称	2階改修詳細図（8）		
縮尺	1/50	設計年月日	令和 5 年 3 月
工種	設計者	株式会社 日新技術コンサルタント	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-01

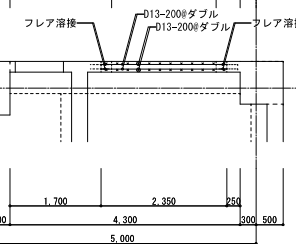
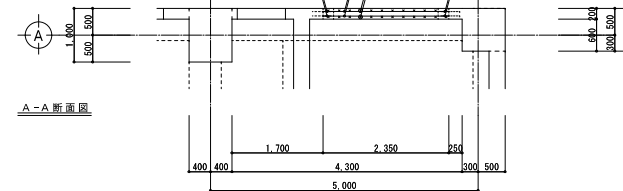
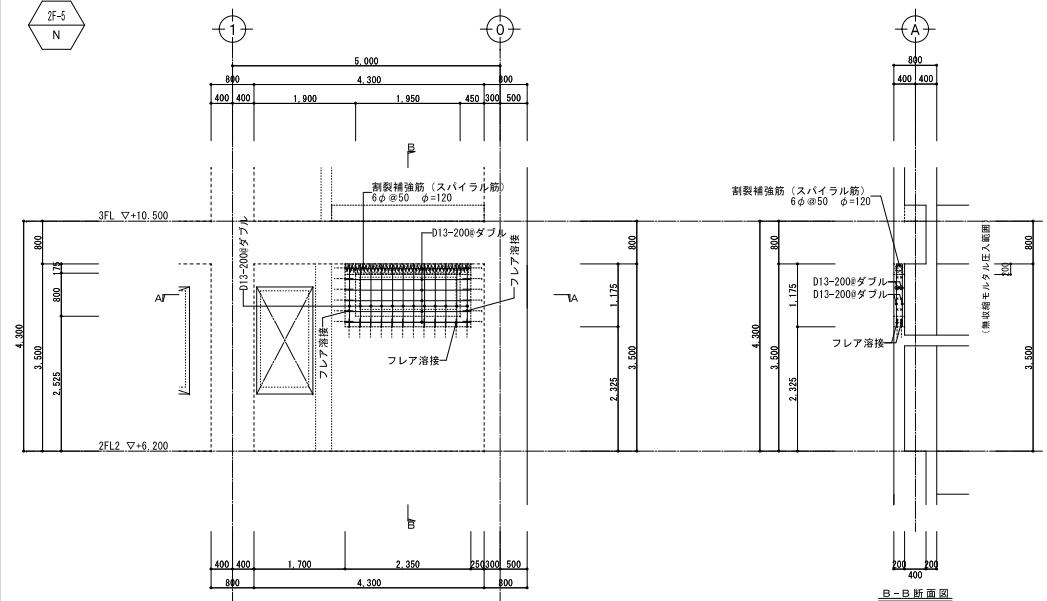


A通り補強詳細図 S=1/50

a部詳細図 (平面)
(S=1/20)

接着系アンカー配筋標準

		アンカー筋長さ					
		一般部			開口部		
	鉄筋径 (da)	Le	L	Ln	鉄筋径 (da)	Le	L
	D13	97	110	260	D13	157	170
	D16	114	130	320	D16	194	210
	D19	141	160	380	D19	231	250
	D22	158	180	440	D22	268	290
	D25	175	200	500	D25	305	330
記号凡例	Le	有効埋込み長さ（一般部: $Le \geq 7d_a$, 開口部: $Le \geq 12d_a$ ）					
	L	埋込み長さ（ $L = Le + d_a$ ）					
	L_n	有効定着長さ（一般部: $L_n \geq 20d_a$ ナット付, 開口部: $L_n \geq 40d_a + 5d_a$ ナットなし）					

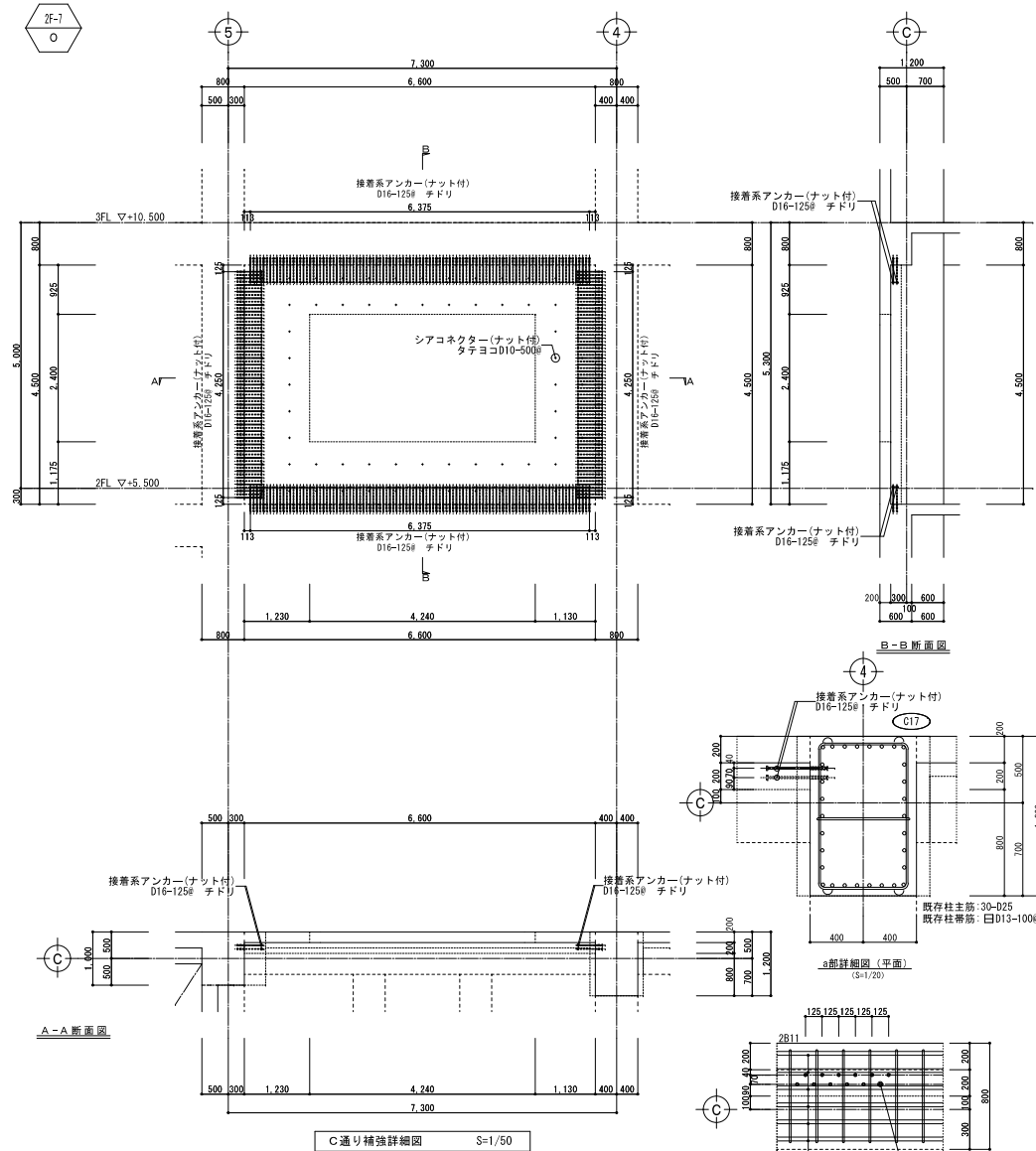


A 通り補強詳細図

特記なき限り下記による。

印：無収縮モルタル圧入範囲を示す

事業名	令和 6 年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ場附農灌強化工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名 称	2階改修詳細図 (9)		
縮 尺	1/20.50	設計年月日	令和 5 年 3 月
工 種	設計 者	株式会社 日新技術コンサルティング	
事業主体	四日市市 上下水道課	図面番号	S-62



C通り補強詳細図 S=1/50

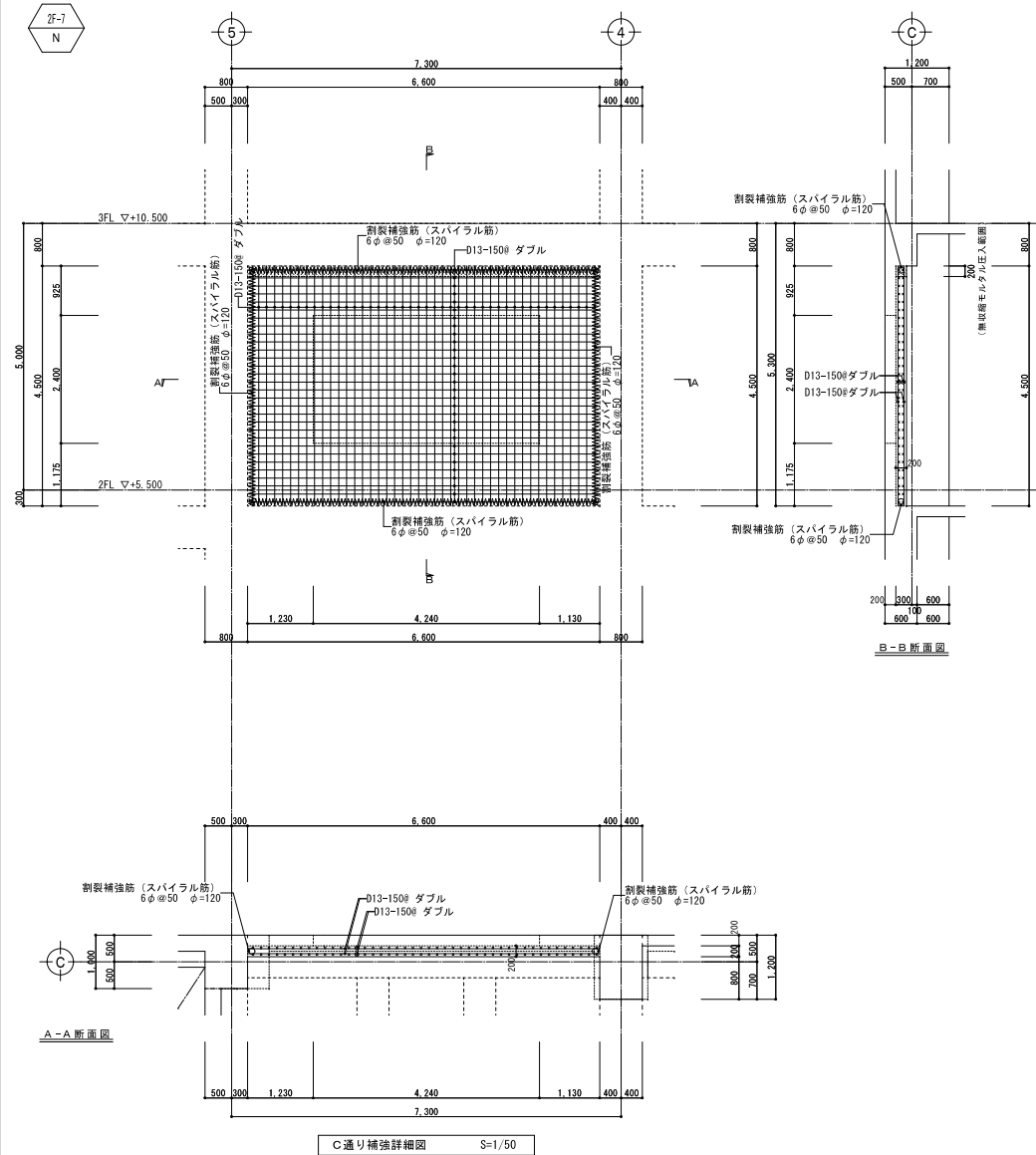
接着系アンカー配筋標準

		アンカー筋長さ						
		一般筋			開口筋			
	鉄筋径 (da)	Le	L	Ln	鉄筋径 (da)	Le	Ln	
	D13	97	110	260	D13	157	170	590
	D16	114	130	320	D16	194	210	720
	D19	141	160	380	D19	231	250	860
	D22	158	180	440	D22	268	290	990
	D25	175	200	500	D25	305	330	1130
記号凡例	Le	有効埋込み長さ (一般筋: $Le \geq 7d_n$, 開口筋: $Le \geq 12d_n$)						
	L_n	増込み長さ ($L_n = Le + d_n$)						
	L_n	着字筋長さ (一般筋: $L_n \geq 20d_n$ サット付, 開口筋: $L_n \geq 40d_n + 5d_n$ サットなし)						

シアコネクター
タテヨコD10-500φ

100
70

シアコネクター配筋標準

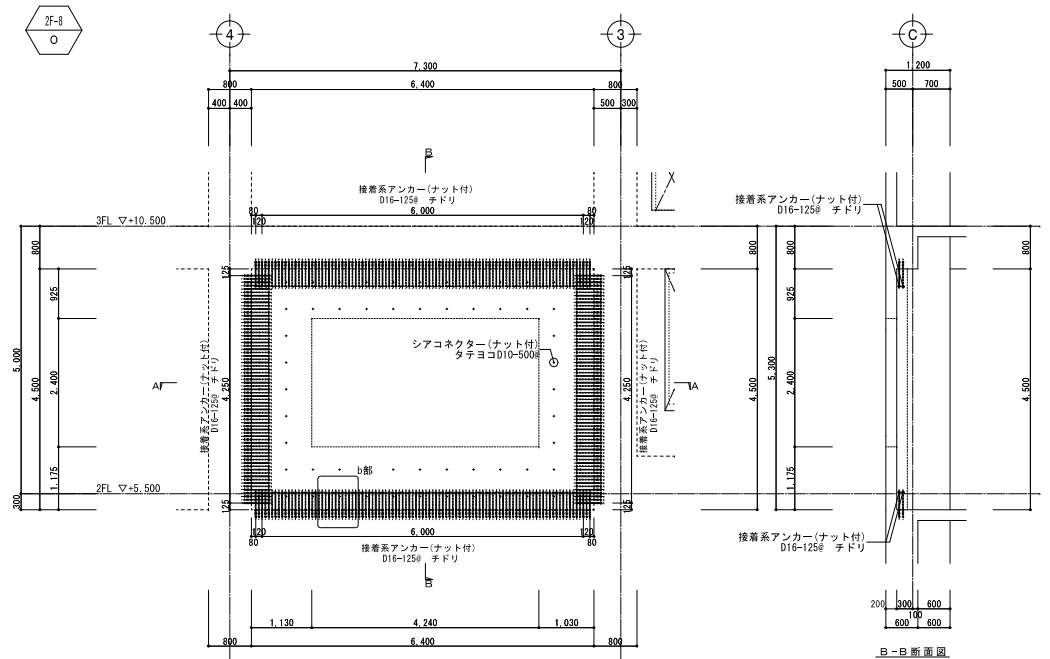


C通り補強詳細図

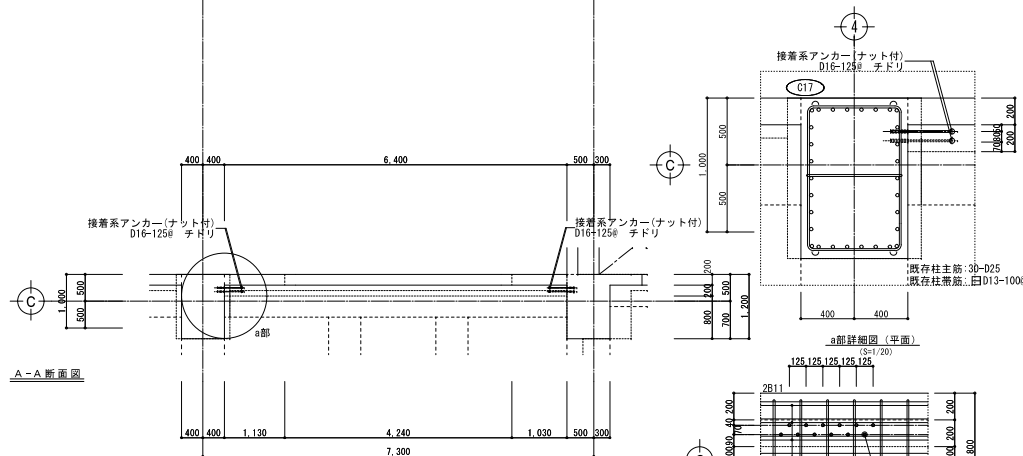
特記なき限り下記による。

印：無収縮モルタル圧入範囲を示す。

事業名	令和6年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ場附震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名称	2階改修詳細図 (12)		
縮尺	1/200	設計年月日	令和5年3月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-65



B-B 断面图



A-A 断面图

C通り補強詳細図 S=1/50

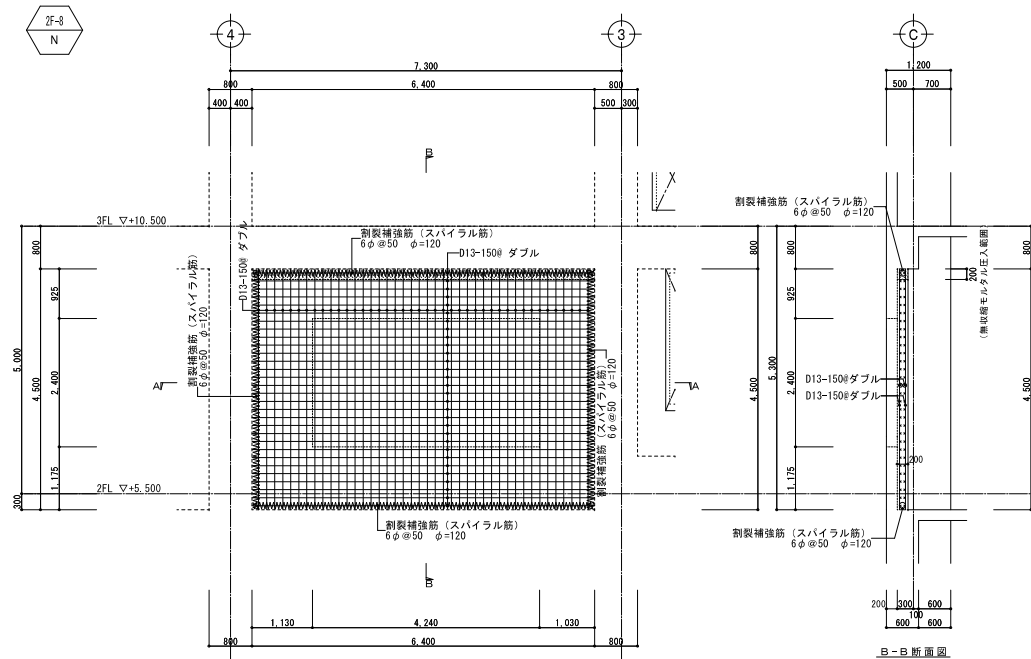
接着系アンカー配筋標準

		アンカー筋長さ						
		一般部			開口部			
	鉄筋径 (da)	Le	L	Ln	鉄筋径 (da)	Le	Ln	
	D13	97	110	260	D13	157	170	590
	D16	114	130	320	D16	194	210	720
	D19	141	160	380	D19	231	250	860
	D22	158	180	440	D22	268	290	990
	D25	175	200	500	D25	305	330	1130

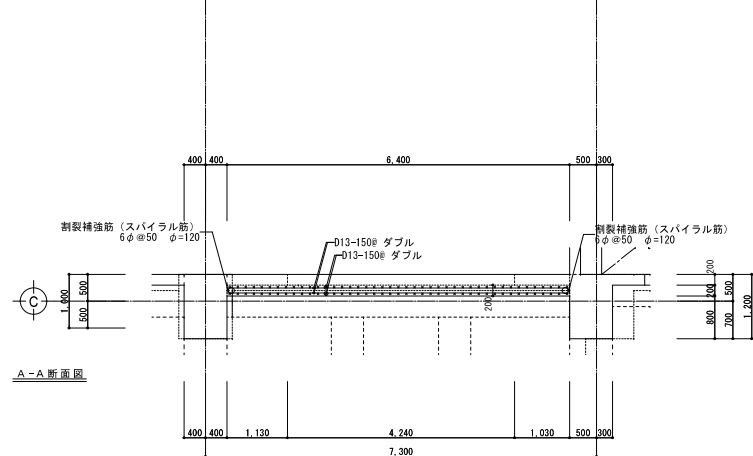
記号凡例 Le 有効埋込み長さ（一般部: $Le \geq 7d$, 開口部: $Le \geq 12d$ ）
 L 埋込み長さ（L=Le+d）
 Ln 有効定着長さ（一般部: $Ln \geq 20d$ ナット付, 開口部: $Ln \geq 40d+5d$ ナットなし）

シアコネクター
タテヨコD10-500

シアコネクター配筋標準



B-B 断面图



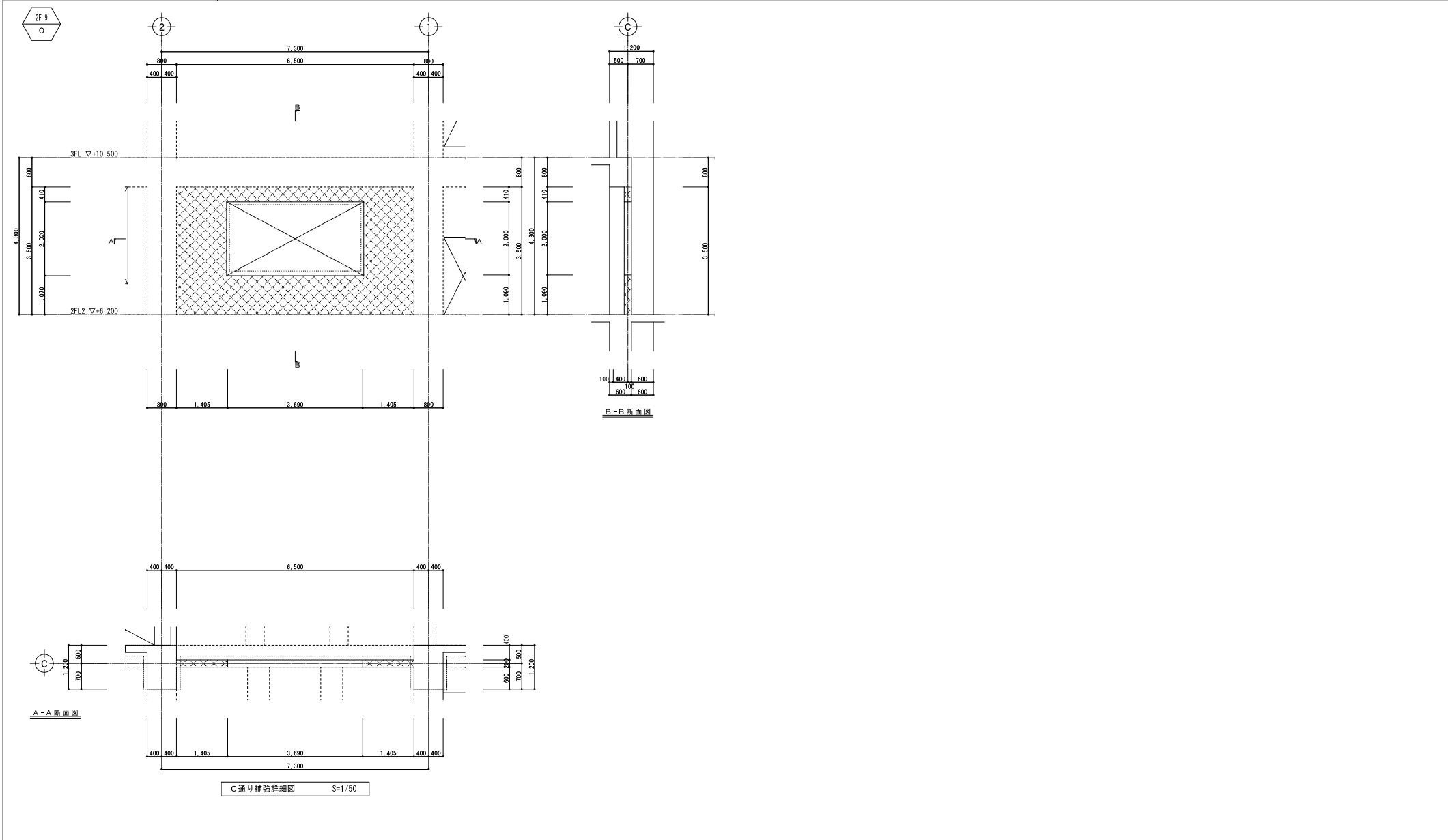
A-A 断面图

C通り補強詳細図

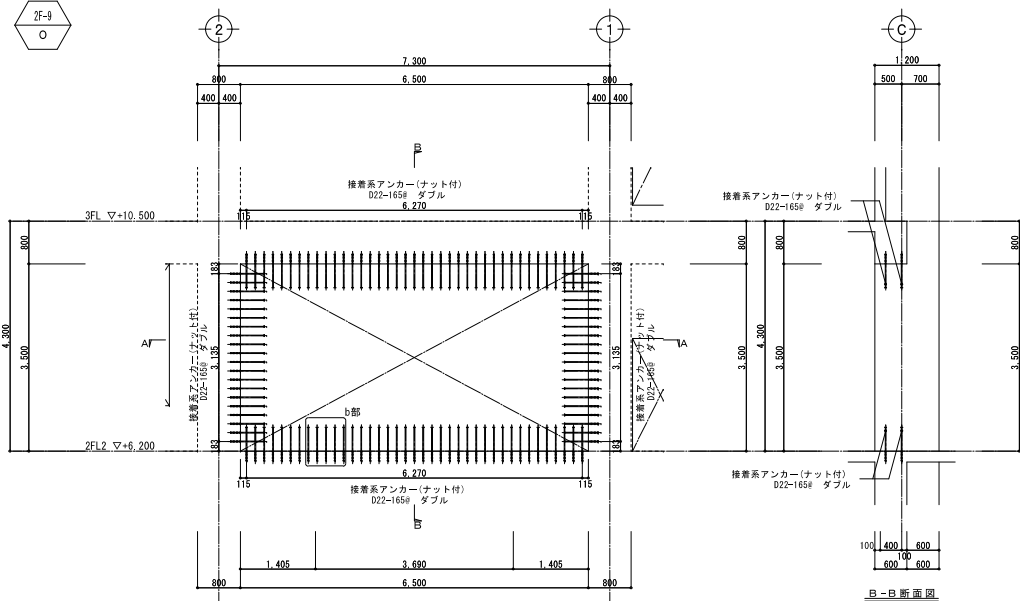
特記なき限り下記による。

印：無収縮モルタル圧入範囲を示す。

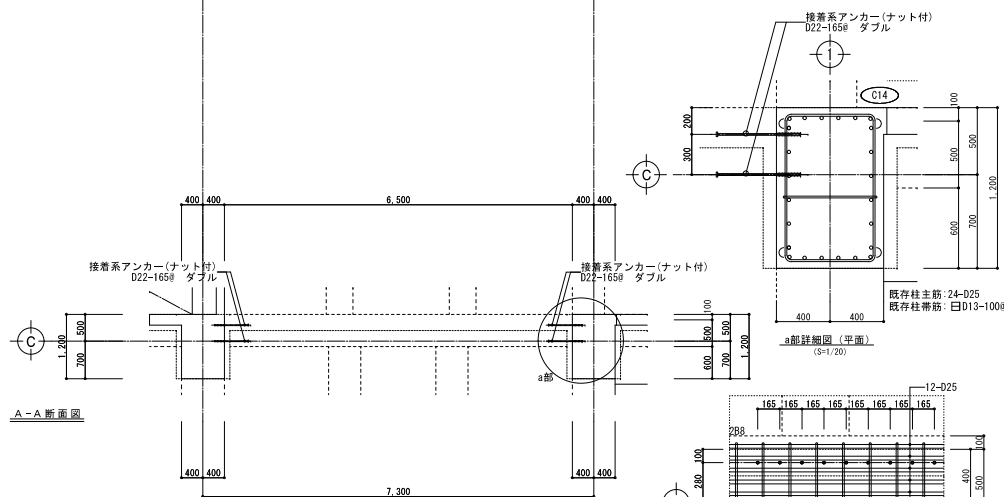
事業名	令和 6 年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名称	2階改修詳細 (14)		
縮尺	1/20.50	設計年月日	令和 5 年 3 月
工種	設計者		株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-67



事業名	令和 6 年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名称	2階改修詳細図 (15)		
縮尺	1/50	設計年月日	令和 5 年 3 月
工種	設計者	株式会社 日新技術コンサルタント	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-68



B-B 断面图



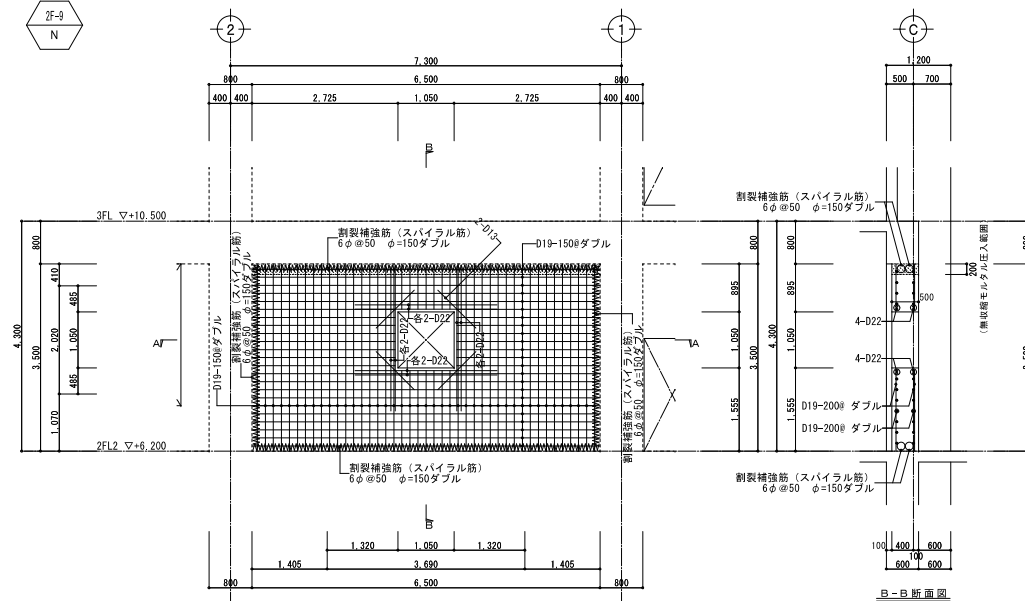
A-A 断面图

C通り補強詳細図 S=1/50

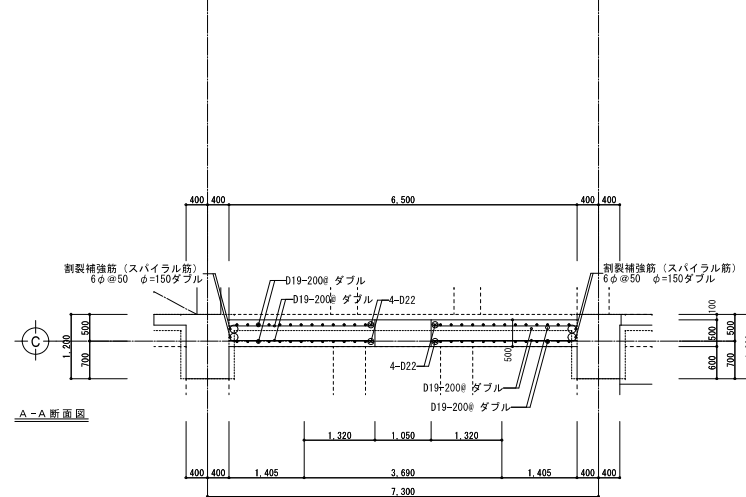
接着系アンカー配筋標準

		アンカー筋長さ					
		一般筋			開口筋		
鉄筋径 (da)	Le	L	Ln	鉄筋径 (da)	Le	L	Ln
D13	97	110	260	D13	157	170	590
D16	114	130	320	D16	194	210	720
D19	141	160	380	D19	231	250	860
D22	158	180	440	D22	268	290	990
D25	175	200	500	D25	305	330	1130

記号凡例	Le	L	Ln
	有効埋込み深さ (一般筋: $L \geq 7d$, 開口筋: $L \geq 12d$)		
	増込み深さ (L=Le _{da})		
	有効定着長さ (一般筋: $L_n \geq 20d$ ナット付, 開口筋: $L_n \geq 40d + 5d$ ナットなし)		



B-B 断面图



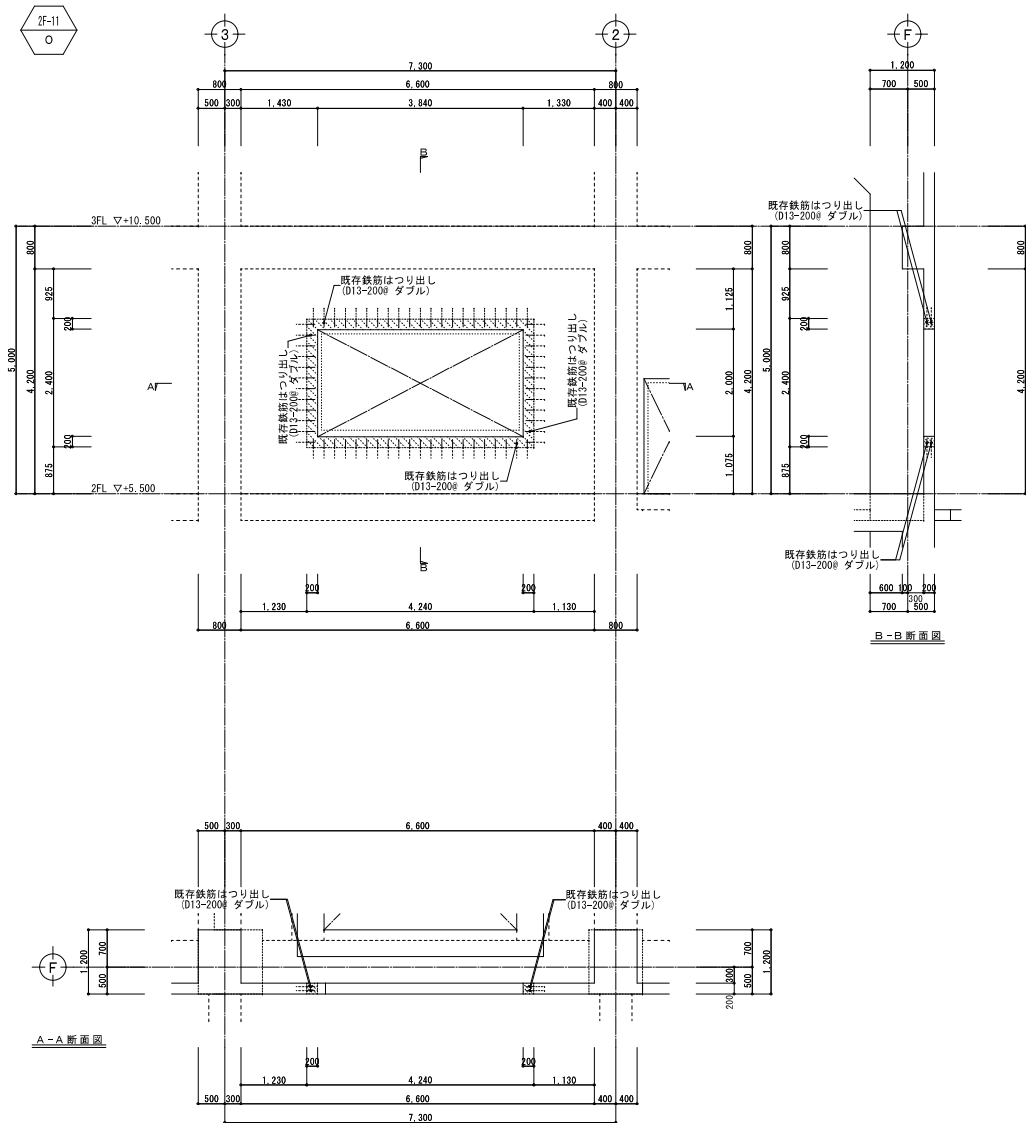
A-A 断面图

C通り補強詳細図

特記なき限り下記による。

印：無収縮モルタル圧入範囲を示す。

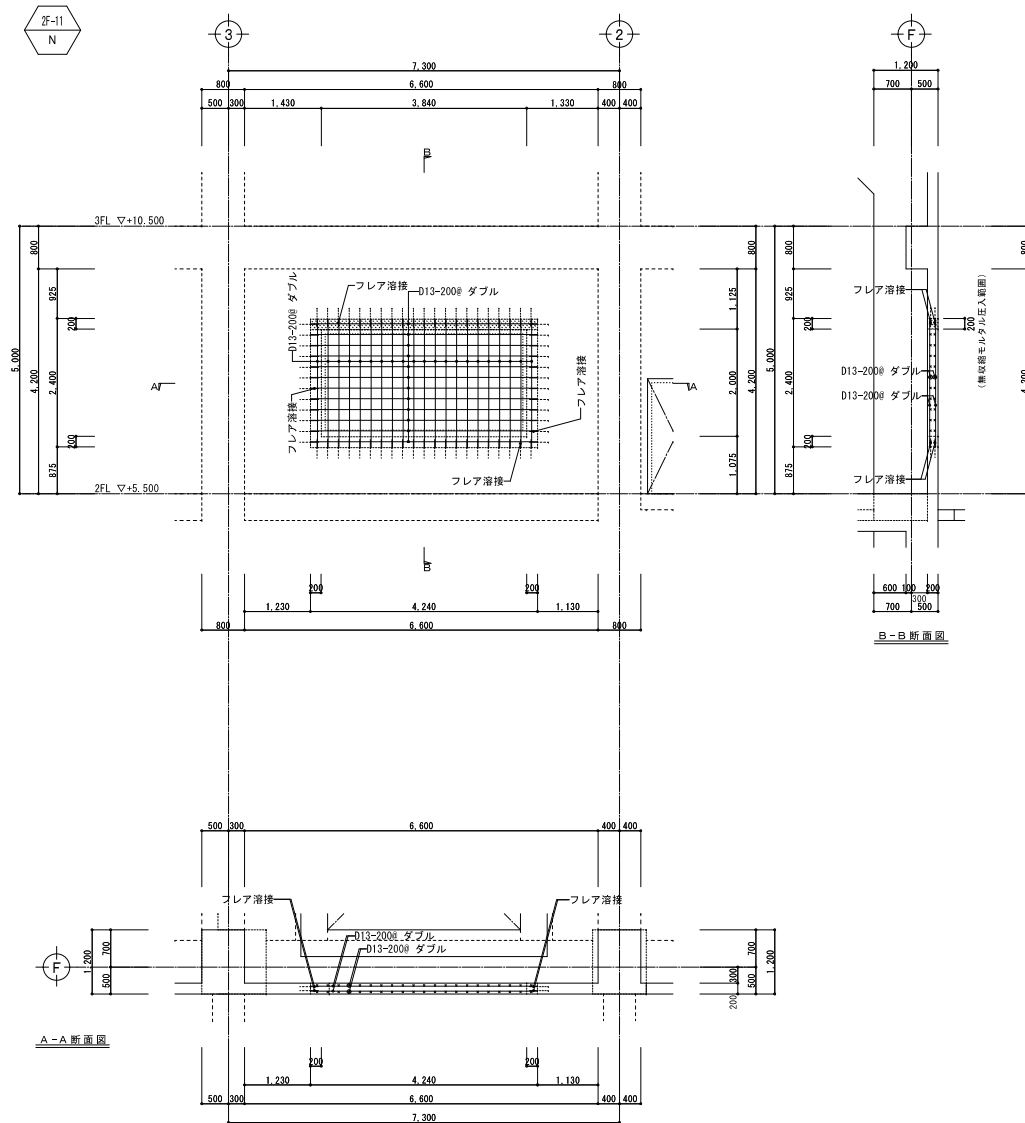
事業名	令和 6 年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名称	2階改修詳細図 (16)		
縮尺	1/20.50	設計年月日	令和 6 年 3 月
工種		設計者	株式会社 目新技研コンサルタンツ
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-69



F 通り補強詳細図 S=1/50

特記なき限り下記による。

 印：既設壁撤去（鉄筋はつり出し）範囲を示す。

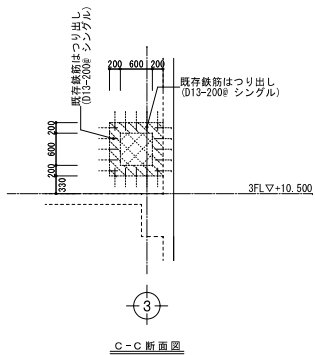


F通り補強詳細図 S=1/50

特記なき限り下記による。

印：無収縮モルタル圧入範囲を示す。

事業名	令和 6 年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名称	2階改修詳細図 (18)		
縮尺	1:50	設計年月日	令和 6 年 3 月
工種		設計者	株式会社 目新技研コンサルタンツ
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-71



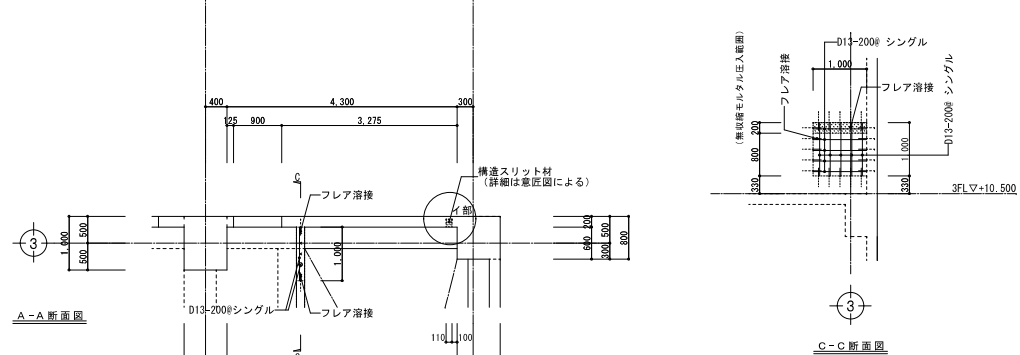
特記なき限り下記による。

 印：既設壁撤去
 印：既設壁撤去（鉄筋はつり出し）範囲を示す。

印：既設壁撤去（鉄筋はつり出し）範囲を示す。



(1/20)



特記なき限り下記による。

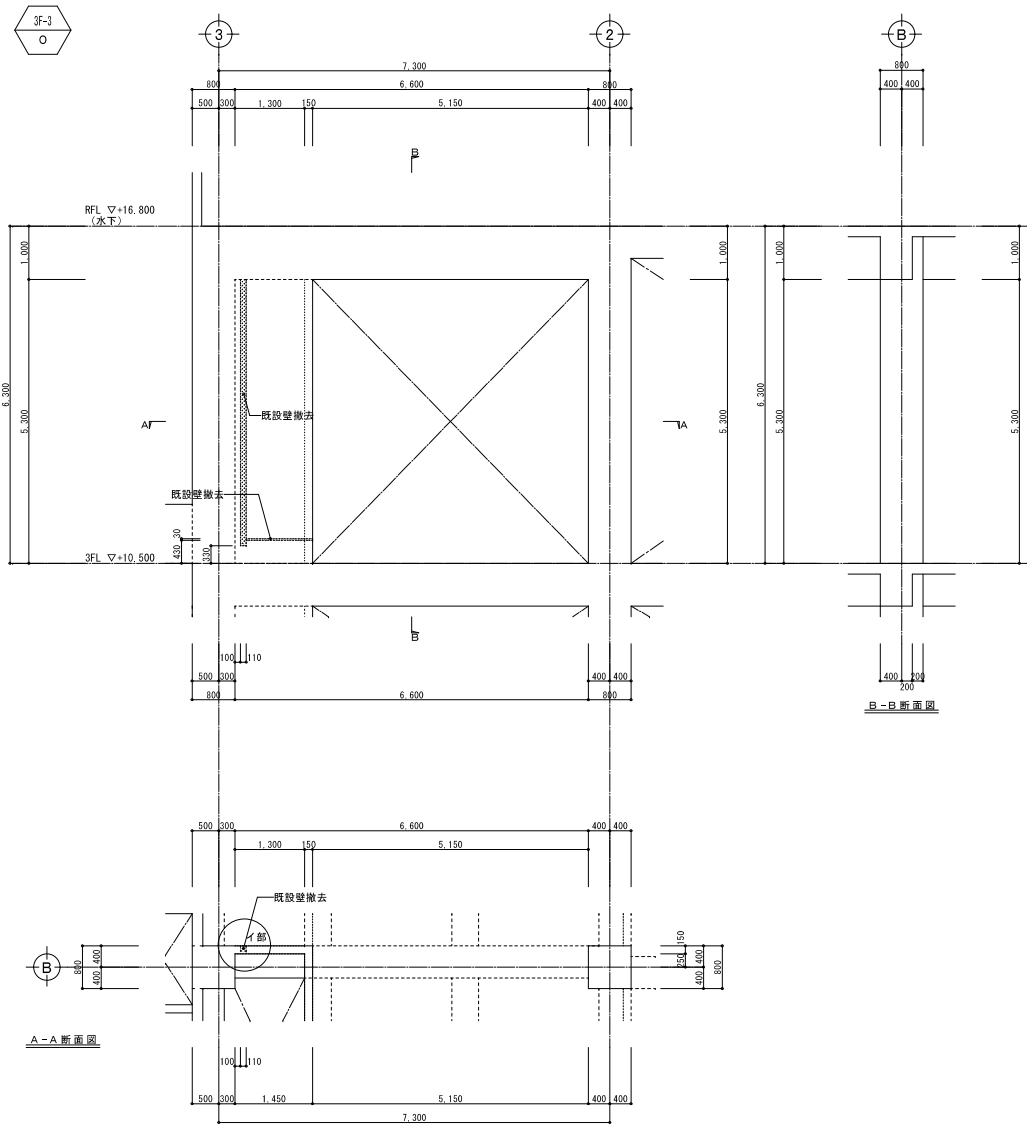
 印：無収縮モルタル圧入範囲を示す。



(1/20)

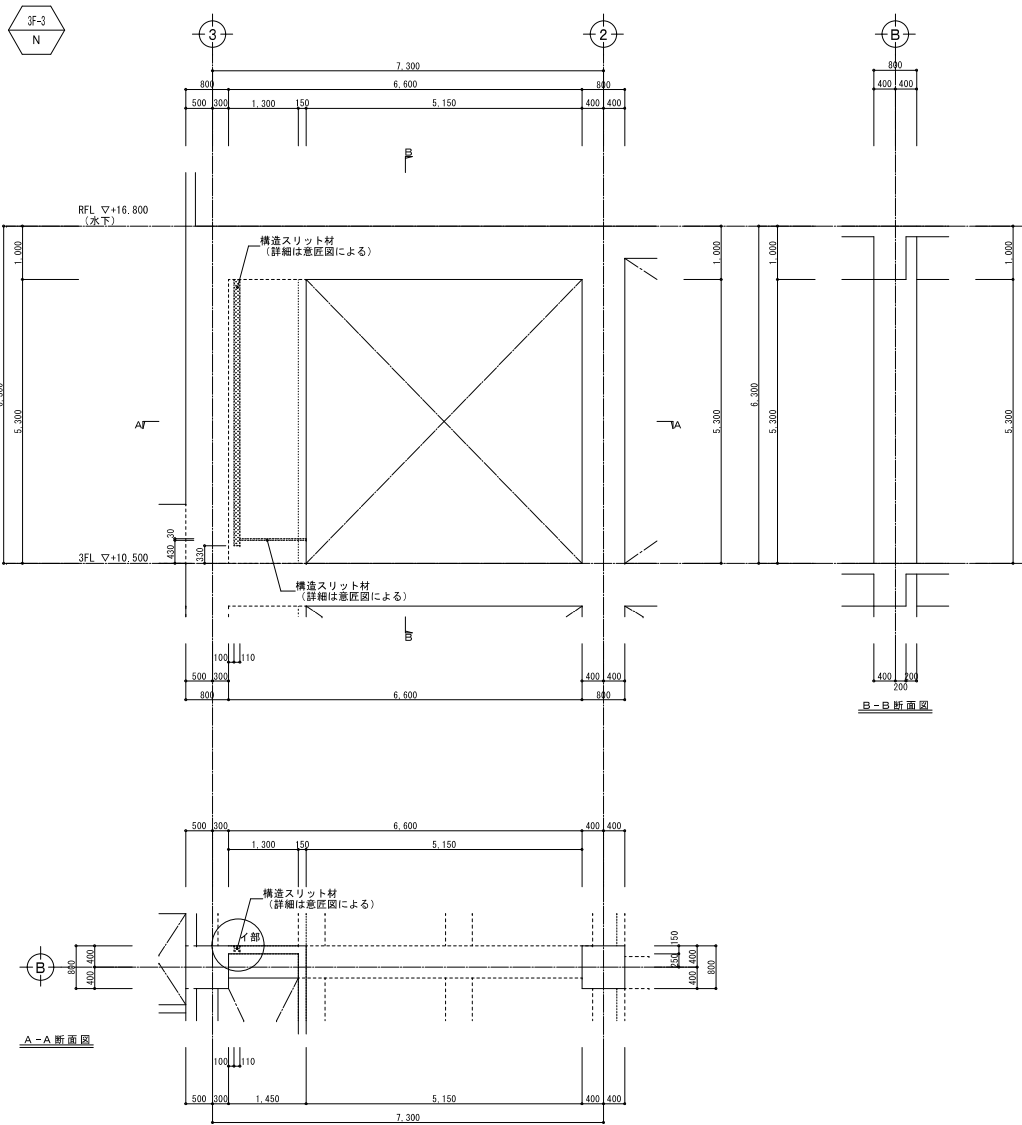
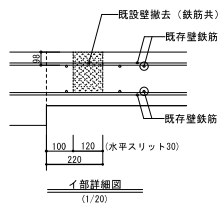
鉄筋記号凡例						
D10	D13	D16	D19	D22	D25	D28
●	×	■	●	○	●	■

事業名	令和 6 年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名称	3階改修詳細図(2)		
縮尺	1/20.50	設計年月日	令和 5 年 3 月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-75



特記なき限り下記による。

	印：既設壁撤去
	印：既設壁撤去（鉄筋はつり出し）範囲を示す。



(詳細は章図による)

特記なき限り下記による。

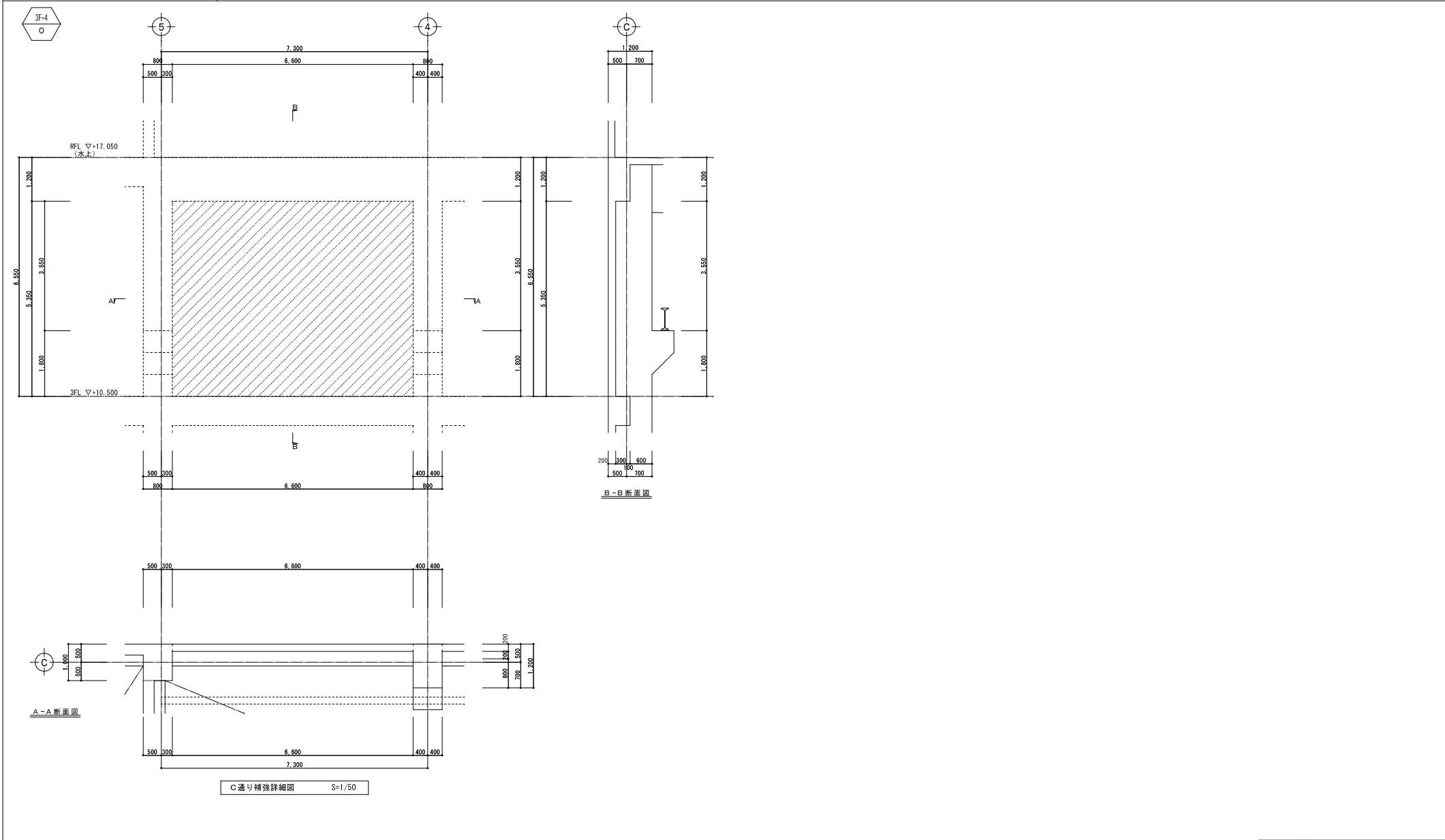
印：無収縮モルタル仕入範囲を示す。

100 120 (水平スリット 30)

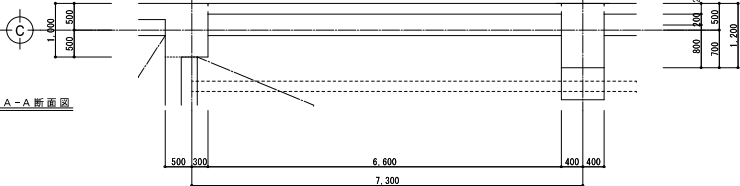
220

イ 部壁横図

事業名	令和 6 年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀本ポン場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名称	3階改修詳細図 (3)		
縮尺	1/250	設計年月日	令和 5 年 3 月
工種		設計者	株式会社 日新技研コンサルタンツ
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-76



B-B断面図



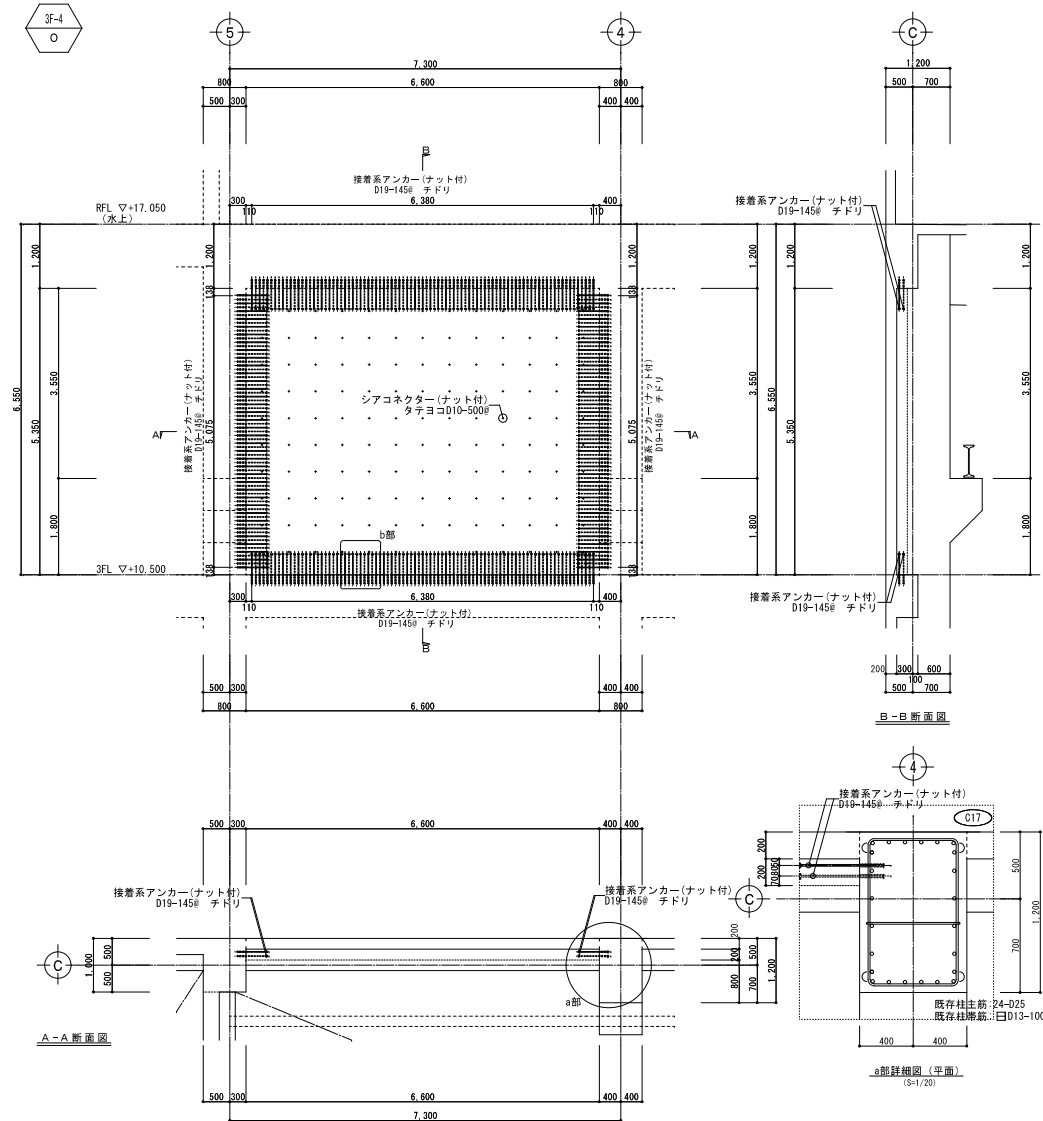
A-A断面図

C 通り補強詳細図 S=1/50

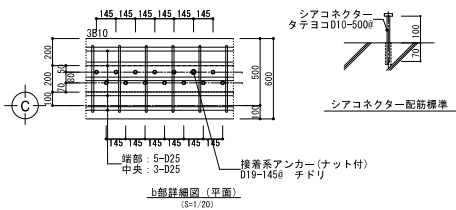
特記なき限り下記による。

印：目差し範囲を示す。

事業名	令和 6 年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名称	3階改修詳細図 (4)		
縮尺	1/50	設計年月日	令和 5 年 3 月
工種	設計者	株式会社 日新技術コンサルタント	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-77



C通り補強詳細図 S=1/50

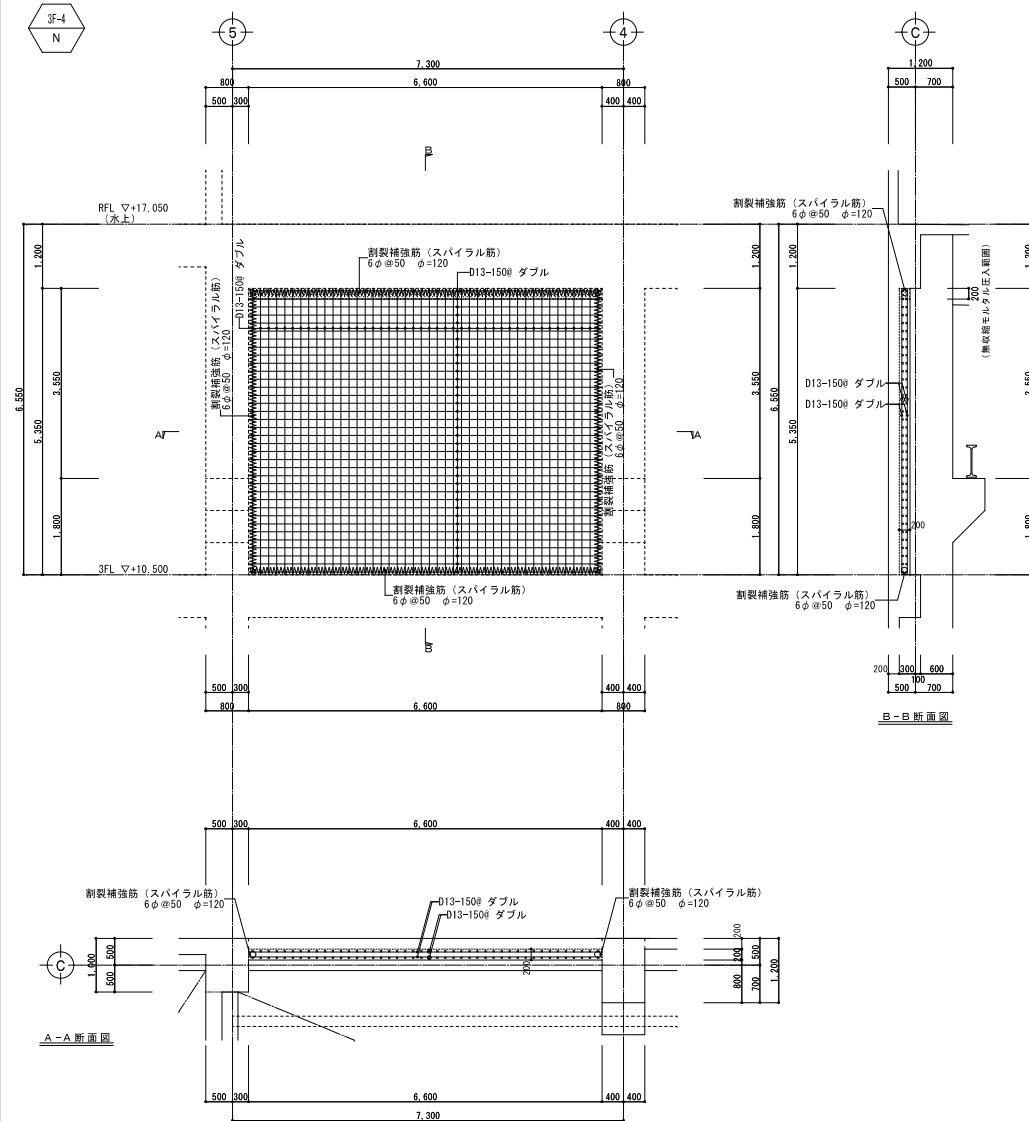


接着系アンカー配筋標準

		アンカー筋長さ					
		一般筋			開口筋		
鉄筋径 (da)	Le	L	Ln	鉄筋径 (da)	Le	L	Ln
D13	97	110	260	D13	157	170	590
D16	114	130	320	D16	194	210	720
D19	141	160	380	D19	231	250	860
D22	158	180	440	D22	268	290	990
D25	175	200	500	D25	305	330	1130

記号凡例	Le	L	Ln
	有効埋込み深さ (一般筋: $L \geq 7d$, 開口筋: $L \geq 12d$)		
	増込み深さ (L=Le _{増込})		
	有効定着長さ (一般筋: $L_n \geq 20d$ ナット付, 開口筋: $L_n \geq 40d + 5d$ ナットなし)		

C 通り補強詳細図

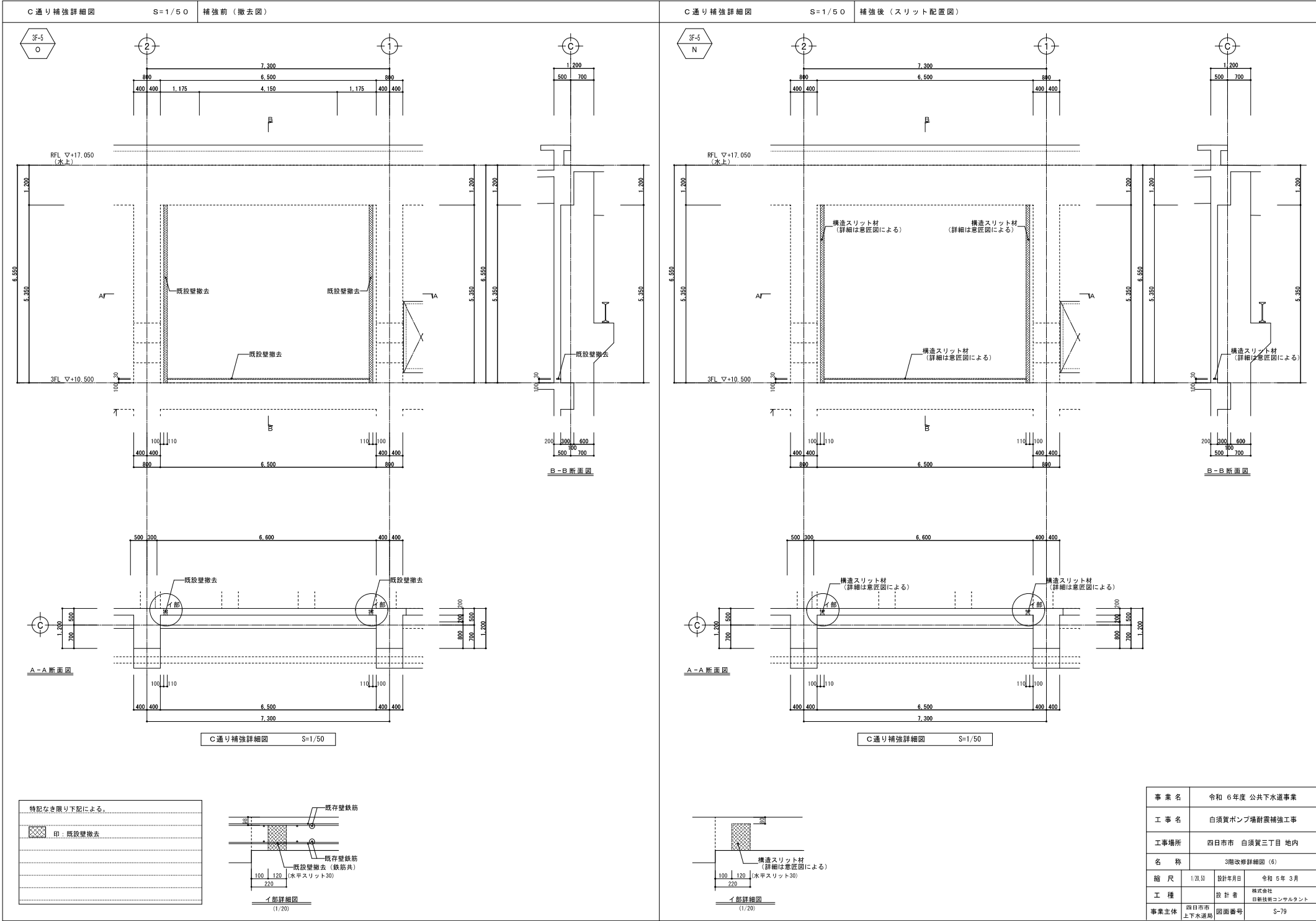


C通り補強詳細図

特記なき限り下記による。

印：無収縮モルタル圧入範囲を示す。

事業名	令和 6 年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名称	3階改修詳細図 (5)		
縮尺	1/20.50	設計年月日	令和 6 年 3 月
工種		設計者	株式会社 目黒技研コンサルタンツ
事業主体	四日市市 上下水道課	図面番号	S-78





事業名	令和 6年度 公共下水道事業		
工事名	白須賀ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 白須賀三丁目 地内		
名称	3階改修詳細図 (7)		
縮尺	1/250	設計年月日	令和 6年 3月
工種	設計者 株式会社 日新技研コンサルtant		
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-80

